

令和 5 年度

出会いから結婚・子育てまでの切れ目ない
支援のための県民意識調査

報告書

令和 5 年 10 月

高 知 県

目次

I	調査の設計	1
II	調査結果の見方	5
III	調査対象者の特性	9
1	広域市町村圏別の配布・回収状況	10
2	対象者の特性	10
IV	調査結果のあらまし	15
V	調査結果（解説・グラフ）	23
1	「結婚」「妊娠・出産」「子育て」の環境について	24
問1	高知県が『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」ができるような社会』になっていると思うか	24
2	「結婚」「妊娠・出産」「子育て」への支援の取り組みについて	32
問2	『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」ができるような社会』を 実現するために特に力を入れるべき施策	32
問3	高知県が少子化対策の取り組みとして行っている各事業に対する認知度・関心度	36
問4	「高知で恋しよ！！マッチング」に関心のない理由	58
3	出会い・結婚について	60
問5	結婚に向けた出会いを求める場合の行動	60
問6	現在結婚していない理由	64
問7	男性が女性よりも収入が高い関係が理想という考え方	68
問8	男性が女性よりも収入が高い関係が理想という周囲の考え方	70
問9	結婚相手に求める年収	72
問10	出会いや結婚に関する必要な行政支援	74
4	子育てについて	78
問11	理想的な子どもの人数	78
問12	現実的に持ちたいと考えている子どもの人数	80
問13	理想の数だけ子どもを持たない理由	82
問14	理想の数だけ子どもを持てる環境	86
問15	保育所・幼稚園・認定こども園など子育てを支える施設の充実度	90
問16	子育てを支えるために施設に力を入れて欲しいこと	92
問17	妊娠期から乳幼児期の子育て支援に関して充実してほしい取り組み	96
5	女性の活躍とワークライフバランスについて	100
問18	女性が職場で活躍するのに必要なもの	100
問19	働きながら子育てしやすい職場環境づくりのために必要な支援	104
問20	男性の育児休業取得率の向上のために必要な支援	108
問21	性別役割分担に関する経験	110
問22	1日あたりの家事・育児にかかる時間	130

VI	調査結果（統計表）	145
VII	自由回答（少子化対策等に関する意見・感想）	209
VIII	自由回答（各設問【その他】の内容）	243
IX	調査結果（単純集計結果）	257
X	参考資料（調査票）	277

I 調査の設計

1 調査の目的

この調査は、県民の皆様のお考えをお聞きし、出会いから結婚、子育てまでの切れ目のない支援を推進していくうえでの基礎資料としていくことを目的として行ったものです。

2 調査の事項

【1 「結婚」「妊娠・出産」「子育て」の環境について】

高知県が『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』になっていると思うか

【2 「結婚」「妊娠・出産」「子育て」への支援の取り組みについて】

『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』を実現するために特に力を入れるべき施策／高知県が少子化対策の取り組みとして行っている各事業に対する認知度・関心度／「高知で恋しよ！！マッチング」に関心のない理由

【3 出会い・結婚について】

結婚に向けた出会いを求める場合の行動／現在結婚していない理由／男性が女性よりも収入が高い関係が理想という考え方／男性が女性よりも収入が高い関係が理想という周囲の考え方／結婚相手に求める年収／出会いや結婚に関する必要な行政支援

【4 子育てについて】

理想的な子どもの人数／現実的に持ちたいと考えている子どもの人数／理想の数だけ子どもを持たない理由／理想の数だけ子どもを持てる環境／保育所・幼稚園・認定こども園など子育てを支える施設の充実度／子育てを支えるために施設に力を入れて欲しいこと／妊娠期から乳幼児期の子育て支援に関して充実してほしい取り組み

【5 女性の活躍とワークライフバランスについて】

女性が職場で活躍するのに必要なもの／働きながら子育てしやすい職場環境づくりのために必要な支援／男性の育児休業取得率の向上のために必要な支援／性別役割分担に関する経験／1日あたりの家事・育児にかかる時間

3 調査の対象

◇高知県内全域の18歳以上39歳以下の県民4,000人（各市町村の「選挙人名簿」より抽出）

4 対象者の抽出方法

◇層化二段無作為抽出法

5 調査の方法

◇郵送法

6 調査の期間

◇令和5年8月31日（木）～9月26日（火）[うち15日間]

7 調査票配布数と回収状況

◇配布数：4,000部

◇有効回収数：1,552部（郵送回答：1,167部、WEB：385部）

◇有効回収率：38.8%

8 実査及び集計

◇株式会社 西日本科学技術研究所

Ⅱ 調査結果の見方

- 1 「V 調査結果（解説・グラフ）」は「VI 調査結果（統計表）」に基づき、要点のみを記述しているので、あわせて参照すること。
- 2 「VI 調査結果（統計表）」の「サンプル」は有効調査人数を示し、比率（%）算出の基礎となっている。
- 3 「VI 調査結果（統計表）」に記入してある数値は、回答人数又は各回答項目に対する回答率であり、回答率は下記の式により求めている。

$$\text{回答率（\%）} = \frac{\text{回答人数}}{\text{サンプル（有効調査人数）}} \times 100$$

- 4 質問への回答方法は「1 つだけ○印」、「あてはまるもの全てに○印」などの方法を採用している。単数回答の場合は、本文及び図表の比率は全て小数点第 2 位以下を四捨五入し、小数点第 1 位までを表記している。このため、比率の合計が 100.0%とにならない場合がある。また、複数回答の場合は、比率を合計すると 100.0%以上になる。
- 5 設問によっては、該当者の人数を母数として回答率を算出している。
- 6 設問によっては、同じ傾向の 2 つの選択肢の回答を合わせた分析を行っている。この場合、それぞれの回答数の和を母数で除して比率を算出している。したがって、図表の個別の比率の和とは若干異なる場合がある。
- 7 各質問に対する集計は、対象者の特性別（階層別）及び回答者別（質問間クロス）で分析している。

F1 性 別：男性、女性、その他の 3 種類の分類

F2 年 代 別：18 歳～24 歳、25 歳～29 歳、30 歳～34 歳、35 歳～39 歳の 4 階層に分類

F3 最 終 学 歴 別：中学校、高校、短大・専門学校・高専、大学、大学院の 5 種類に分類

F4 職 業 別：管理的職業、研究・技術の職業、法務・経営・文化芸術等の専門的職業、医療・看護・保健の職業、保育・教育の職業、事務的職業、販売・営業の職業、福祉・介護の職業、サービスの職業、警備・保安の職業、農林漁業の職業、製造・修理・塗装・製図等の職業、配送・輸送・機械運転の職業、建設・土木・電気工事の職業、運搬・清掃・包装・選別等の職業、主婦・主夫、学生、無職、無職（求職活動中）、その他の 20 種類に分類

F5 雇 用 形 態 等 別：雇用者（正規の職員（公務員））、雇用者（正規の雇用者（公務員以外））、雇用者（非正規の職員（公務員））、雇用者（非正規の職員（公務員以外））、雇用者（労働者派遣事業所の派遣社員）、使用者（役員・自営業主）、フリーランス、無職（主婦・主夫・学生を含む）、その他の 9 種類に分類

- F6 個人年収別：100万円未満、100万円～200万円未満、200万円～300万円未満、300万円～400万円未満、400万円～500万円未満、500万円～600万円未満、600万円～700万円未満、700万円～800万円未満、800万円以上の9種類に分類
- F7 世帯別：単身世帯（一人住まい）、夫婦（事実婚を含む）のみの世帯、親と子の世帯（二世帯世帯）、三世帯世帯（親、子、孫の世帯）、その他の5種類に分類
- F8 結婚の有無：結婚している（事実婚を含む）、未婚で交際中、未婚で交際している人はいない、交際未経験、離別・死別で交際中、離別・死別で交際している人はいないの6種類に分類
- F9 夫婦共働きの有無：はい・いいえの別
- F10 配偶者個人年収別：100万円未満、100万円～200万円未満、200万円～300万円未満、300万円～400万円未満、400万円～500万円未満、500万円～600万円未満、600万円～700万円未満、700万円～800万円未満、800万円以上、わからないの10種類に分類
- F11 子どもの数別：子どもなし、1人、2人、3人、4人、5人以上の6種類に分類
- F12 末子の状況別：乳児（1歳未満）、幼児（1歳～小学校入学前）、小学生、中学生以上の4種類に分類
- F13 広域市町村圏別：高知市、安芸広域圏、南国・香美広域圏、嶺北広域圏、仁淀川広域圏、高吾北広域圏、高幡広域圏、幡多広域圏の1市7広域圏に分類

※広域市町村圏別の市町村内訳は以下のとおりである。

高 知 市

安 芸 広 域 圏：室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、芸西村

南国・香美広域圏：南国市、香南市、香美市

嶺 北 広 域 圏：本山町、大豊町、土佐町、大川村

仁 淀 川 広 域 圏：土佐市、いの町、日高村

高 吾 北 広 域 圏：佐川町、越知町、仁淀川町

高 幡 広 域 圏：須崎市、中土佐町、梶原町、津野町、四万十町

幡 多 広 域 圏：宿毛市、土佐清水市、四万十市、大月町、三原村、黒潮町

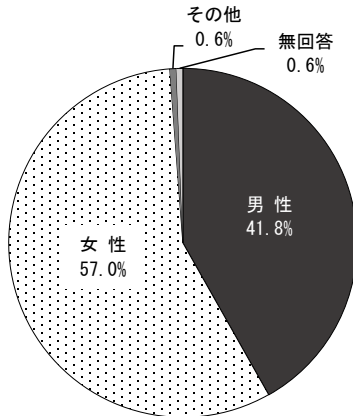
Ⅲ 調査対象者の特性

1 広域市町村圏別の配布・回収状況

広域市町村圏	配布数 (人)	有効回収状況		
		回答数 (人)	回収率 (%)	構成比 (%)
高知市	1,962	784	40.0	50.5
安芸広域圏	232	80	34.5	5.2
南国・香美広域圏	663	231	34.8	14.9
嶺北広域圏	45	22	48.9	1.4
仁淀川広域圏	312	106	34.0	6.8
高吾北広域圏	109	39	35.8	2.5
高幡広域圏	265	80	30.2	5.2
幡多広域圏	412	156	37.9	10.1
無回答		54		3.5
合計	4,000	1,552	38.8	100.0

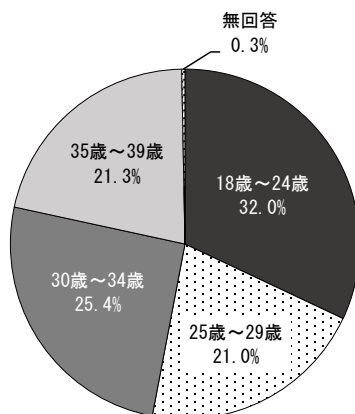
2 対象者の特性

F1 性別



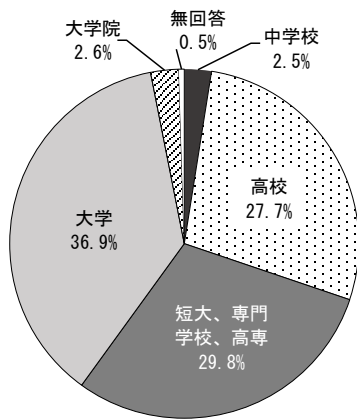
区分	回答数 (人)	構成比 (%)
男性	649	41.8
女性	885	57.0
その他	9	0.6
無回答	9	0.6
合計	1,552	100.0

F2 年代別



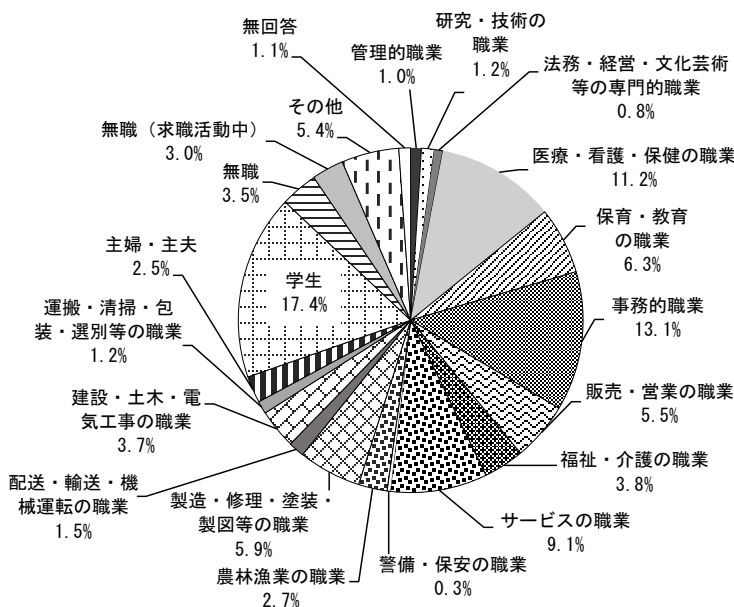
区分	回答数 (人)	構成比 (%)
18歳～24歳	497	32.0
25歳～29歳	326	21.0
30歳～34歳	394	25.4
35歳～39歳	331	21.3
無回答	4	0.3
合計	1,552	100.0

F3 最終学歴別



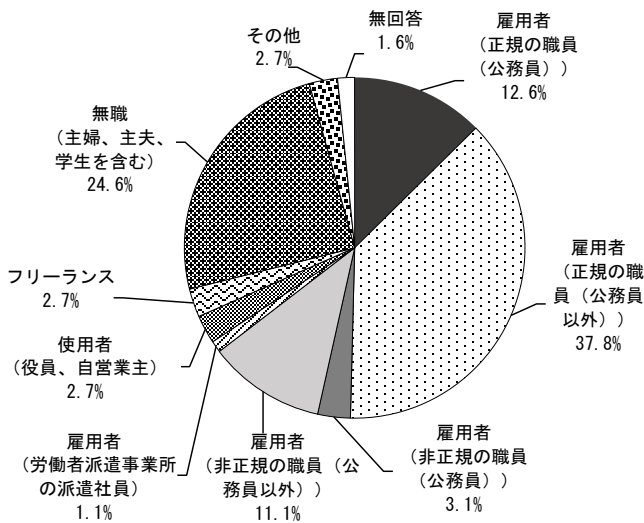
区分	回答数 (人)	構成比 (%)
中学校	39	2.5
高校	430	27.7
短大、専門学校、高専	463	29.8
大学	573	36.9
大学院	40	2.6
無回答	7	0.5
合計	1,552	100.0

F4 職業別



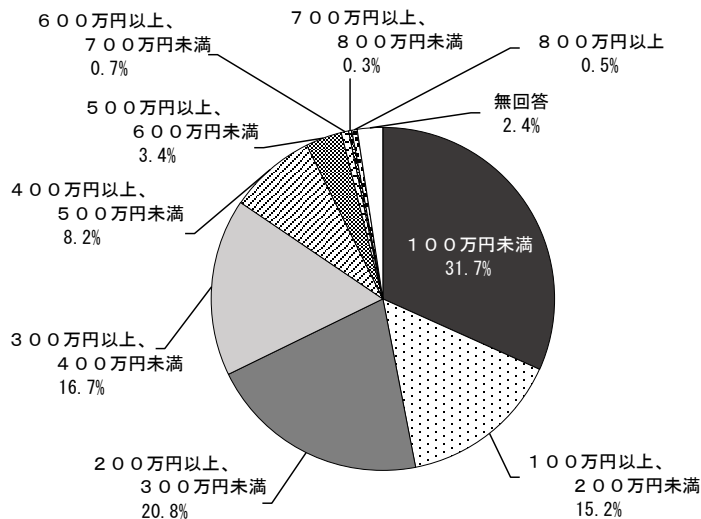
区分	回答数 (人)	構成比 (%)
管理的職業	15	1.0
研究・技術の職業	18	1.2
法務・経営・文化芸術等の専門的職業	12	0.8
医療・看護・保健の職業	174	11.2
保育・教育の職業	97	6.3
事務的職業	203	13.1
販売・営業の職業	86	5.5
福祉・介護の職業	59	3.8
サービスの職業	142	9.1
警備・保安の職業	4	0.3
農林漁業の職業	42	2.7
製造・修理・塗装・製図等の職業	91	5.9
配送・輸送・機械運転の職業	23	1.5
建設・土木・電気工事の職業	57	3.7
運搬・清掃・包装・選別等の職業	19	1.2
主婦・主夫	39	2.5
学生	270	17.4
無職	54	3.5
無職(求職活動中)	46	3.0
その他	84	5.4
無回答	17	1.1
合計	1,552	100.0

F5 職業の種別



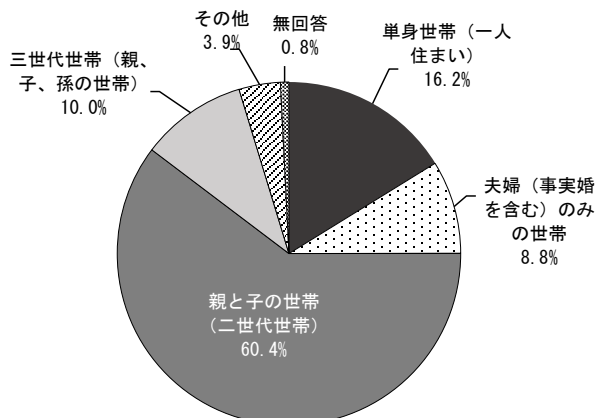
区分	回答数 (人)	構成比 (%)
雇用者 (正規の職員 (公務員))	196	12.6
雇用者 (正規の職員 (公務員以外))	586	37.8
雇用者 (非正規の職員 (公務員))	48	3.1
雇用者 (非正規の職員 (公務員以外))	172	11.1
雇用者 (労働者派遣事業所の派遣社員)	17	1.1
使用者 (役員、自営業主)	42	2.7
フリーランス	42	2.7
無職 (主婦、主夫、学生を含む)	382	24.6
その他	42	2.7
無回答	25	1.6
合計	1,552	100.0

F6 個人年収別



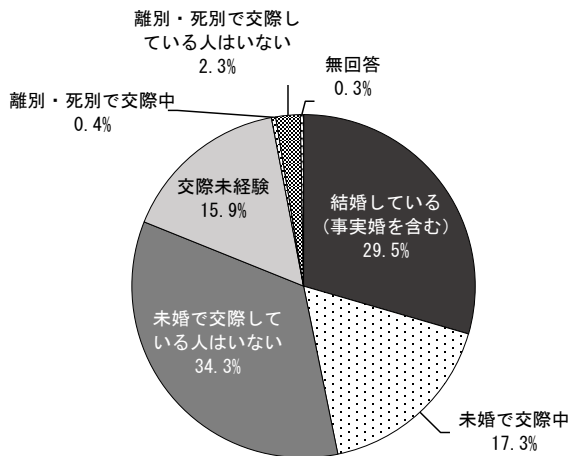
区分	回答数 (人)	構成比 (%)
100万円未満	492	31.7
100万円以上、200万円未満	236	15.2
200万円以上、300万円未満	323	20.8
300万円以上、400万円未満	259	16.7
400万円以上、500万円未満	128	8.2
500万円以上、600万円未満	53	3.4
600万円以上、700万円未満	11	0.7
700万円以上、800万円未満	4	0.3
800万円以上	8	0.5
無回答	38	2.4
合計	1,552	100.0

F7 世帯別



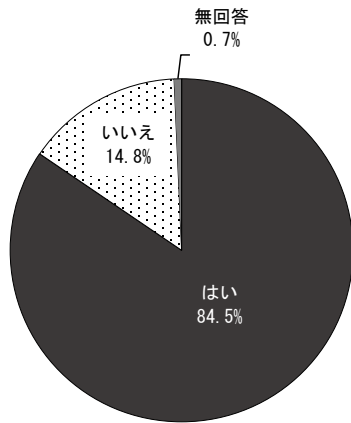
区分	回答数 (人)	構成比 (%)
単身世帯 (一人住まい)	251	16.2
夫婦 (事実婚を含む) のみの世帯	136	8.8
親と子の世帯 (二世帯世帯)	937	60.4
親と子の世帯 (三世帯世帯 (親、子、孫の世帯))	155	10.0
その他	60	3.9
無回答	13	0.8
合計	1,552	100.0

F8 結婚の有無



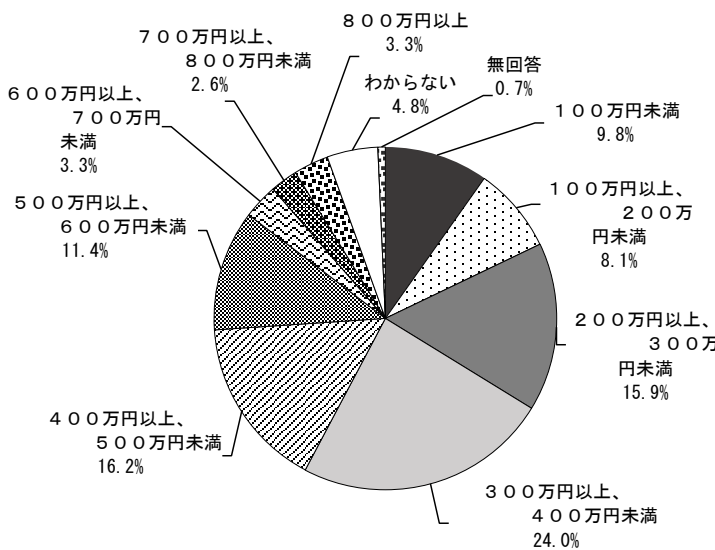
区分	回答数 (人)	構成比 (%)
結婚している (事実婚を含む)	458	29.5
未婚で交際中	269	17.3
未婚で交際している人はいない	533	34.3
交際未経験	247	15.9
離別・死別で交際中	6	0.4
離別・死別で交際している人はいない	35	2.3
無回答	4	0.3
合計	1,552	100.0

F9 夫婦共働きの有無



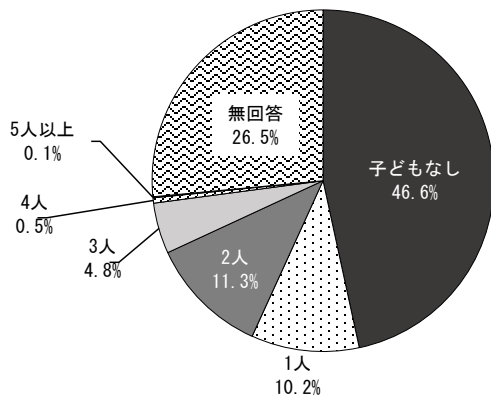
区分	回答数 (人)	構成比 (%)
はい	387	84.5
いいえ	68	14.8
無回答	3	0.7
合計	458	100.0

F10 配偶者の年収



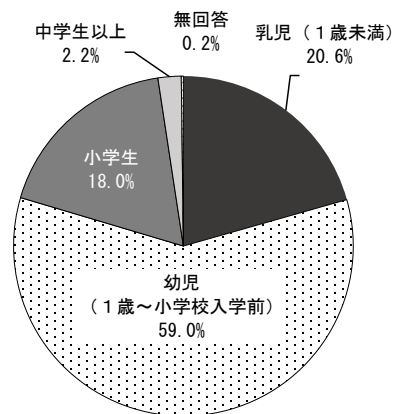
区分	回答数 (人)	構成比 (%)
100万円未満	45	9.8
100万円以上、200万円未満	37	8.1
200万円以上、300万円未満	73	15.9
300万円以上、400万円未満	110	24.0
400万円以上、500万円未満	74	16.2
500万円以上、600万円未満	52	11.4
600万円以上、700万円未満	15	3.3
700万円以上、800万円未満	12	2.6
800万円以上	15	3.3
わからない	22	4.8
無回答	3	0.7
合計	458	100.0

F11 子どもの数別



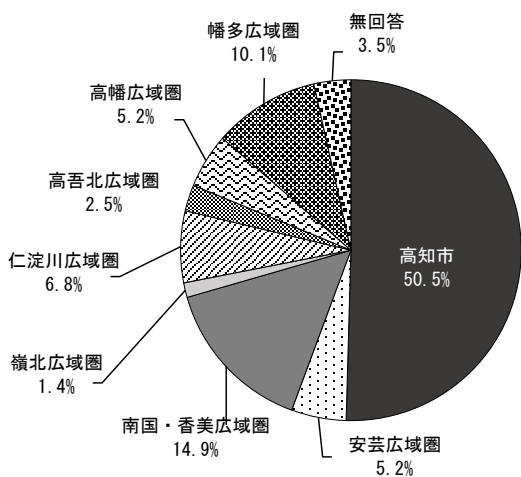
区分	回答数 (人)	構成比 (%)
子どもなし	724	46.6
1人	158	10.2
2人	175	11.3
3人	75	4.8
4人	7	0.5
5人以上	2	0.1
無回答	411	26.5
合計	1,552	100.0

F12 末子の状況



区分	回答数 (人)	構成比 (%)
乳児 (1歳未満)	86	20.6
幼児 (1歳~小学校入学前)	246	59.0
小学生	75	18.0
中学生以上	9	2.2
無回答	1	0.2
合計	417	100.0

F13 広域市町村圏別



区分	回答数 (人)	構成比 (%)
高知市	784	50.5
安芸広域圏	80	5.2
南国・香美広域圏	231	14.9
嶺北広域圏	22	1.4
仁淀川広域圏	106	6.8
高吾北広域圏	39	2.5
高幡広域圏	80	5.2
幅多広域圏	156	10.1
無回答	54	3.5
合計	1,552	100.0

※構成比は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

IV 調査結果のあらまし

1 「結婚」「妊娠・出産」「子育て」の環境について

【問1】 高知県が『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』になっていると思うか

① 安心して「結婚」できる社会か

- 「どちらともいえない」が 31.9%と最も高く、次いで「ややそう思う」(21.6%)、「あまりそう思わない」(21.3%)と続いている。
- “思う”（「そう思う」または「ややそう思う」と回答した方）の割合は、32.3%、“思わない”（「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した方）の割合は 35.3%となっている。

② 安心して「妊娠・出産」できる社会か

- 「どちらともいえない」が 29.4%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」(26.2%)、「そう思わない」(19.2%)と続いている。
- “思う”（「そう思う」または「ややそう思う」と回答した方）の割合は、24.5%、“思わない”（「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した方）の割合は、45.4%となっている。

③ 安心して「子育て」できる社会か

- 「どちらともいえない」が 28.9%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」(27.2%)、「ややそう思う」(21.0%)と続いている。
- “思う”（「そう思う」または「ややそう思う」と回答した方）の割合は、26.5%、“思わない”（「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した方）の割合は、44.1%となっている。

④ 総合的に高知県が『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』か

- 「どちらともいえない」が 34.3%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」(25.7%)、「ややそう思う」(18.3%)と続いている。
- “思う”（「そう思う」または「ややそう思う」と回答した方）の割合は、22.9%、“思わない”（「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した方）の割合は、42.3%となっている。

2 「結婚」「妊娠・出産」「子育て」への支援の取り組みについて

【問2】 『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』を実現するために特に力を入れるべき施策

- 「若者・子育て世代の所得向上」が74.0%と最も高く、次いで「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」(45.3%)、「ワークライフバランスの推進」(34.6%)と続いている。

【問3】 高知県が少子化対策の取り組みとして行っている各事業に対する認知度・関心度

① こうち出会いサポートセンター

- 本事業の認知度は、“知っている”が35.1%、“知らない”が63.8%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が55.9%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」(26.1%)、「知らない（関心がある）」(7.9%)と続いている。

② 高知で恋しよ！！マッチング（県が運営する会員制のお引き合わせシステム）

- 本事業の認知度は、“知っている”が31.8%、“知らない”が67.0%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が58.9%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」(22.9%)、「知らない（関心がある）」(8.1%)と続いている。

③ 高知で恋しよ！！イベント（県が運営する出会いイベント）

- 本事業の認知度は、“知っている”が31.3%、“知らない”が67.4%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が59.3%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」(21.3%)、「知らない（関心がある）」(8.1%)と続いている。

④ 婚活サポーター（地域で独身男女のお引き合わせを行うボランティア）

- 本事業の認知度は、“知っている”が22.7%、“知らない”が75.9%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が66.6%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」(18.1%)、「知らない（関心がある）」(9.3%)と続いている。

⑤ こうち子育て応援の店

- 本事業の認知度は、“知っている”が26.2%、“知らない”が71.9%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が43.9%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」(28.0%)、「知っている（活用したことがない：関心がない）」(11.9%)と続いている。

⑥ 高知の子育て応援サイト「こうちプレマ net」

- 本事業の認知度は、“知っている”が22.4%、“知らない”が75.6%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が51.0%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」(24.6%)、「知っている（活用したことがない：関心がない）」(9.7%)と続いている。

⑦ 子ども食堂

- 本事業の認知度は、“知っている”が68.4%、“知らない”が30.3%となっている。
- 「知っている（活用したことがない：関心がある）」が40.2%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」（22.0%）、「知らない（関心がない）」（17.5%）と続いている。

⑧ 地域子育て支援センター

- 本事業の認知度は、“知っている”が55.4%、“知らない”が43.4%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が27.6%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がある）」（24.4%）、「知っている（活用したことがない：関心がない）」（17.6%）と続いている。

⑨ ファミリー・サポート・センター

- 本事業の認知度は、“知っている”が37.1%、“知らない”が61.3%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が39.0%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」（22.3%）、「知っている（活用したことがない：関心がある）」（20.4%）と続いている。

⑩ 産後ケア事業

- 本事業の認知度は、“知っている”が31.1%、“知らない”が67.4%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が42.3%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」（25.1%）、「知っている（活用したことがない：関心がある）」（18.1%）と続いている。

⑪ 高知家の出会い・結婚・子育て応援団

- 本事業の認知度は、“知っている”が28.9%、“知らない”が69.7%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が49.4%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」（20.3%）、「知っている（活用したことがない：関心がない）」（16.5%）と続いている。

【問4】 「高知で恋しよ！！マッチング」に関心のない理由

- 「その他」が21.9%と最も高く、次いで「すでに付き合っている人がいるから」（21.4%）、「婚活してまで出会うことに抵抗感があるから」（18.2%）、「結婚するつもりがないから」（16.9%）と続いている。

3 出会い・結婚について

【問 5】 結婚に向けた出会いを求める場合の行動

- 「これまでの交友関係から自力で見つける（SNS 利用を含む）」が 50.8%と最も高く、次いで「友人や知人、同僚等に紹介を頼む」（46.4%）、「職場や仕事の関係で出会いを求める」（37.3%）と続いている。

【問 6】 現在結婚していない理由

- 「適当な相手にまだめぐり会わないから」が 38.3%と最も高く、次いで「自分の収入が安定していないから」（34.2%）、「結婚を選択する必要性をまだ感じないから」（25.4%）と続いている。

【問 7】 男性が女性よりも収入が高い関係が理想という考え方

- 「そう思わない」が 40.5%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」（30.8%）、「どちらかといえばそう思わない」（16.3%）と続いている。
- “思う”（「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した方）は、42.7%、“思わない”（「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」と回答した方）は、56.8%となっている。

【問 8】 男性が女性よりも収入が高い関係が理想という周囲の考え方

- 「多いと思う」が 53.7%と最も高く、次いで「少ないと思う」（20.1%）、「ほとんどだと思う」（17.4%）と続いている。
- “多い”（「ほとんどだと思う」または「多いと思う」と回答した方）は、71.1%、“少ない”（「ほとんどいないと思う」または「少ないと思う」と回答した方）は、28.0%となっている。

【問 9】 結婚相手に求める年収

- 「結婚相手の年収にはこだわらない」が 34.4%と最も高く、次いで「300 万円以上」（17.6%）、「400 万円以上」（14.2%）と続いている。

【問 10】 出会いや結婚に関する必要な行政支援

- 「結婚生活を始める際の金銭的な支援（引越し費用や家賃への補助、祝金支給など）」が 65.5%と最も高く、次いで「出会いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」（53.0%）、「妊娠・出産の医学的な情報を含むライフプランに関する啓発」（30.4%）と続いている。

4 子育てについて

【問 11】理想的な子どもの人数

- 「2人」が53.8%と最も高く、次いで「3人」(29.0%)、「0人」(7.2%)と続いている。

【問 12】現実的に持ちたいと考えている子どもの人数

- 「2人」が51.4%と最も高く、次いで「3人」(16.1%)、「1人」(15.3%)と続いている。

【問 13】理想の数だけ子どもを持たない理由

- 「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が78.5%と最も高く、次いで「仕事と家庭の両立が難しいから」(44.0%)、「育児の心理的、肉体的負担に不安があるから」(38.7%)と続いている。

【問 14】理想の数だけ子どもを持てる環境

- 「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」が52.8%と最も高く、次いで「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」(49.5%)、「仕事と家庭の両立に対する職場の理解や環境があること」(44.6%)と続いている。

【問 15】保育所・幼稚園・認定こども園など子育てを支える施設の充実度

- 「どちらともいえない」が41.3%と最も高く、次いで「ややそう思う」(24.7%)、「あまりそう思わない」(17.1%)と続いている。
- “思う”（「そう思う」または「ややそう思う」と回答した方）は、33.3%、“思わない”（「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した方）は、22.9%となっている。

【問 16】子育てを支えるために施設に力を入れて欲しいこと

- 「保育にかかる費用を減らしてほしい。または無料にしてほしい」が47.9%と最も高く、次いで「保育士などの給料を増やしてほしい」(45.4%)、「子どもの年齢に応じた安全で質の高い教育・保育をしてほしい」(36.5%)と続いている。

【問 17】妊娠期から乳幼児期の子育て支援に関して充実してほしい取り組み

- 「子育ての負担を軽減する家事支援」が48.2%と最も高く、次いで「不妊治療に関する経済的支援」(32.4%)、「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」(31.4%)と続いている。

5 女性の活躍とワークライフバランスについて

【問 18】女性が職場で活躍するために必要なもの

- 「職場に仕事と家庭を両立しやすい雇用条件が整っていること」が 76.4%と最も高く、次いで「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」(50.1%)、「希望する職種に就くことができる機会を得られること」(42.1%)と続いている。

【問 19】働きながら子育てしやすい職場環境づくりのために必要な支援

- 「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」が 60.6%と最も高く、次いで「育児家事支援に係る福利厚生制度の充実」(55.7%)、「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤・テレワーク等）」(53.5%)と続いている。

【問 20】男性の育児休業取得率の向上のために必要な支援

- 「上司・管理職等から積極的な取得を促す声かけ」が 36.3%と最も高く、次いで「育児休業の取得を後押しする助成金等の支援制度の拡充」(20.8%)、「職場復帰した際の職種やキャリアの保証」(20.4%)と続いている。

【問 21】性別役割分担に関する経験

① 小さい頃から食事や洗濯などの家事の手伝いをしている

- 「時々あった」が 47.6%と最も高く、次いで「なかった」(27.3%)、「よくあった」(19.8%)と続いている。
- “あった”（「よくあった」または「時々あった」と回答した方）は、67.3%となっている。

② 親や親戚などから進学先について反対されたり制限されたりする

- 「なかった」が 74.6%と最も高く、次いで「時々あった」(13.0%)、「よくあった」(5.9%)と続いている。
- “あった”（「よくあった」または「時々あった」と回答した方）は、18.9%となっている。

③ 親戚や地域の宴会で食事の支度やお酌をする

- 「なかった」が 58.1%と最も高く、次いで「時々あった」(24.1%)、「よくあった」(7.9%)と続いている。
- “あった”（「よくあった」または「時々あった」と回答した方）は、32.0%となっている。

④ 恋人とのデート代を相手の分も負担する

- 「なかった」が 38.3%と最も高く、次いで「時々あった」(30.1%)、「わからない又は該当しない」(17.0%)と続いている。
- “あった”（「よくあった」または「時々あった」と回答した方）は、42.3%となっている。

⑤ 職場の飲み会で料理の取り分けやお酌をする

- 「時々あった」が 35.8%と最も高く、次いで「なかった」(27.7%)、「わからない又は該当しない」(18.9%)と続いている。
- “あった”(「よくあった」または「時々あった」と回答した方)は、51.0%となっている。

⑥ 職場で社員の食器類の片付けをする

- 「なかった」が 39.2%と最も高く、次いで「時々あった」(24.8%)、「わからない又は該当しない」(23.7%)と続いている。
- “あった”(「よくあった」または「時々あった」と回答した方)は、34.9%となっている。

⑦ 職場で来客にお茶を出す

- 「なかった」が 42.0%と最も高く、次いで「わからない又は該当しない」(25.5%)、「時々あった」(19.8%)と続いている。
- “あった”(「よくあった」または「時々あった」と回答した方)は、30.3%となっている。

⑧ 職場の掃除をする

- 「よくあった」が 31.3%と最も高く、次いで「時々あった」(27.2%)、「なかった」(19.7%)と続いている。
- “あった”(「よくあった」または「時々あった」と回答した方)は、58.4%となっている。

⑨ 職場で、育児中であることを理由に早く帰宅した方が良いと言われる

- 「わからない又は該当しない」が 53.6%と最も高く、次いで「なかった」(28.7%)、「時々あった」(9.4%)と続いている。
- “あった”(「よくあった」または「時々あった」と回答した方)は、14.8%となっている。

⑩ 職場で成長できるような機会や助言をもらえる

- 「時々あった」が 36.0%と最も高く、次いで「わからない又は該当しない」(25.0%)、「よくあった」及び「なかった」が同率(18.3%)で続いている。
- “あった”(「よくあった」または「時々あった」と回答した方)は、54.3%となっている。

【問 22】1日あたりの家事・育児にかかる時間

① 平日

- 無回答を除き、「30分未満」が 12.8%と最も高く、次いで「1時間以上～1時間半未満」(11.2%)、「2時間以上～3時間未満」(9.1%)と続いている。

② 休日

- 無回答を除き、「9時間以上」が 13.3%と最も高く、次いで「30分未満」(11.4%)、「2時間以上～3時間未満」(9.1%)と続いている。

V 調査結果

解説・グラフ

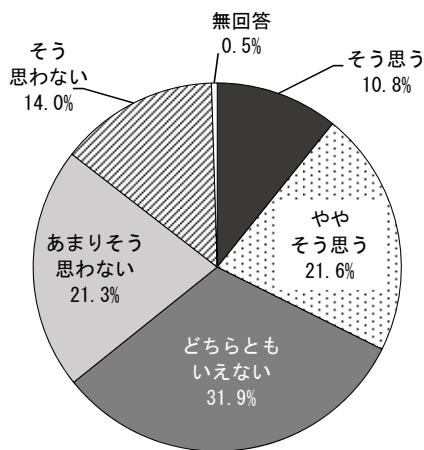
1 「結婚」「妊娠・出産」「子育て」の環境について

問1 あなたは高知県が『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』になっていると思いますか。それぞれについて、あなたの考えに近いものをお選びください。また、総合的に判断してどう思いますか。（それぞれの項目であてはまるものに1つだけ○印）

① 安心して「結婚」できる社会か

【全体】

- 「どちらともいえない」が31.9%と最も高く、次いで「ややそう思う」（21.6%）、「あまりそう思わない」（21.3%）と続いている。
- “思う”（「そう思う」または「ややそう思う」と回答した方）の割合は、32.3%、“思わない”（「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した方）の割合は35.3%となっている。



【性別】

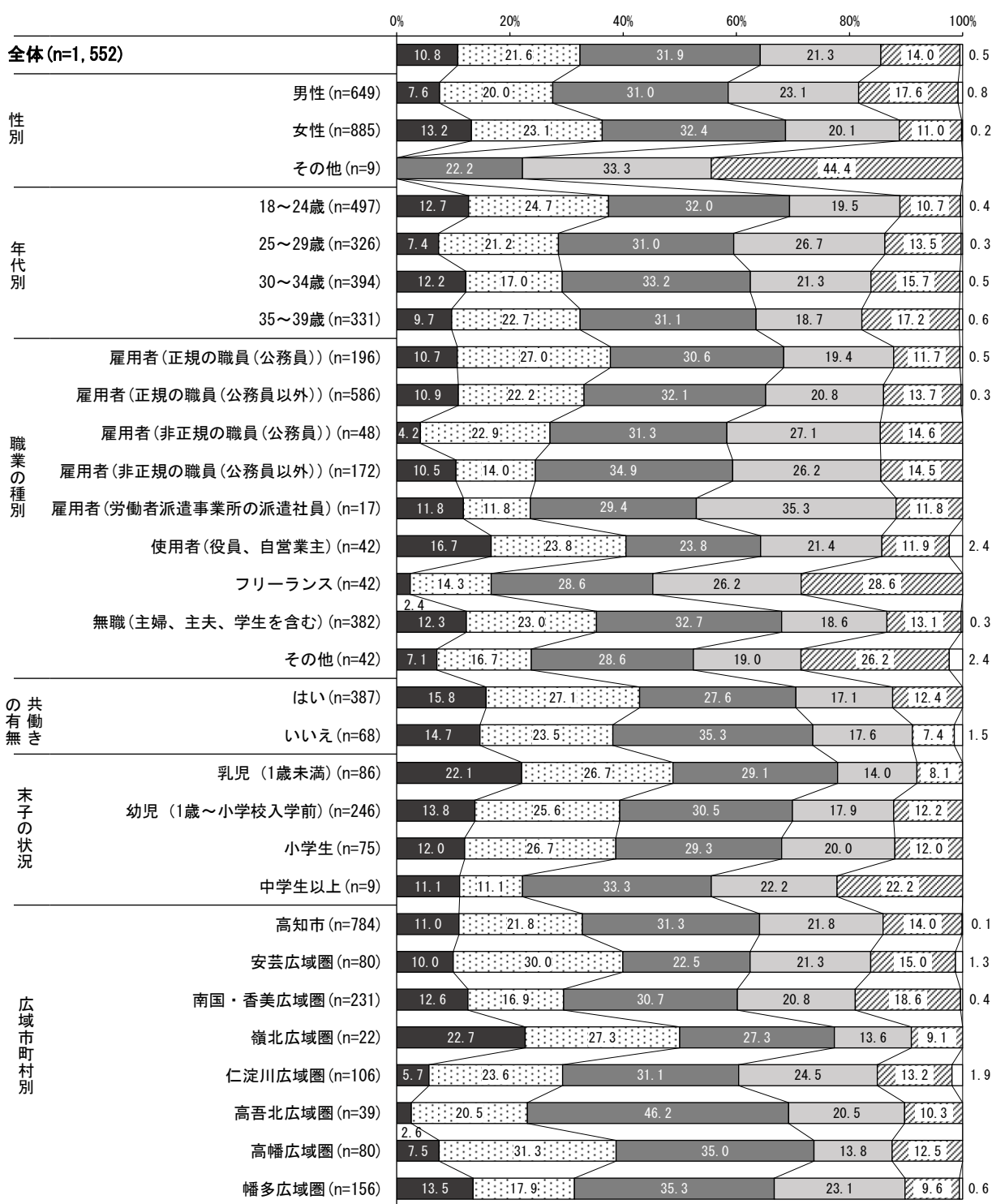
- 男女ともに、「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 男性は、“思わない”の割合が“思う”を上回っているが、女性は“思う”が“思わない”を上回っている。

【年代別】

- いずれの年代も、「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 18歳～24歳を除き、“思わない”の割合が“思う”を上回っている。

【地域別】

- 安芸広域圏及び嶺北広域圏では、「ややそう思う」が最も高く（嶺北広域圏は「どちらともいえない」も同率）、そのほかの地域では「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 安芸広域圏、嶺北広域圏及び高幡広域圏において、“思う”の割合が“思わない”を上回り、そのほかの地域では“思わない”のほうが高くなっている。

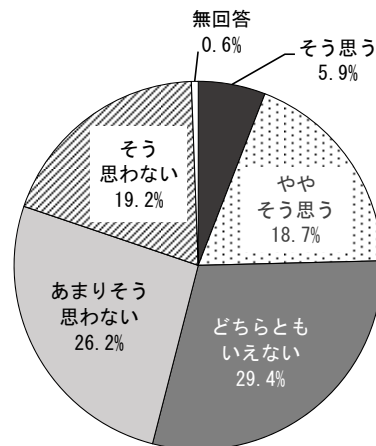


そう思う
 ややそう思う
 どちらともいえない
 あまりそう思わない
 そう思わない
 無回答

② 安心して「妊娠・出産」できる社会か

【全体】

- 「どちらともいえない」が 29.4%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」(26.2%)、「そう思わない」(19.2%)と続いている。
- “思う”（「そう思う」または「ややそう思う」と回答した方）の割合は、24.5%、“思わない”（「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した方）の割合は、45.4%となっている。



【性別】

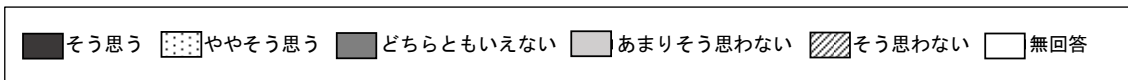
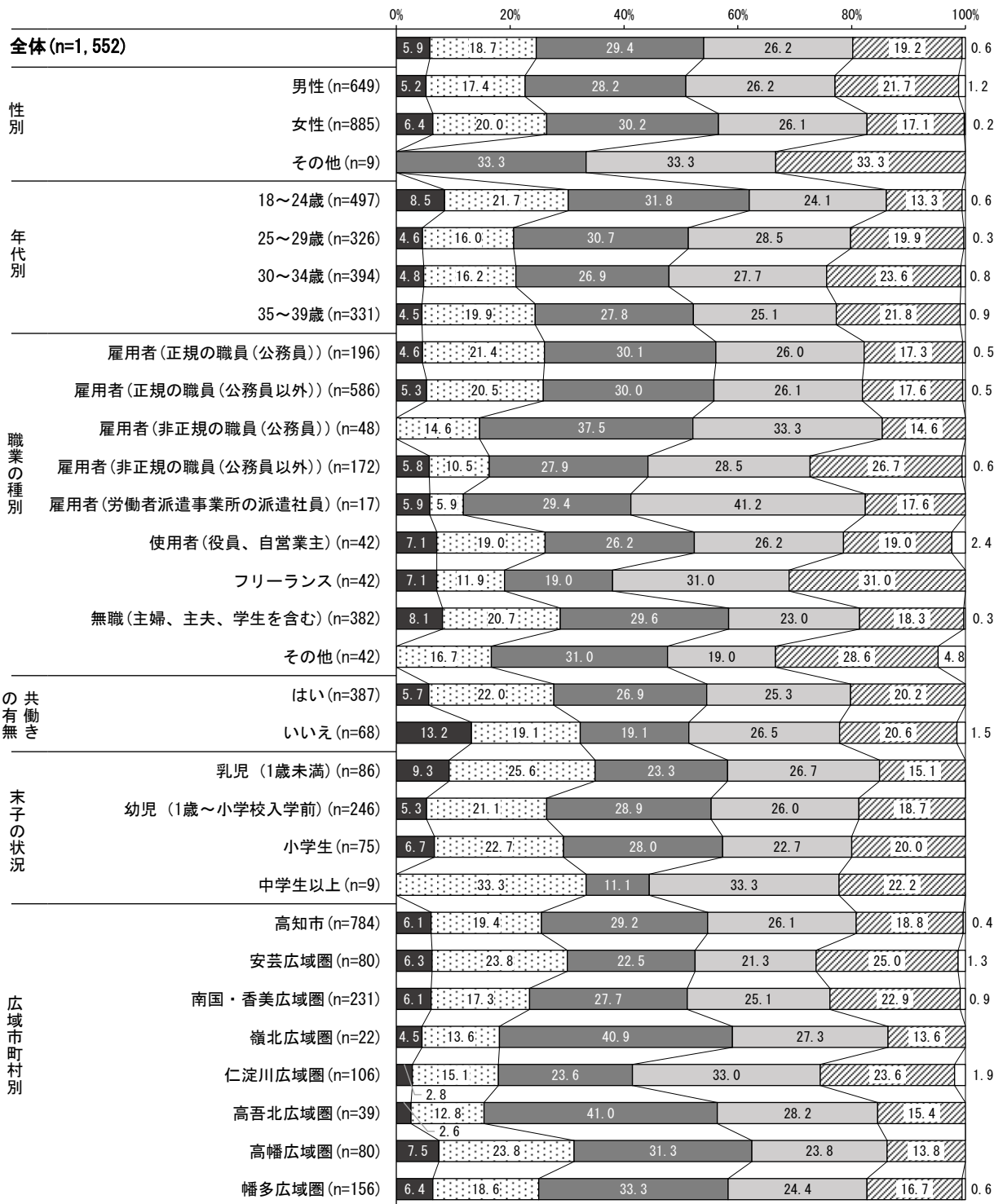
- 男女ともに、「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 男女ともに、“思わない”の割合が“思う”を上回っている。

【年代別】

- 30歳～34歳で、「あまりそう思わない」が最も高くなっている。そのほかの年代では「どちらともいえない」が最も高い。
- いずれの年代も、“思わない”の割合が“思う”を上回っている。

【地域別】

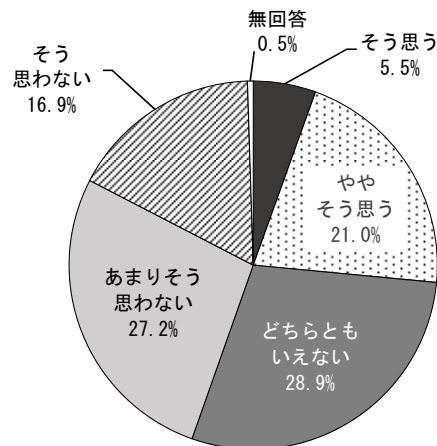
- 安芸広域圏では、「そう思わない」、仁淀川広域圏では「あまりそう思わない」が最も高く、そのほかの地域では「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- すべての地域で、“思わない”が“思う”を上回る結果となっている。特に、仁淀川広域圏では“思わない”が 56.6%と半数以上となっている。



③ 安心して「子育て」できる社会か

【全体】

- 「どちらともいえない」が 28.9%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」(27.2%)、「ややそう思う」(21.0%)と続いている。
- “思う”（「そう思う」または「ややそう思う」と回答した方）の割合は、26.5%、“思わない”（「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した方）の割合は、44.1%となっている。



【性別】

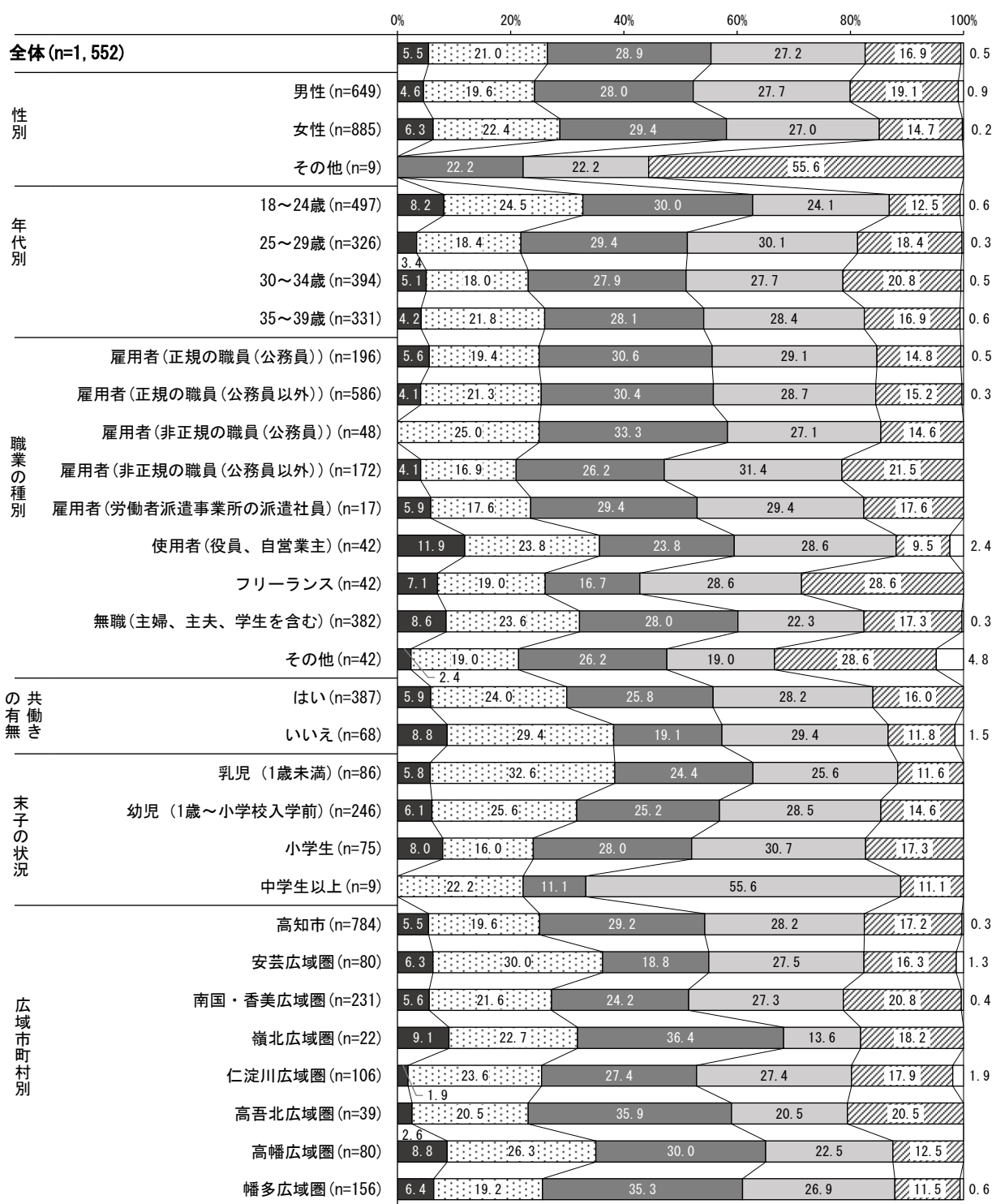
- 男女ともに、「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 男女ともに、“思わない”の割合が“思う”を上回っている。

【年代別】

- 18歳～24歳及び30歳～34歳は、「どちらともいえない」が最も高くなっているが、25～29歳及び35～39歳では、「あまりそう思わない」が最も高い。
- いずれの年代も、“思わない”の割合が“思う”を上回っている。

【地域別】

- 安芸広域圏では、「ややそう思う」が最も高く、南国・香美広域圏及び仁淀川広域圏では「あまりそう思わない」が最も高くなっている（仁淀川広域圏は「どちらともいえない」も同率）。
- そのほかの地域は、「どちらともいえない」が最も高い。
- 嶺北広域圏及び高幡広域圏では、“思う”と“思わない”が同率、そのほかの地域では“思わない”が“思う”を上回る結果となっている。

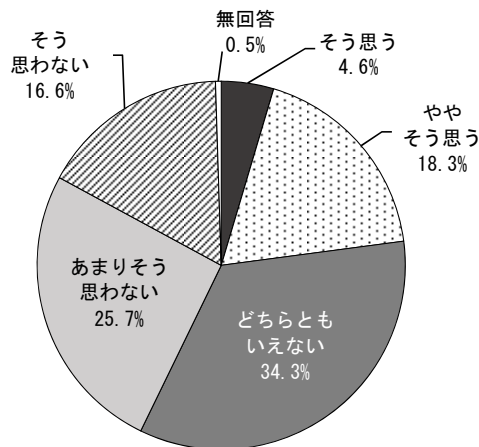


そう思う
 ややそう思う
 どちらともいえない
 あまりそう思わない
 そう思わない
 無回答

④ 総合的に高知県が『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』か

【全体】

- 「どちらともいえない」が 34.3%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」(25.7%)、「ややそう思う」(18.3%)と続いている。
- “思う”（「そう思う」または「ややそう思う」と回答した方）の割合は、22.9%、“思わない”（「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した方）の割合は、42.3%となっている。



【性別】

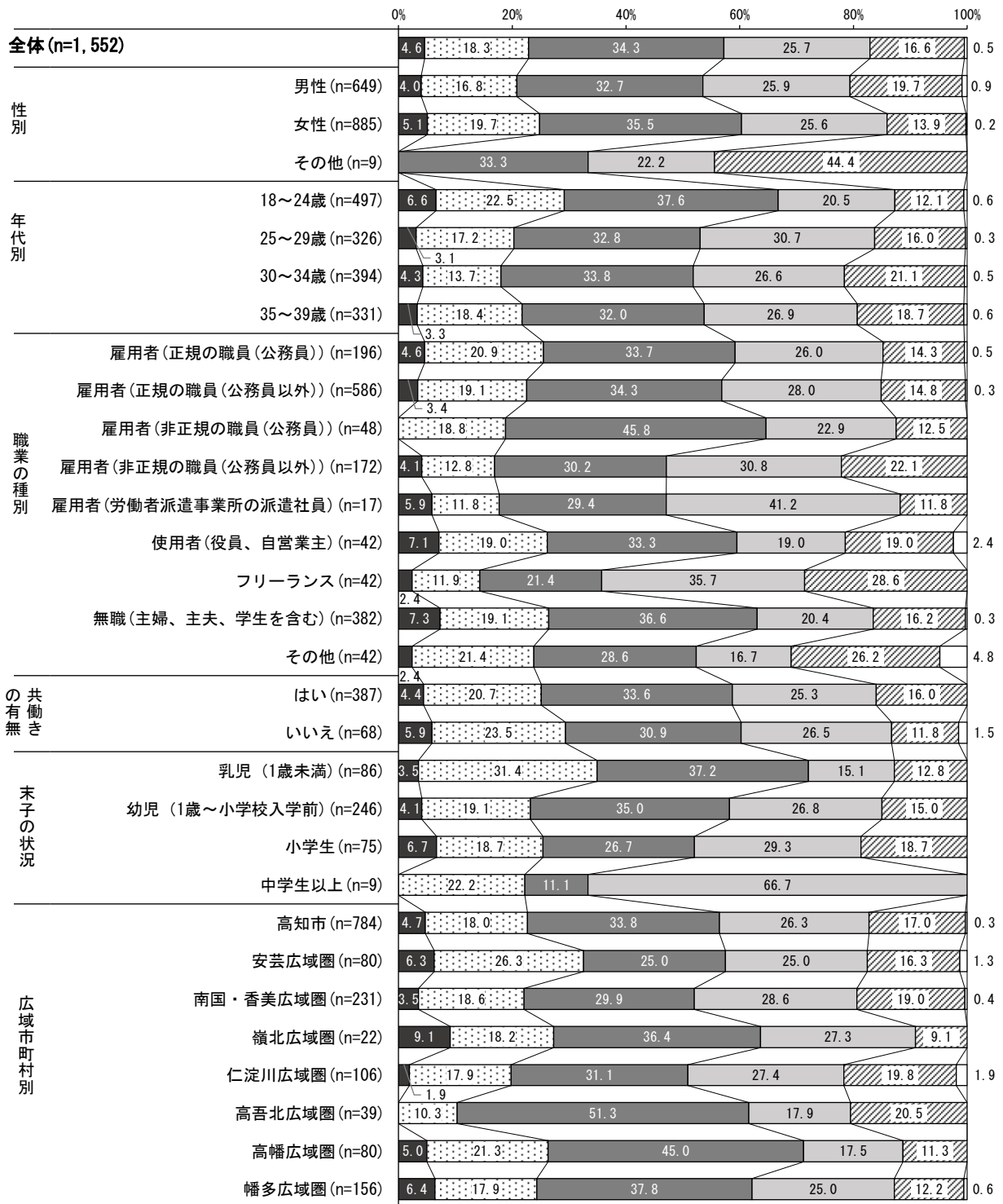
- 男女ともに、「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 男女ともに、“思わない”の割合が“思う”を上回っている。

【年代別】

- いずれの年代も、「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- いずれの年代も、“思わない”の割合が“思う”を上回っている。

【地域別】

- 安芸広域圏では、「ややそう思う」が最も高く、そのほかの地域は「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- すべての地域で、“思わない”が“思う”を上回る結果となっている。



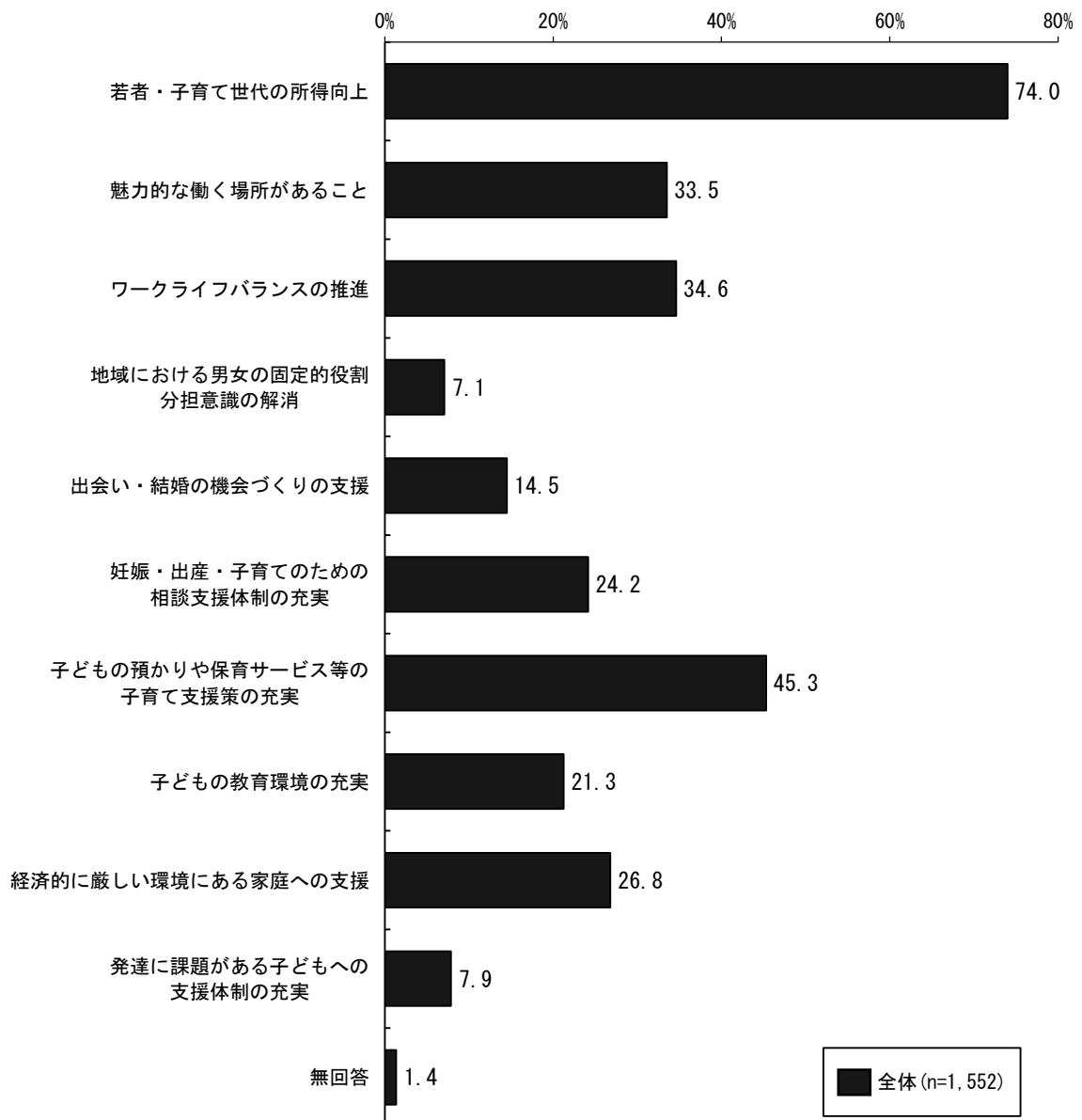
そう思う
 ややそう思う
 どちらともいえない
 あまりそう思わない
 そう思わない
 無回答

2 「結婚」「妊娠・出産」「子育て」への支援の取り組みについて

問2 高知県が『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』を実現するために、特に力を入れるべき施策は何だと思えますか。あなたの考えに近いものを、3つお選びください。(○印は3つまで)

【全体】

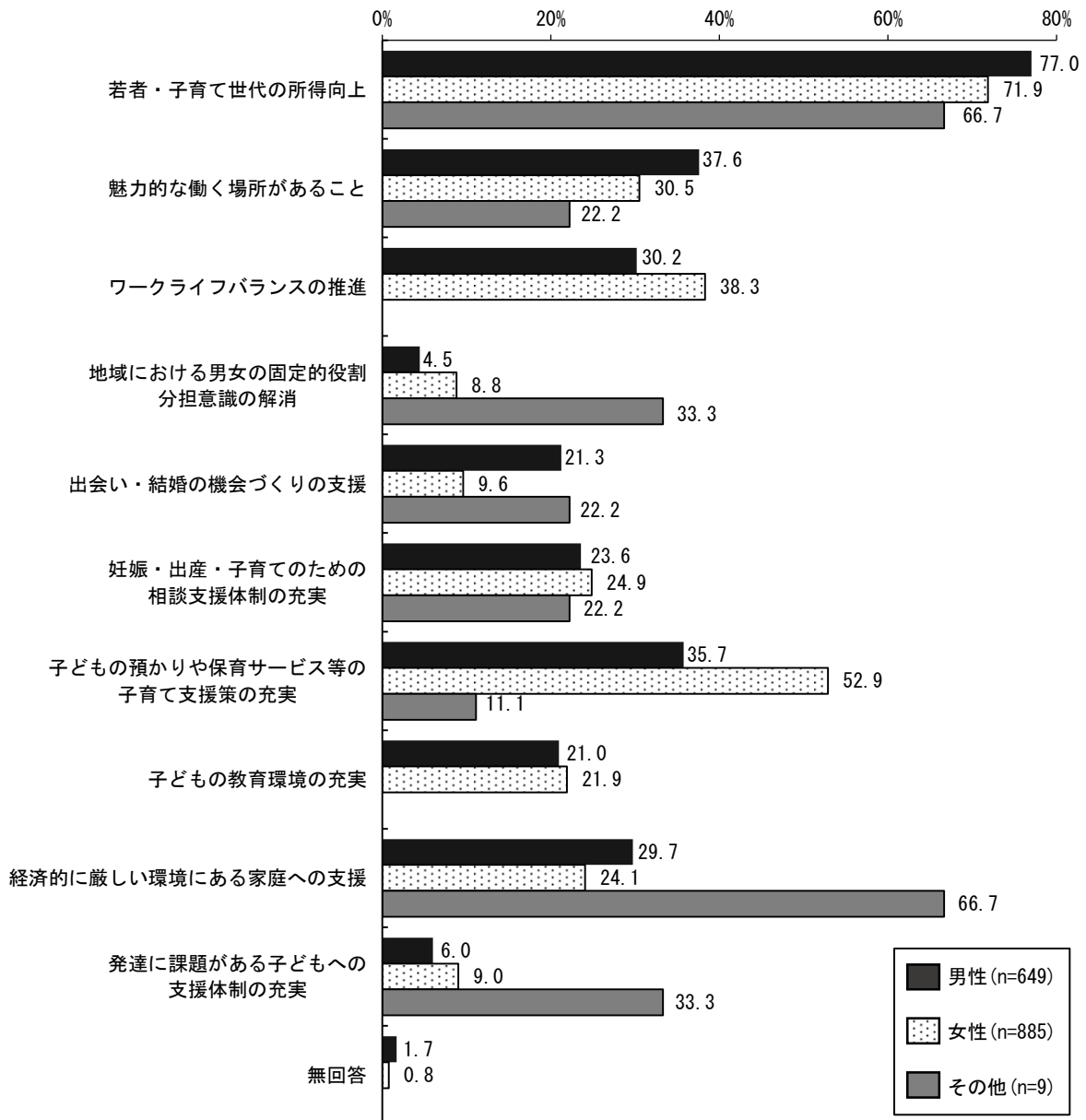
○「若者・子育て世代の所得向上」が74.0%と最も高く、次いで「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」(45.3%)、「ワークライフバランスの推進」(34.6%)と続いている。



【性別】

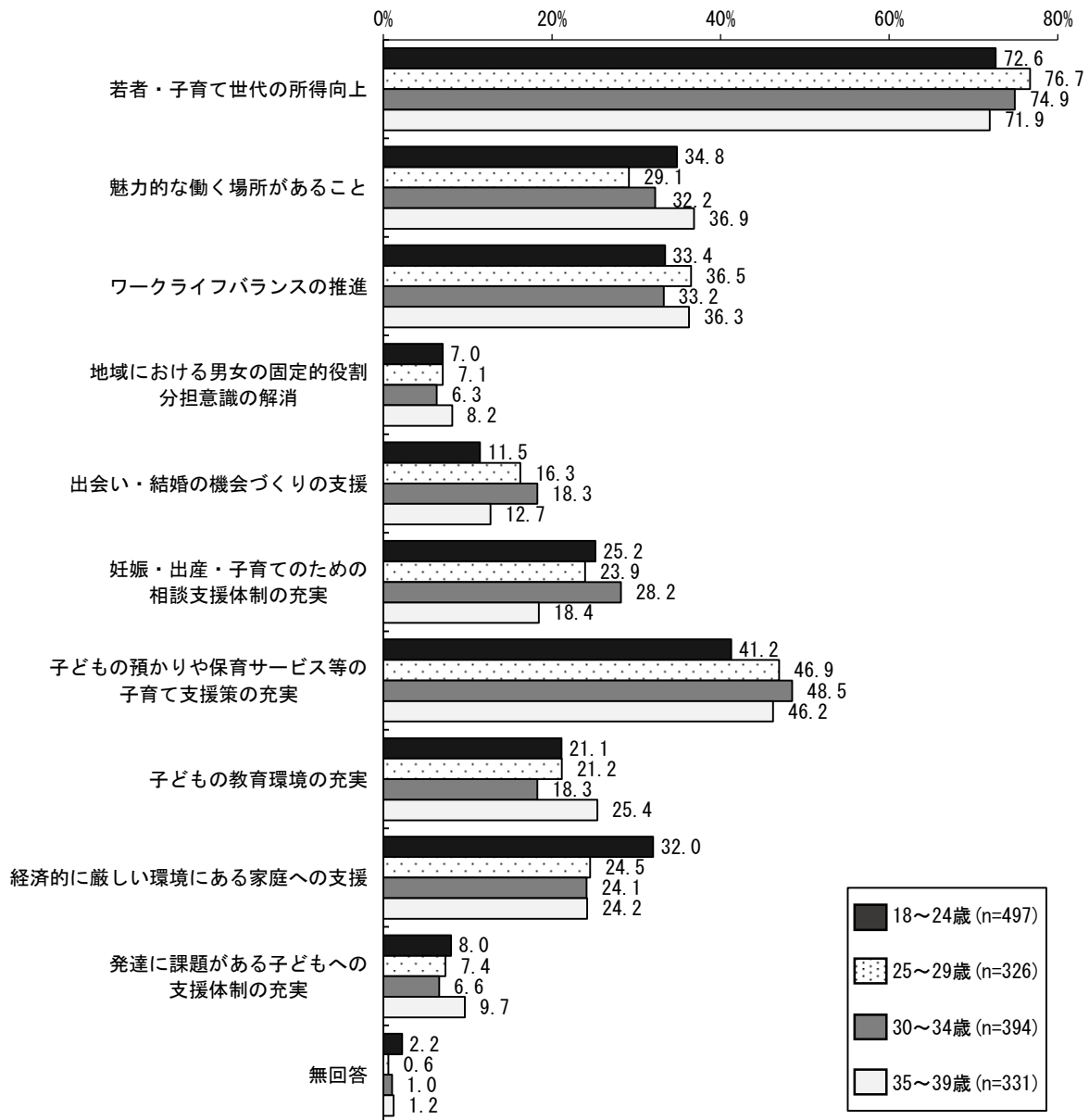
○男女ともに、「若者・子育て世代の所得向上」が最も高くなっている。

○次いで男性は、「魅力的な働く場所があること」(37.6%)、「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」(35.7%)と続き、女性は、「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」(52.9%)、「ワークライフバランスの推進」(38.3%)と続いている。



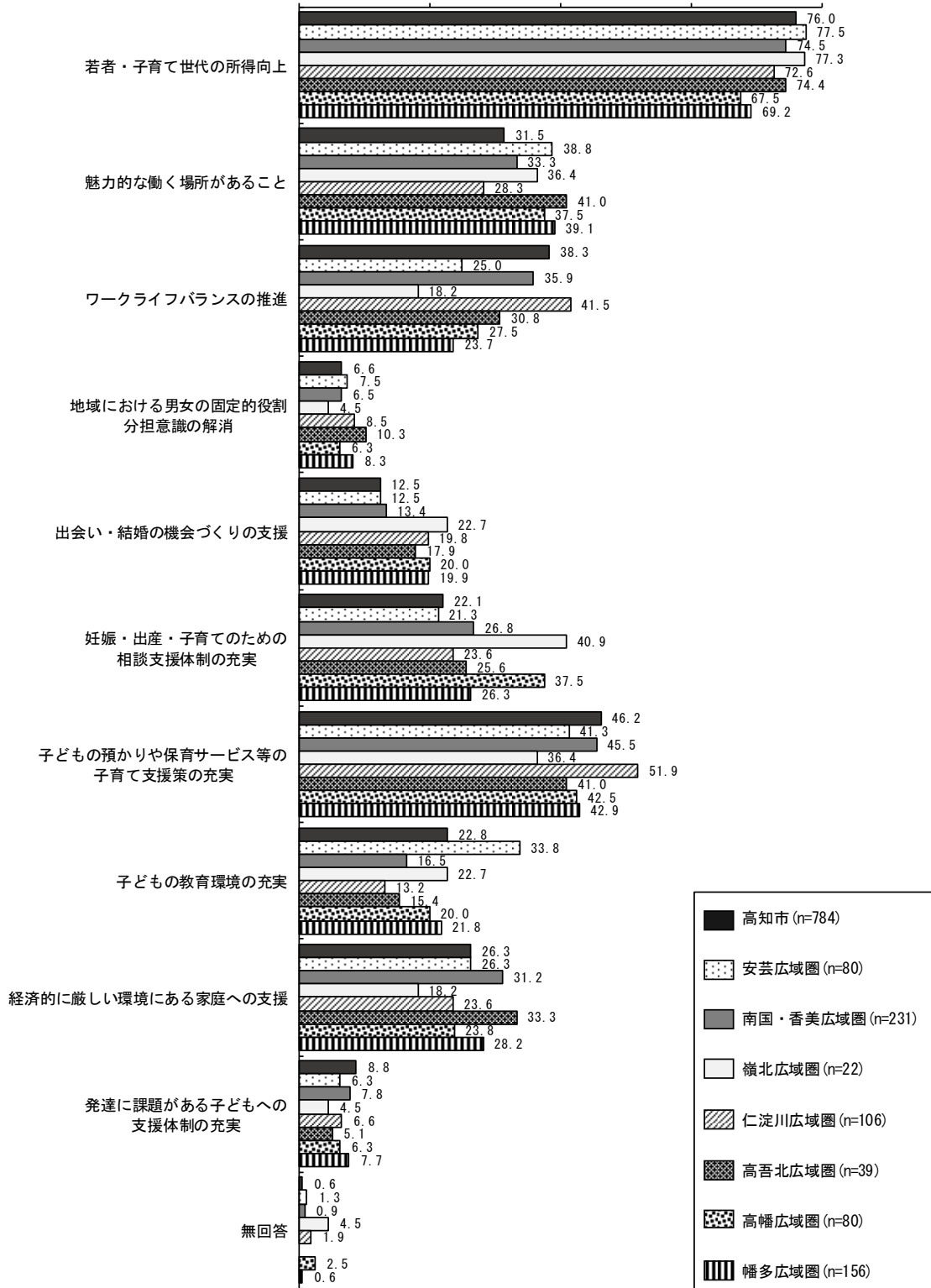
【年代別】

- いずれの年代も、「若者・子育て世代の所得向上」が最も高く、2番目も「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」で同様である。
- 3番目は、18歳～24歳及び35～39歳は「魅力的な働く場所があること」、25歳～29歳及び30歳～34歳は「ワークライフバランスの推進」となっている。



【地域別】

○すべての地域で、「若者・子育て世代の所得向上」が最も高くなっている。2番目は、嶺北広域圏で「妊娠・出産・子育てのための相談支援体制の充実」、高吾北広域圏は「魅力的な働く場所があること」と「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」が同率、そのほかの地域では「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」となっている。

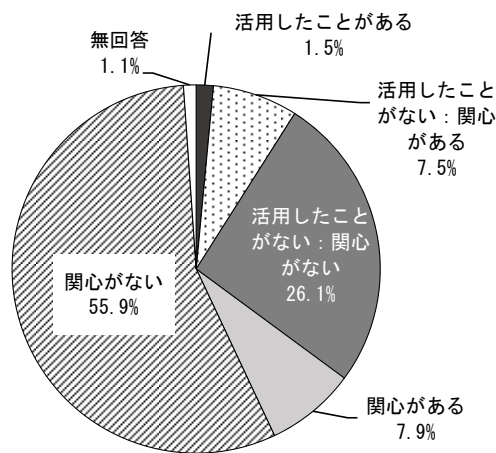


問3 高知県が少子化対策の取り組みとして行っている下記の事業について知っていますか。また、あなたの関心度はいかがですか。各事業について、あなたの考えに近いものをお選びください。（それぞれの項目であてはまるものに1つだけ○印）

① こうち出会いサポートセンター

【全体】

- 本事業の認知度は、“知っている”が35.1%、“知らない”が63.8%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が55.9%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」（26.1%）、「知らない（関心がある）」（7.9%）と続いている。



【性別】

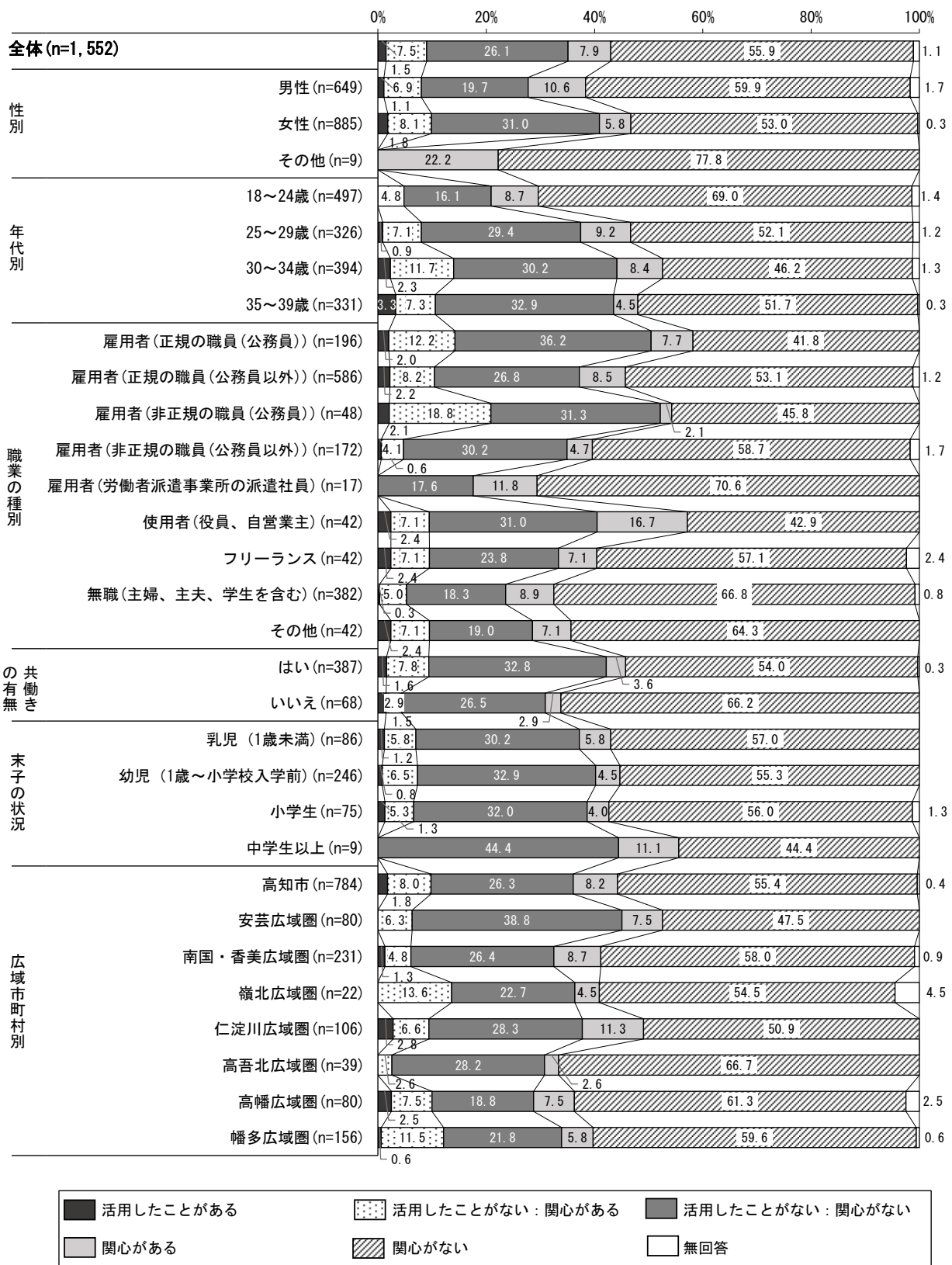
- 男女ともに、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、特に男性は7割以上が“知らない”という結果になっている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」も同様となっている。

【年代別】

- いずれの年代も、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、特に18歳～24歳では77.7%が“知らない”という結果になっている。
- いずれの年代も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

【地域別】

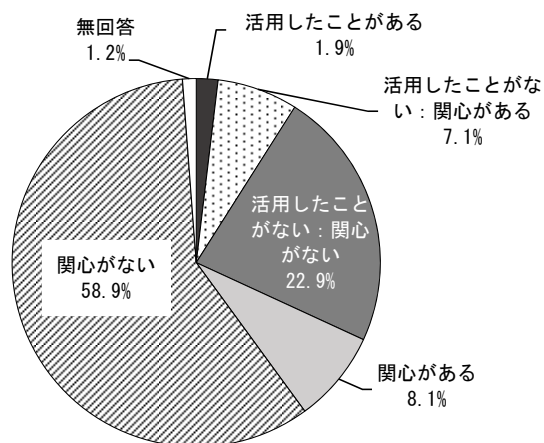
- すべての地域で、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、そのなかでいずれの地域も「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。



② 高知で恋しよ！！マッチング（県が運営する会員制のお引き合わせシステム）

【全体】

- 本事業の認知度は、“知っている”が31.8%、“知らない”が67.0%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が58.9%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」（22.9%）、「知らない（関心がある）」（8.1%）と続いている。



【性別】

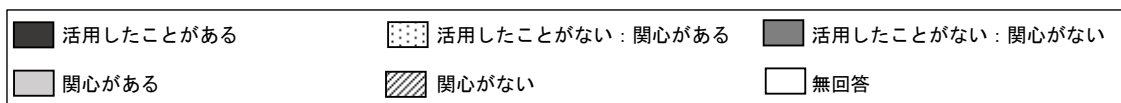
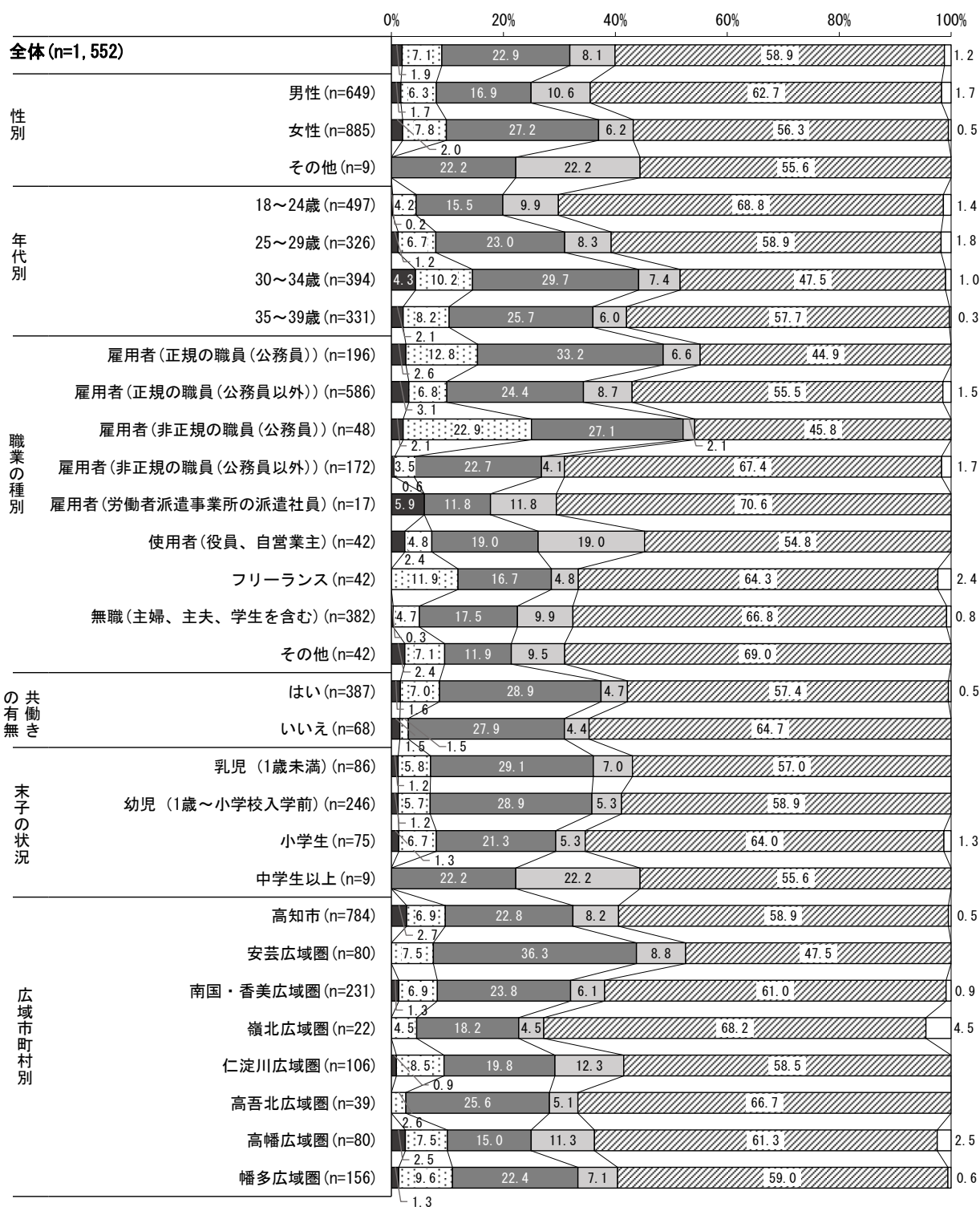
- 男女ともに、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、特に男性は7割以上が“知らない”という結果になっている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」も同様となっている。

【年代別】

- いずれの年代も、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、特に18歳～24歳では78.7%が“知らない”という結果になっている。
- いずれの年代も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

【地域別】

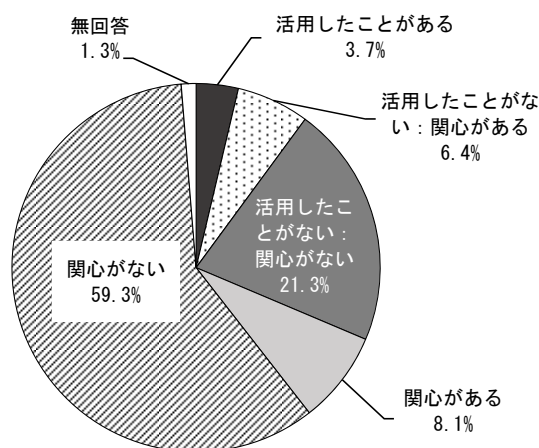
- すべての地域で、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、そのなかでいずれの地域も「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。



③ 高知で恋しよ！！イベント（県が運営する出会いイベント）

【全体】

- 本事業の認知度は、“知っている”が31.3%、“知らない”が67.4%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が59.3%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」（21.3%）、「知らない（関心がある）」（8.1%）と続いている。



【性別】

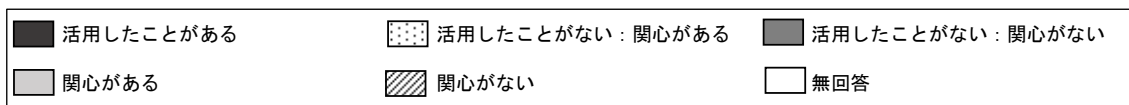
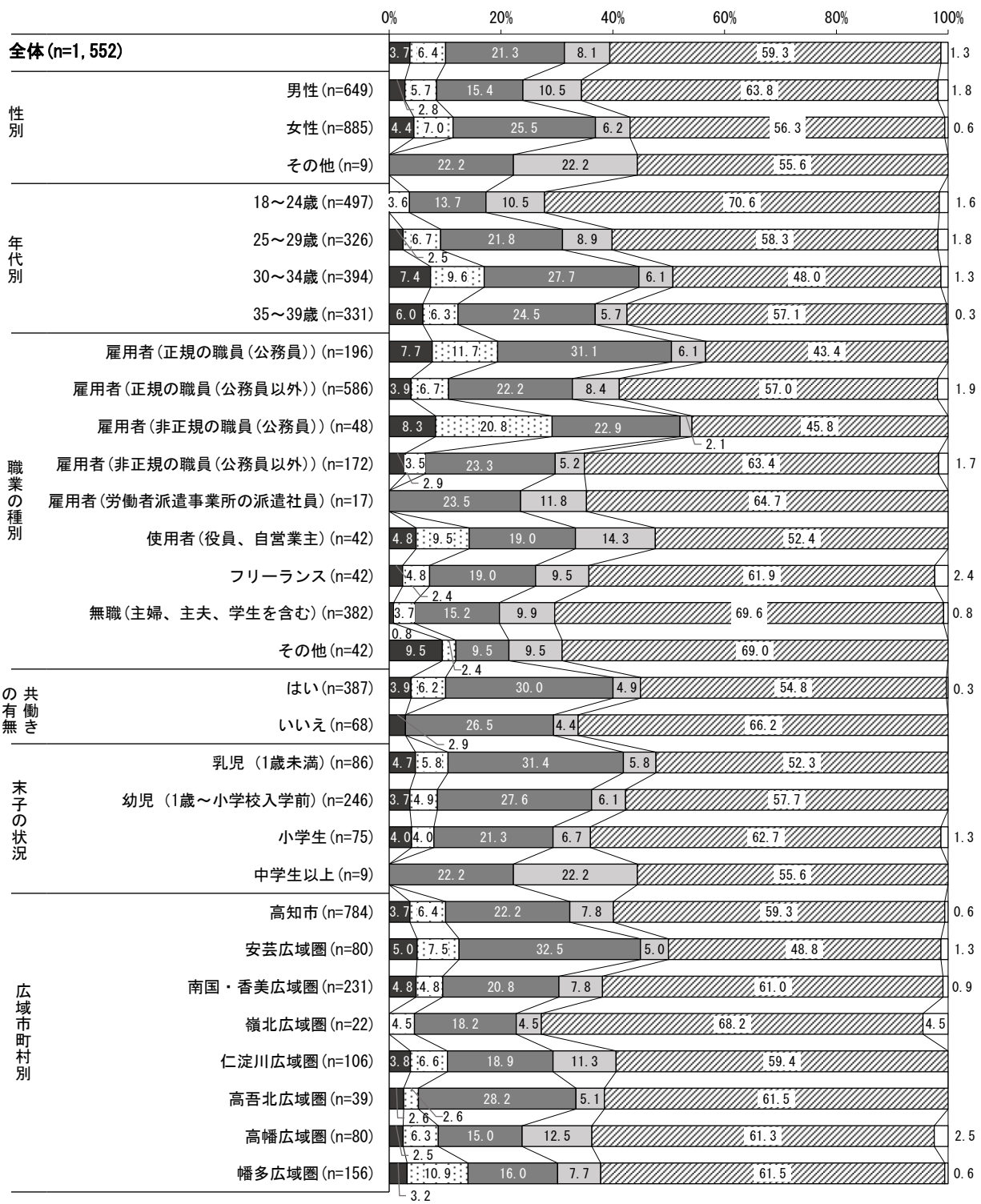
- 男女ともに、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、特に男性は7割以上が“知らない”という結果になっている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」も同様となっている。

【年代別】

- いずれの年代も、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、特に18歳～24歳では8割以上が“知らない”という結果になっている。
- いずれの年代も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

【地域別】

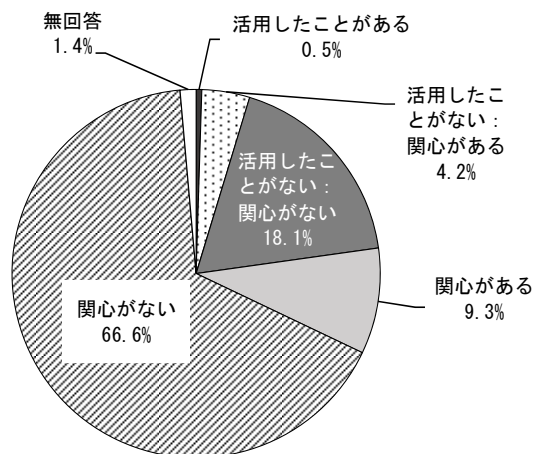
- すべての地域で、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、そのなかでいずれの地域も「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。



④ 婚活サポーター（地域で独身男女のお引き合わせを行うボランティア）

【全体】

- 本事業の認知度は、“知っている”が22.7%、“知らない”が75.9%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が66.6%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」（18.1%）、「知らない（関心がある）」（9.3%）と続いている。



【性別】

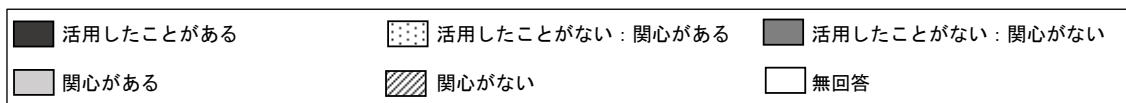
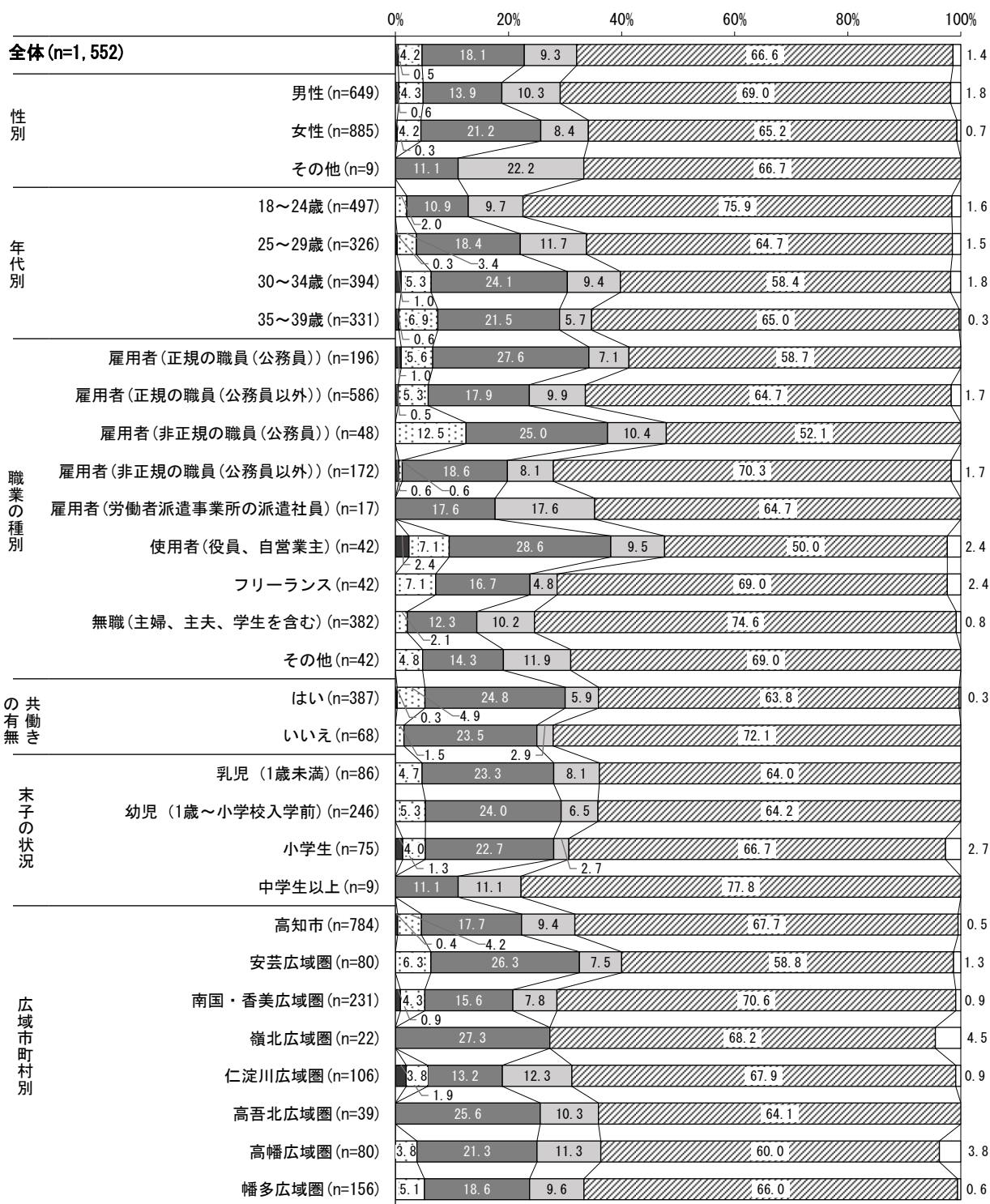
- 男女ともに、“知らない”の割合が“知っている”を上回っている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」も同様となっている。

【年代別】

- いずれの年代も、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、特に18歳～24歳では85.5%が“知らない”という結果になっている。
- いずれの年代も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

【地域別】

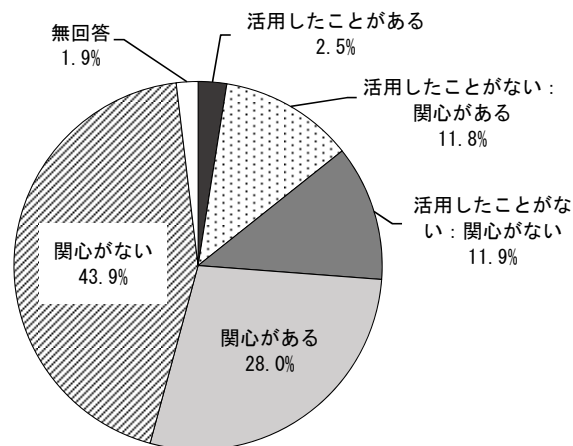
- すべての地域で、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、特に仁淀川広域圏では8割を超えている。
- いずれの地域も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。



⑤ こうち子育て応援の店

【全体】

- 本事業の認知度は、“知っている”が26.2%、“知らない”が71.9%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が43.9%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」（28.0%）、「知っている（活用したことがない：関心がない）」（11.9%）と続いている。



【性別】

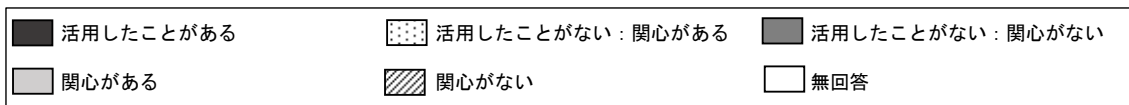
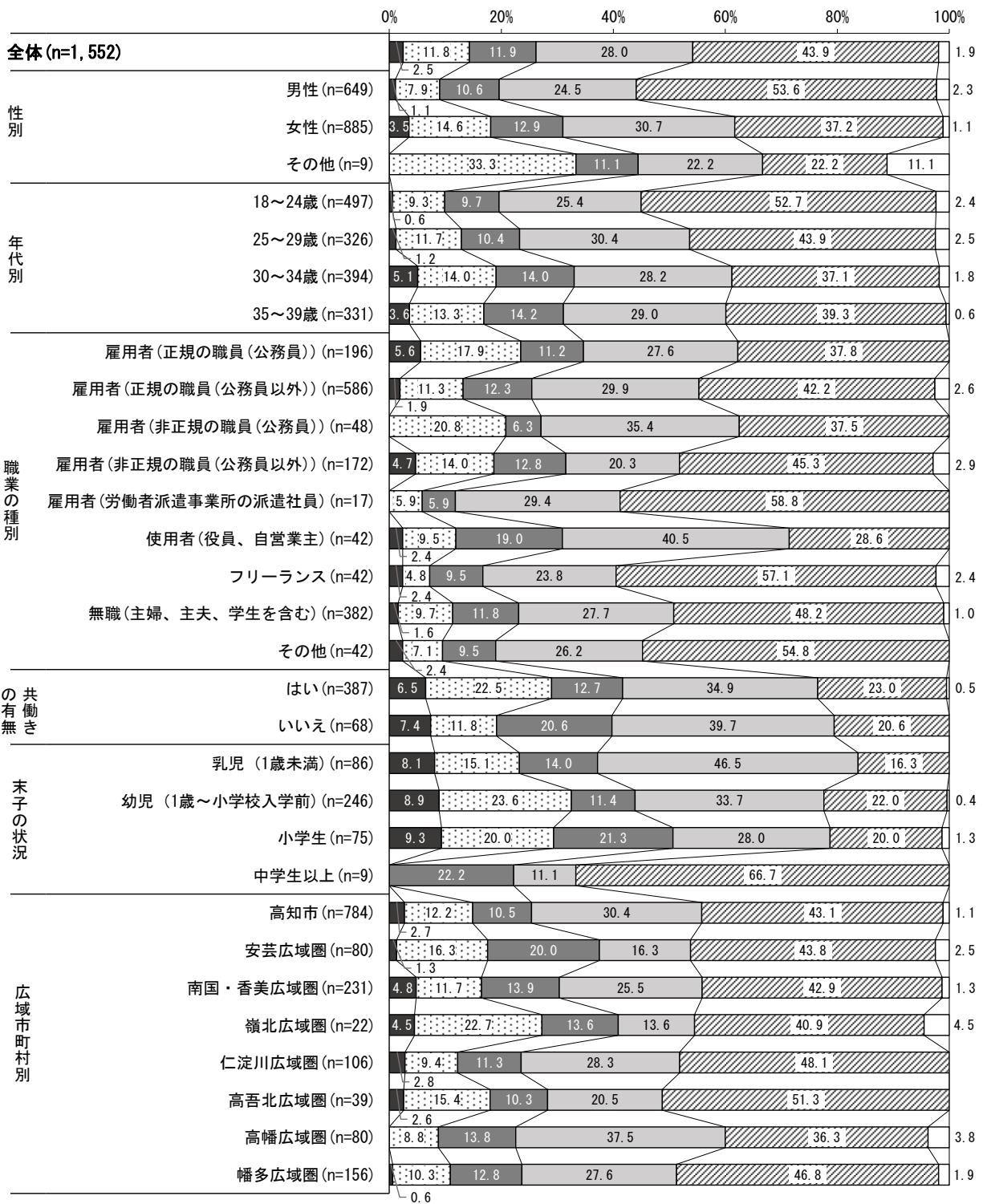
- 男女ともに、“知らない”の割合が“知っている”を上回っている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高く、次いで「知らない（関心がある）」も同様となっている。

【年代別】

- いずれの年代も、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、そのなかで「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

【地域別】

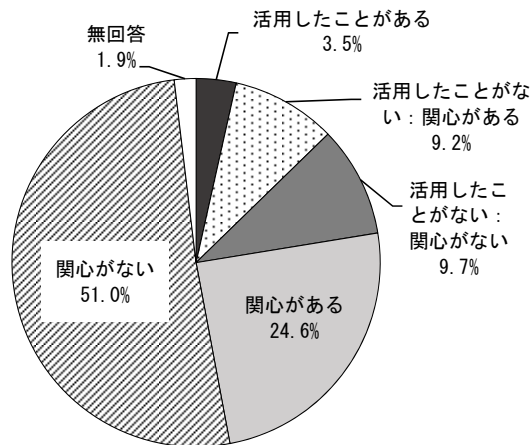
- すべての地域で、“知らない”の割合が“知っている”を上回っている。
- 高幡広域圏において、「知らない（関心がある）」が最も高くなっているが、そのほかの地域では、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。



⑥ 高知の子育て応援サイト「こうちプレマ net」

【全体】

- 本事業の認知度は、“知っている”が22.4%、“知らない”が75.6%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が51.0%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」（24.6%）、「知っている（活用したことがない：関心がない）」（9.7%）と続いている。



【性別】

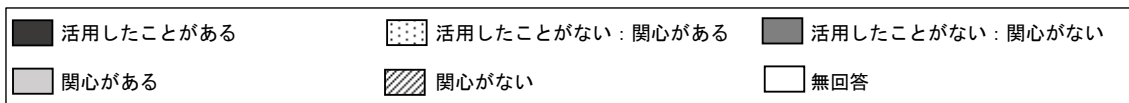
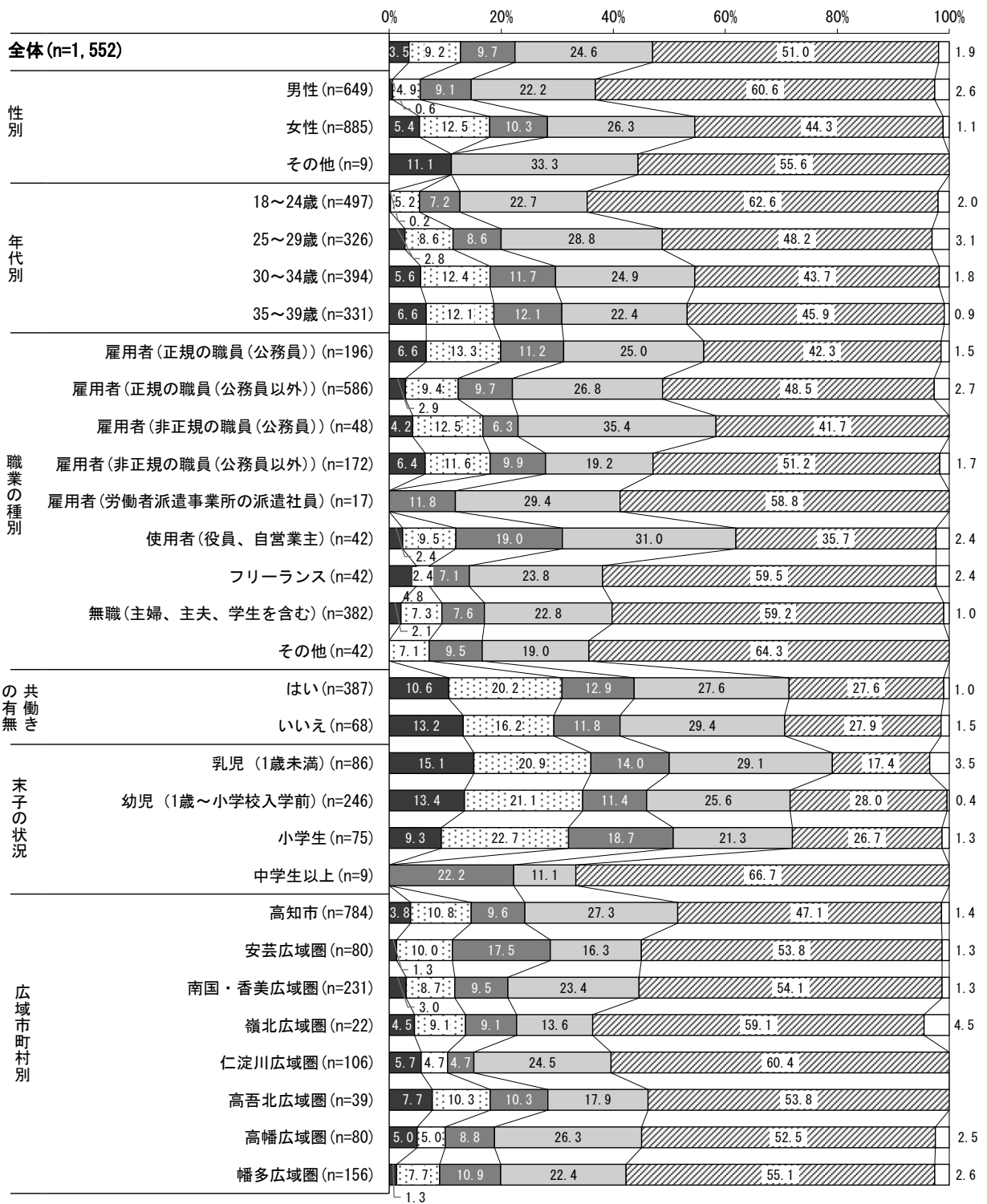
- 男女ともに、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、特に男性は8割以上が“知らない”という結果になっている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高く、次いで「知らない（関心がある）」も同様となっている。

【年代別】

- いずれの年代も、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、特に18歳～24歳では85.3%が“知らない”という結果になっている。
- いずれの年代も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

【地域別】

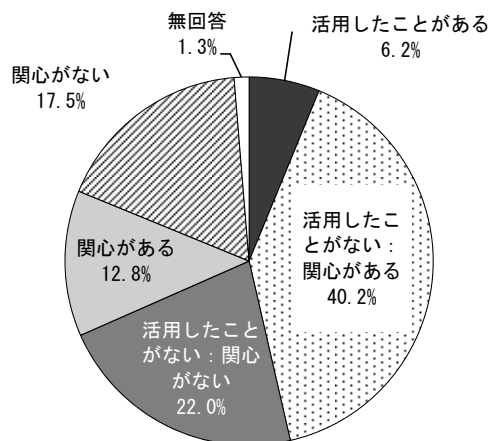
- すべての地域で、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、特に仁淀川広域圏では8割を超えている。
- すべての地域で、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。



⑦ 子ども食堂

【全体】

- 本事業の認知度は、“知っている”が68.4%、“知らない”が30.3%となっている。
- 「知っている（活用したことがない：関心がある）」が40.2%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」（22.0%）、「知らない（関心がない）」（17.5%）と続いている。



【性別】

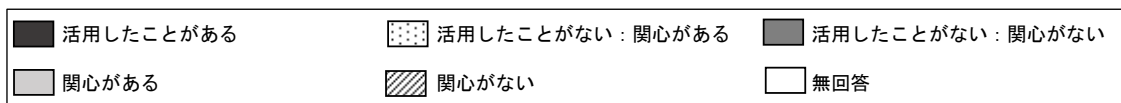
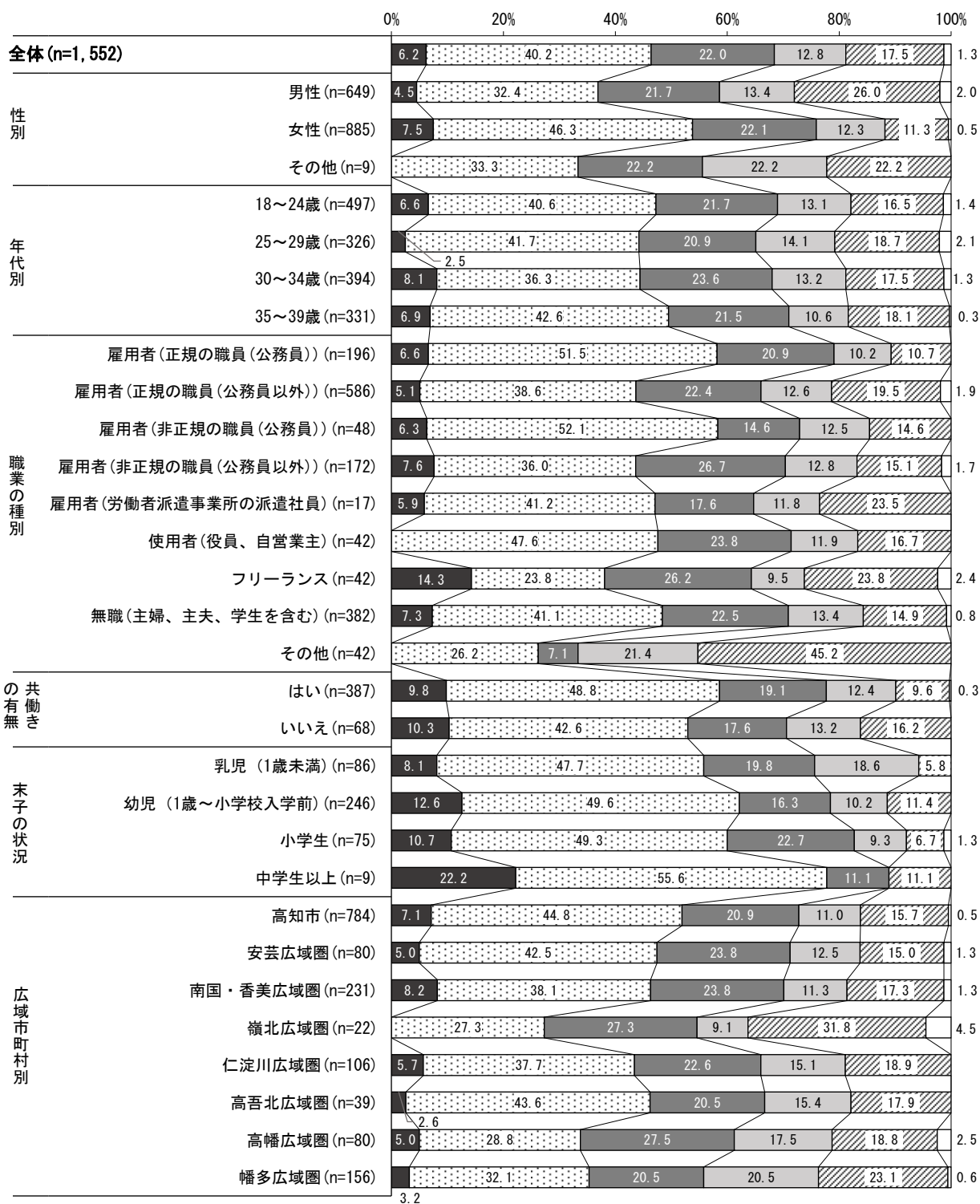
- 男女ともに、“知っている”の割合が“知らない”を上回っており、特に女性は7割以上が“知っている”という結果になっている。
- 男女ともに、「知っている（活用したことがない：関心がある）」が最も高くなっている。
- 次いで男性は、「知らない（関心がない）」、女性は、「知っている（活用したことがない：関心がない）」となっている。

【年代別】

- いずれの年代も、“知っている”の割合が“知らない”を上回っており、特に35歳～39歳では7割以上が“知っている”という結果になっている。
- いずれの年代も、「知っている（活用したことがない：関心がある）」が最も高くなっている。

【地域別】

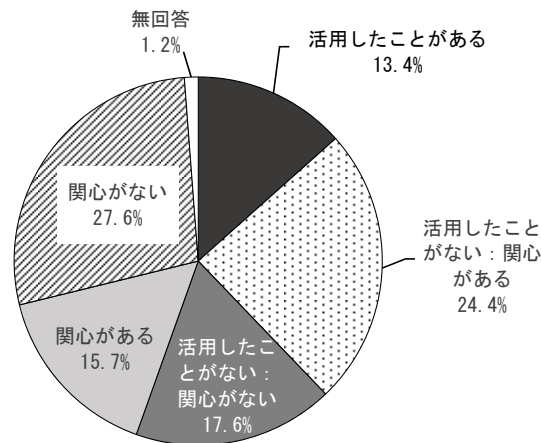
- すべての地域で、“知っている”の割合が“知らない”を上回っている。
- 嶺北地域においては、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。
- そのほかの地域では、「知っている（活用したことがない：関心がある）」が最も高くなっている。



⑧ 地域子育て支援センター

【全体】

- 本事業の認知度は、“知っている”が55.4%、“知らない”が43.4%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が27.6%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がある）」（24.4%）、「知っている（活用したことがない：関心がない）」（17.6%）と続いている。



【性別】

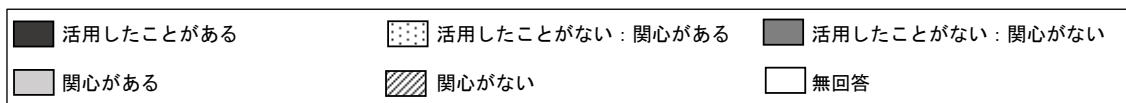
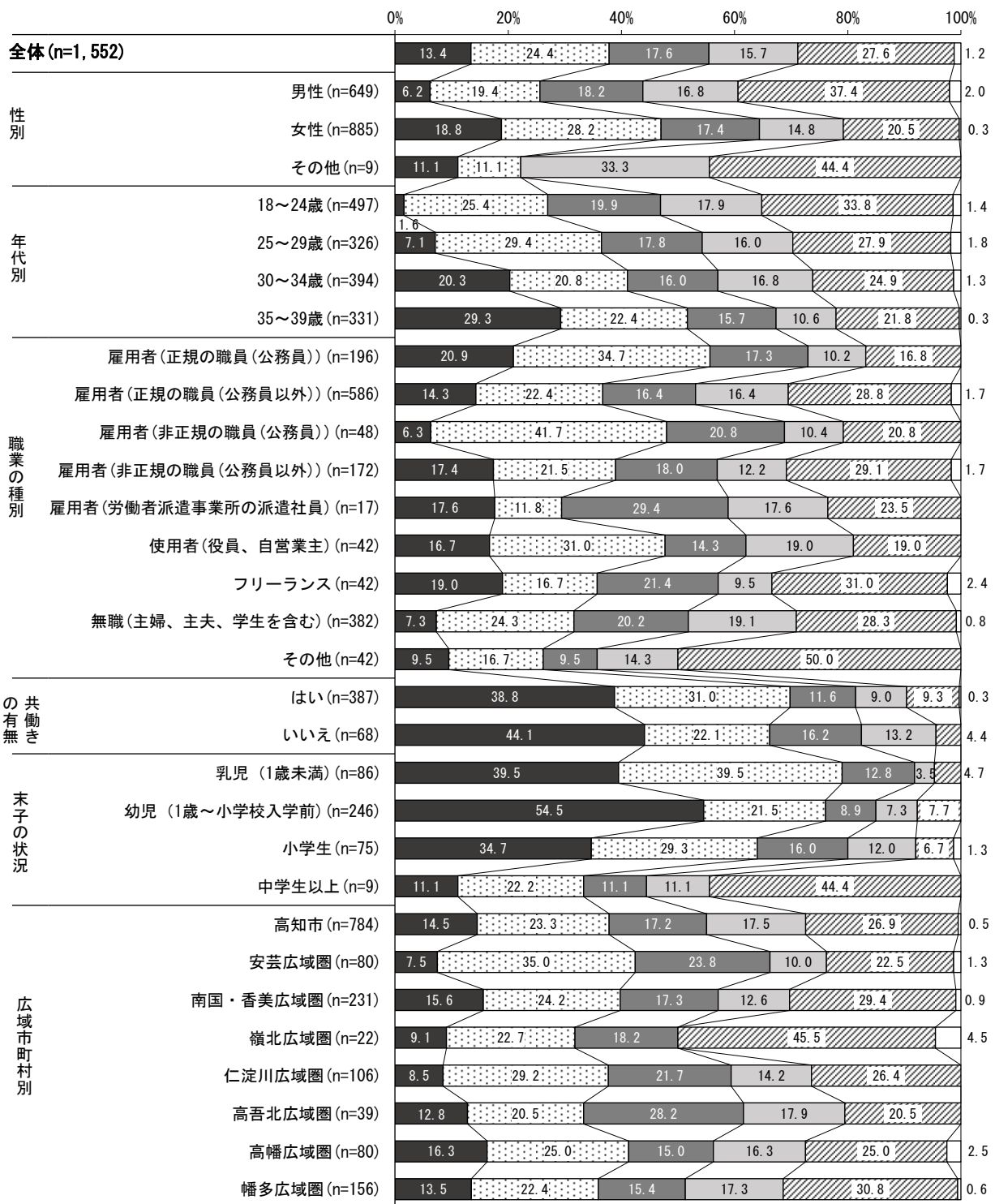
- 男性は、“知らない”が“知っている”を上回り、女性は、“知っている”が上回っている。
- 男性は、「知らない（関心がない）」が最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がある）」となっている。
- 女性は、「知っている（活用したことがない：関心がある）」が最も高く、次いで「知らない（関心がない）」となっている。

【年代別】

- 18歳～24歳のみ、“知らない”が“知っている”を上回っているが、そのほかの年代は“知っている”が上回っている。
- 18歳～24歳及び30～34歳は、「知らない（関心がない）」が最も高い一方、35歳～39歳は、「知っている（活用したことがある）」が最も高くなっている。
- 25歳～29歳は、「知っている（活用したことがない：関心がある）」が最も高い。

【地域別】

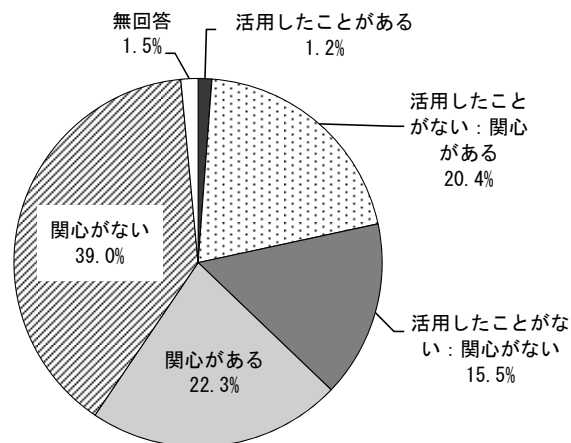
- すべての地域で、“知っている”の割合が“知らない”を上回っている。
- 安芸広域圏及び仁淀川広域圏においては、「知っている（活用したことがない：関心がある）」が最も高くなっており、高吾北広域圏では、「知っている（活用したことがない：関心がない）」が最も高い。
- 高幡広域圏では、「知っている（活用したことがない：関心がある）」と「知らない（関心がない）」が同率で最も高くなっている。
- そのほかの地域では、「知らない（関心がない）」が最も高い。



⑨ ファミリー・サポート・センター

【全体】

- 本事業の認知度は、“知っている”が37.1%、“知らない”が61.3%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が39.0%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」（22.3%）、「知っている（活用したことがない：関心がある）」（20.4%）と続いている。



【性別】

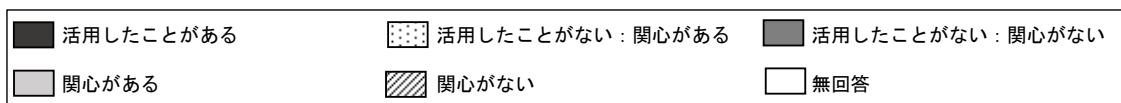
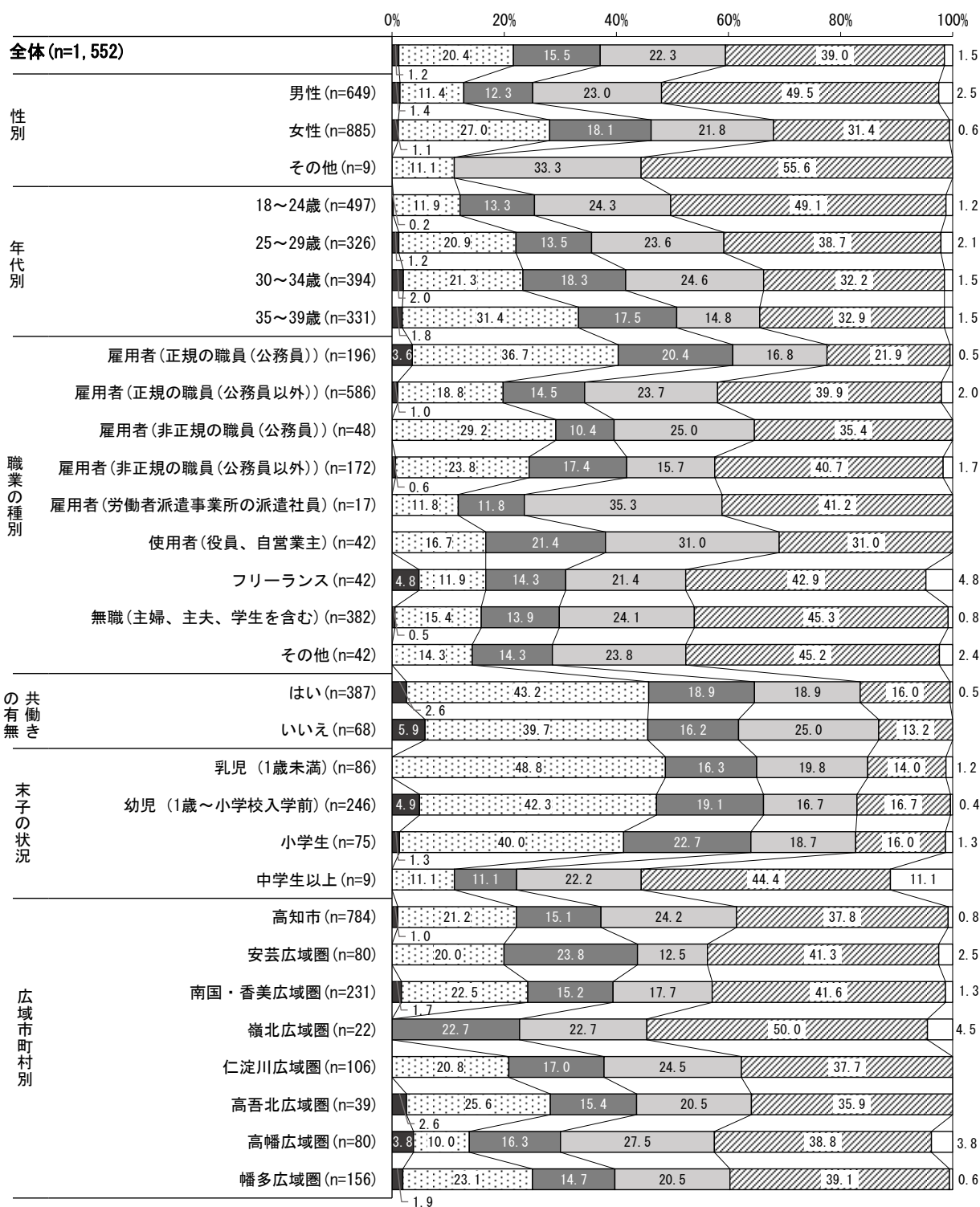
- 男女ともに、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、特に男性は7割以上が“知らない”という結果になっている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。
- 次いで男性は、「知らない（関心がある）」、女性は、「知っている（活用したことがない：関心がある）」となっている。

【年代別】

- 35歳～39歳のみ、“知っている”が“知らない”を上回っているが、そのほかの年代は“知らない”が上回っている。
- いずれの年代も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

【地域別】

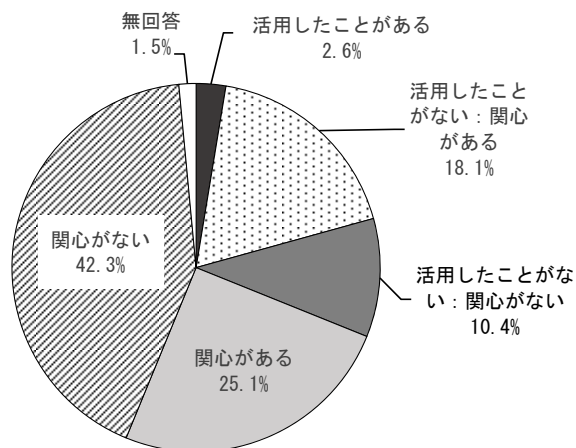
- すべての地域で、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、そのなかでいずれの地域も「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。



⑩ 産後ケア事業

【全体】

- 本事業の認知度は、“知っている”が31.1%、“知らない”が67.4%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が42.3%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」（25.1%）、「知っている（活用したことがない：関心がある）」（18.1%）と続いている。



【性別】

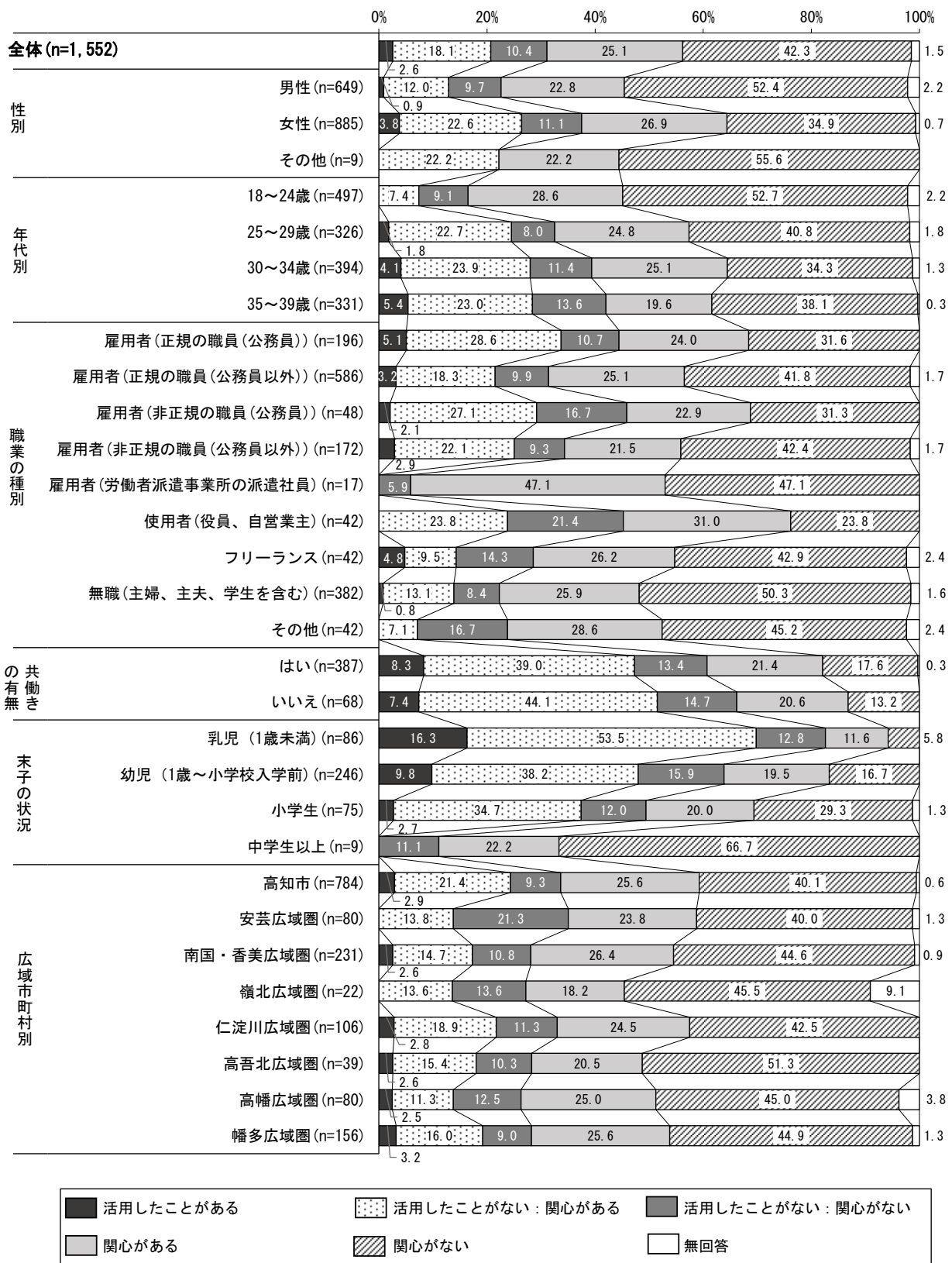
- 男女ともに、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、特に男性は75.2%が“知らない”という結果になっている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高く、次いで「知らない（関心がある）」も同様となっている。

【年代別】

- いずれの年代も、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、特に18歳～24歳では8割以上が“知らない”という結果になっている。
- いずれの年代も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

【地域別】

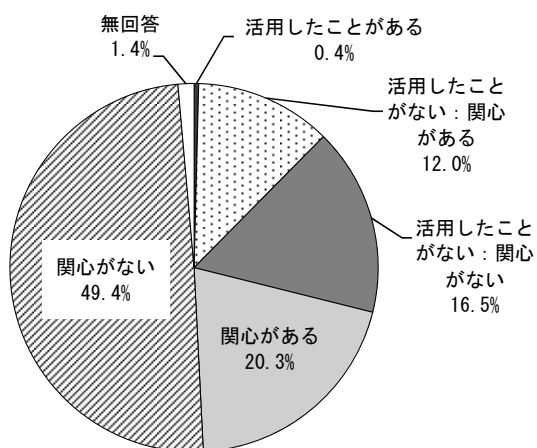
- すべての地域で、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、そのなかでいずれの地域も「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。



⑪ 高知家の出会い・結婚・子育て応援団

【全体】

- 本事業の認知度は、“知っている”が28.9%、“知らない”が69.7%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が49.4%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」（20.3%）、「知っている（活用したことがない：関心がない）」（16.5%）と続いている。



【性別】

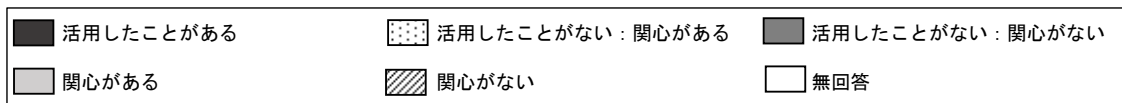
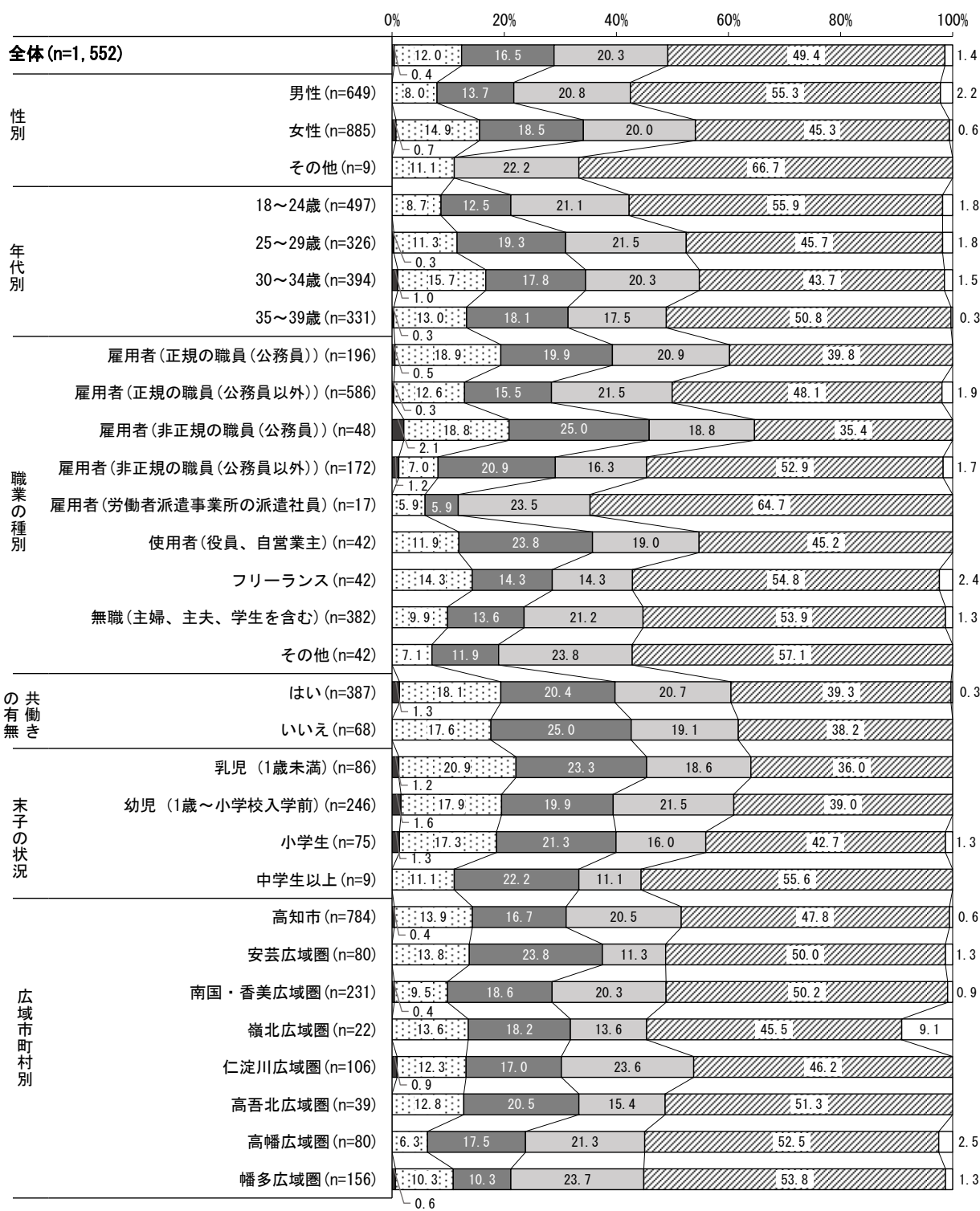
- 男女ともに、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、特に男性は76.1%が“知らない”という結果になっている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高く、次いで「知らない（関心がある）」も同様となっている。

【年代別】

- いずれの年代も、“知らない”の割合が“知っている”を上回っている。
- いずれの年代も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

【地域別】

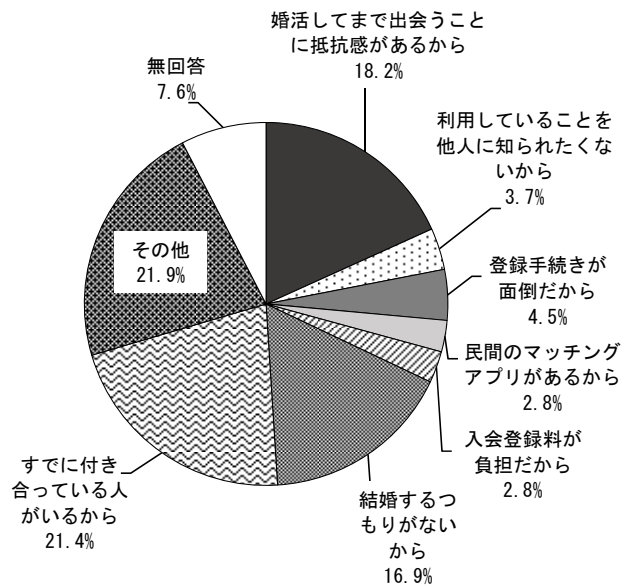
- すべての地域で、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、そのなかでいずれの地域も「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。



問4 問3で「2. 高知で恋しよ！！マッチング（県が運営する会員制のお引合せシステム）」について、「知っている（活用したことがない：関心がない）」または「知らない（関心がない）」と回答した方のみお答えください。関心がないとしたのは、どのような理由からですか。あなたの考えに近いものをお選びください。（1つだけ○印）

【全体】

○「その他」が21.9%と最も高く、次いで「すでに付き合っている人がいるから」（21.4%）、「婚活してまで出会うことに抵抗感があるから」（18.2%）、「結婚するつもりがないから」（16.9%）と続いている。



【性別】

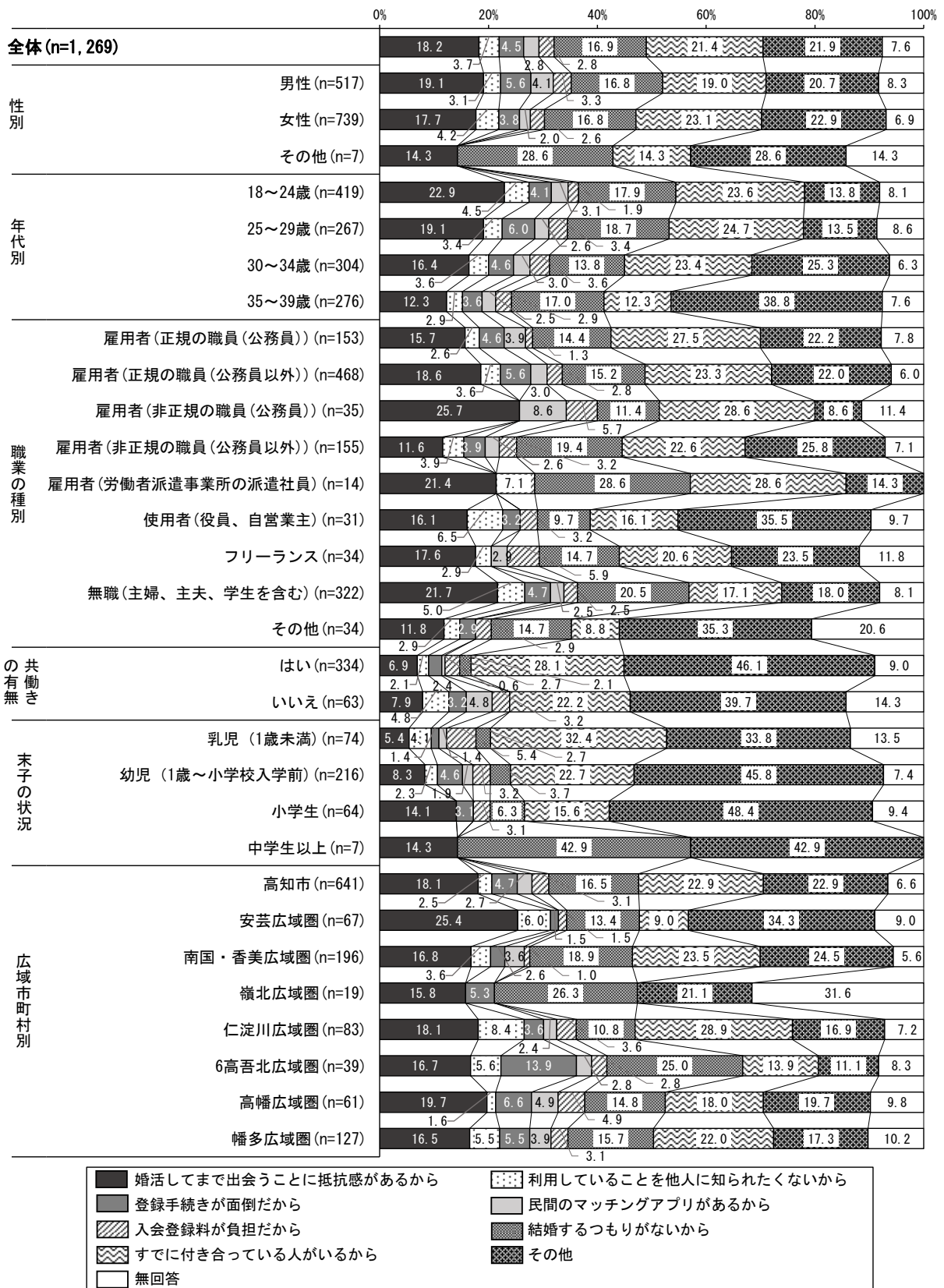
○男性は、「その他」が最も高く、次いで「婚活してまで出会うことに抵抗感があるから」、「すでに付き合っている人がいるから」と続いている。
 ○女性は、「すでに付き合っている人がいるから」が最も高く、次いで「その他」、「婚活してまで出会うことに抵抗感があるから」と続いている。

【年代別】

○18歳～24歳及び25歳～29歳は、「すでに付き合っている人がいるから」が最も高く、次いで「婚活してまで出会うことに抵抗感があるから」となっている。
 ○30歳～34歳及び35歳～39歳は、「その他」が最も高く、次いで30歳～34歳は、「すでに付き合っている人がいるから」、35歳～39歳は、「結婚するつもりがないから」と続いている。

【地域別】

○嶺北広域圏及び高吾北広域圏は、「結婚するつもりがないから」が最も高くなっており、高知市、仁淀川広域圏及び幡多広域圏は、「すでに付き合っている人がいるから」が最も高い（高知市は「その他」も同率）。
 ○高幡広域圏は、「婚活してまで出会うことに抵抗感があるから」及び「その他」が最も高くなってきている。
 ○その他の地域は、「その他」が高くなってきている。



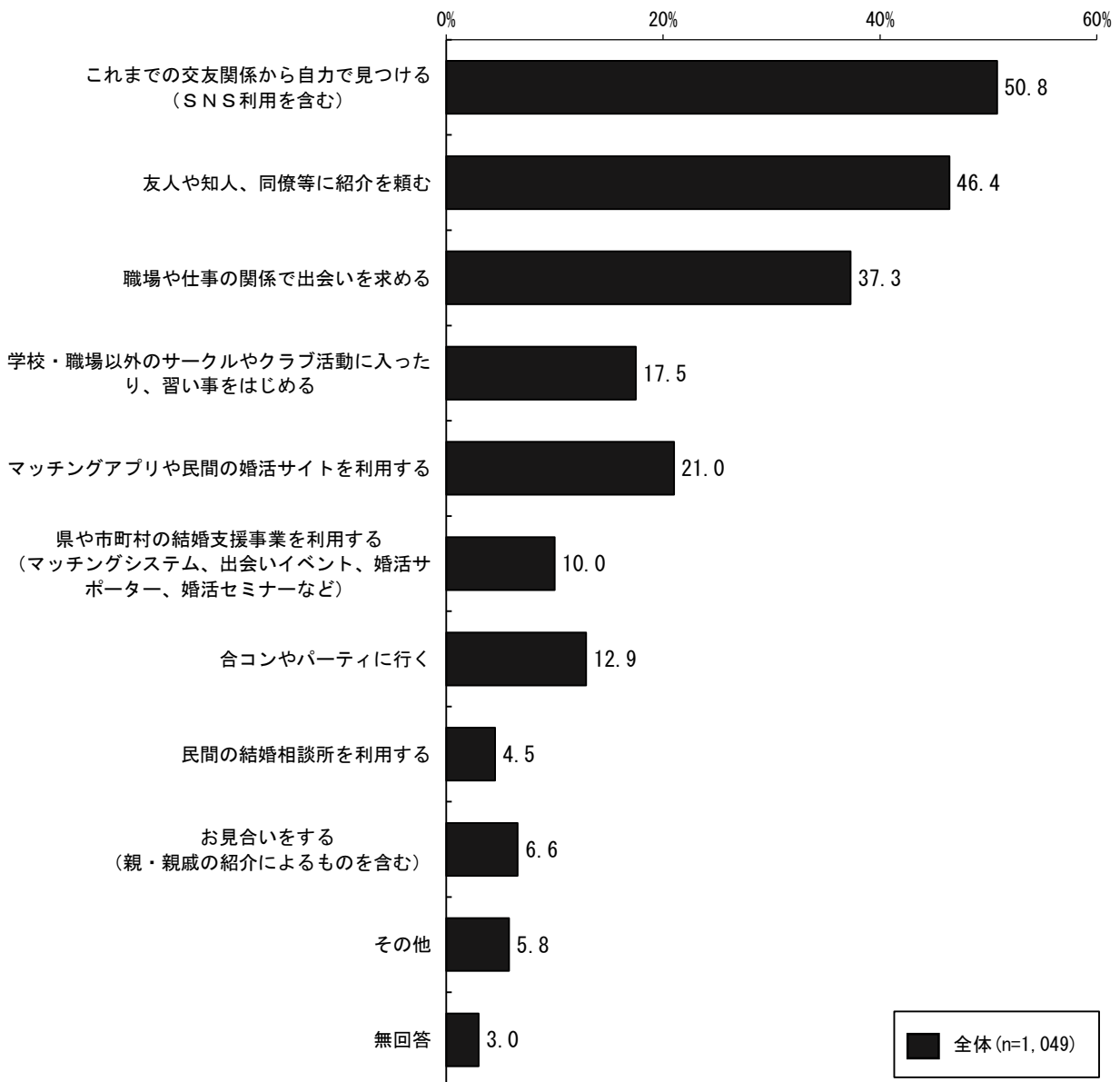
3 出会い・結婚について

問5 現在未婚の方にお伺いします。

結婚に向けた出会いを求める場合は、どのような行動をとりますか。あなたの考えに近いものをすべてお選びください。(あてはまるもの全てに○印)

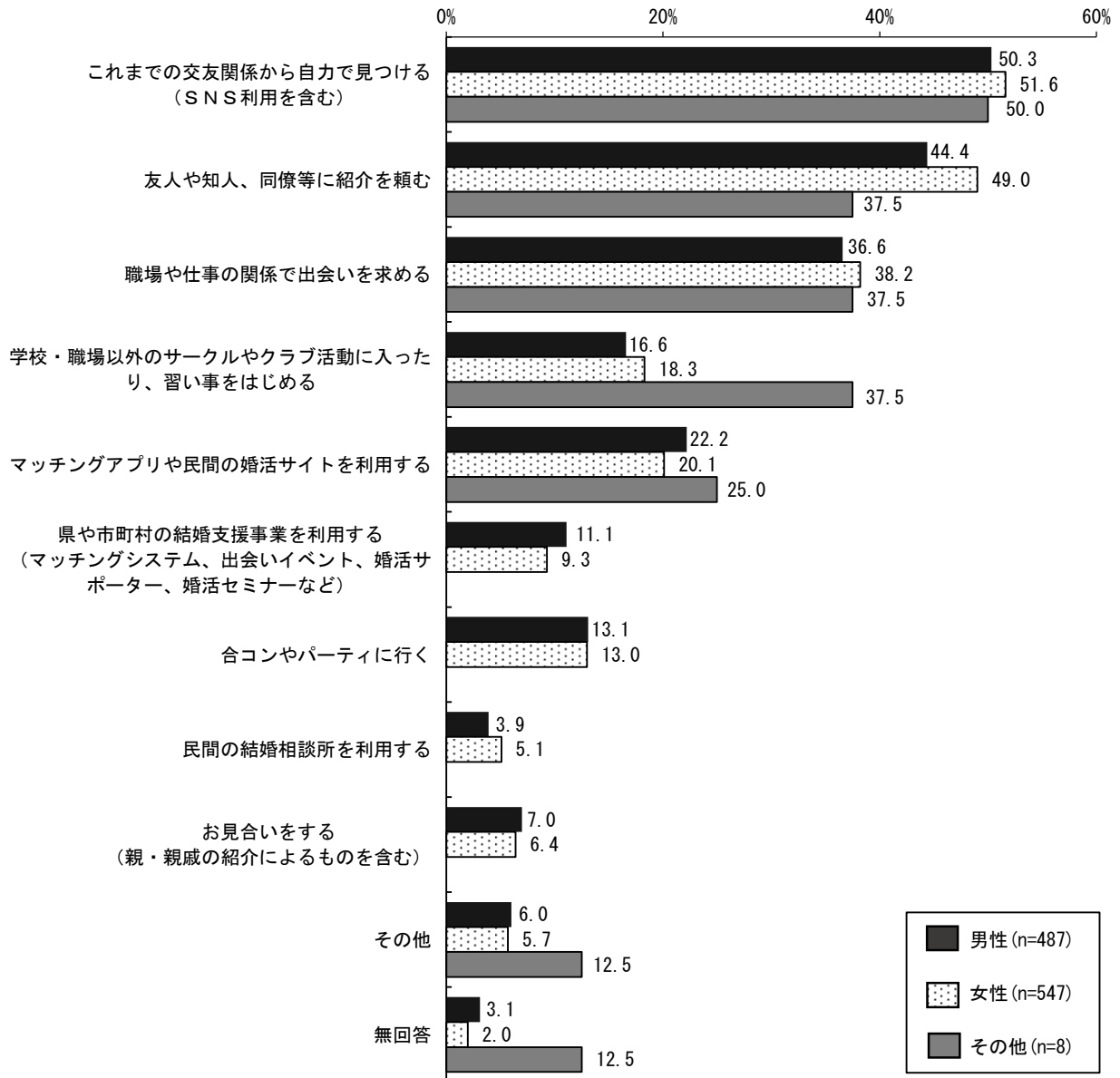
【全体】

○「これまでの交友関係から自力で見つける(SNS利用を含む)」が50.8%と最も高く、次いで「友人や知人、同僚等に紹介を頼む」(46.4%)、「職場や仕事の関係で出会いを求める」(37.3%)と続いている。



【性別】

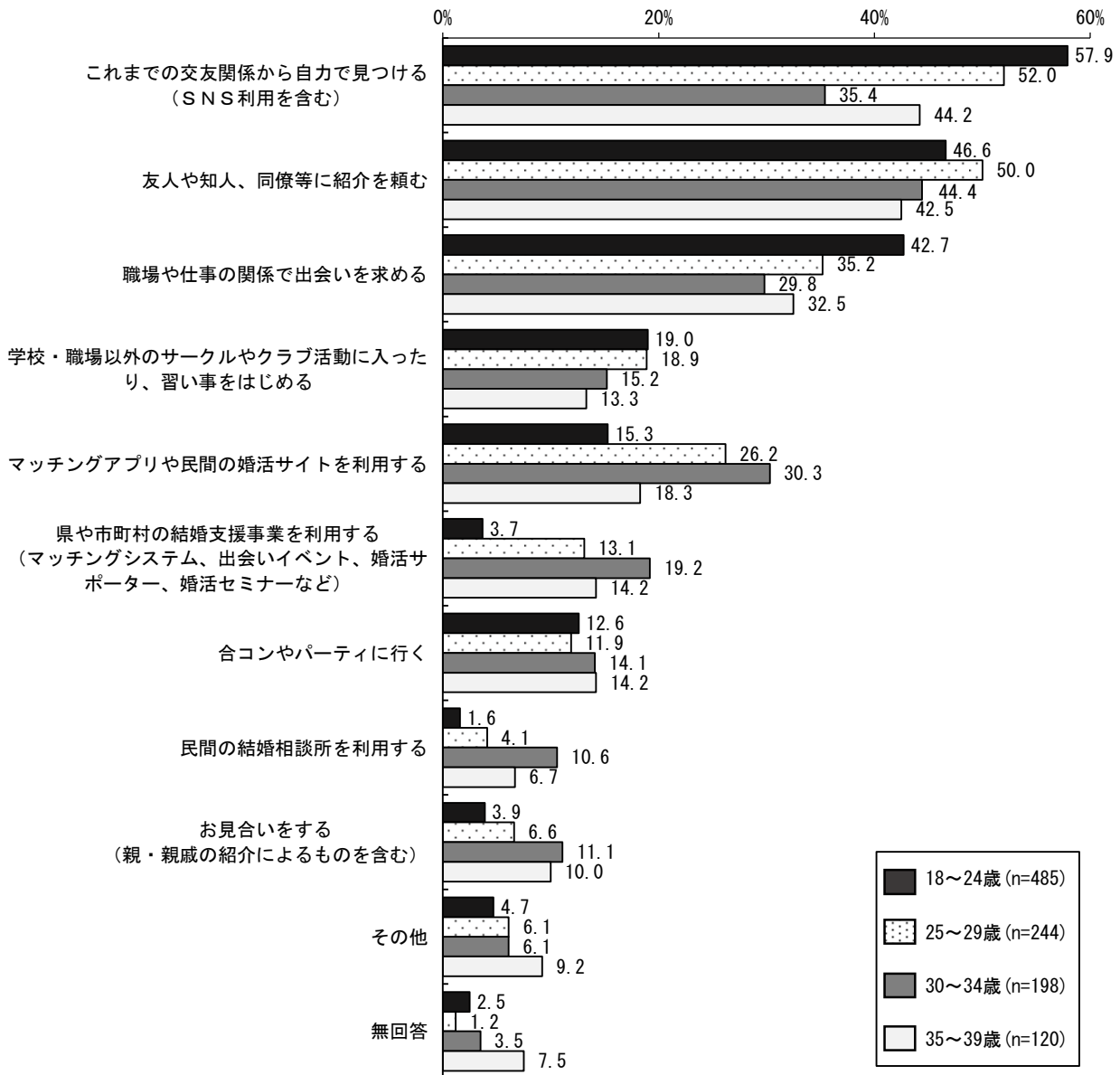
○男女ともに、「これまでの交友関係から自力で見つける（SNS利用を含む）」が最も高くなっている。次いで「友人や知人、同僚等に紹介を頼む」も同様となっている。



【年代別】

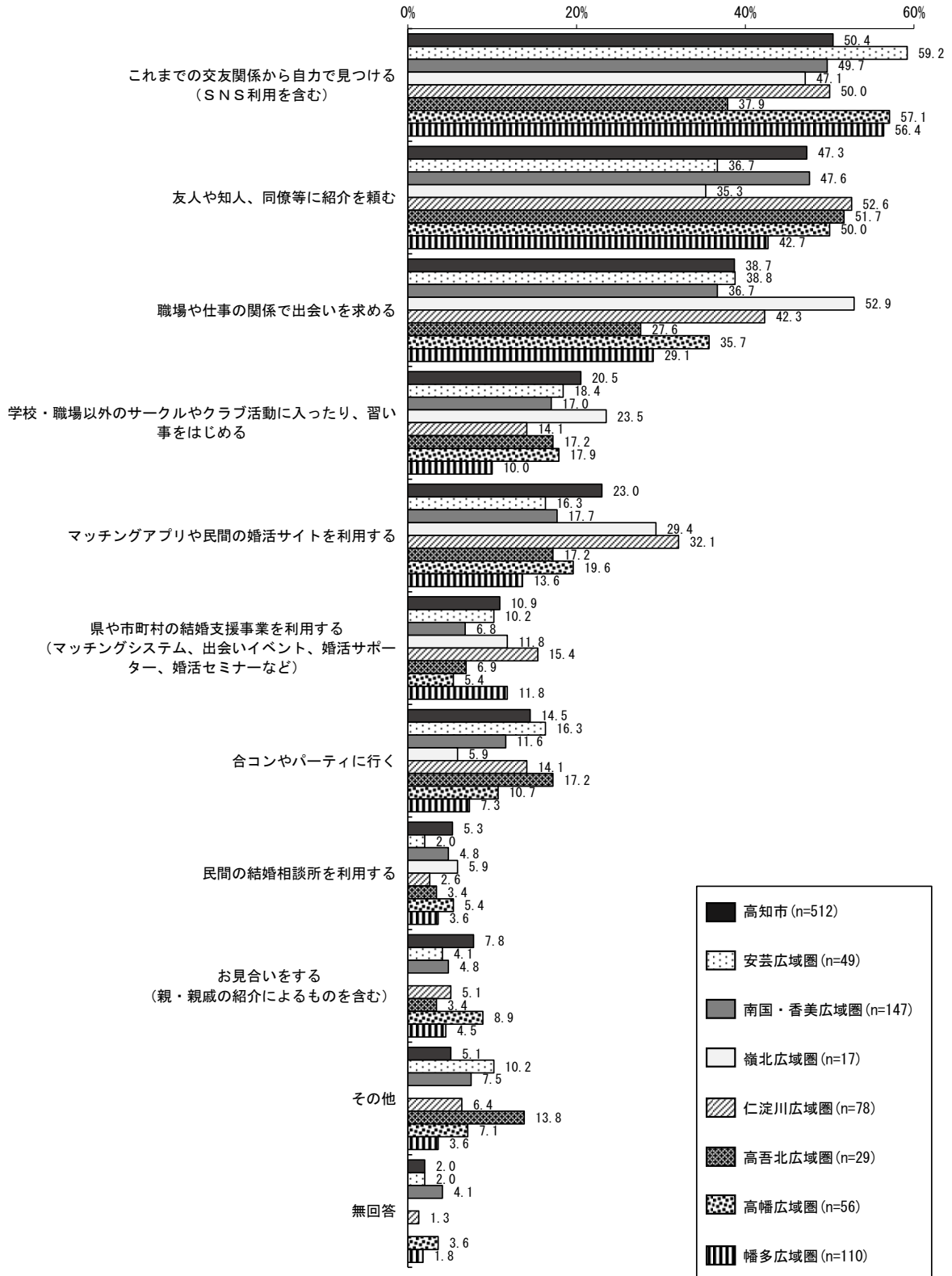
○18歳～24歳、25歳～29歳及び35～39歳は、「これまでの交友関係から自力で見つける（SNS利用を含む）」が最も高くなっている。

○30～34歳は、「友人や知人、同僚等に紹介を頼む」が最も高い。



【地域別】

○ほとんどの地域において、「これまでの交友関係から自力で見つける（SNS利用を含む）」が最も高くなっているが、嶺北広域圏では「職場や仕事の関係で出会いを求める」、仁淀川広域圏及び高吾北広域圏は、「友人や知人、同僚等に紹介を頼む」が最も高くなっている。

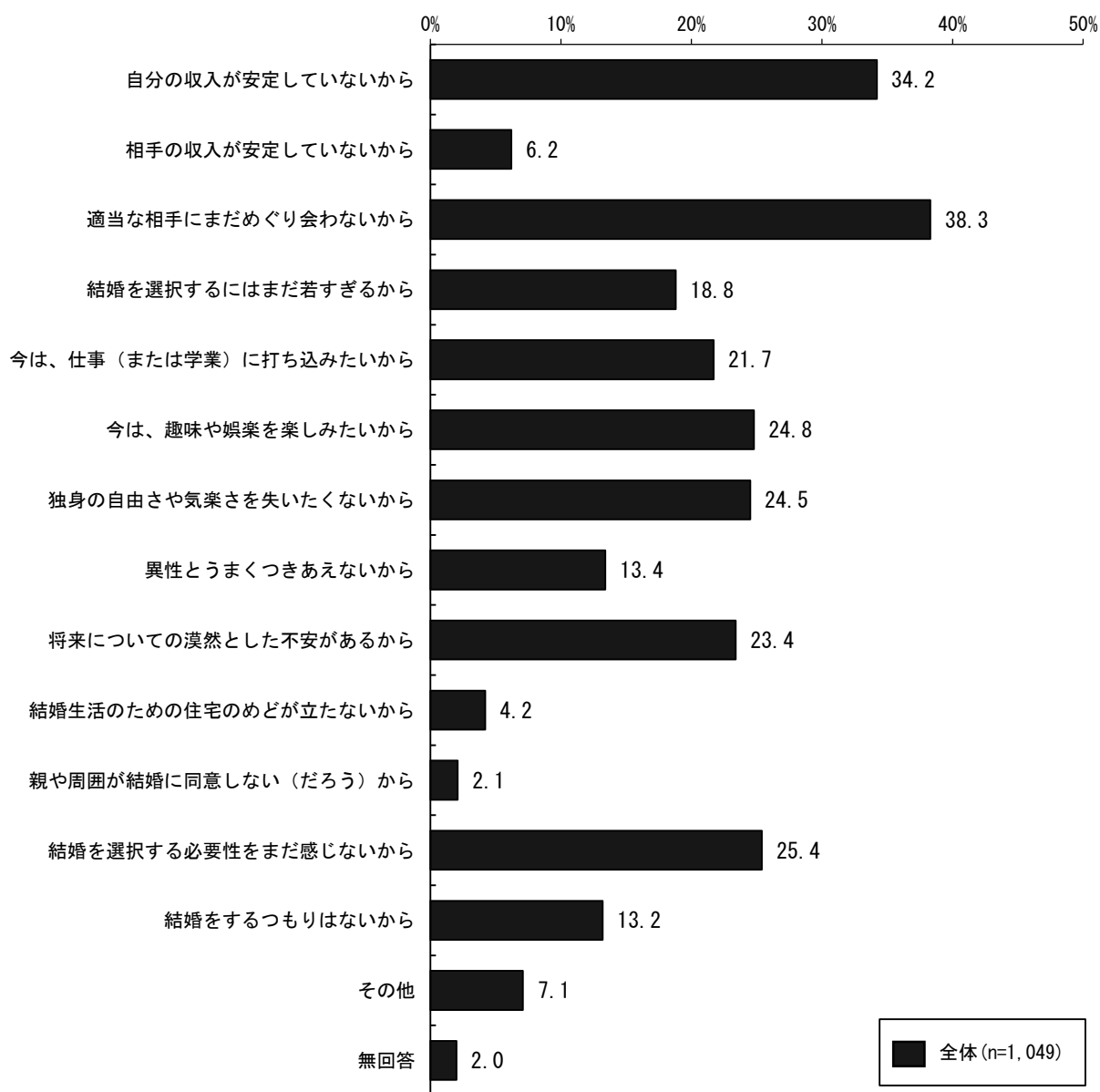


問6 現在未婚の方にお伺いします。

結婚していない理由としてあなたの考えに近いものを、3つお選びください。(○印は3つまで)

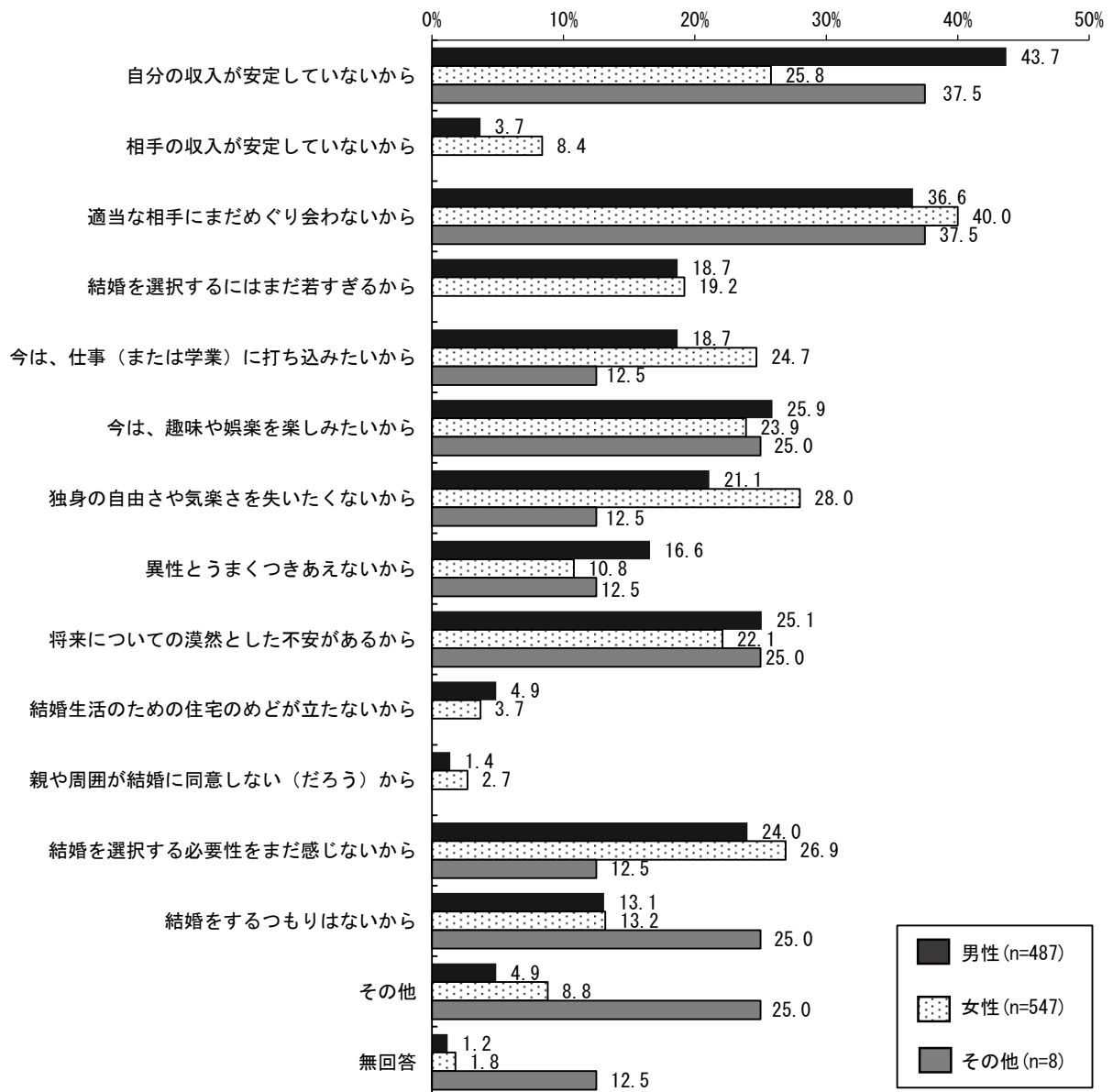
【全体】

○「適当な相手にまだめぐり会わないから」が38.3%と最も高く、次いで「自分の収入が安定していないから」(34.2%)、「結婚を選択する必要性をまだ感じないから」(25.4%)と続いている。



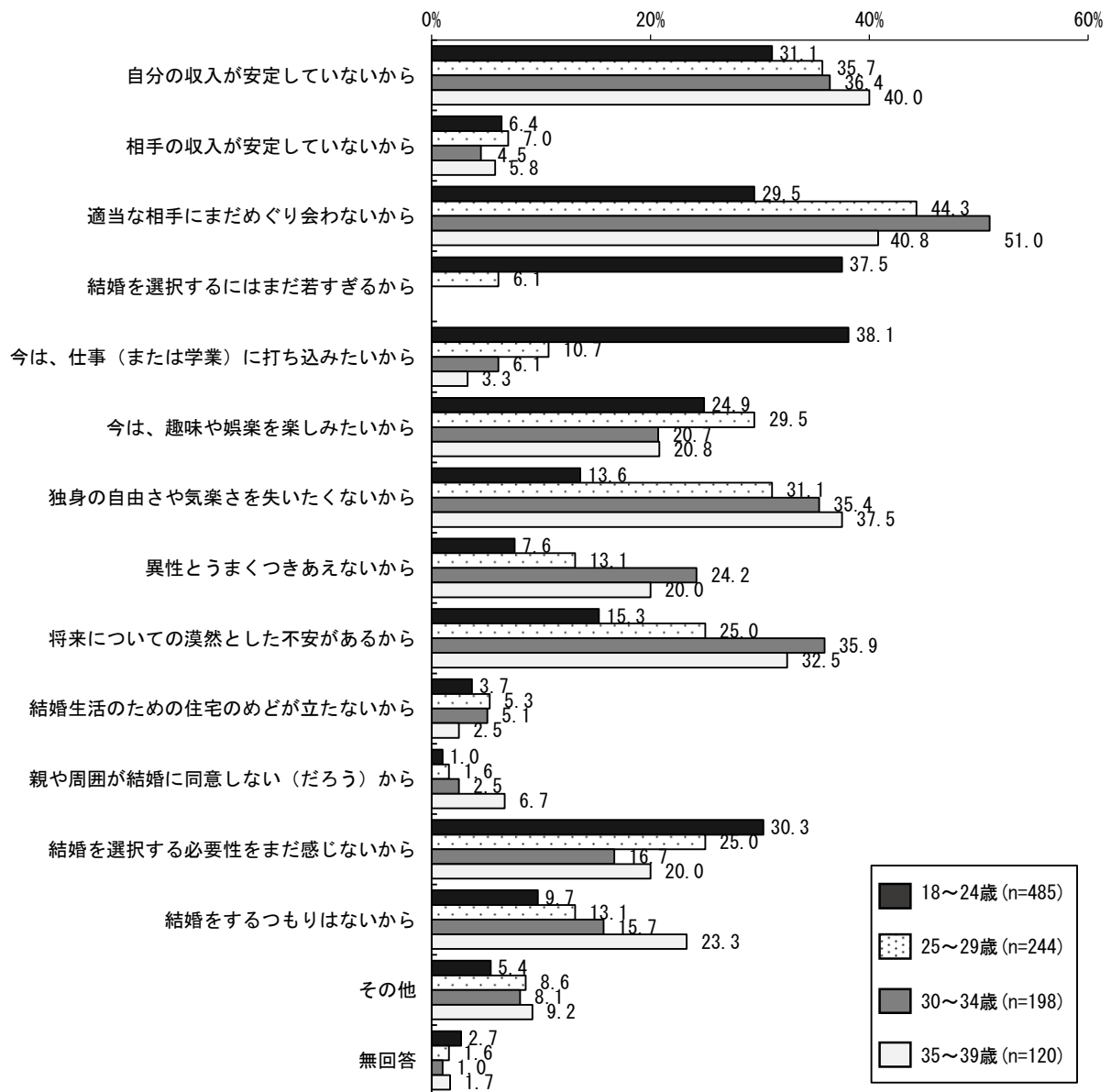
【性別】

- 男性は、「自分の収入が安定していないから」、「適当な相手にまだめぐり会わないから」が高くなっている。
- 女性は、「適当な相手にまだめぐり会わないから」、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が高くなっている。



【年代別】

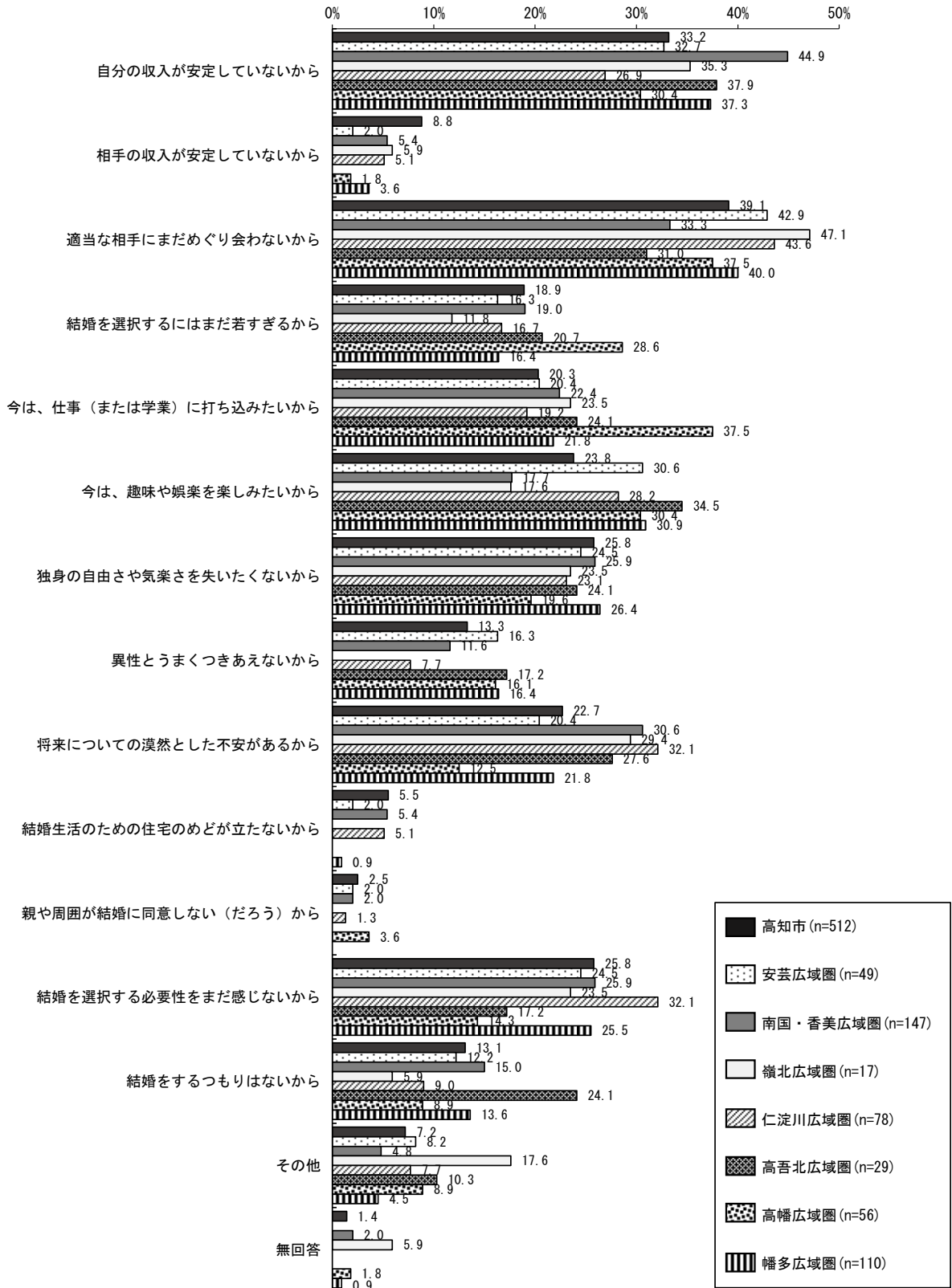
- 18歳～24歳は、「今は、仕事（または学業）に打ち込みたいから」が最も高く、次いで「結婚を選択するにはまだ若すぎるから」が続く。
- そのほかの年代は、「適当な相手にまだめぐり会わないから」が最も高く、次いで「自分の収入が安定していないから」が続いている。



【地域別】

○南国・香美広域圏及び高吾北広域圏は、「自分の収入が安定していないから」が最も高く、高幡広域圏は、「適当な相手にまだめぐり合わないから」と「今は、仕事（または学業）に打ち込みたいから」が同率で最も高い。

○そのほかの地域では、「適当な相手にまだめぐり合わないから」が最も高くなっている。

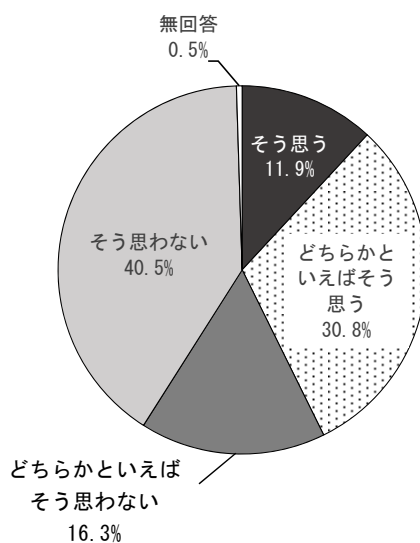


問7 全ての方にお聞きします。

あなた自身は、「結婚において、男性の方が女性よりも収入が高い関係が理想である」という考え方について、どう思いますか。(1つだけ○印)

【全体】

- 「そう思わない」が40.5%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」(30.8%)、「どちらかといえばそう思わない」(16.3%)と続いている。
- “思う”（「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した方）は、42.7%、“思わない”（「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」と回答した方）は、56.8%となっている。



【性別】

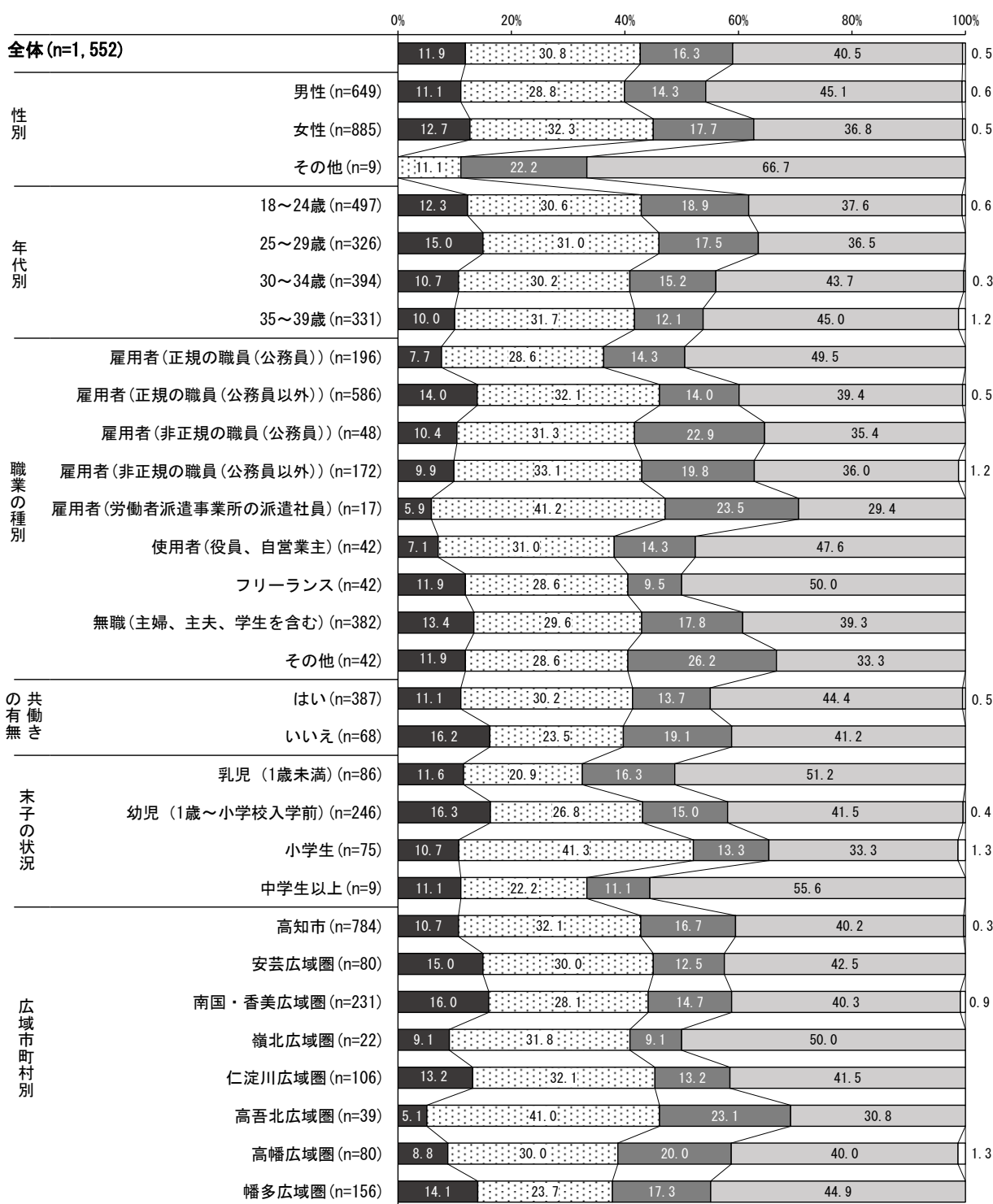
- 男女ともに、「そう思わない」が最も高くなっている。
- “思わない”の割合は、男性が59.5%、女性が54.6%と、男性のほうが高くなっている。

【年代別】

- いずれの年代も、「そう思わない」が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」となっている。
- いずれの年代も、“思わない”の割合が“思う”を上回っている。

【地域別】

- 高吾北広域圏において、「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっているが、そのほかの地域では「そう思わない」が最も高い結果となっている。
- すべての地域で、“思わない”の割合が“思う”を上回っている。



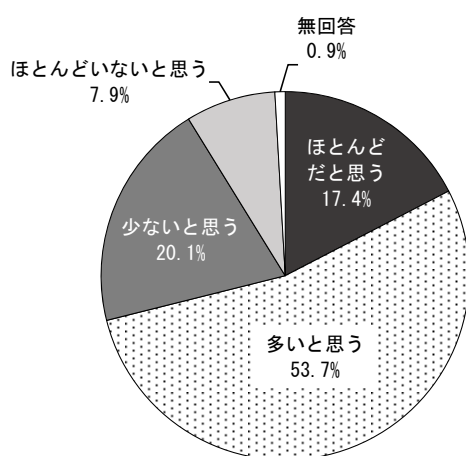
そう思う
 どちらかといえばそう思う
 どちらかといえばそう思わない
 そう思わない
 無回答

問8 全ての方にお聞きします。

あなたの周囲の人（友人、同僚、親戚）は、「結婚において、男性の方が女性よりも収入が高い関係が理想である」という考え方について、どのくらいの方がそのように考えていると思いますか。（1つだけ○印）

【全体】

- 「多いと思う」が53.7%と最も高く、次いで「少ないと思う」（20.1%）、「ほとんどだと思う」（17.4%）と続いている。
- “多い”（「ほとんどだと思う」または「多いと思う」と回答した方）は、71.1%、“少ない”（「ほとんどいないと思う」または「少ないと思う」と回答した方）は、28.0%となっている。



【性別】

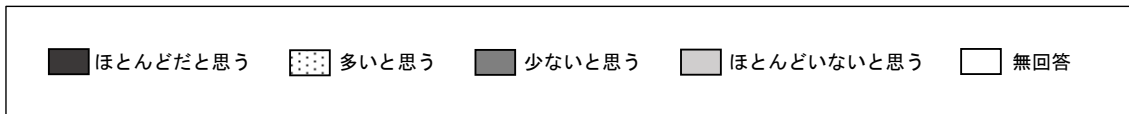
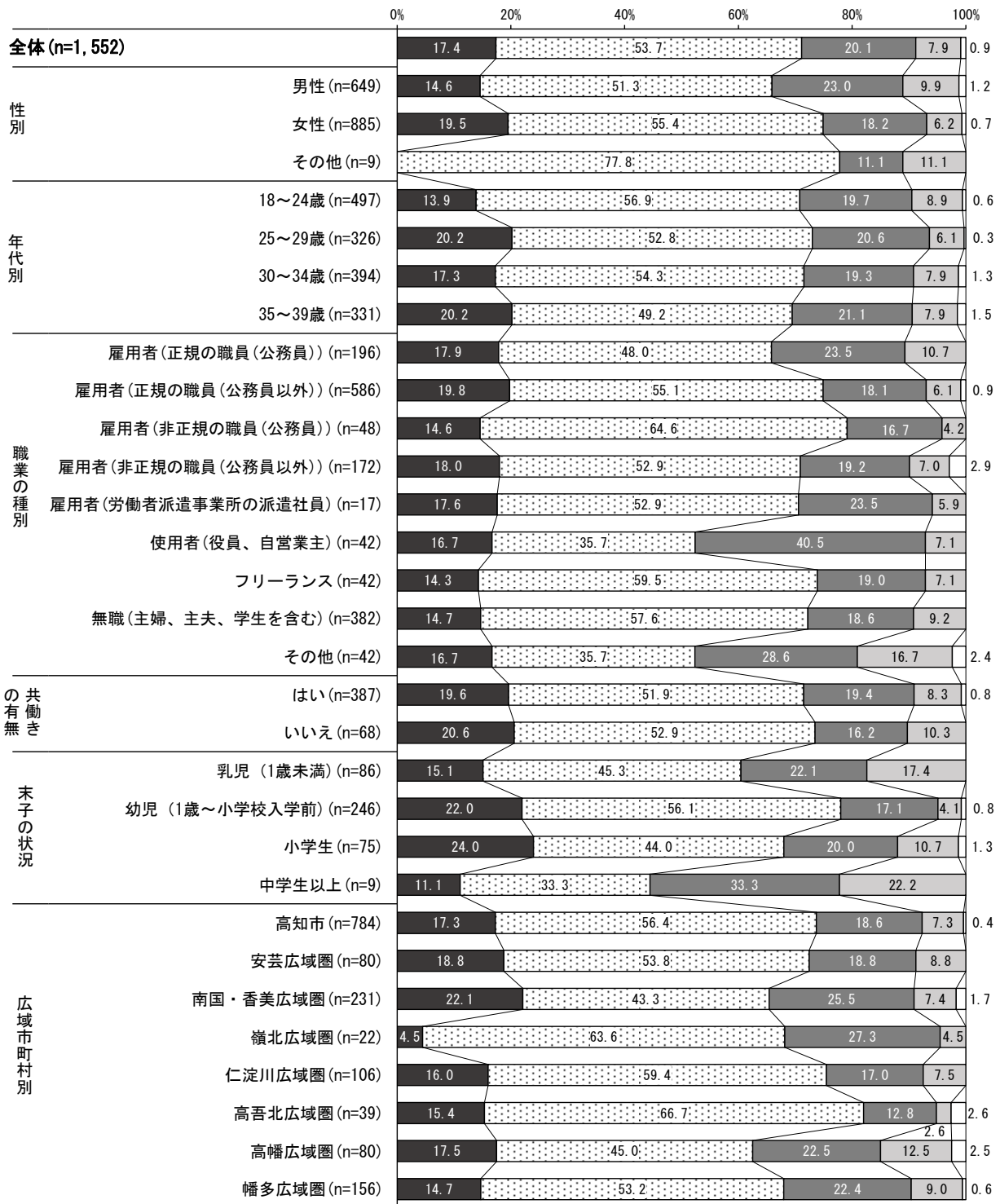
- 男女ともに、「多いと思う」が最も高くなっている。
- “多い”の割合は、男性が65.9%、女性が74.9%と、女性のほうが高くなっている。

【年代別】

- いずれの年代も、「多いと思う」が最も高く、次いで「少ないと思う」となっている。
- いずれの年代も、“多い”の割合が“少ない”を上回っている。

【地域別】

- すべての地域で、「多いと思う」が最も高くなっている。
- すべての地域で、“多い”の割合が“少ない”を上回っており、高吾北広域圏では“多い”が8割を超えている。

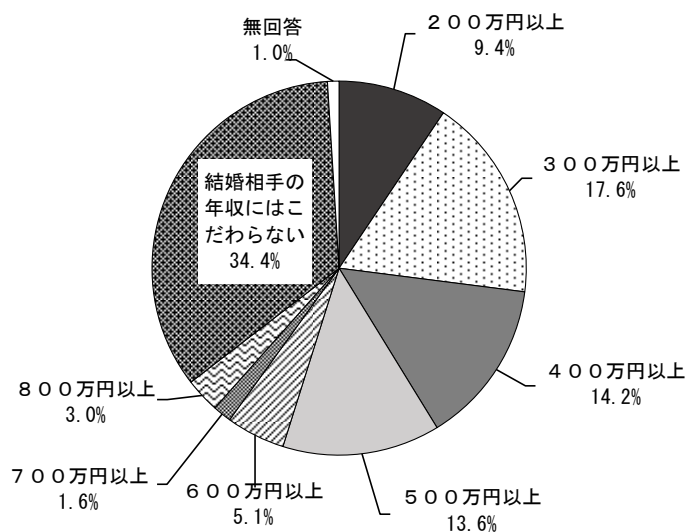


問9 現在未婚の方にお伺いします。

あなたが結婚相手に求める年収（課税前の年間総収入でボーナスを含む）をお選びください。
（1つだけ○印）

【全体】

- 「結婚相手の年収にはこだわらない」が34.4%と最も高く、次いで「300万円以上」（17.6%）、「400万円以上」（14.2%）と続いている。



【性別】

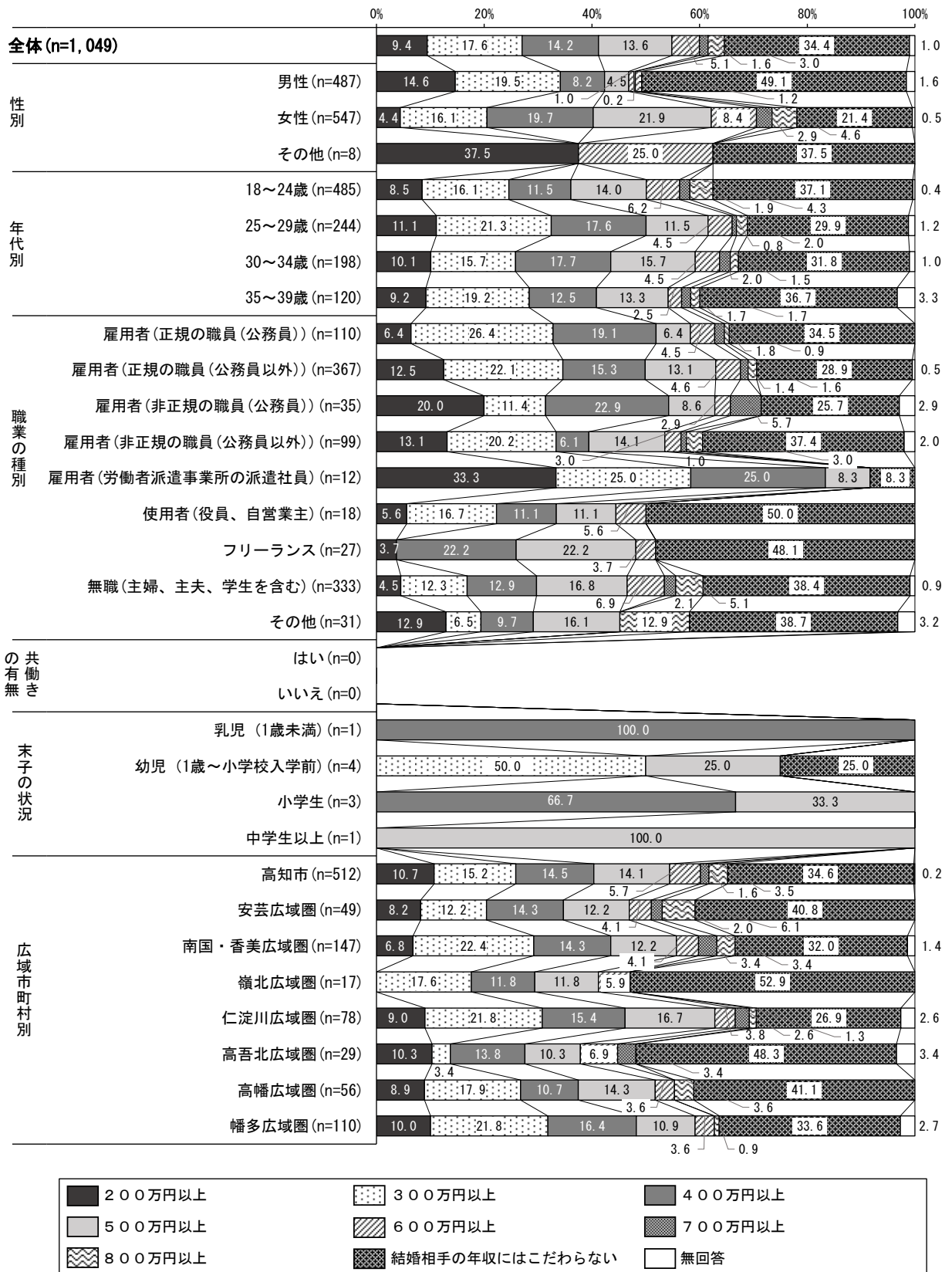
- 男性は、「結婚相手の年収にはこだわらない」が半数弱を占めて最も高く、次いで「300万円以上」となっている。
- 女性は、「500万円以上」が最も高く、次いで「結婚相手の年収にはこだわらない」となっている。

【年代別】

- いずれの年代も、「結婚相手の年収にはこだわらない」が最も高い。
- 2番目は、30～34歳で「400万円以上」、そのほかの年代は「300万円以上」となっている。

【地域別】

- すべての地域で、「結婚相手の年収にはこだわらない」が最も高い。

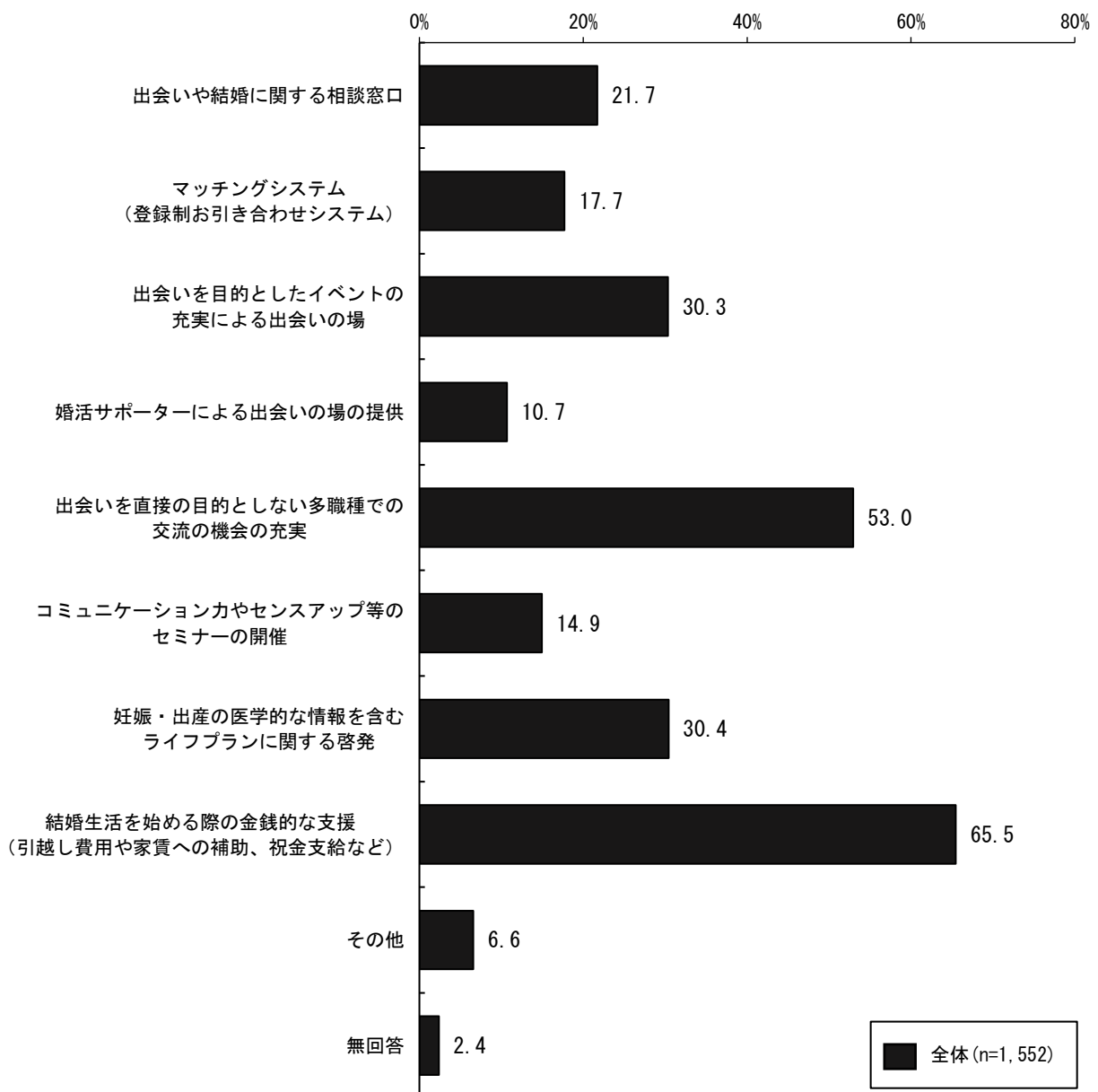


問 10 全ての方にお聞きします。

出会いや結婚に関する行政の支援として、必要だと思うものは何ですか。あなたの考えに近いものを、3つお選びください。(○印は3つまで)

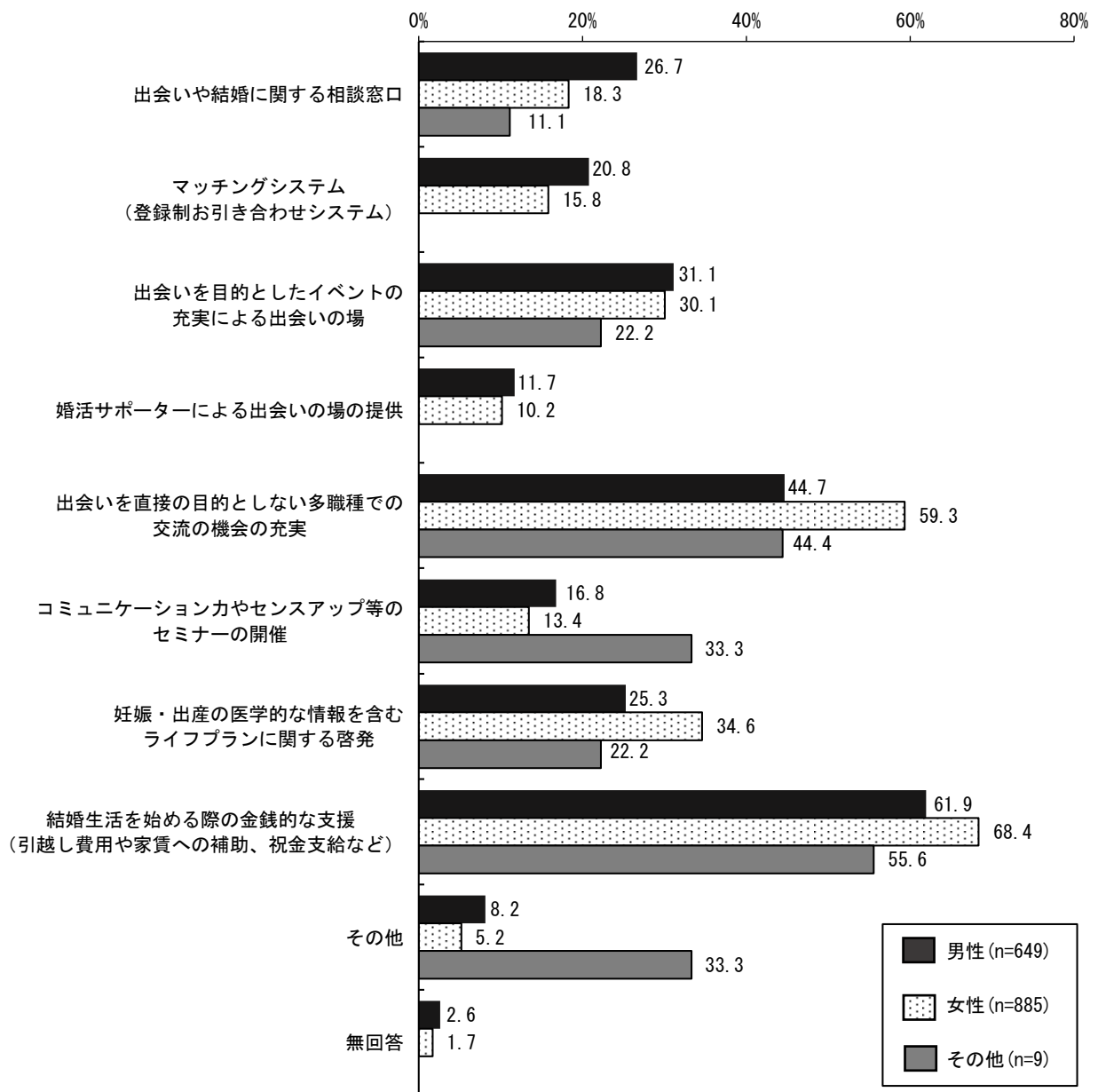
【全体】

○「結婚生活を始める際の金銭的な支援（引越し費用や家賃への補助、祝金支給など）」が 65.5%と最も高く、次いで「出会いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」(53.0%)、「妊娠・出産の医学的な情報を含むライフプランに関する啓発」(30.4%)と続いている。



【性別】

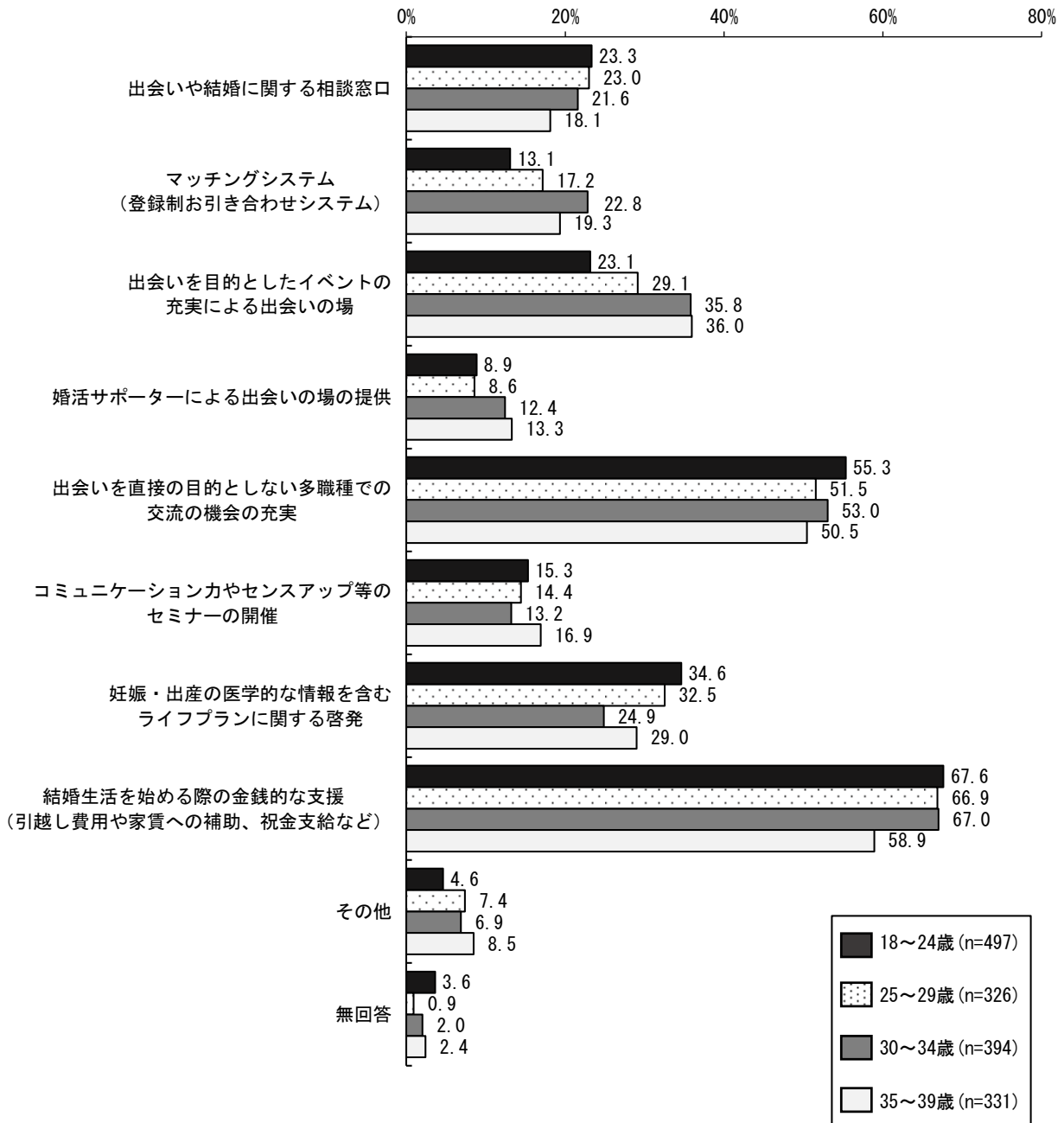
- 男女ともに、「結婚生活を始める際の金銭的な支援（引越し費用や家賃への補助、祝金支給など）」が最も高くなっている。
- 2番目も男女ともに、「出会いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」となっており、3番目は、男性が「出会いを目的としたイベントの充実による出会いの場」、女性は「妊娠・出産の医学的な情報を含むライフプランに関する啓発」となっている。



【年代別】

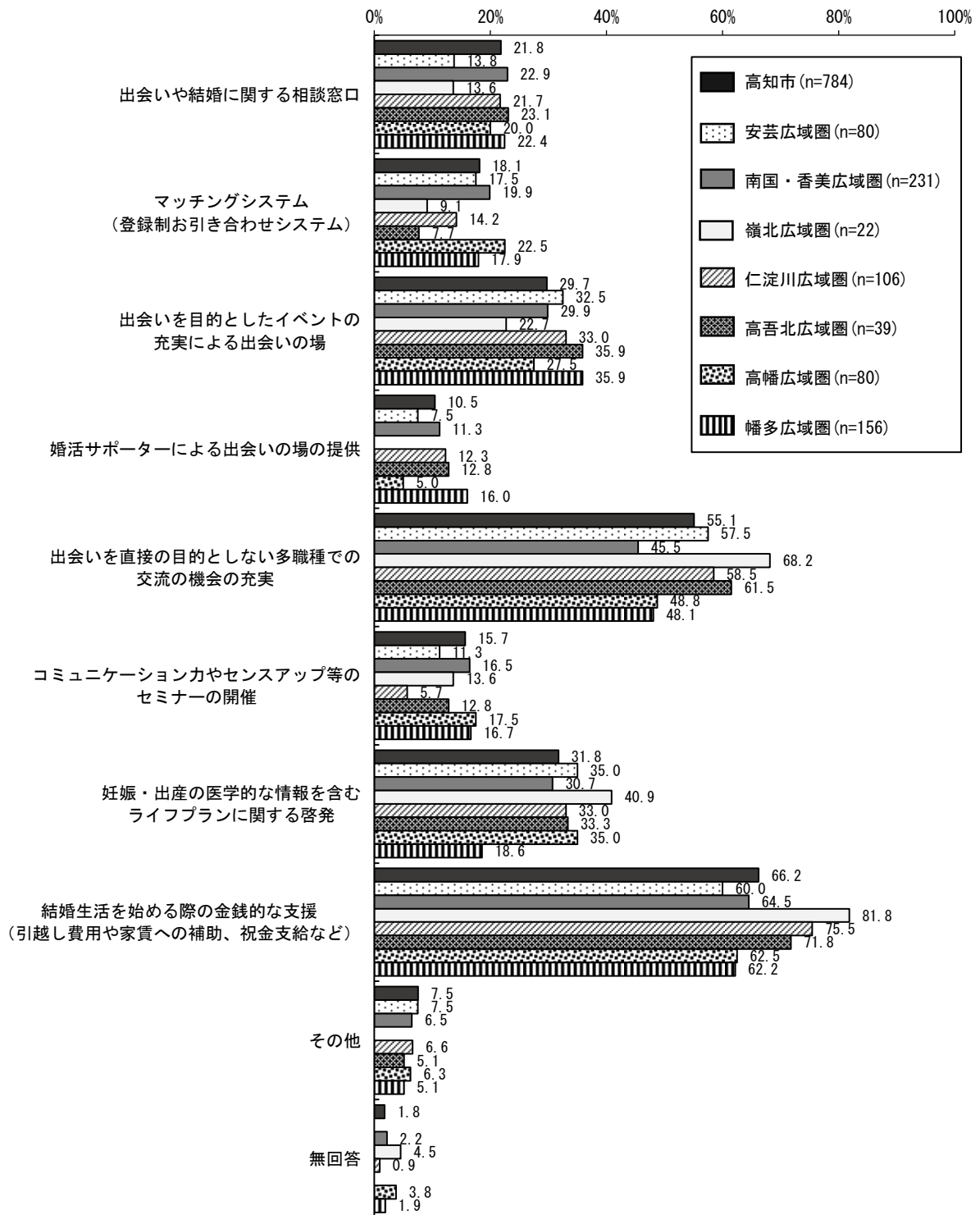
○いずれの年代も、「結婚生活を始める際の金銭的な支援（引越し費用や家賃への補助、祝金支給など）」が最も高くなっている。

○2番目もいずれの年代とも、「出会いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」となっている。



【地域別】

○すべての地域で、「結婚生活を始める際の金銭的な支援（引越し費用や家賃への補助、祝金支給など）」が最も高くなっている。

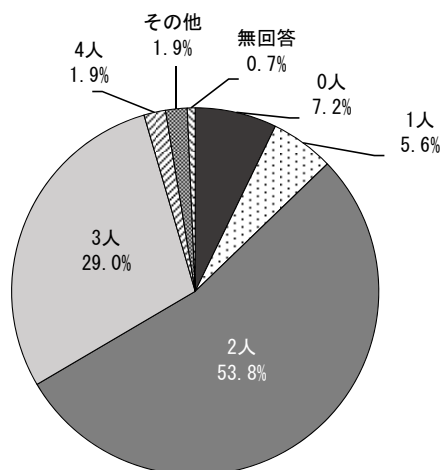


4 子育てについて

問 11 あなたにとって理想的な子どもの数は何人ですか。(1 つだけ○印)

【全体】

○「2人」が53.8%と最も高く、次いで「3人」(29.0%)、「0人」(7.2%)と続いている。



【性別】

○男性は58.4%、女性は50.7%と、ともに半数を超えて「2人」が最も高くなっており、次いで、男女とも「3人」が高くなっている。

【年代別】

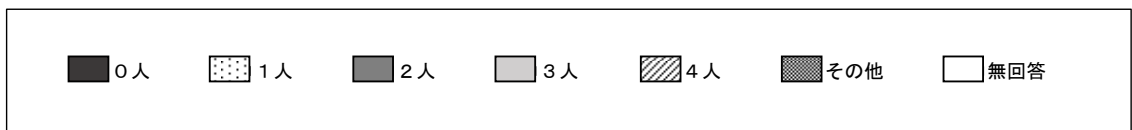
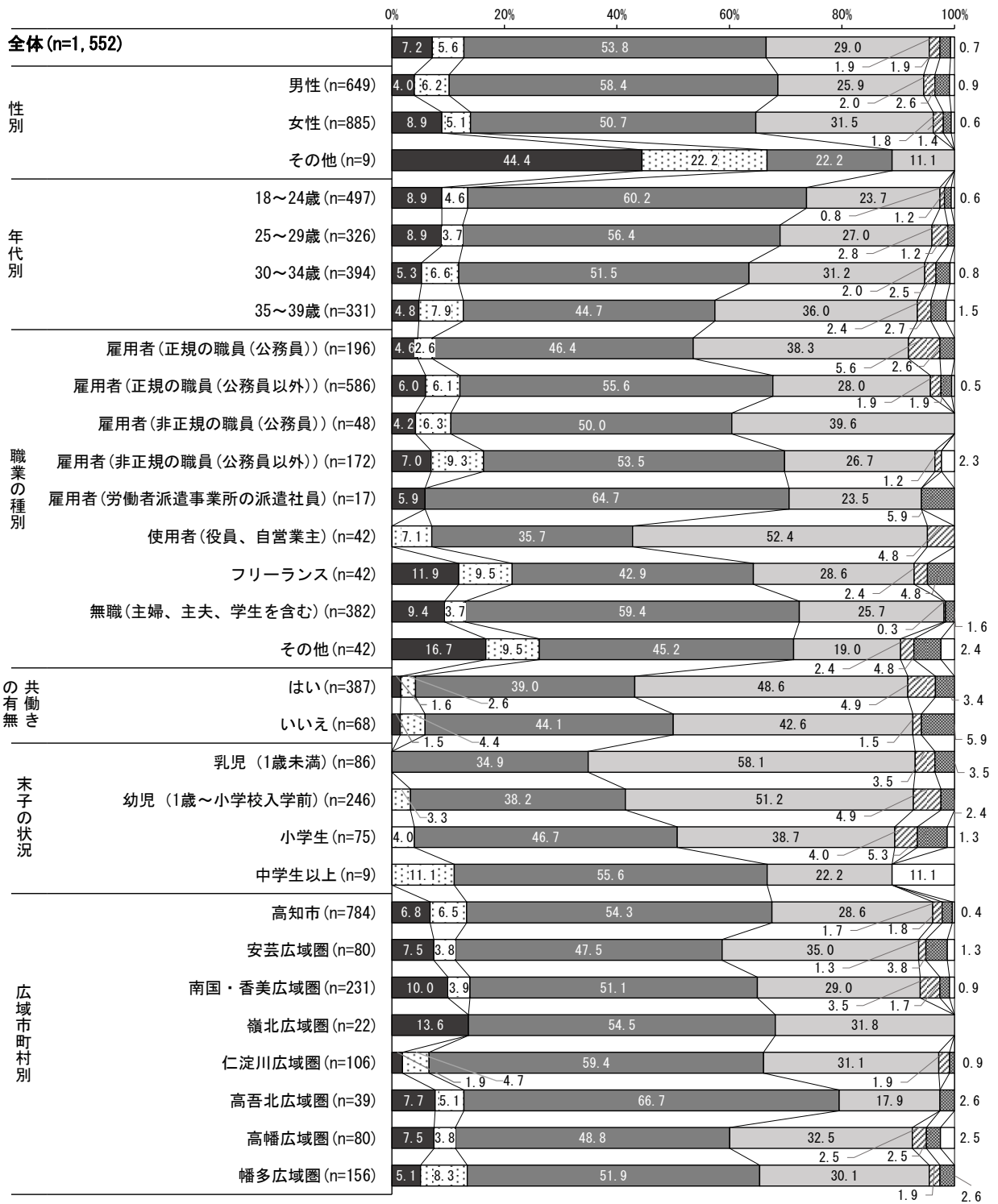
○いずれの年代も、「2人」が最も高く、次いで「3人」となっている。

○3番目は、30歳～34歳及び35歳～39歳は「1人」、18歳～24歳及び25歳～29歳は「0人」となっている。

【地域別】

○すべての地域で、「2人」が最も高く、次いで「3人」となっている。

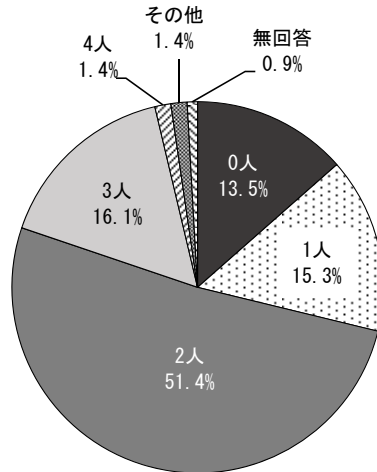
○3番目は、仁淀川広域圏及び幡多広域圏では「1人」、そのほかの地域では「0人」となっている。



問 12 あなたが、現実的に持ちたいと考えている子どもの人数は何人ですか。(現在の人数と今後持つつもりの人数の合計；1つだけ○印)

【全体】

○「2人」が51.4%と最も高く、次いで「3人」(16.1%)、「1人」(15.3%)と続いている。



【性別】

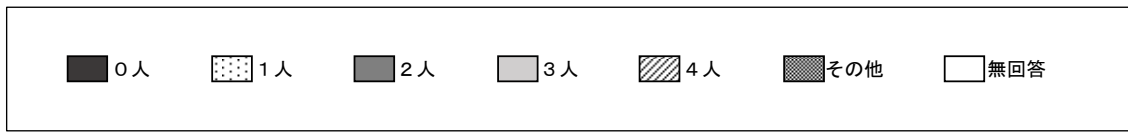
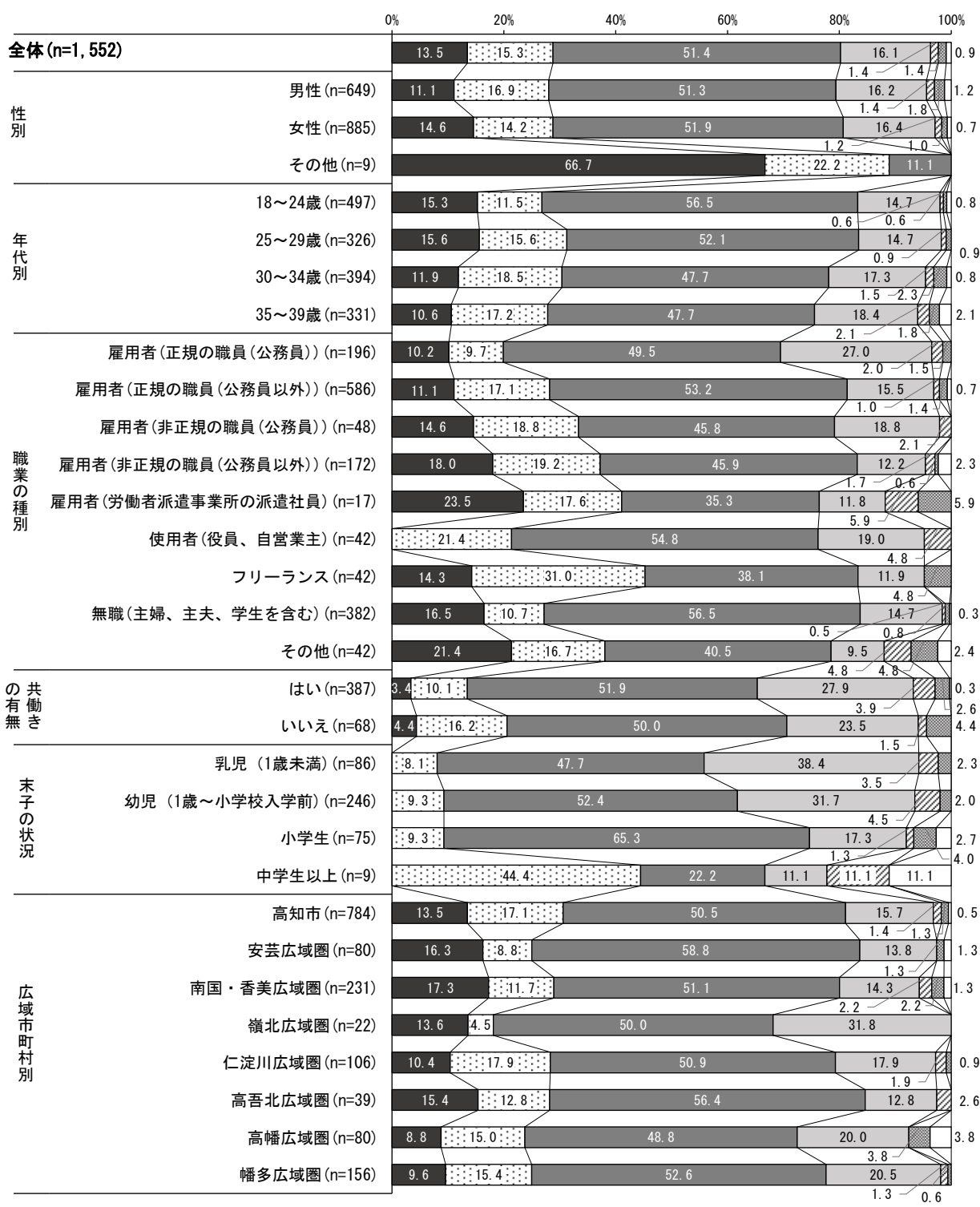
○男性は51.3%、女性は51.9%と、ともに半数を超えて「2人」が最も高くなっており、次いで、男性は「1人」、女性は「3人」が高くなっている。

【年代別】

○いずれの年代も、「2人」が最も高くなっている。
○2番目は、18歳～24歳は「0人」、25歳～29歳は「1人」と「0人」が同率、30歳～34歳は「1人」、35歳～39歳は「3人」となっている。

【地域別】

○すべての地域で、「2人」が最も高くなっている。
○2番目は、嶺北広域圏、高幡広域圏及び幡多広域圏では「3人」、仁淀川広域圏では「3人」と「1人」が同率、高知市では「1人」、安芸広域圏、南国・香美広域圏及び高吾北広域圏では「0人」となっている。

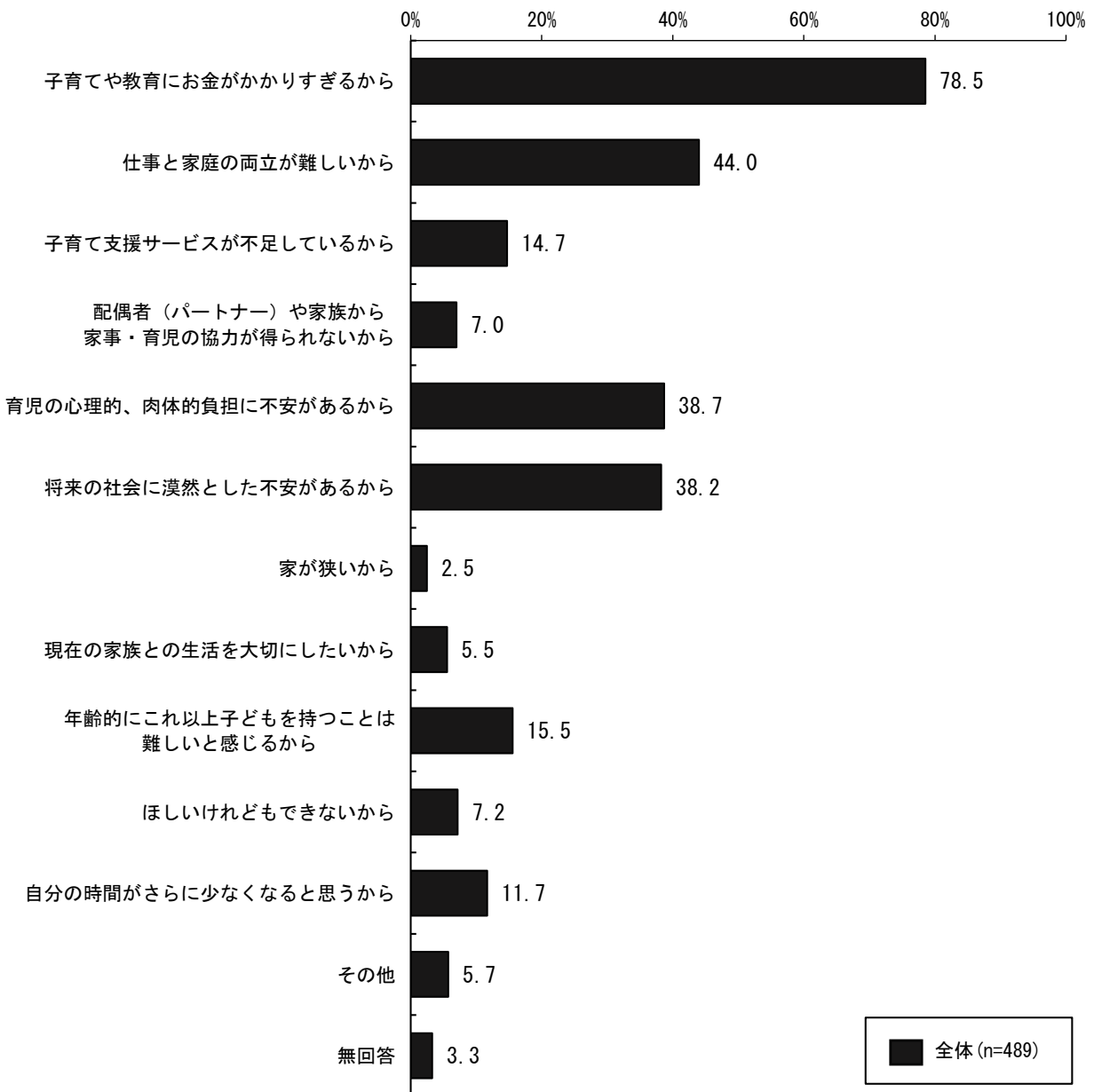


問 13 問 12 の人数が問 11 の人数より少ない方のみお答えください。

理想の数だけ子どもを持たない理由について、あなたの考えに近いものを 3 つお選びください。(○印は 3 つまで)

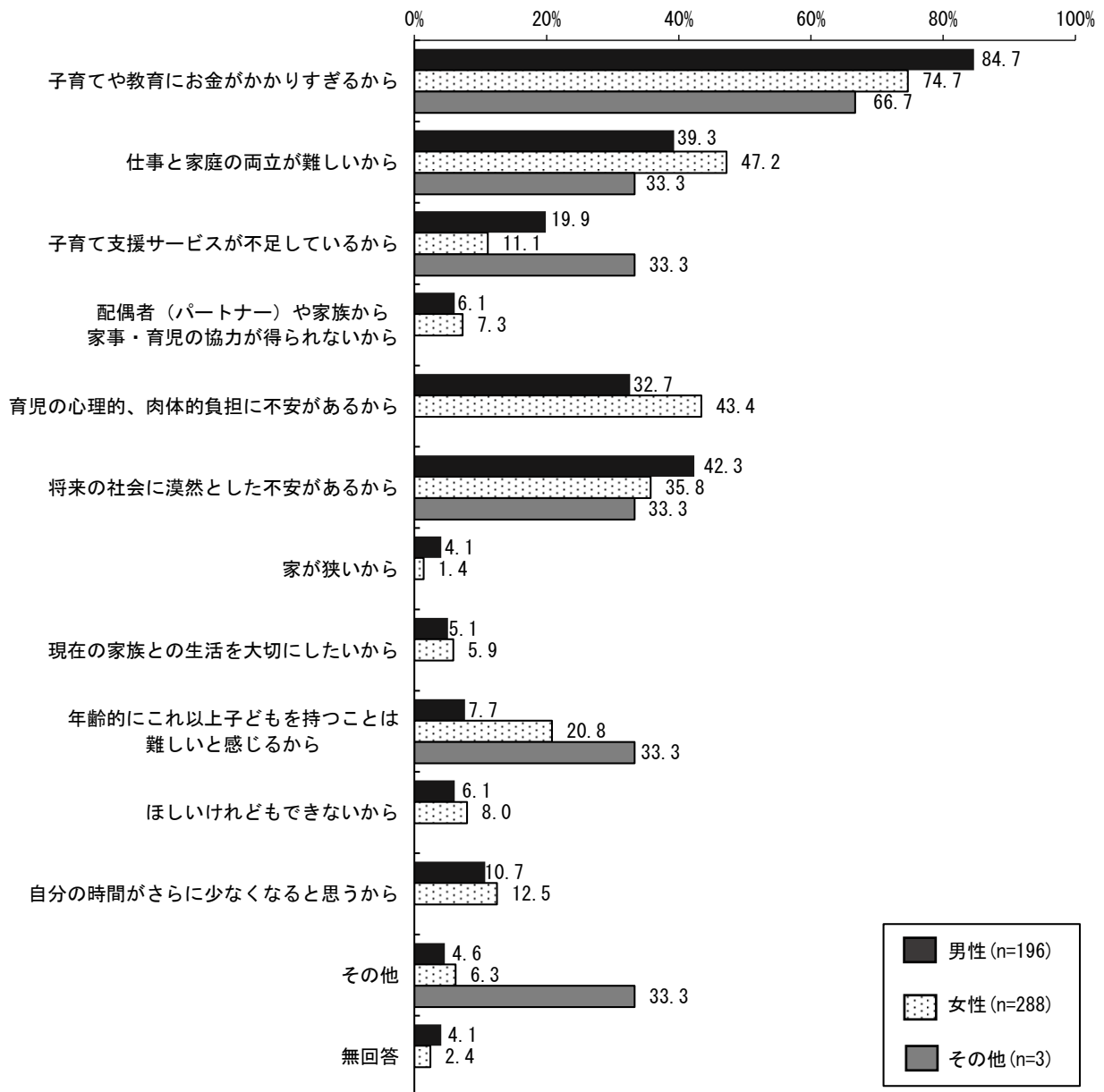
【全体】

○「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が 78.5%と最も高く、次いで「仕事と家庭の両立が難しいから」(44.0%)、「育児の心理的、肉体的負担に不安があるから」(38.7%)と続いている。



【性別】

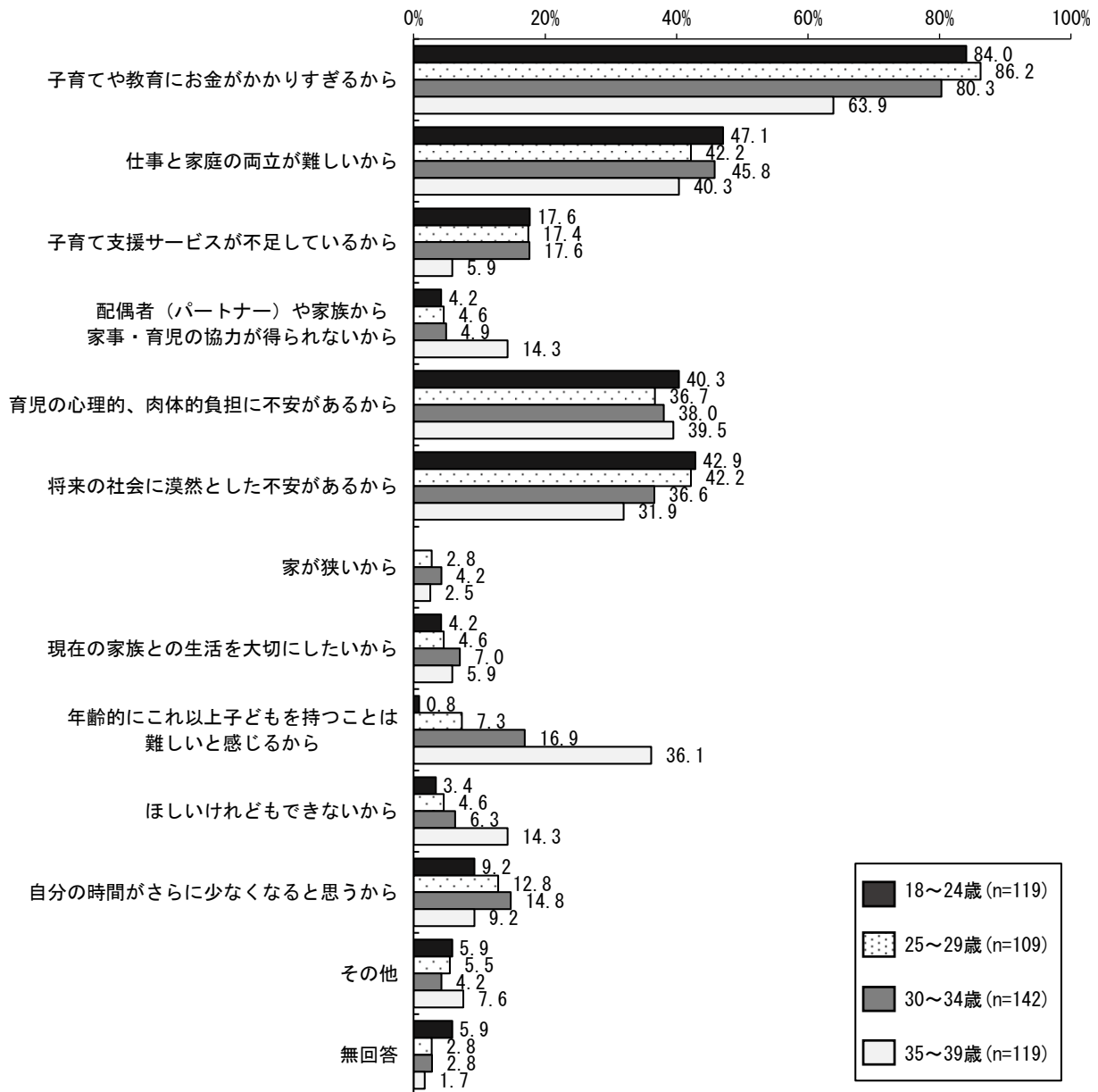
- 男女ともに、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も高くなっている。
- 2番目は、男性が「将来の社会に漠然とした不安があるから」、女性は「仕事と家庭の両立が難しいから」となっている。
- 3番目は、男性が「仕事と家庭の両立が難しいから」、女性は「育児の心理的、肉体的負担に不安があるから」となっている。



【年代別】

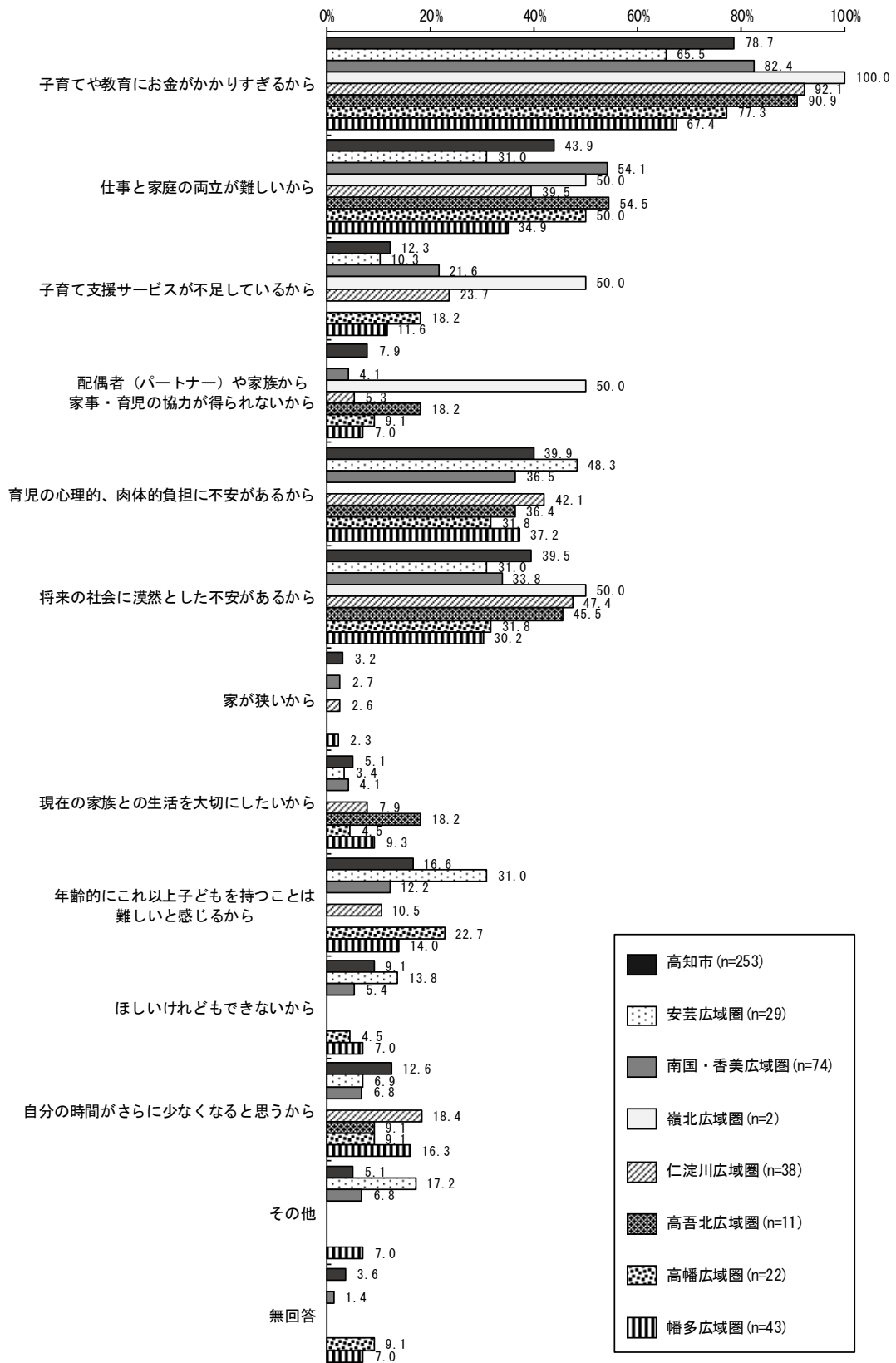
○いずれの年代も、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も高くなっている。

○2番目は、25歳～29歳は「仕事と家庭の両立が難しいから」と「将来の社会に漠然とした不安があるから」が同率であり、そのほかの年代は「仕事と家庭の両立が難しいから」となっている。



【地域別】

○すべての地域で、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も高くなっている。

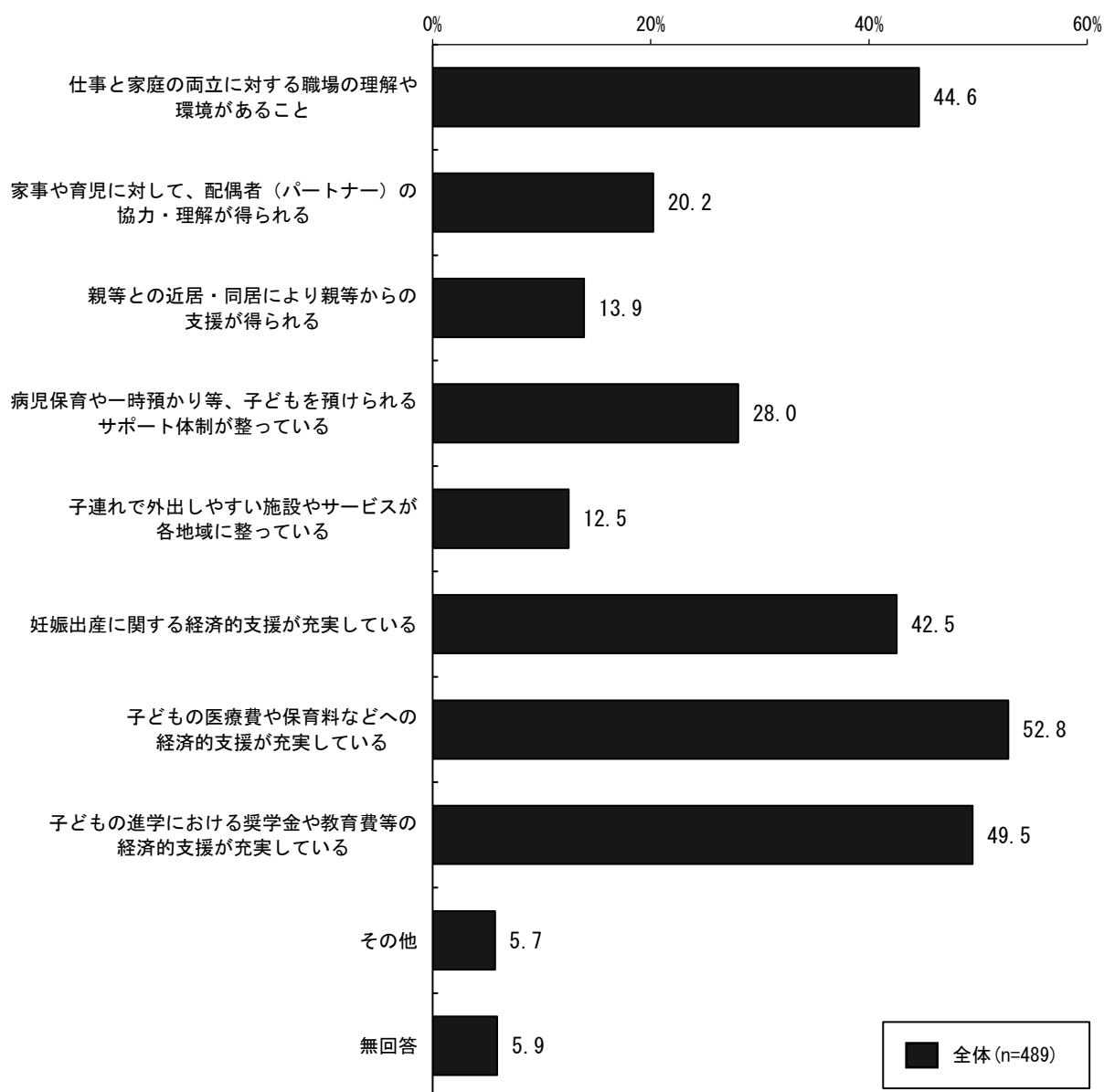


問 14 問 12 の人数が問 11 の人数より少ない方のみお答えください。

どのような環境があれば理想の数だけ子どもを持つことが可能になるとお考えですか。あなたの考えに近いものを3つお選びください。(○印は3つまで)

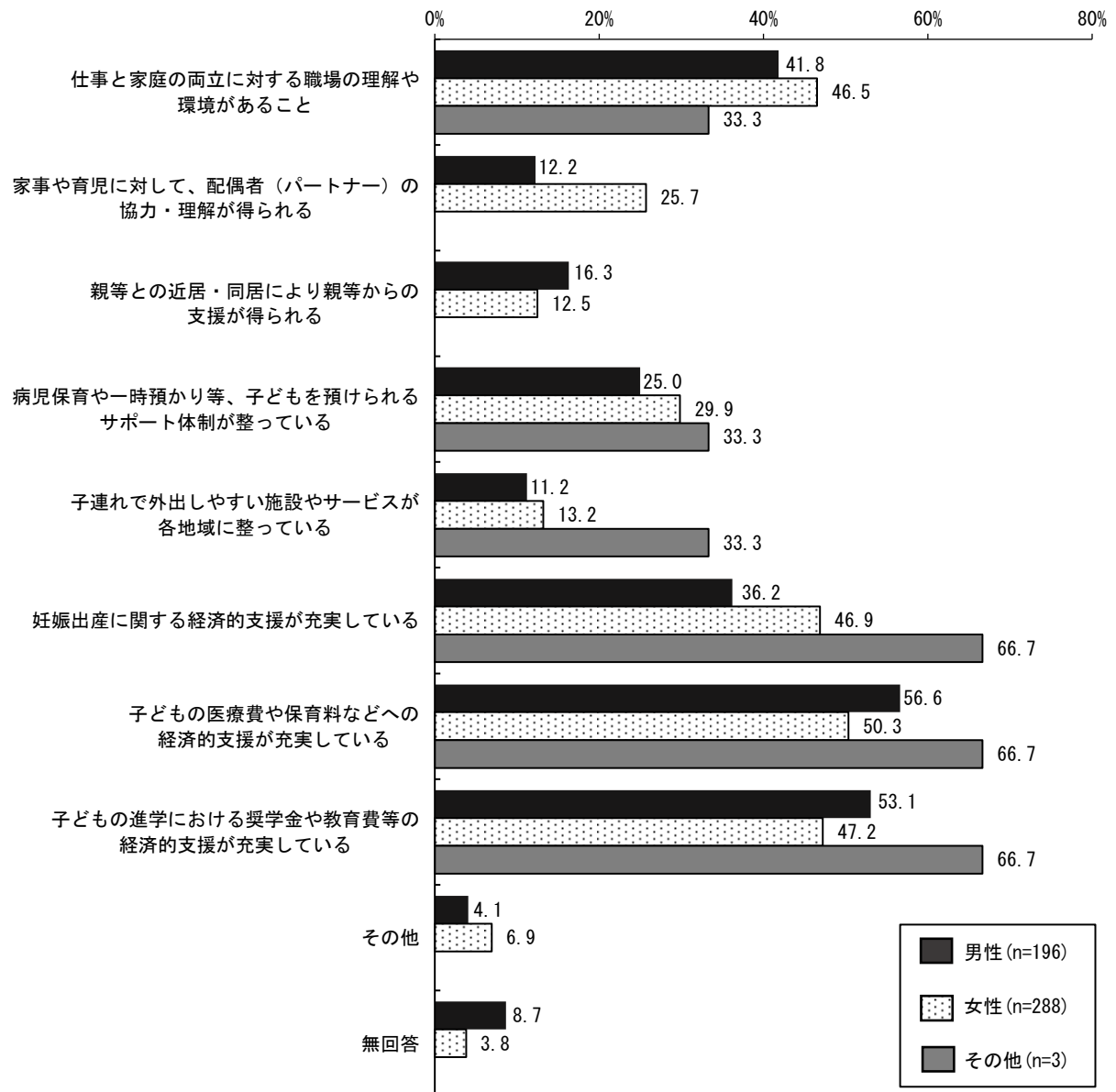
【全体】

○「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」が 52.8%と最も高く、次いで「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」(49.5%)、「仕事と家庭の両立に対する職場の理解や環境があること」(44.6%)と続いている。



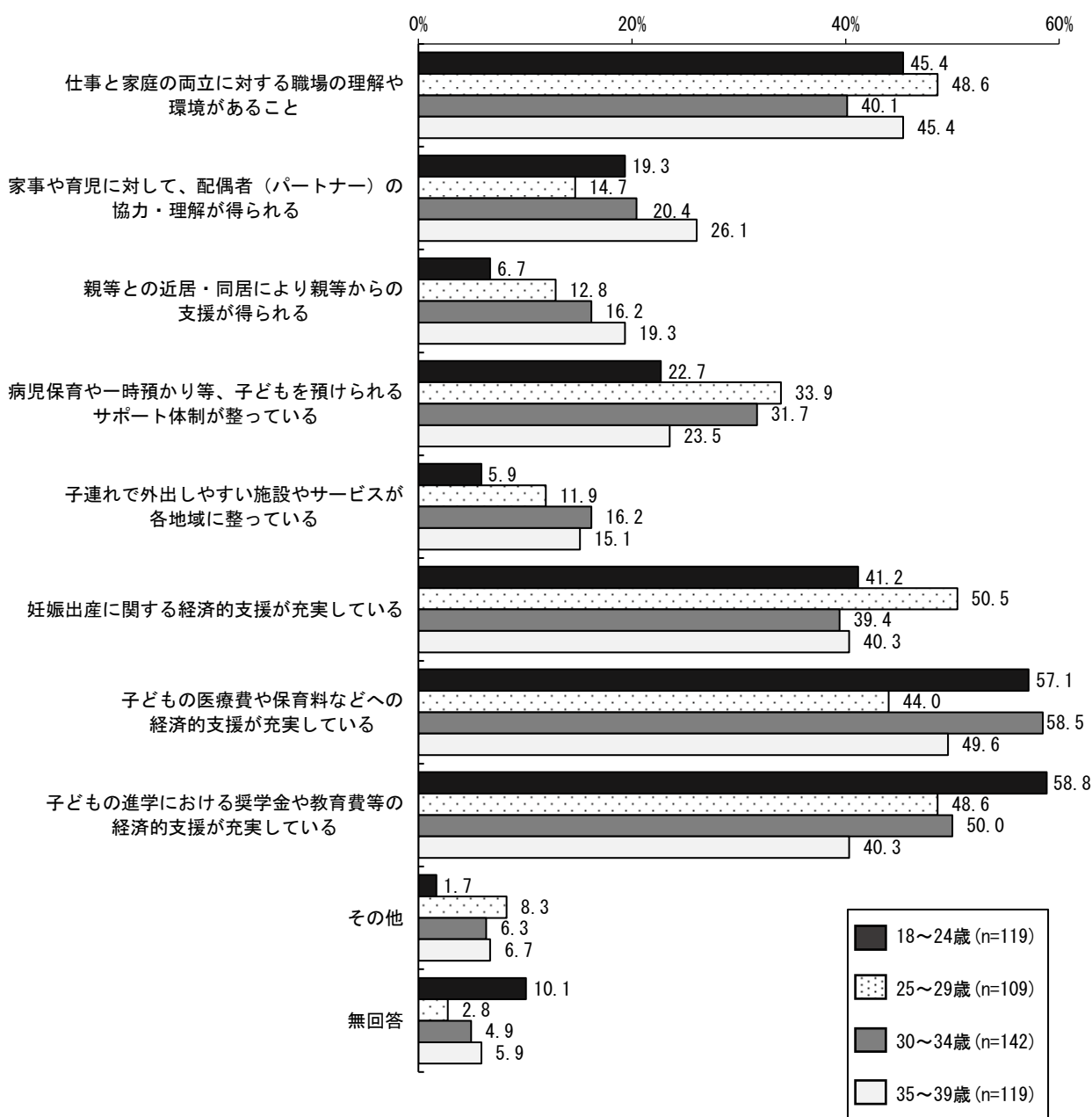
【性別】

- 男女ともに、「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」が最も高くなっている。
- 2番目も、男女ともに「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」となっている。
- 3番目は、男性が「仕事と家庭の両立に対する職場の理解や環境があること」、女性は「妊娠出産に関する経済的支援が充実している」となっている。



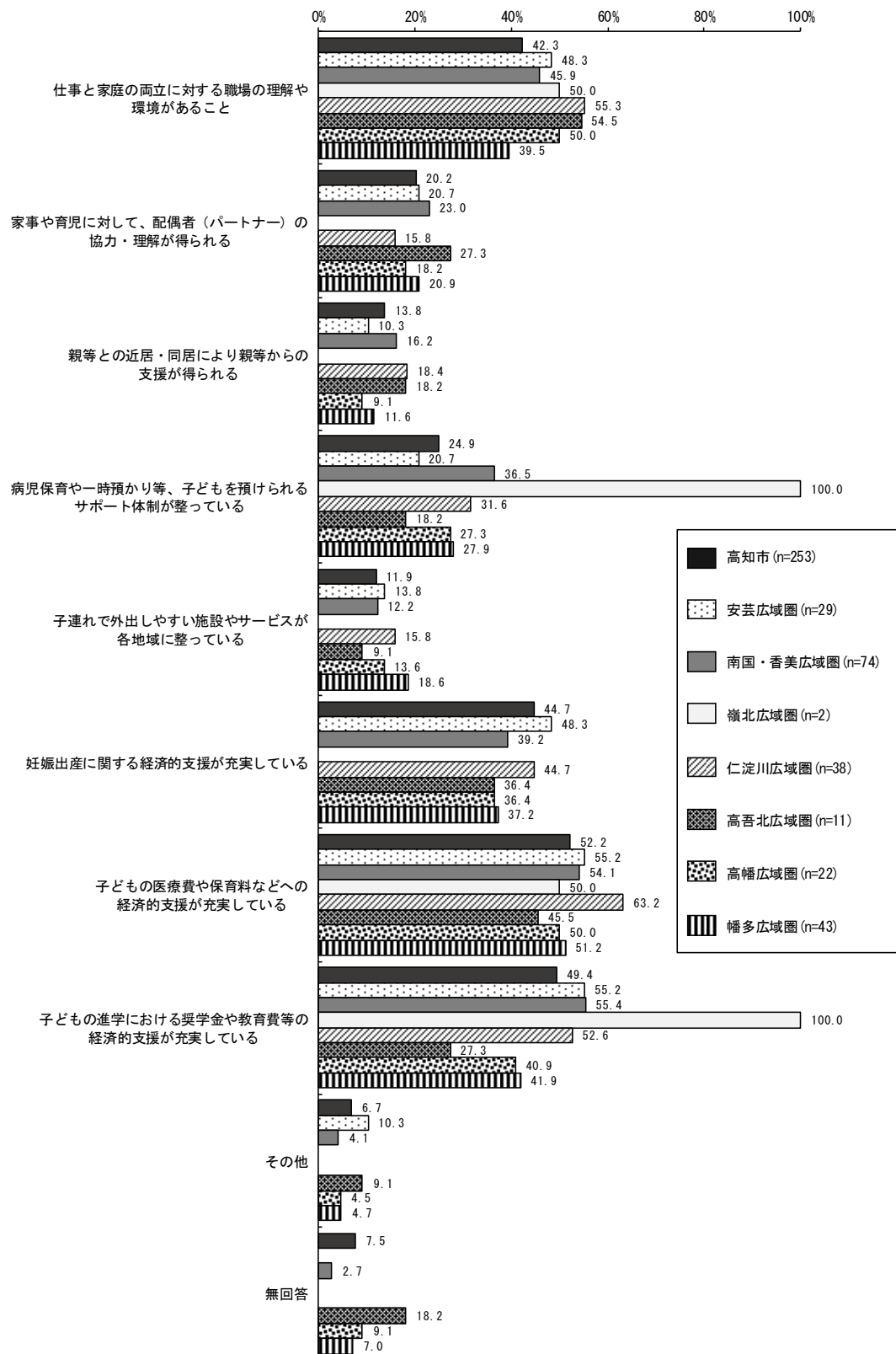
【年代別】

○18歳～24歳では、「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」、25歳～29歳では、「妊娠出産に関する経済的支援が充実している」、30歳～34歳及び35歳～39歳では「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」が最も高くなっている。
 ○2番目は、18歳～24歳では、「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」、25歳～29歳及び30歳～34歳では、「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」（25歳～29歳は「仕事と家庭の両立に対する職場の理解や環境があること」も同率）、35歳～39歳では「仕事と家庭の両立に対する職場の理解や環境があること」となっている。



【地域別】

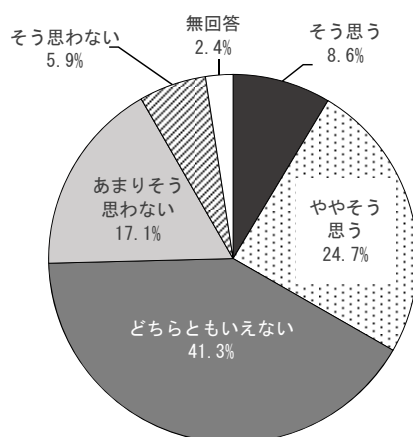
○サンプル数の少ない嶺北広域圏を除き、いずれの地域においても、「仕事と家庭の両立に対する職場の理解や環境があること」、「妊娠出産に関する経済的支援が充実している」、「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」、「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」の4項目が比較的高くなっている。



問 15 高知県の保育所・幼稚園、認定こども園など子育てを支える施設は充実していると思いますか。(1つだけ○印)

【全体】

- 「どちらともいえない」が 41.3%と最も高く、次いで「ややそう思う」(24.7%)、「あまりそう思わない」(17.1%)と続いている。
- “思う”(「そう思う」または「ややそう思う」と回答した方)は、33.3%、“思わない”(「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した方)は、22.9%となっている。



【性別】

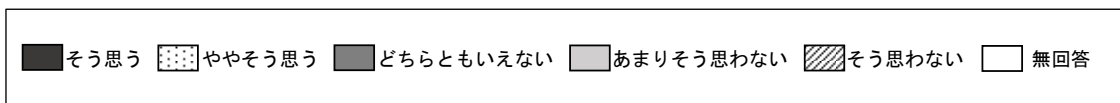
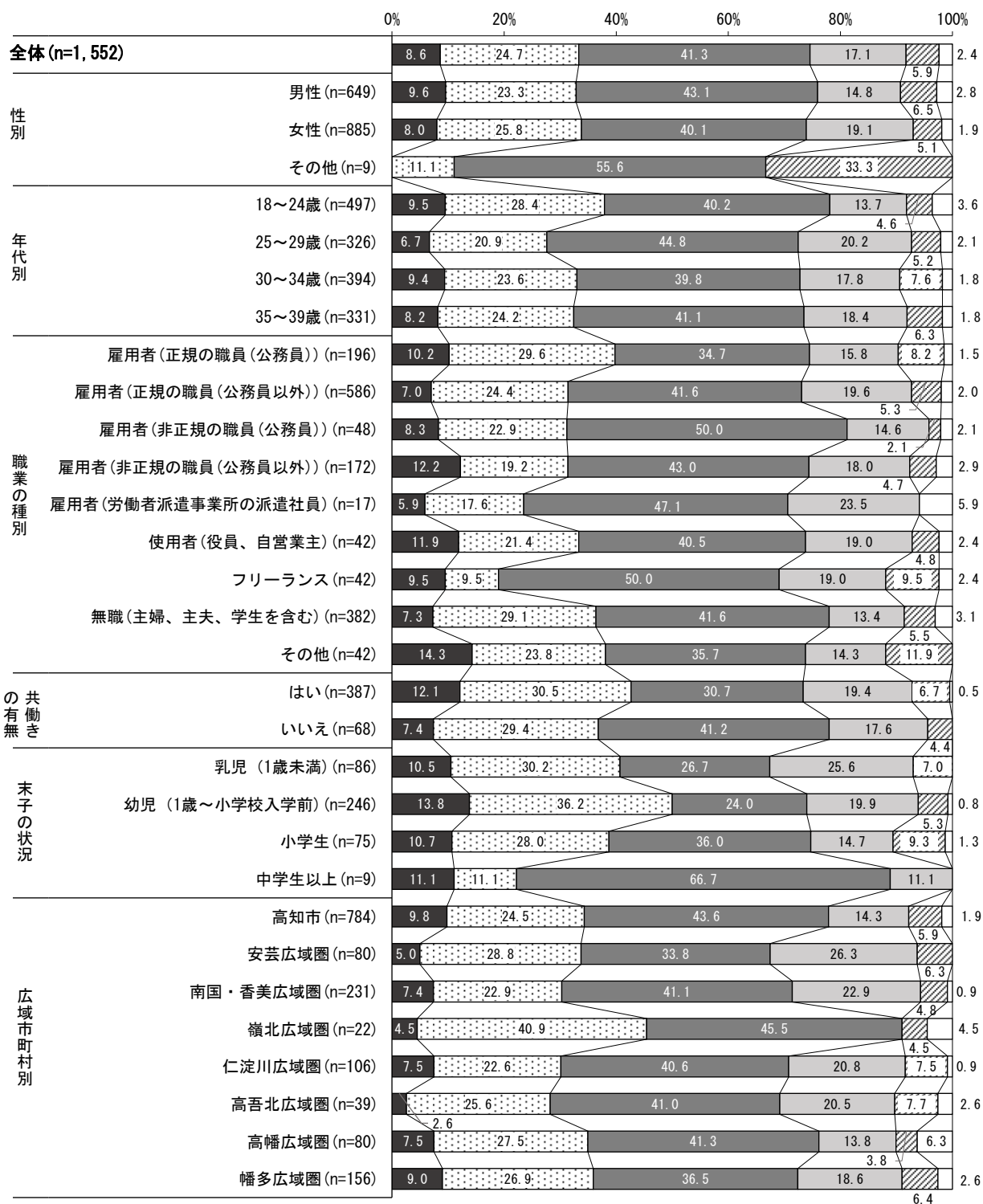
- 男女ともに、「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- “思う”の割合は、男性が 32.8%、女性が 33.8%と、女性のほうがわずかに高くなっている。

【年代別】

- いずれの年代も、「どちらともいえない」が最も高く、次いで「ややそう思う」となっている。
- “思う”の割合は、18歳～24歳が 37.8%と最も高く、25歳～29歳が 27.6%と最も低い結果となっている。

【地域別】

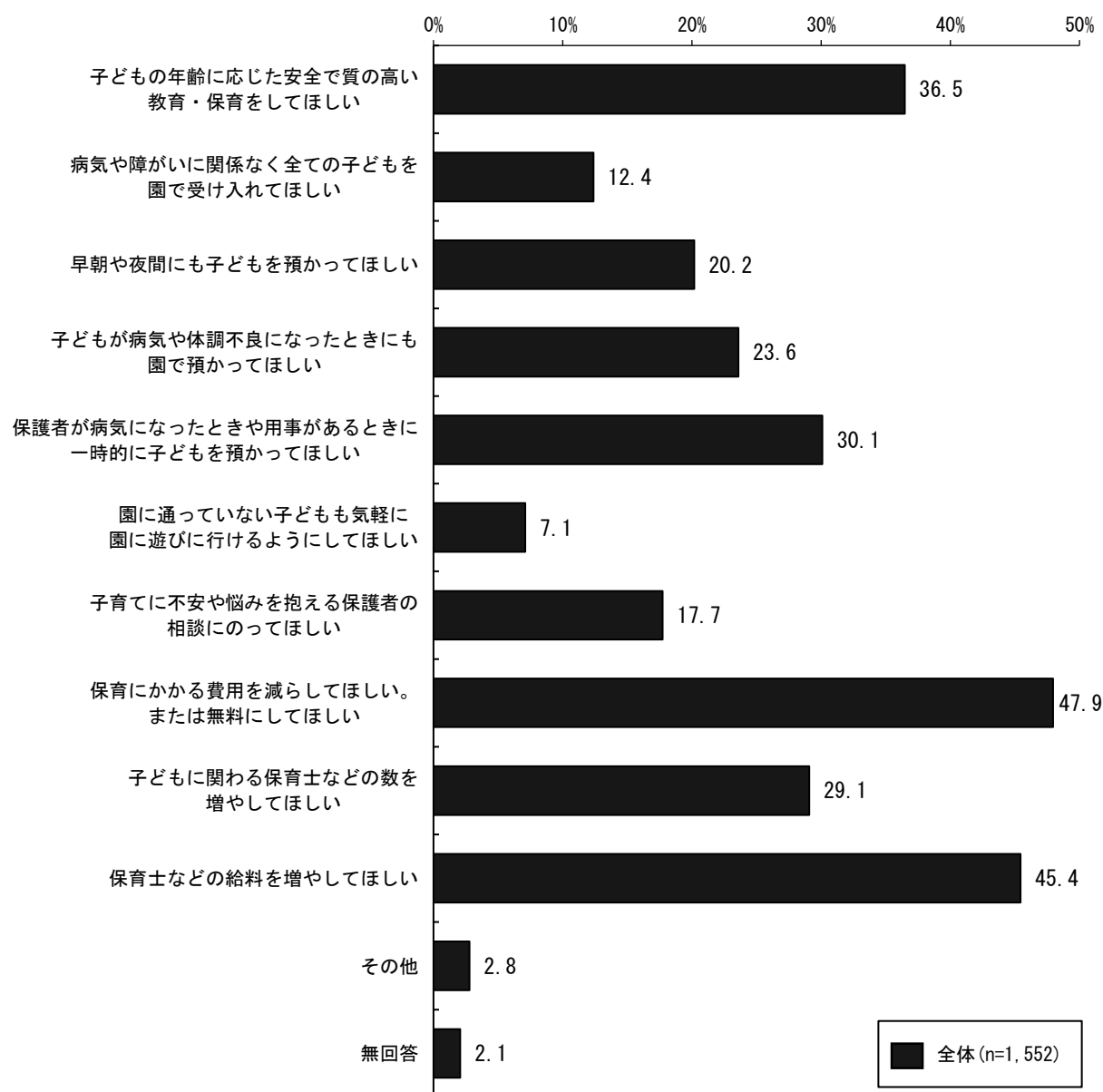
- すべての地域で、「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 高吾北広域圏を除く地域で、“思う”の割合が“思わない”を上回っている(高吾北広域圏は同率)。



問 16 高知県の子育てを支えるため、これらの施設にもっと力を入れてほしいことは何ですか。
あなたの考えに近いものを3つお選びください。(○印は3つまで)

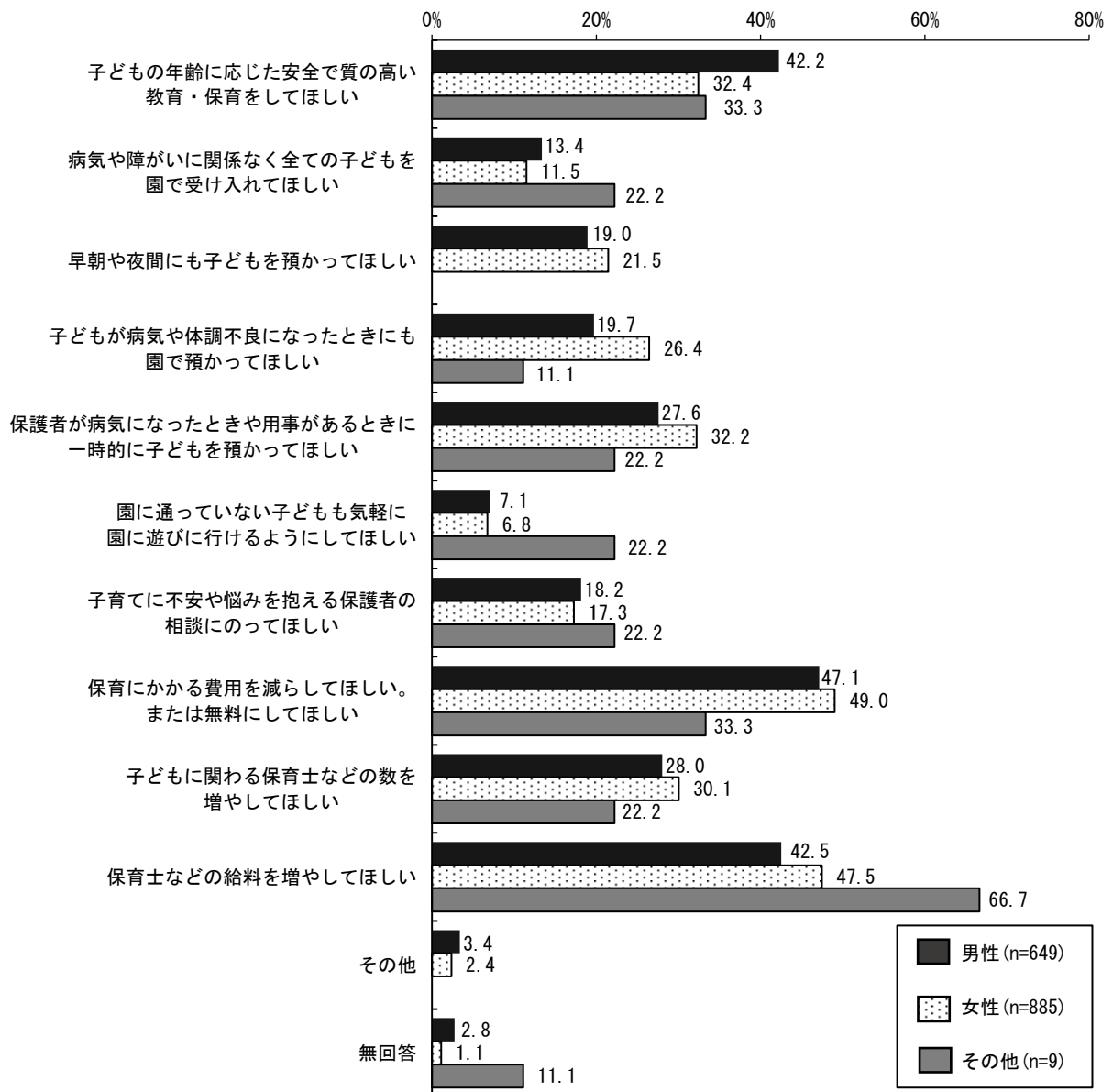
【全体】

○「保育にかかる費用を減らしてほしい。または無料にしてほしい」が 47.9%と最も高く、次いで「保育士などの給料を増やしてほしい」(45.4%)、「子どもの年齢に応じた安全で質の高い教育・保育をしてほしい」(36.5%)と続いている。



【性別】

- 男女ともに、「保育にかかる費用を減らしてほしい。または無料にしてほしい」が最も高くなっている。
- 2番目、3番目も男女ともに「保育士などの給料を増やしてほしい」、「子どもの年齢に応じた安全で質の高い教育・保育をしてほしい」の順となっている。

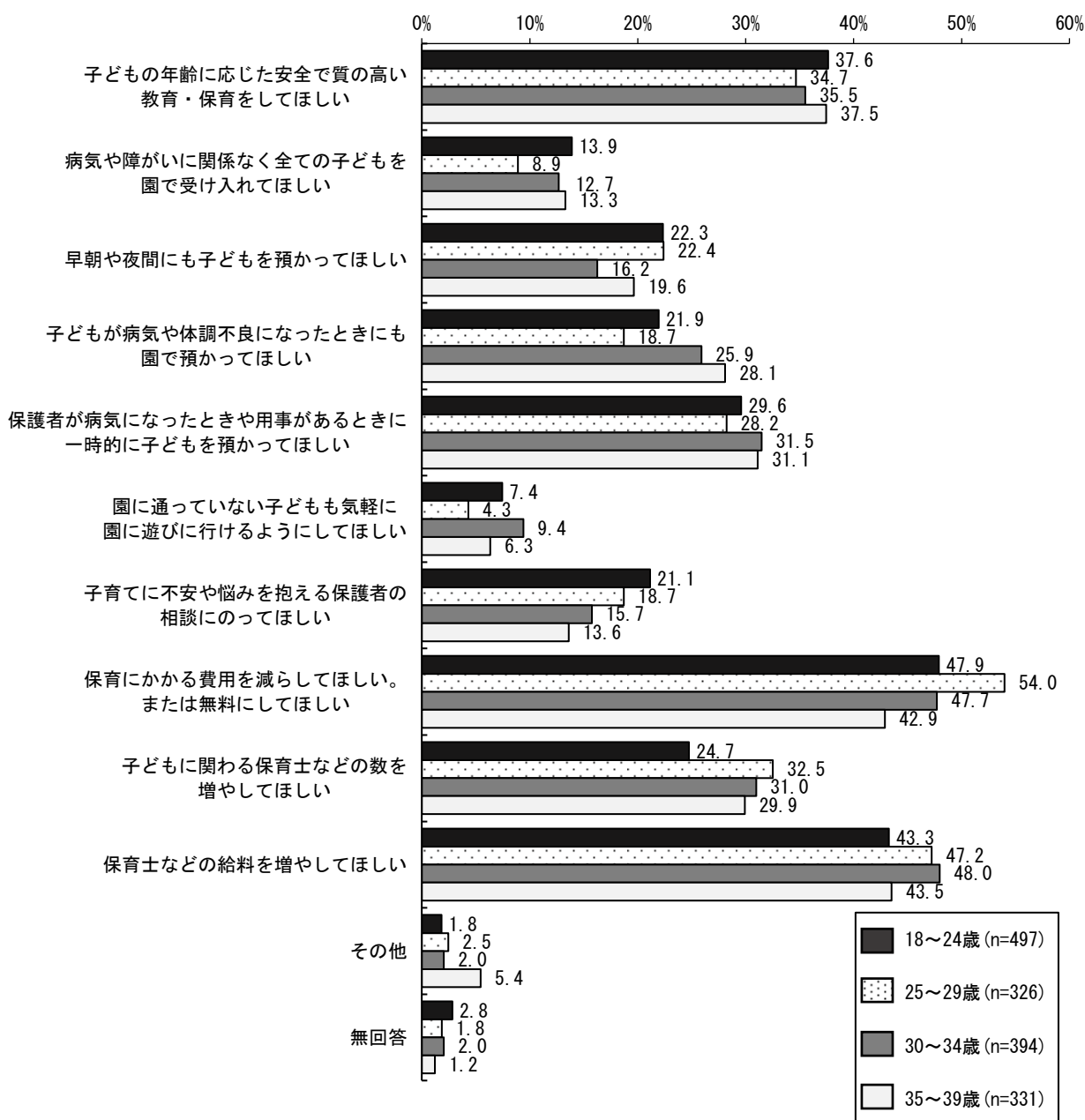


【年代別】

○18歳～24歳及び25～29歳では、「保育にかかる費用を減らしてほしい。または無料にしてほしい」が最も高くなっており、30歳～34歳及び35歳～39歳では「保育士などの給料を増やしてほしい」が最も高い。

○2番目は、18歳～24歳及び25～29歳では、「保育士などの給料を増やしてほしい」、30歳～34歳及び35歳～39歳では「保育にかかる費用を減らしてほしい。または無料にしてほしい」となっている。

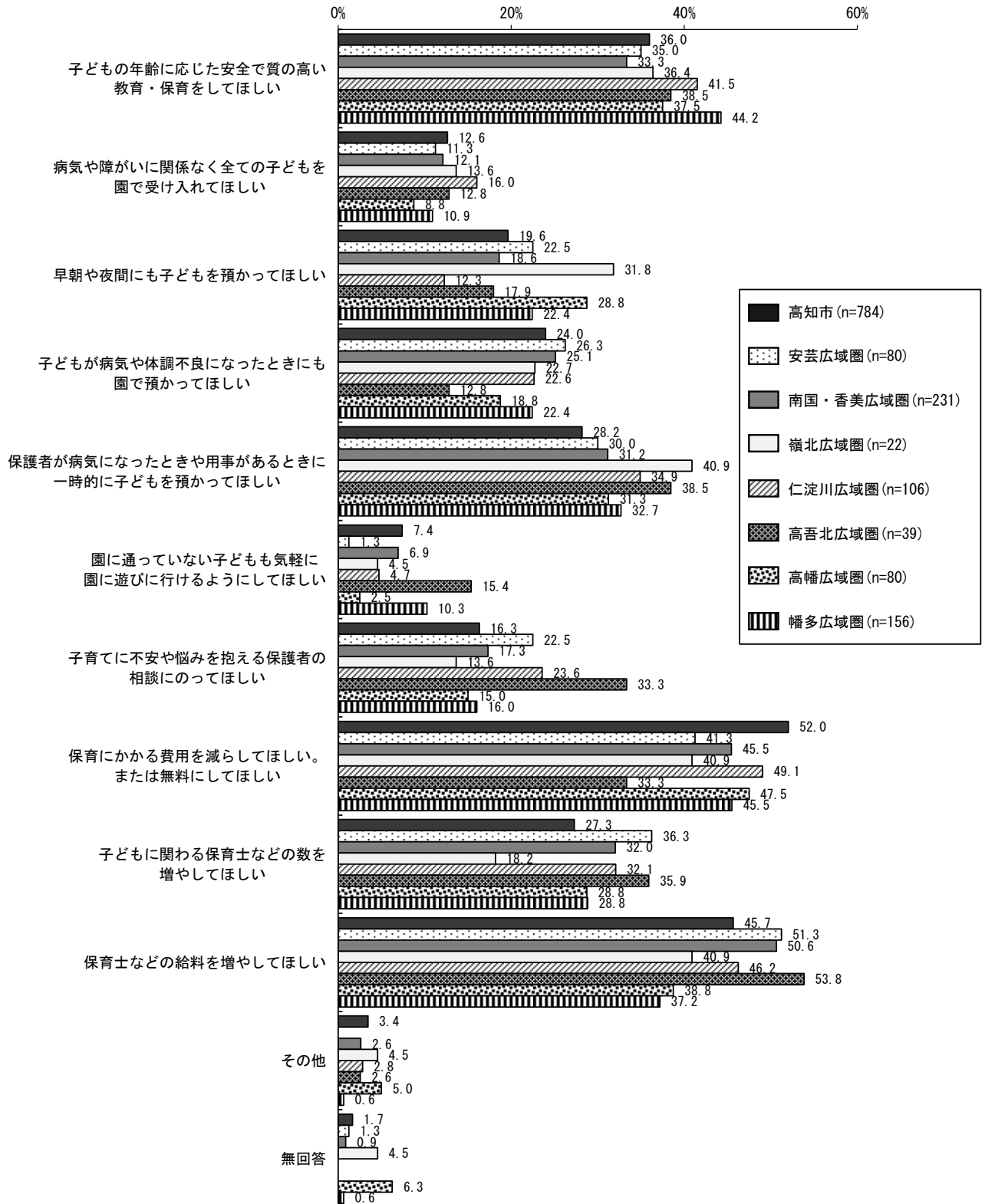
○3番目は、いずれの年代も「子どもの年齢に応じた安全で質の高い教育・保育をしてほしい」となっている。



【地域別】

○安芸広域圏、南国・香美広域圏、嶺北広域圏及び高吾北広域圏においては、「保育士などの給料を増やしてほしい」が最も高くなっている（嶺北広域圏では、「保護者が病気になったときや用事があるときに一時的に子どもを預かってほしい」、「保育にかかる費用を減らしてほしい。または無料にしてほしい」も同率）。

○高知市、仁淀川広域圏、高幡広域圏及び幡多広域圏は、「保育にかかる費用を減らしてほしい。または無料にしてほしい」が最も高くなっている。

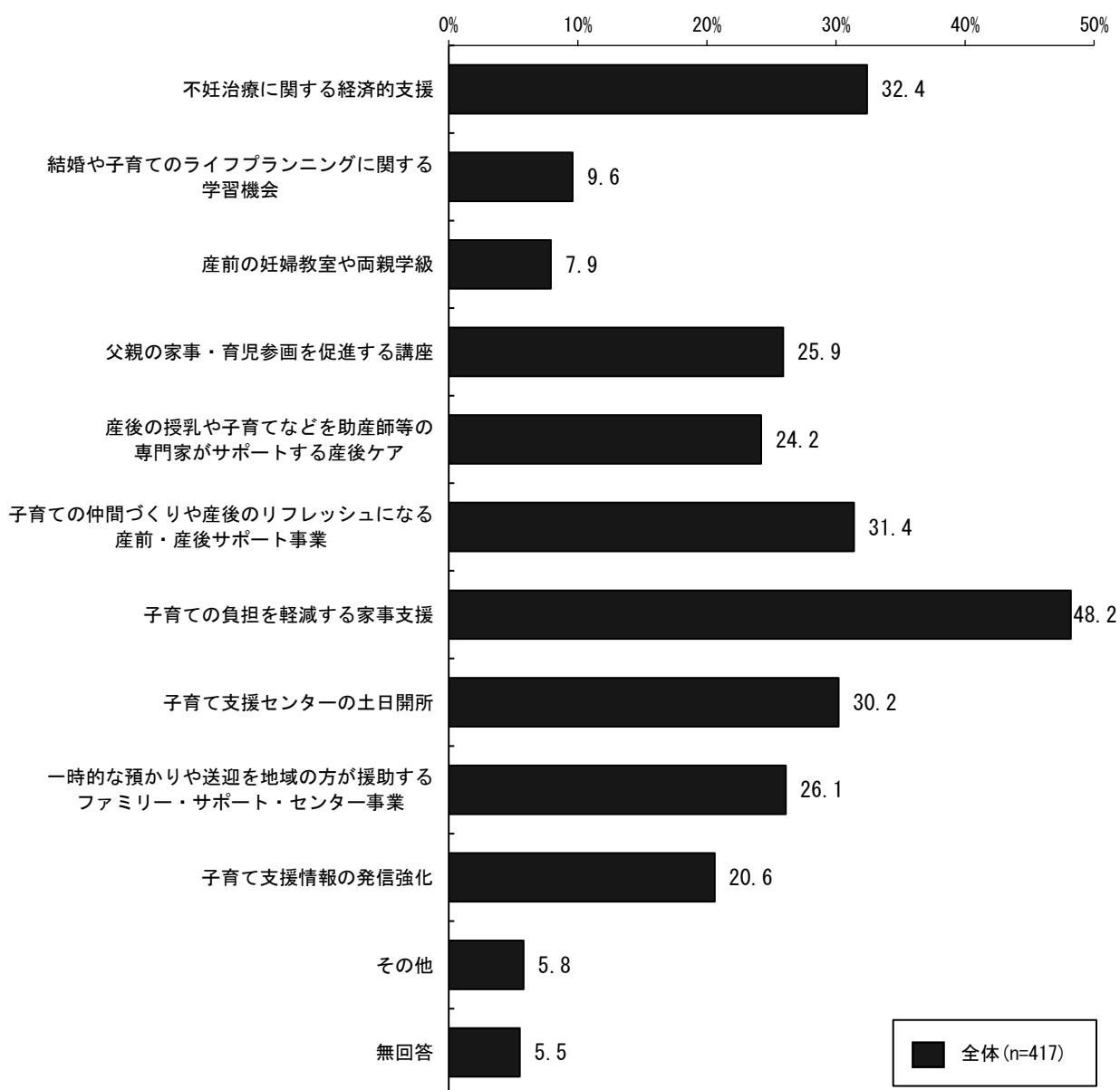


問 17 現在、子育て中の方のみお答えください。

妊娠に向けた支援から乳幼児期の子育て支援に関する下記の取り組みのうち、今後、もっと充実してほしい取り組みについて、あなたの考えに近いものを、3つお選びください。(○印は3つまで)

【全体】

○「子育ての負担を軽減する家事支援」が 48.2%と最も高く、次いで「不妊治療に関する経済的支援」(32.4%)、「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」(31.4%)と続いている。

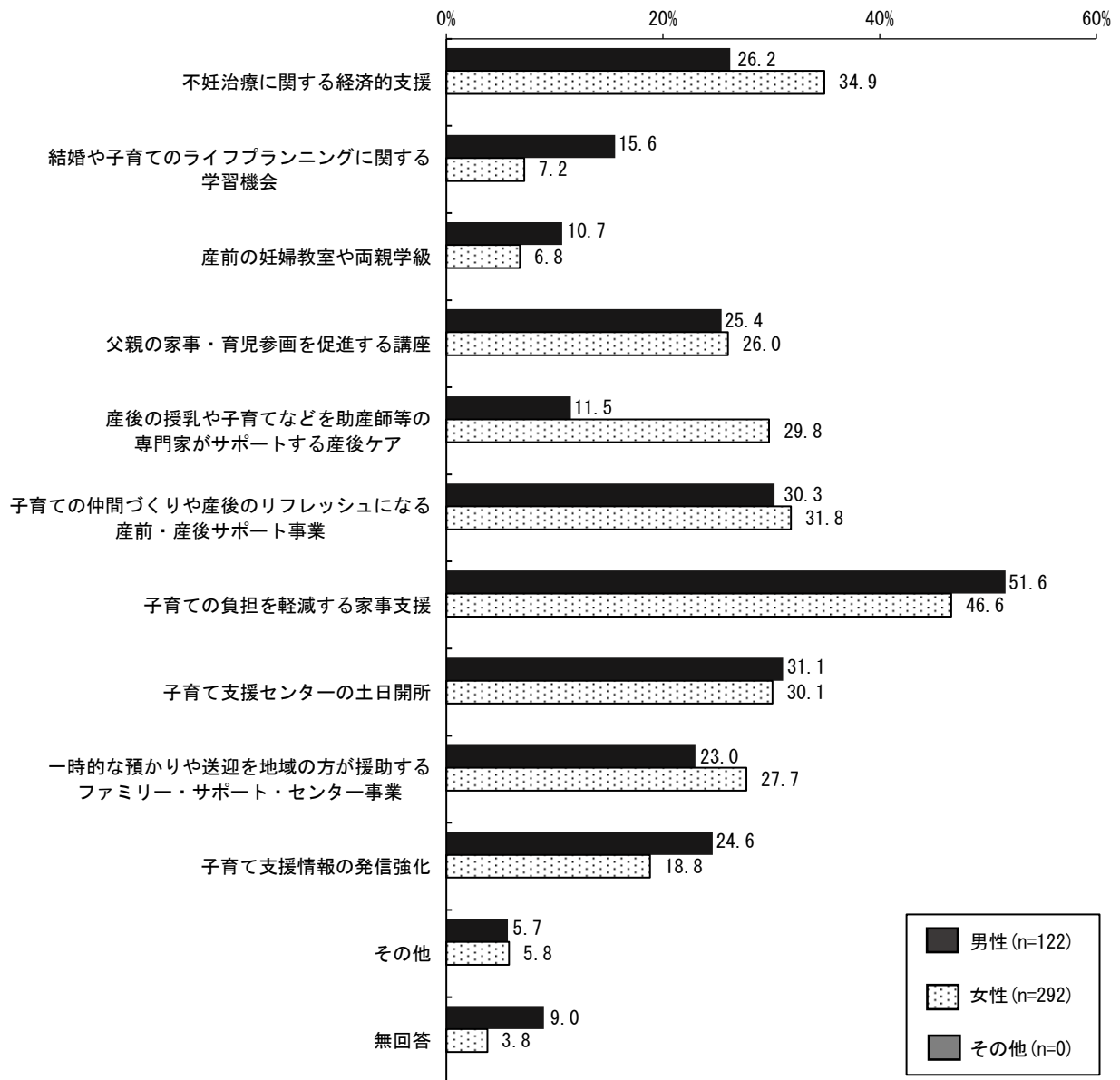


【性別】

○男女ともに、「子育ての負担を軽減する家事支援」が最も高くなっている。

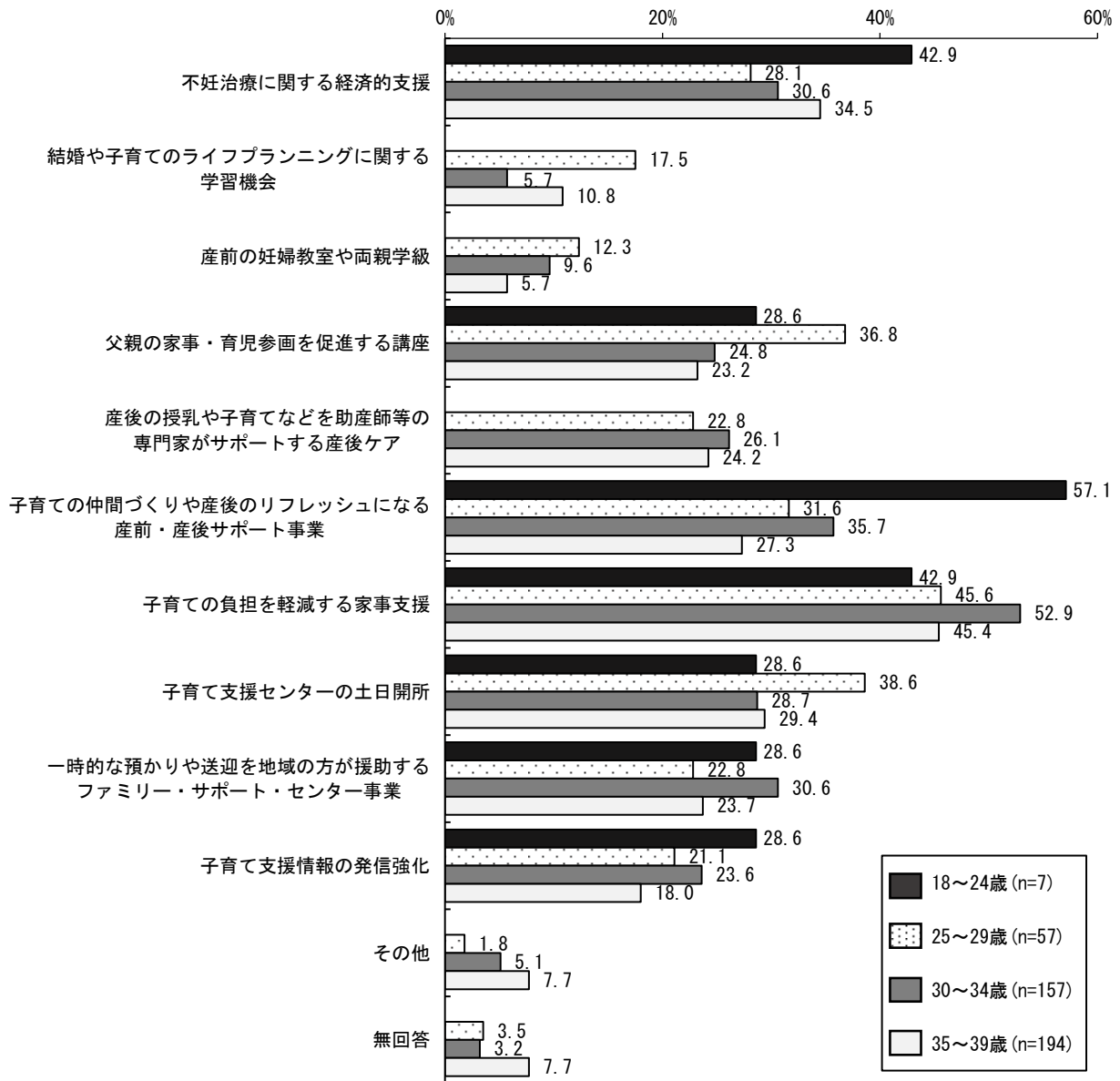
○2 番目は、男性が「子育て支援センターの土日開所」、女性は「不妊治療に関する経済的支援」となっている。

○3 番目は、男女ともに「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」となっている。



【年代別】

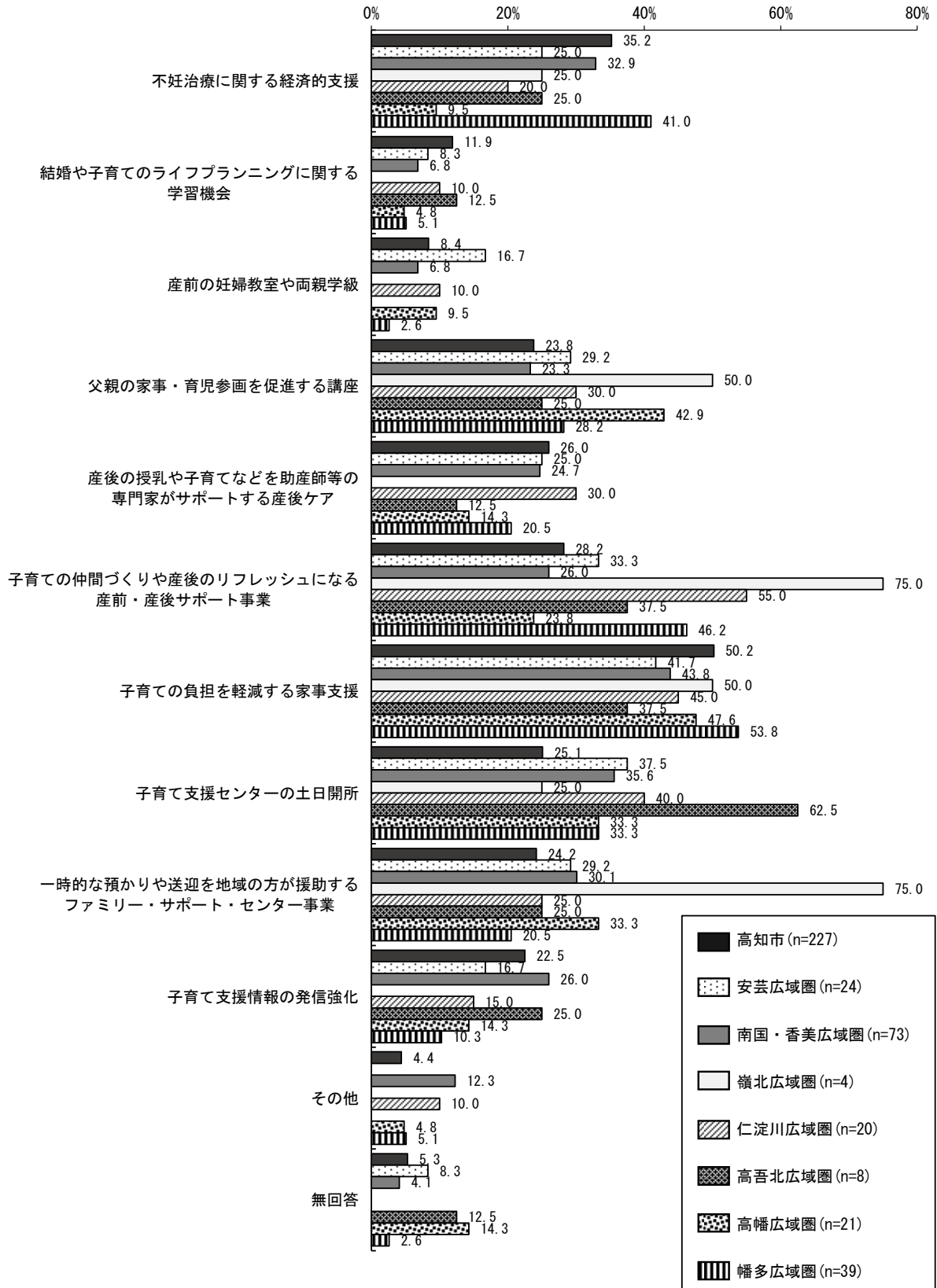
- 18 歳～24 歳は、「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」が最も高くなっており、そのほかの年代は「子育ての負担を軽減する家事支援」が最も高い。
- 2 番目は、18 歳～24 歳が「不妊治療に関する経済的支援」及び「子育ての負担を軽減する家事支援」、25 歳～29 歳では「子育て支援センターの土日開所」、30 歳～34 歳は「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」、35 歳～39 歳は「不妊治療に関する経済的支援」となっている。



【地域別】

○サンプル数は少ないものの、嶺北広域圏及び仁淀川広域圏においては、「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」が最も高くなっている（嶺北広域圏は、「一時的な預かりや送迎を地域の方が援助するファミリー・サポート・センター事業」も同率）。

○高吾北広域圏もサンプル数は多くないが、「子育て支援センターの土日開所」が最も高く、そのほかの地域では「子育ての負担を軽減する家事支援」が最も高い結果となっている。

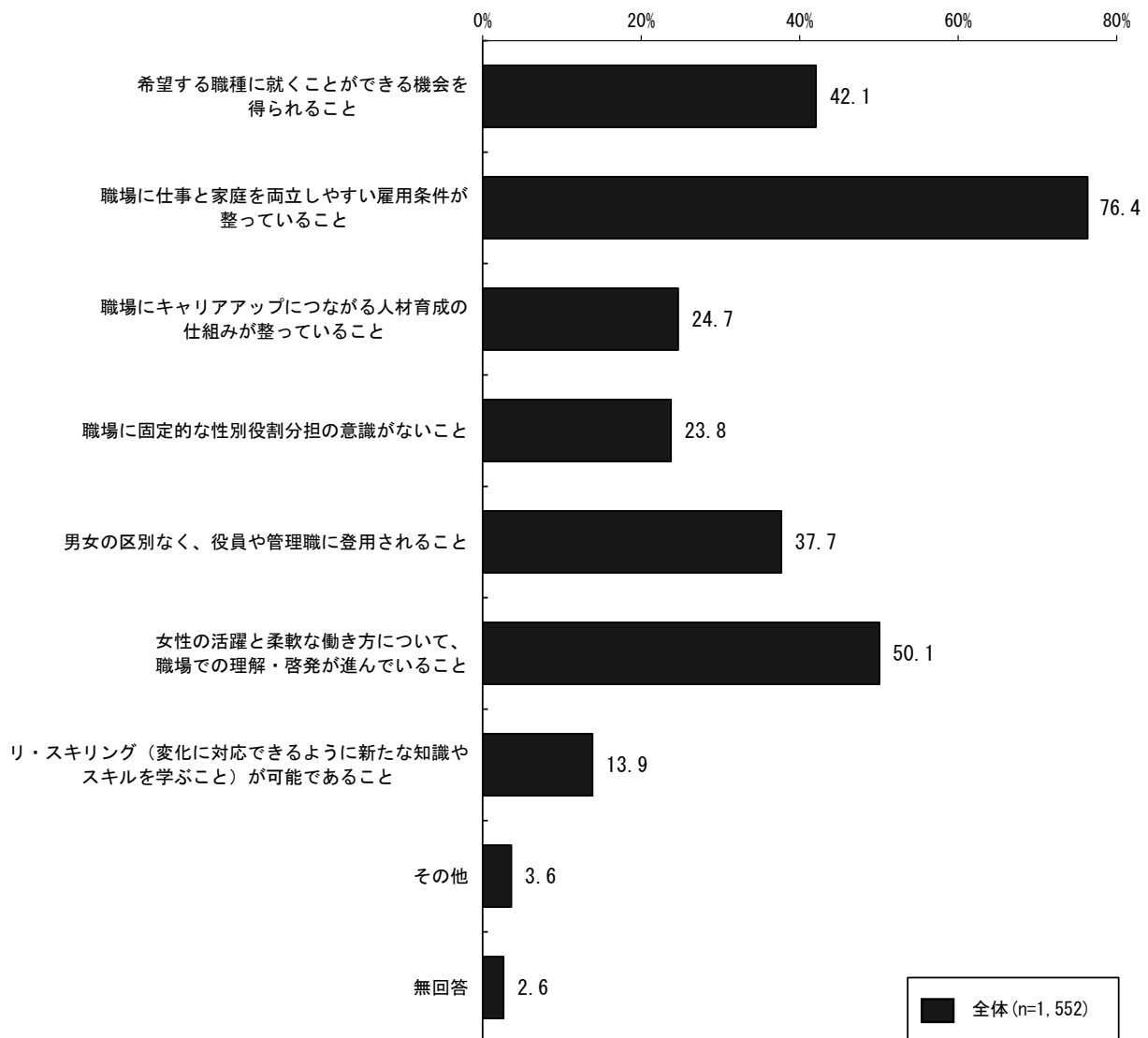


5 女性の活躍とワークライフバランスについて

問 18 女性が職場で活躍していくために、必要だと思うものは何ですか。あなたの考えに近いものを、3つお選びください。(○印は3つまで)

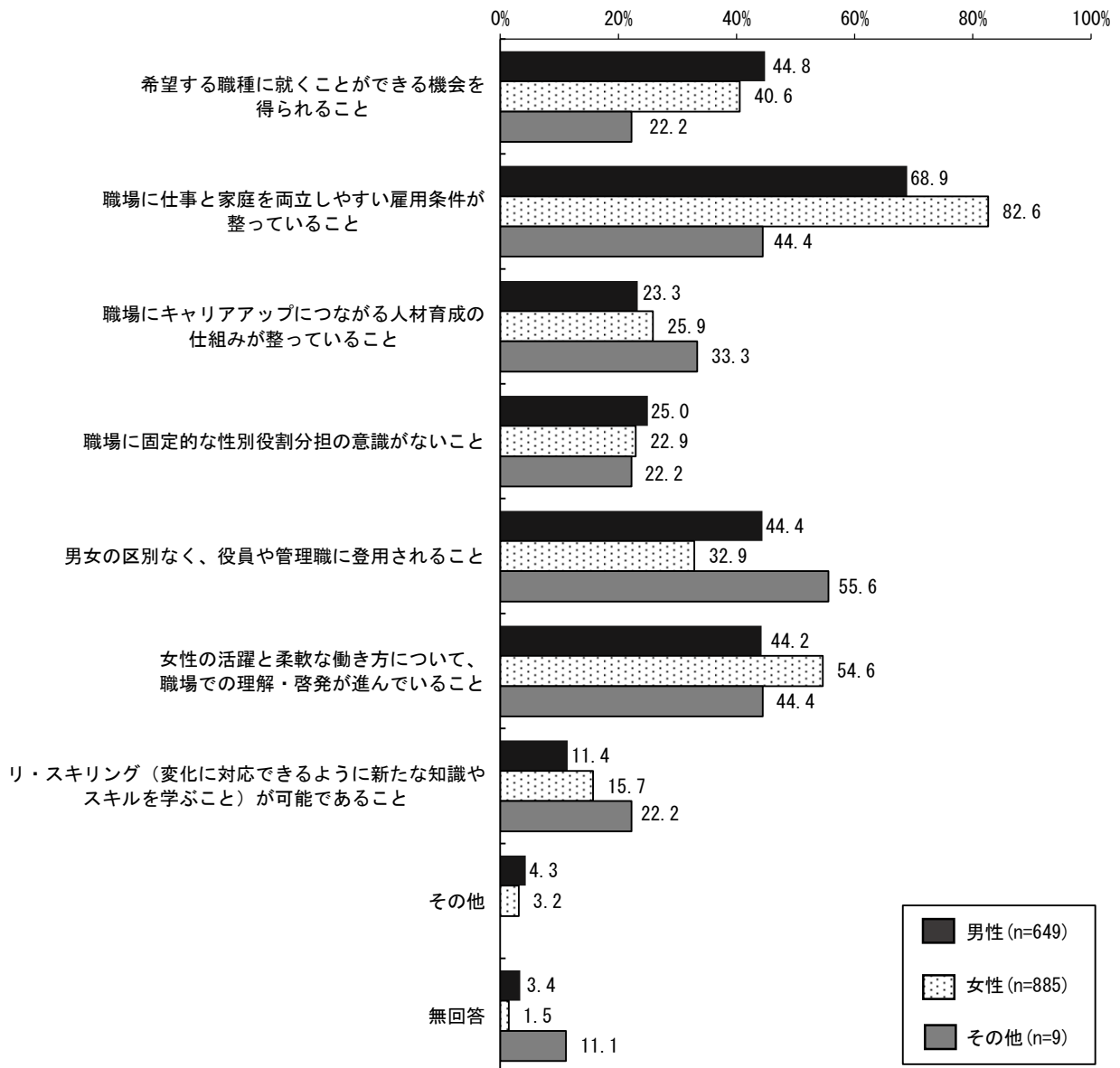
【全体】

○「職場に仕事と家庭を両立しやすい雇用条件が整っていること」が76.4%と最も高く、次いで「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」(50.1%)、「希望する職種に就くことができる機会を得られること」(42.1%)と続いている。



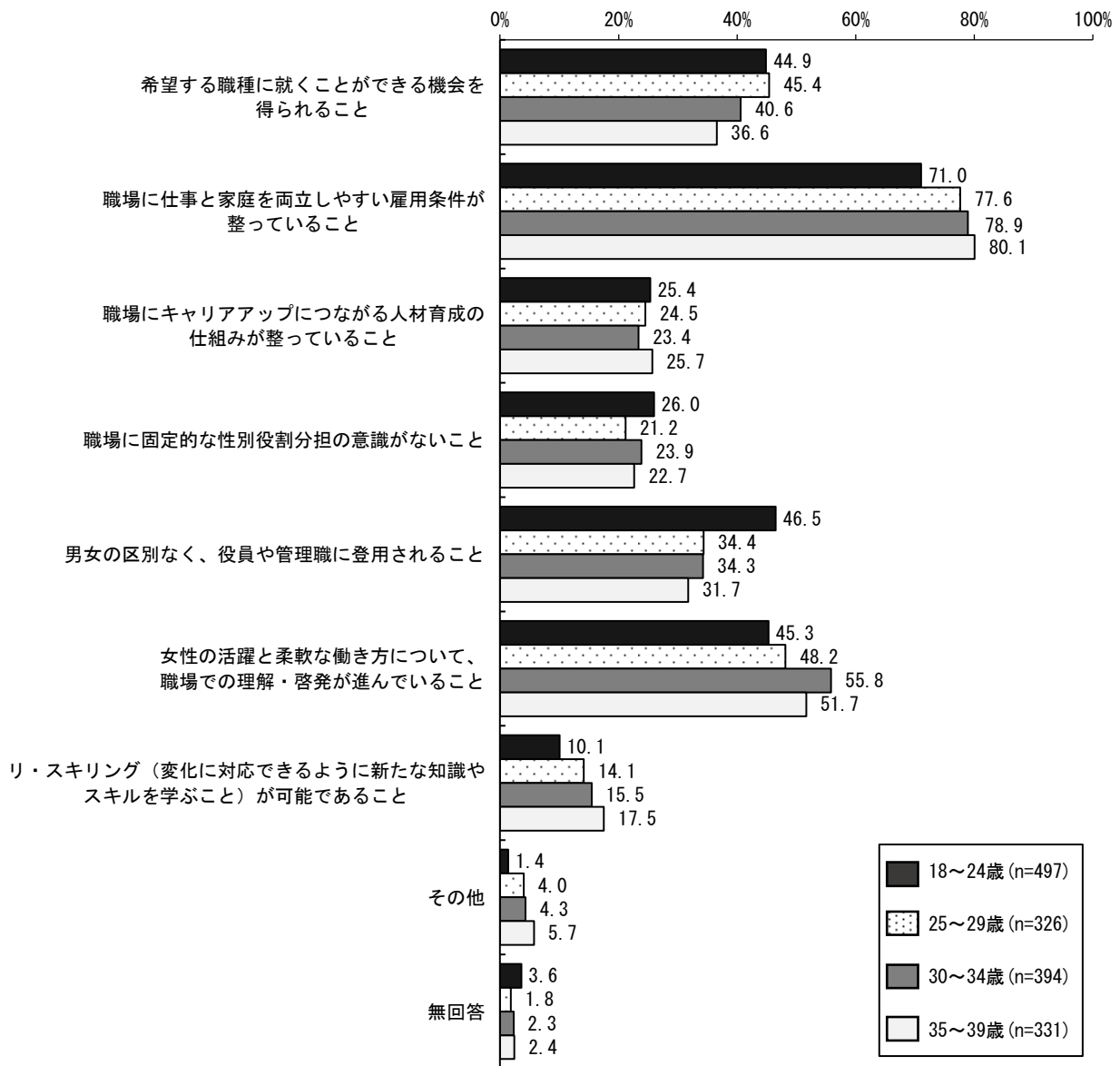
【性別】

- 男女ともに、「職場に仕事と家庭を両立しやすい雇用条件が整っていること」が最も高くなっている。
- 2 番目は、男性が「希望する職種に就くことができる機会を得られること」、女性は、「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」となっている。
- 3 番目は、男性が「男女の区別なく、役員や管理職に登用されること」、女性は、「希望する職種に就くことができる機会を得られること」となっている。



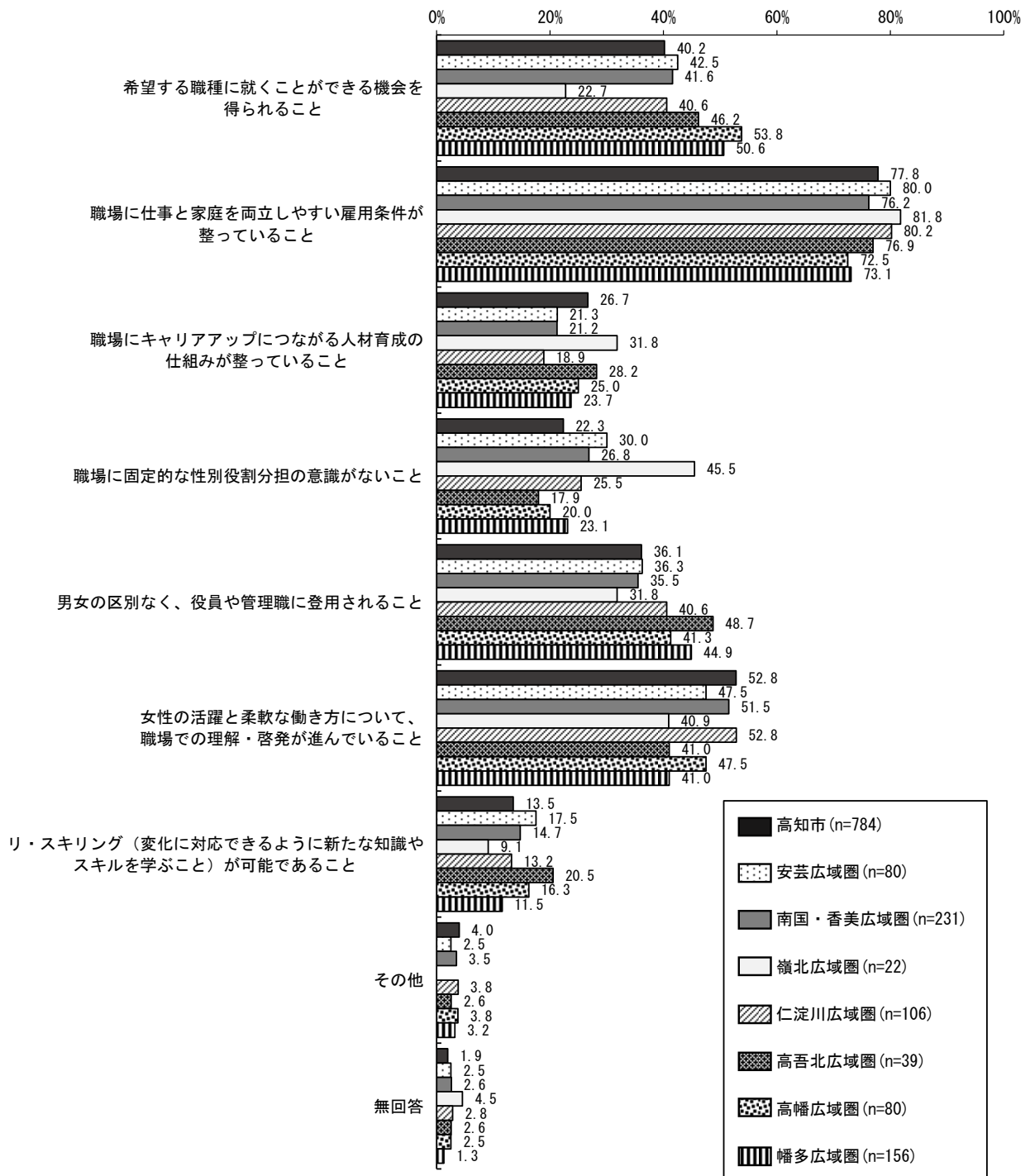
【年代別】

- いずれの年代も、「職場に仕事と家庭を両立しやすい雇用条件が整っていること」が最も高くなっている。
- 2番目は、18歳～24歳のみ「男女の区別なく、役員や管理職に登用されること」となっているが、そのほかの年齢層は、「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」となっている。



【地域別】

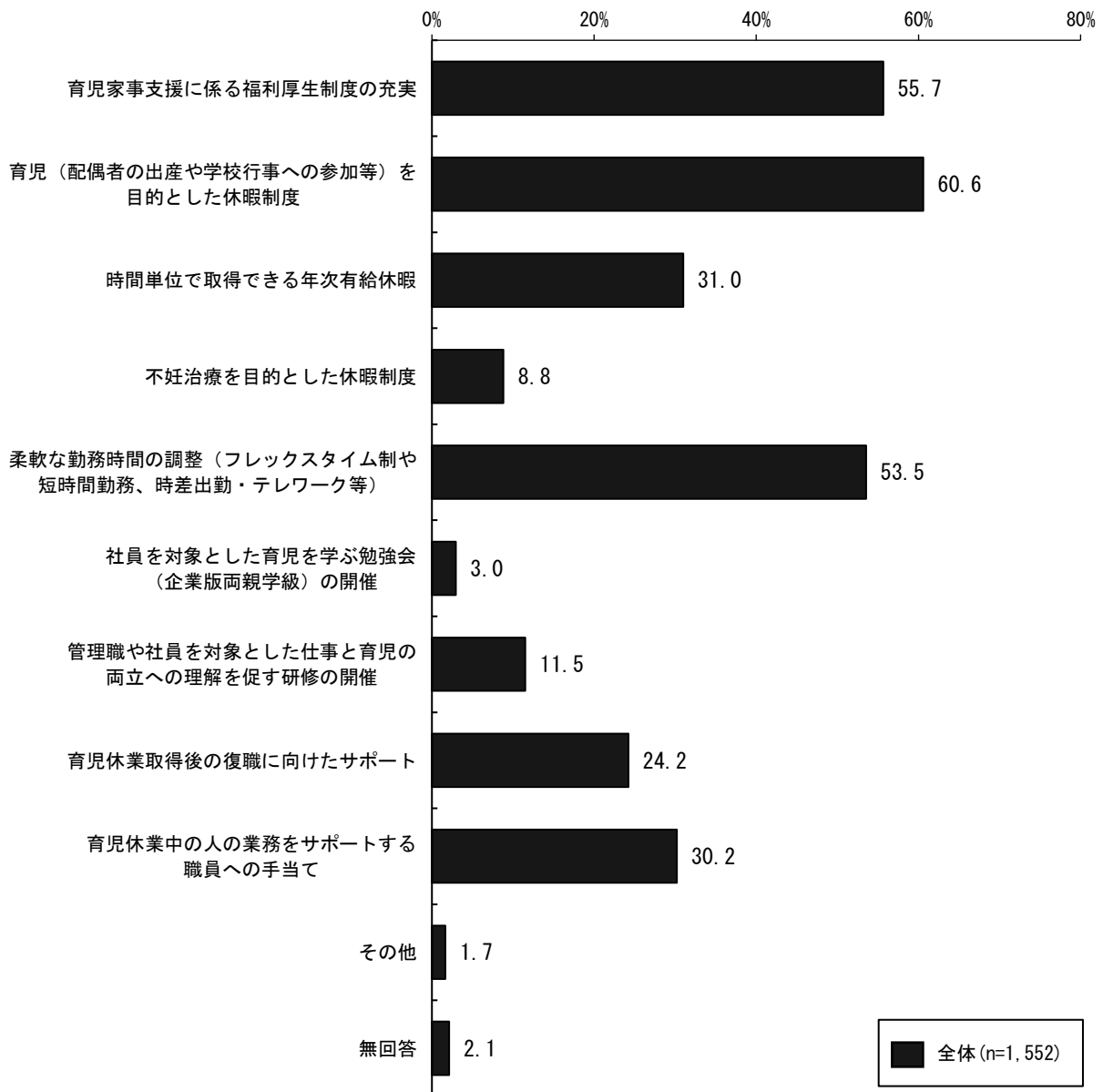
- すべての地域で、「職場に仕事と家庭を両立しやすい雇用条件が整っていること」が最も高くなっている。
- 2 番目は、高知市、安芸広域圏、南国・香美広域圏及び仁淀川広域圏では「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」、嶺北広域圏では「職場に固定的な性別役割分担の意識がないこと」、高吾北広域圏では「男女の区別なく、役員や管理職に登用されること」、高幡広域圏及び幡多広域圏では「希望する職種に就くことができる機会を得られること」となっている。



問 19 男女を問わず、働きながら子育てしやすい職場環境づくりのために、職場にどんな支援があると良いと思いますか。あなたの考えに近いものを、3つお選びください。(○印は3つまで)

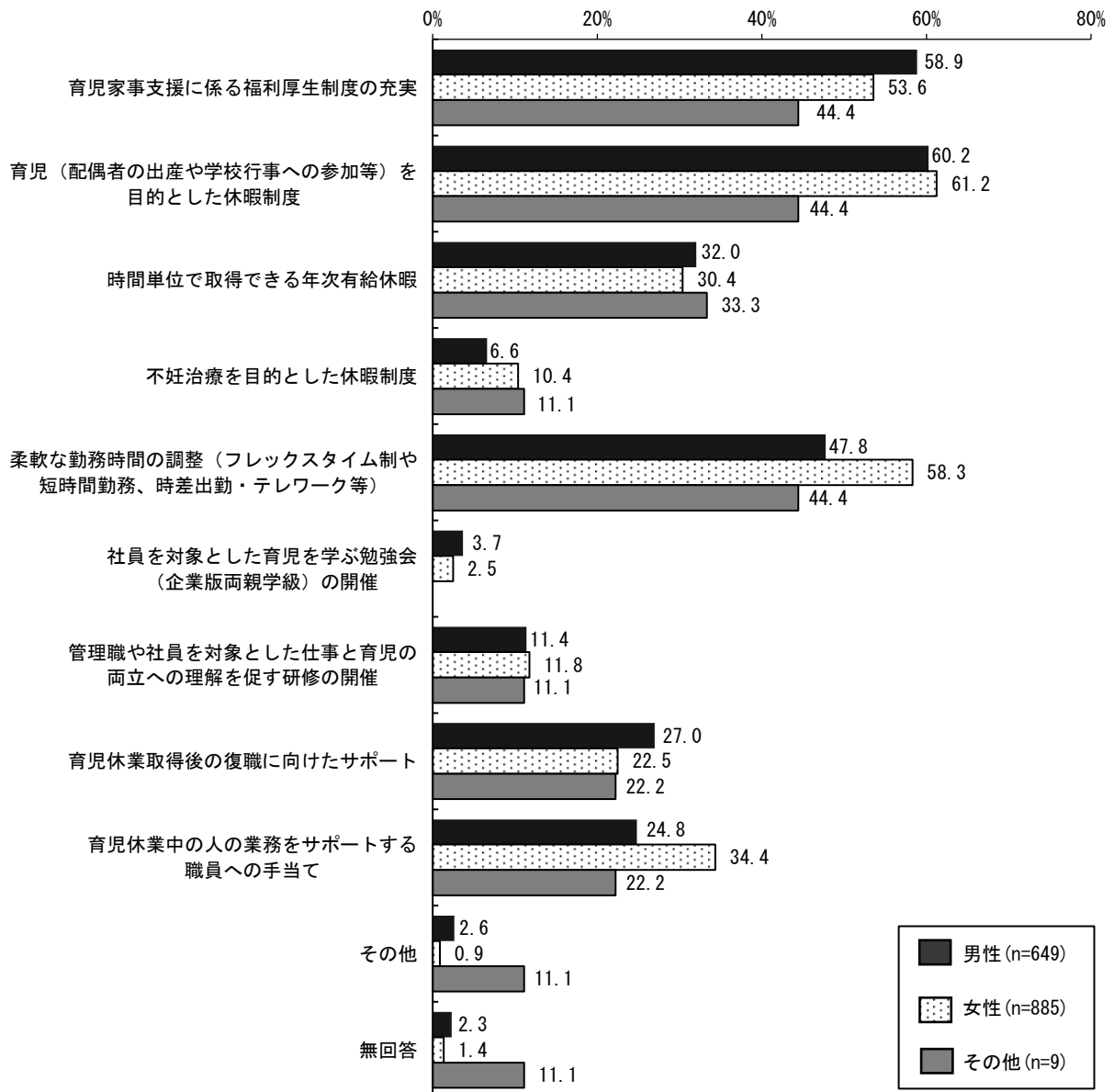
【全体】

○「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」が 60.6%と最も高く、次いで「育児家事支援に係る福利厚生制度の充実」（55.7%）、「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤・テレワーク等）」（53.5%）と続いている。



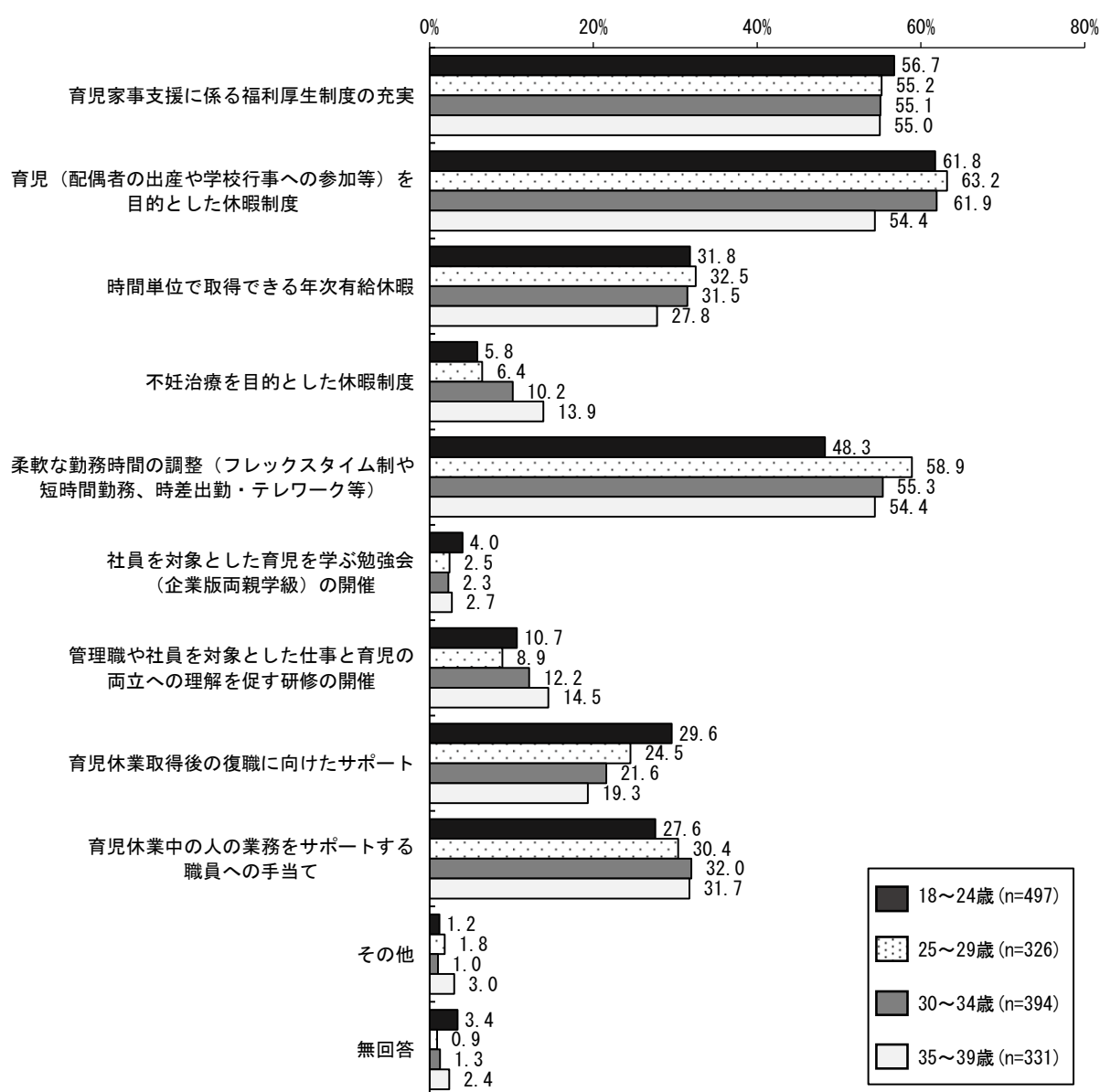
【性別】

- 男女ともに、「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」が最も高くなっている。
- 2 番目は、男性が「育児家事支援に係る福利厚生制度の充実」、女性は、「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤・テレワーク等）」となっている。
- 3 番目は、男性が「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤・テレワーク等）」、女性は、「育児家事支援に係る福利厚生制度の充実」となっている。



【年代別】

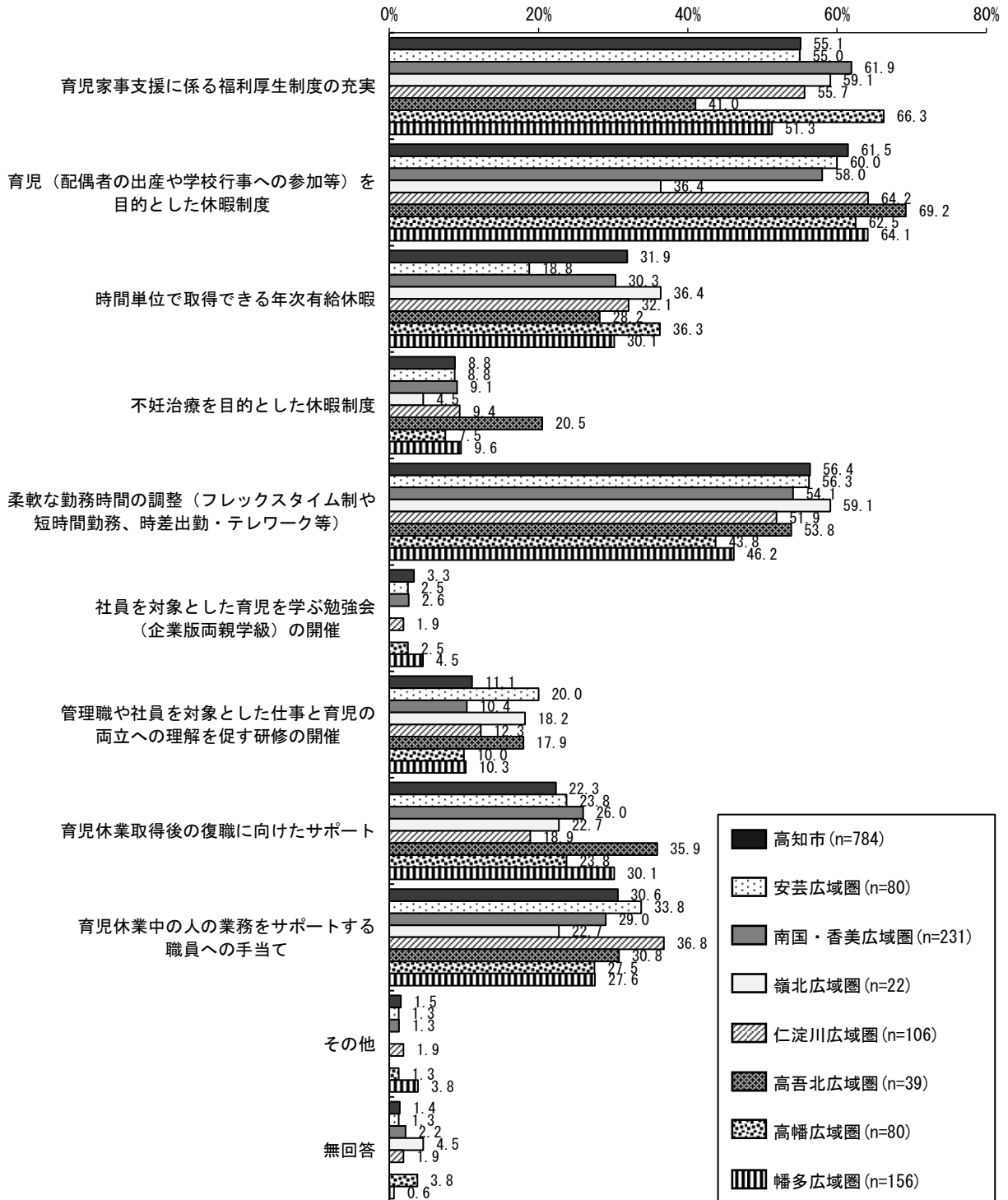
- 35歳～39歳は、「育児家事支援に係る福利厚生制度の充実」が最も高く、そのほかの年齢層は、「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」が最も高くなっている。
- 2番目は、18歳～24歳が、「育児家事支援に係る福利厚生制度の充実」、25歳～29歳及び30歳～34歳が、「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤・テレワーク等）」、35歳～39歳が、「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」及び「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤・テレワーク等）」が同率となっている。



【地域別】

○高知市、安芸広域圏、仁淀川広域圏、高吾北広域圏及び幡多広域圏は、「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」、南国・香美広域圏、嶺北広域圏及び高幡広域圏は、「育児家事支援に係る福利厚生制度の充実」が最も高くなっている。

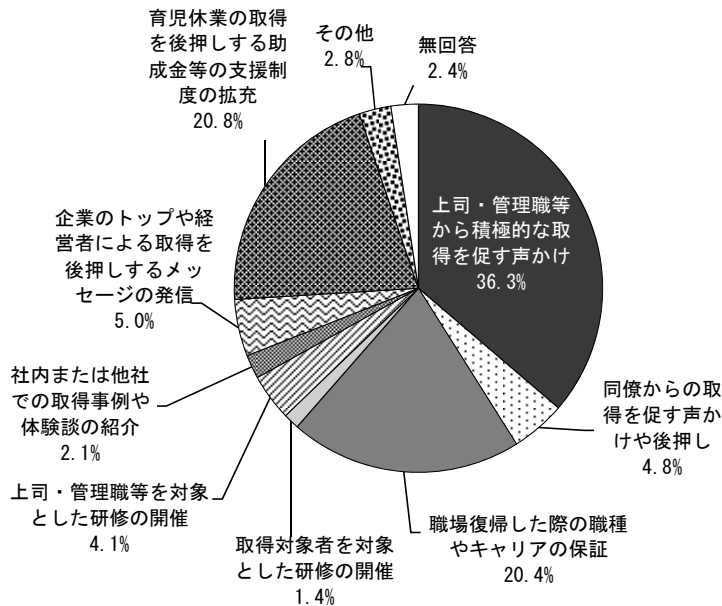
○2番目は、高知市、安芸広域圏、嶺北広域圏及び高吾北広域圏が、「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤・テレワーク等）」、南国・香美広域圏及び高幡広域圏が、「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」、仁淀川広域圏及び幡多広域圏が、「育児家事支援に係る福利厚生制度の充実」となっている。



問 20 男性の育児休業取得率を向上させるために、職場でどのような支援があれば良いと思いますか。あなたの考えに近いものを、1つお選びください。(1つだけ○印)

【全体】

○「上司・管理職等から積極的な取得を促す声かけ」が 36.3%と最も高く、次いで「育児休業の取得を後押しする助成金等の支援制度の拡充」(20.8%)、「職場復帰した際の職種やキャリアの保証」(20.4%)と続いている。



【性別】

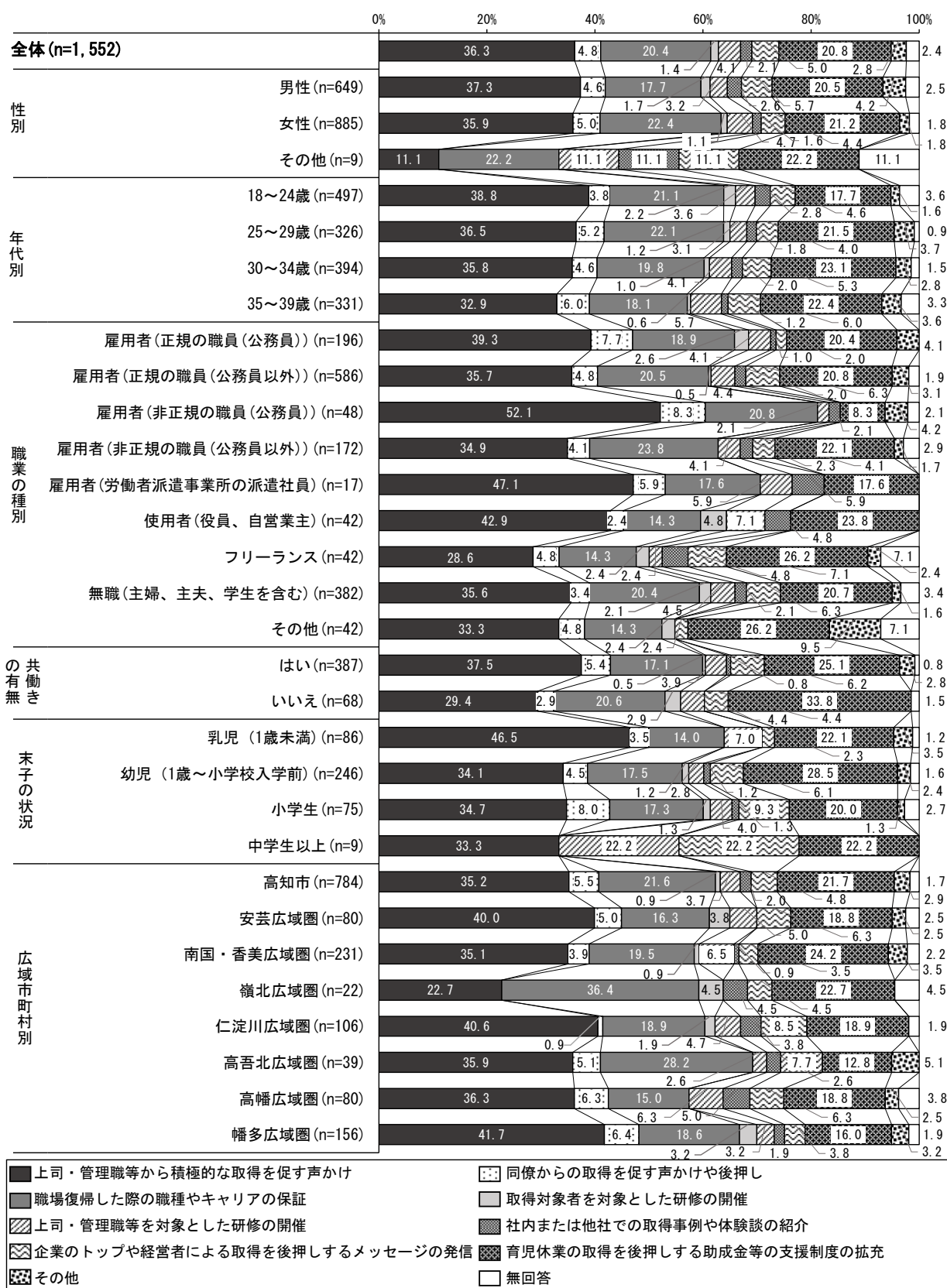
- 男女ともに、「上司・管理職等から積極的な取得を促す声かけ」が最も高くなっている。
- 2 番目は、男性が「育児休業の取得を後押しする助成金等の支援制度の拡充」、女性は、「職場復帰した際の職種やキャリアの保証」となっている。
- 3 番目は、男性が「職場復帰した際の職種やキャリアの保証」、女性は、「育児休業の取得を後押しする助成金等の支援制度の拡充」となっている。

【年代別】

- いずれの年代も、「上司・管理職等から積極的な取得を促す声かけ」が最も高くなっている。
- 2 番目は、18 歳～24 歳及び 25～29 歳が、「職場復帰した際の職種やキャリアの保証」、30 歳～34 歳及び 35 歳～39 歳が、「育児休業の取得を後押しする助成金等の支援制度の拡充」となっている。

【地域別】

- 嶺北広域圏では、「職場復帰した際の職種やキャリアの保証」が最も高く、そのほかの地域は、「上司・管理職等から積極的な取得を促す声かけ」が最も高くなっている。
- 2 番目は、仁淀川広域圏、高吾北広域圏及び幡多広域圏が、「職場復帰した際の職種やキャリアの保証」(仁淀川広域圏は「育児休業の取得を後押しする助成金等の支援制度の拡充」も同率)、そのほかの地域は、「育児休業の取得を後押しする助成金等の支援制度の拡充」となっている(嶺北広域圏は「上司・管理職等から積極的な取得を促す声かけ」も同率)。

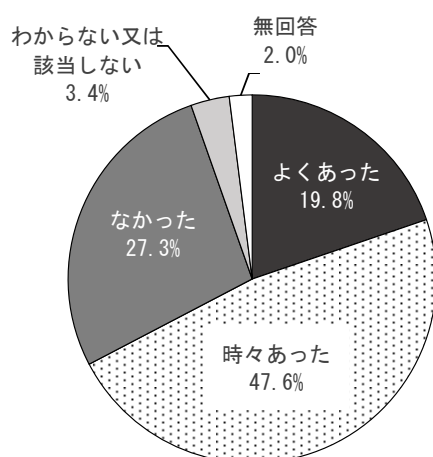


問 21 「男性は仕事、女性は家庭」等のように、個人の能力ではなく性別を理由に役割を分ける性別役割分担意識について、あなたの経験にあてはまるものをお選びください。(それぞれの項目であてはまるものに1つだけ○印)

① 小さい頃から食事や洗濯などの家事の手伝いをしている

【全体】

- 「時々あった」が47.6%と最も高く、次いで「なかった」(27.3%)、「よくあった」(19.8%)と続いている。
- “あった”(「よくあった」または「時々あった」と回答した方)は、67.3%となっている。



【性別】

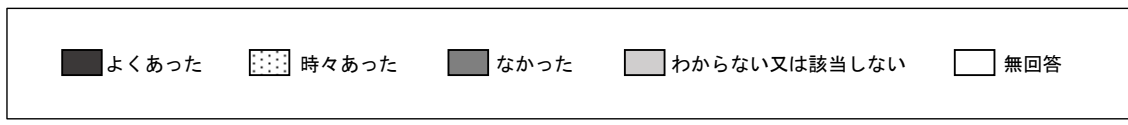
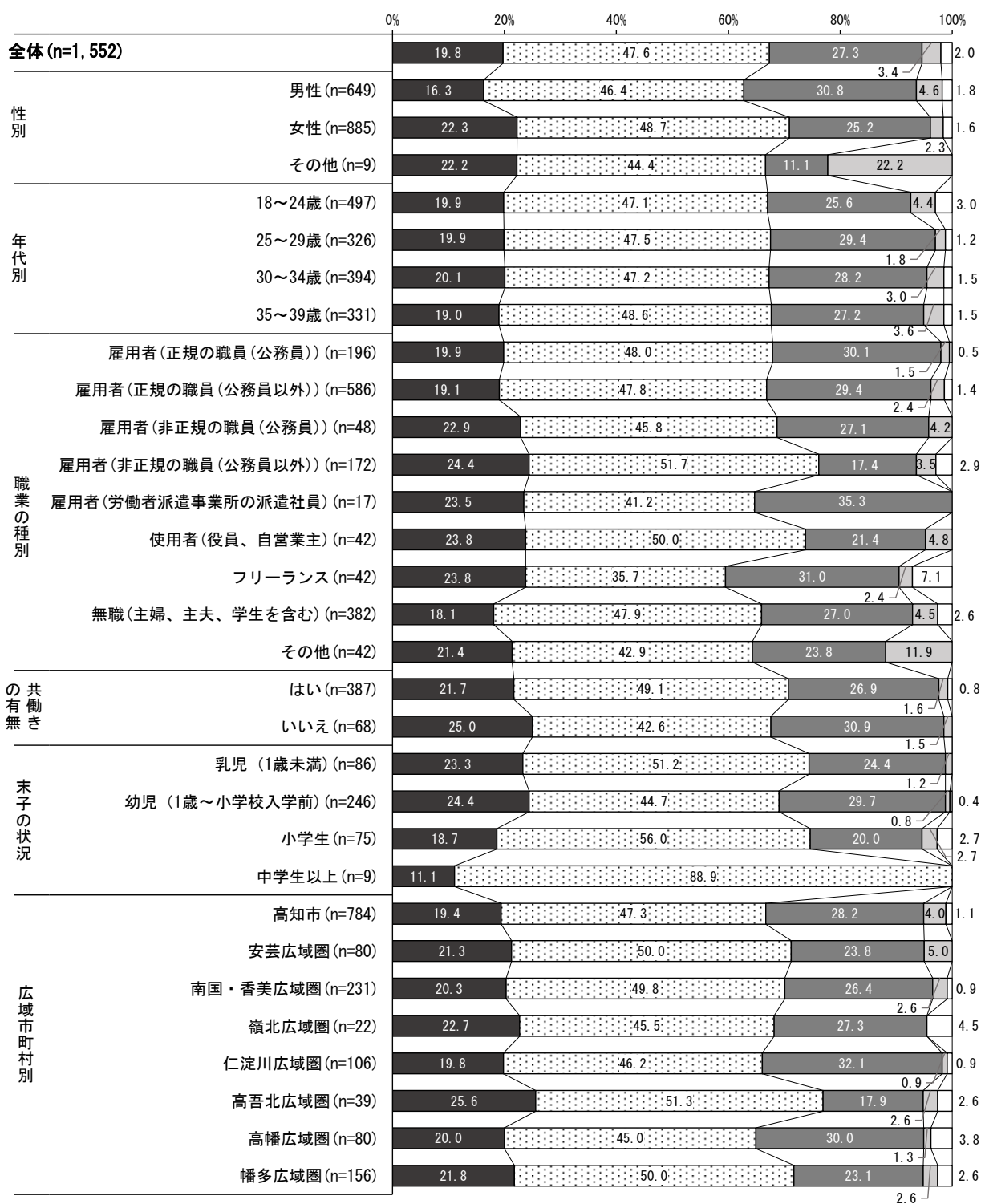
- 男女ともに、「時々あった」が最も高くなっており、“あった”は女性が7割を超えている。

【年代別】

- いずれの年代も、「時々あった」が最も高くなっている。

【地域別】

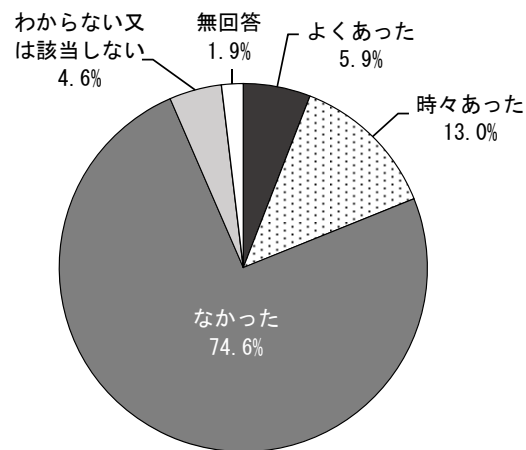
- すべての地域で、「時々あった」が最も高く、安芸広域圏、高吾北広域圏及び幡多広域圏では50%以上となっている。



② 親や親戚などから進学先について反対されたり制限されたりする

【全体】

- 「なかった」が74.6%と最も高く、次いで「時々あった」(13.0%)、「よくあった」(5.9%)と続いている。
- “あった”（「よくあった」または「時々あった」と回答した方）は、18.9%となっている。



【性別】

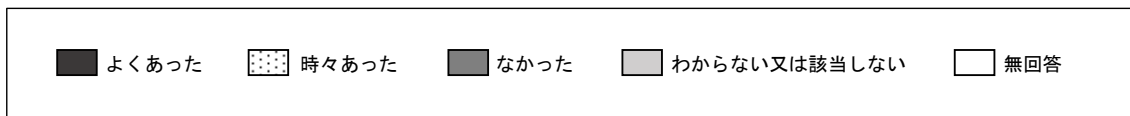
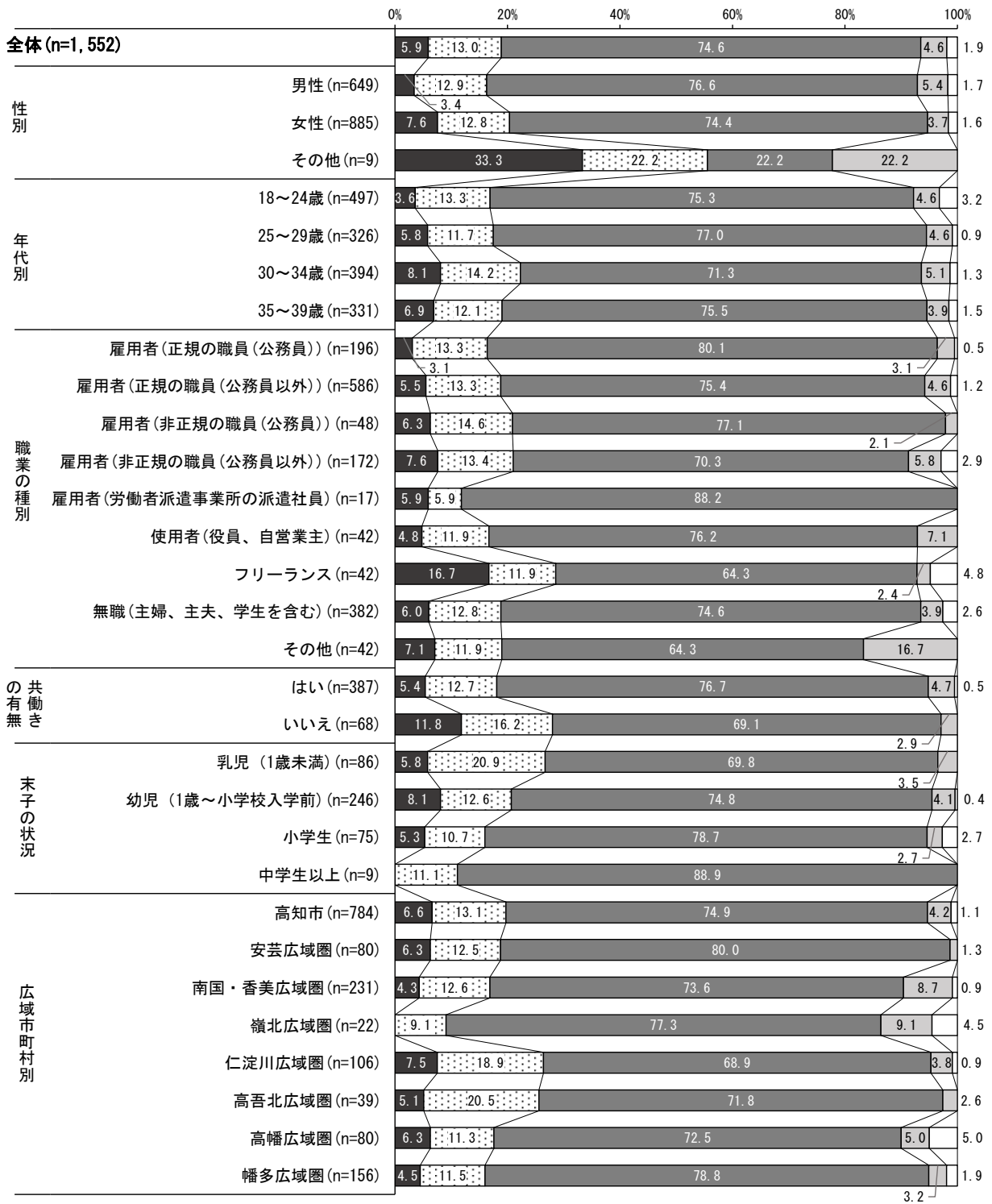
- 男女ともに、「なかった」が最も高くなっている。

【年代別】

- いずれの年代も、「なかった」が最も高くなっている。

【地域別】

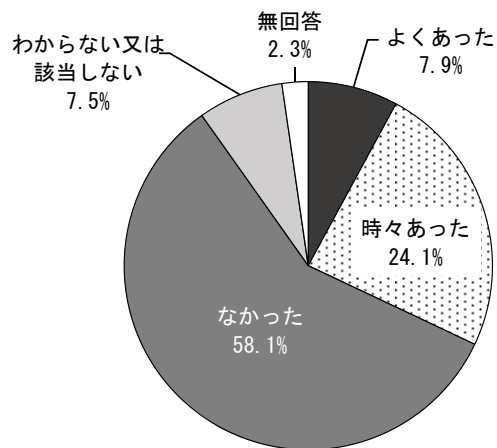
- すべての地域で、「なかった」が最も高くなっている。



③ 親戚や地域の宴会で食事の支度やお酌をする

【全体】

- 「なかった」が 58.1%と最も高く、次いで「時々あった」(24.1%)、「よくあった」(7.9%)と続いている。
- “あった”（「よくあった」または「時々あった」と回答した方）は、32.0%となっている。



【性別】

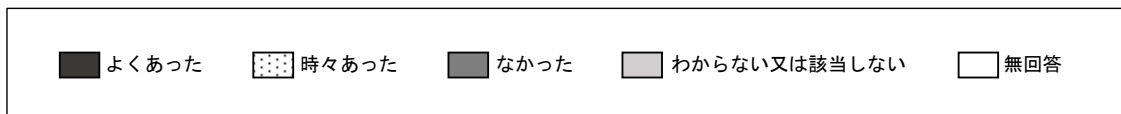
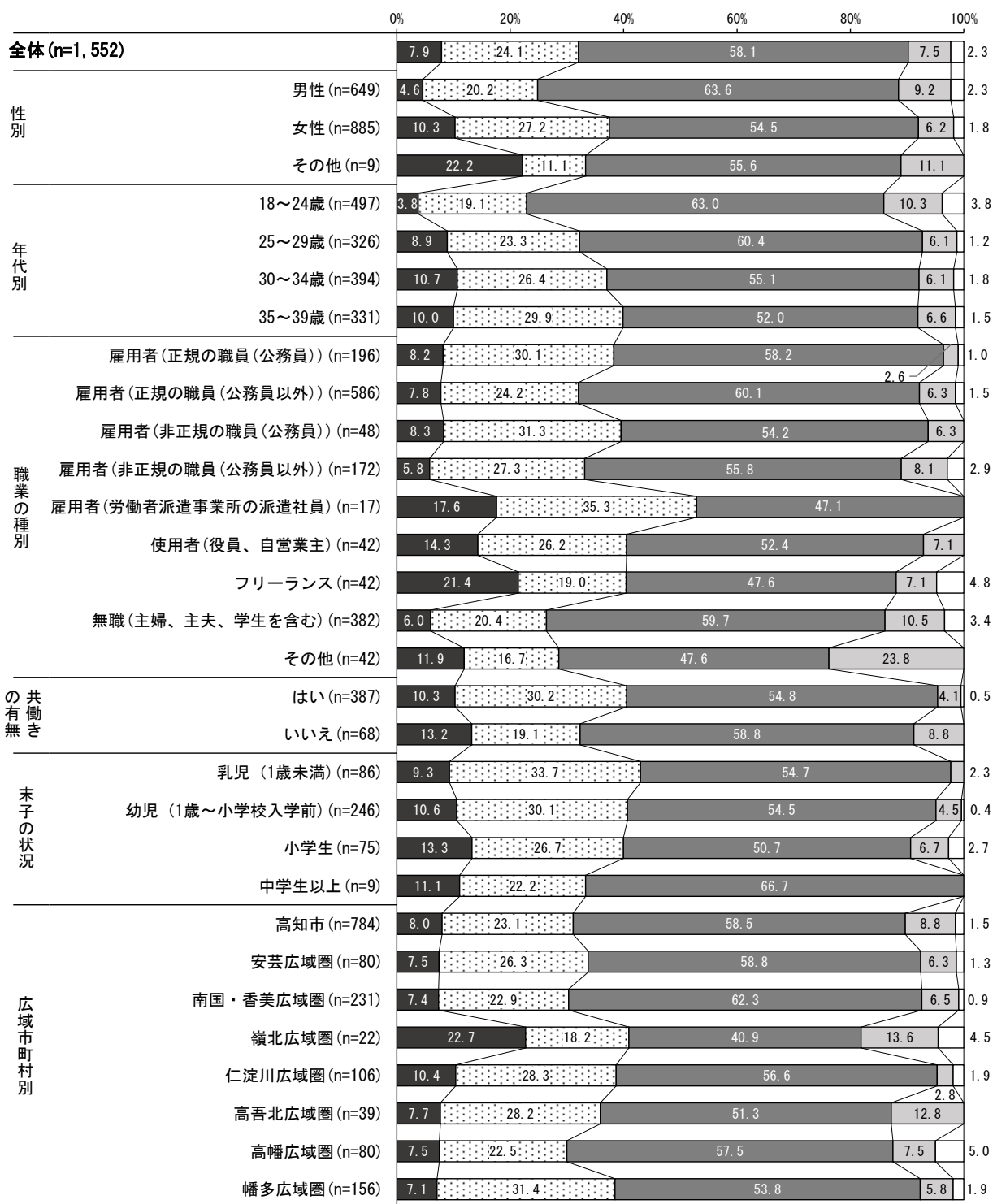
- 男女ともに、「なかった」が最も高くなっているが、その割合は、男性(63.6%)よりも女性(54.5%)のほうが9.1ポイント低くなっている。
- 女性の“あった”は、37.5%となっている。

【年代別】

- いずれの年代も、「なかった」が最も高くなっているが、その割合は年齢が上がるにつれて低くなっている。
- 35歳～39歳は、“あった”が約4割を占めている。

【地域別】

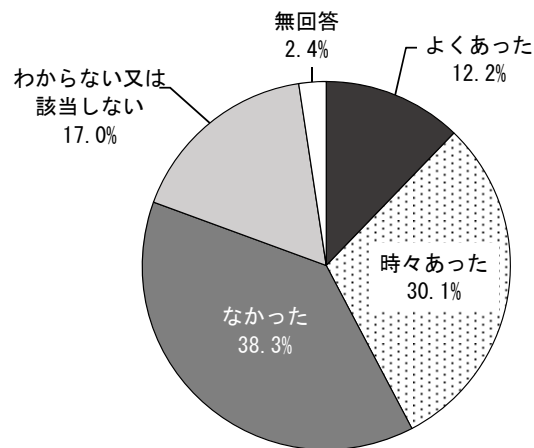
- すべての地域で、「なかった」が最も高くなっている。



④ 恋人とのデート代を相手の分も負担する

【全体】

- 「なかった」が 38.3%と最も高く、次いで「時々あった」(30.1%)、「わからない又は該当しない」(17.0%)と続いている。
- “あった”（「よくあった」または「時々あった」と回答した方）は、42.3%となっている。



【性別】

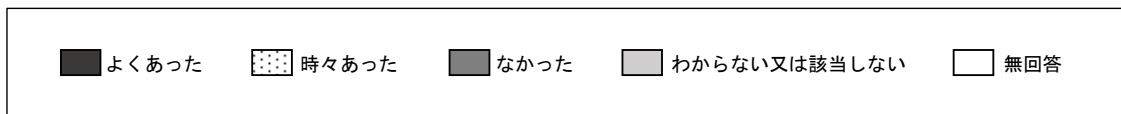
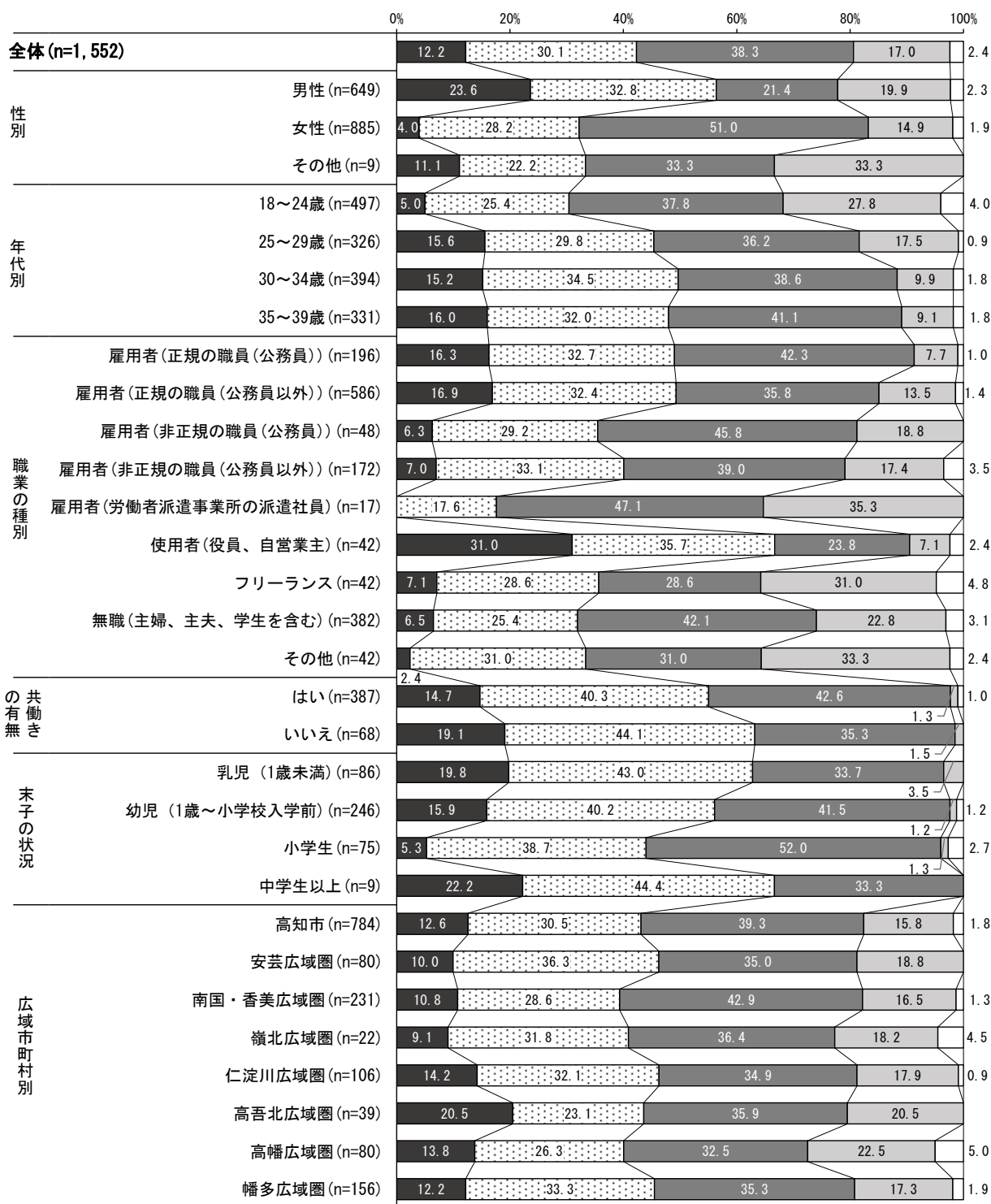
- 男性は、「時々あった」(32.8%)が最も高く、“あった”は 56.4%となっている。
- 女性は、「なかった」(51.0%)が最も高くなっている。

【年代別】

- いずれの年代も、「なかった」が最も高くなっているが、18歳～24歳を除き、“あった”の割合のほうが高くなっている。

【地域別】

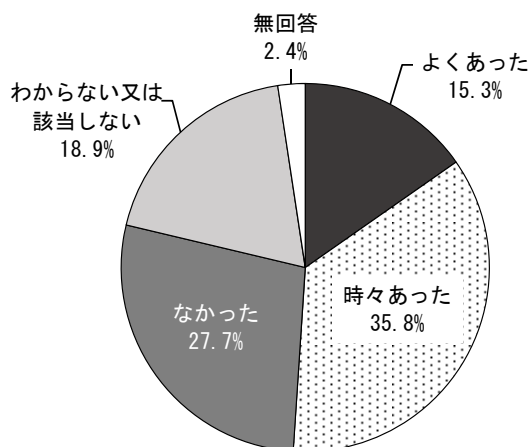
- 安芸広域圏のみ、「時々あった」が最も高く、そのほかの地域は「なかった」が最も高くなっている。
- 南国・香美広域圏を除き、「なかった」よりも“あった”が高くなっている。



⑤ 職場の飲み会で料理の取り分けやお酌をする

【全体】

- 「時々あった」が 35.8%と最も高く、次いで「なかった」(27.7%)、「わからない又は該当しない」(18.9%)と続いている。
- “あった”（「よくあった」または「時々あった」と回答した方）は、51.0%となっている。



【性別】

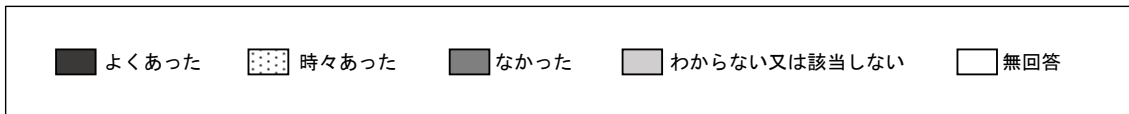
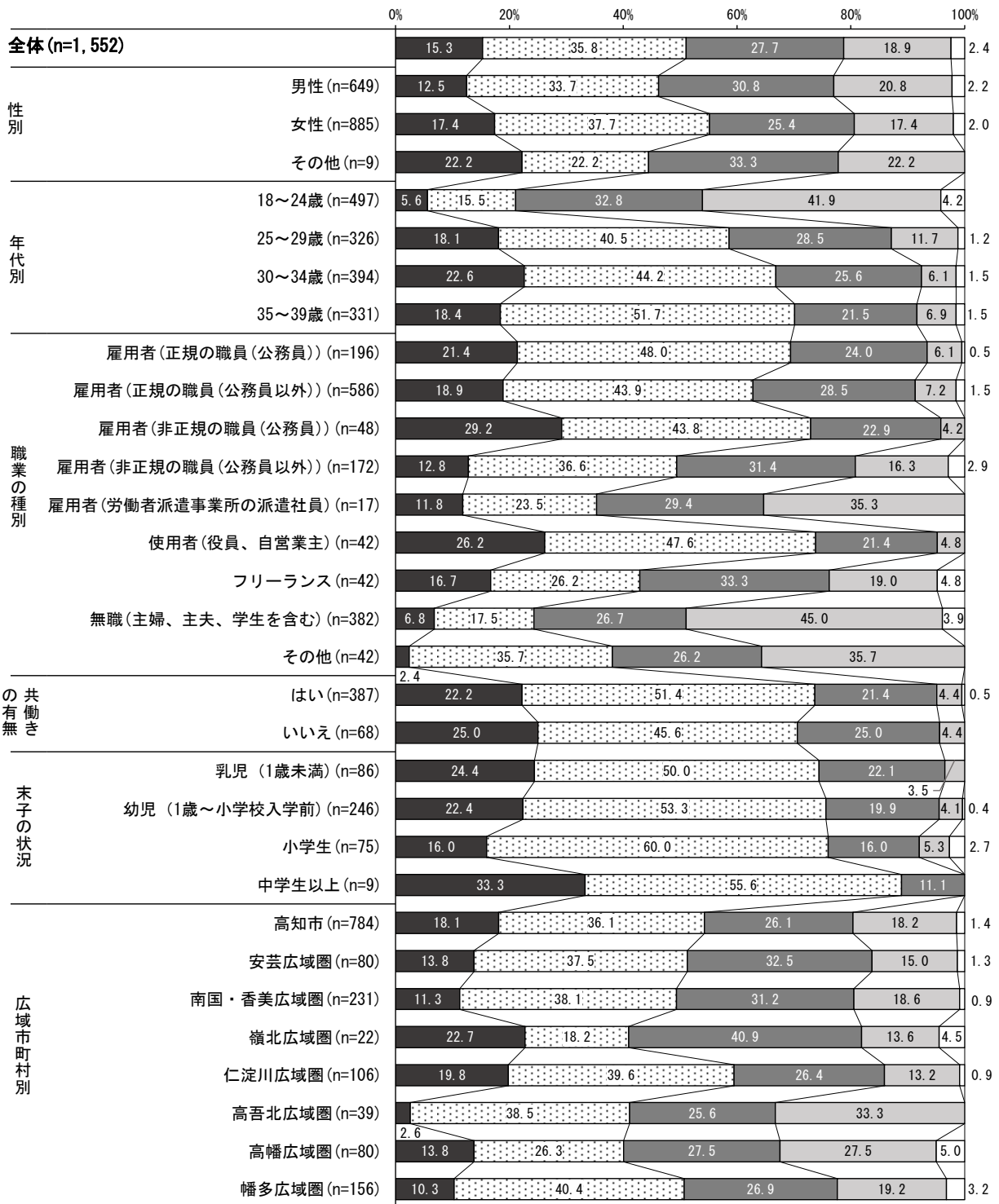
- 男性は、「時々あった」(33.7%)が最も高く、「あった」は 46.2%、「なかった」は 30.8%となっている。
- 女性は、「時々あった」(37.7%)が最も高く、「あった」は 55.1%、「なかった」は 25.4%となっている。

【年代別】

- 18歳～24歳は、「わからない又は該当しない」(41.9%)が最も高くなっている。
- そのほかの年代では、「時々あった」が最も高く、「あった」も年齢が上がるにつれて高くなっている。

【地域別】

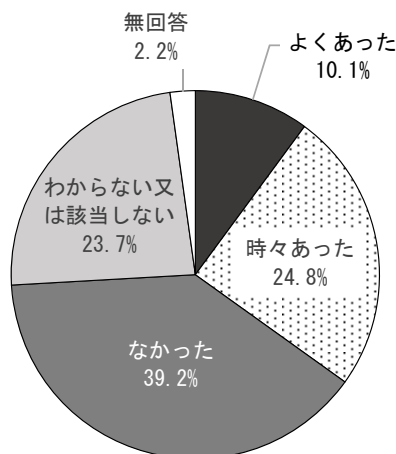
- 嶺北広域圏では、「なかった」が最も高く、高幡広域圏では「なかった」及び「わからない又は該当しない」が同率で高くなっている。
- そのほかの地域では、「時々あった」が最も高くなっており、「あった」は仁淀川広域圏で約 6割を占める結果となっている。



⑥ 職場で社員の食器類の片付けをする

【全体】

- 「なかった」が 39.2%と最も高く、次いで「時々あった」(24.8%)、「わからない又は該当しない」(23.7%)と続いている。
- “あった”（「よくあった」または「時々あった」と回答した方）は、34.9%となっている。



【性別】

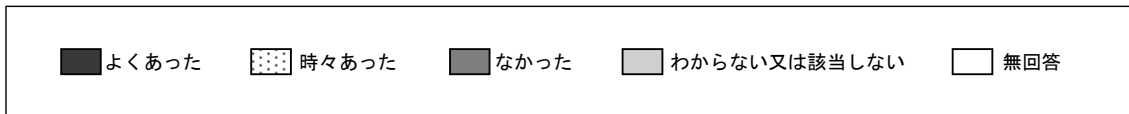
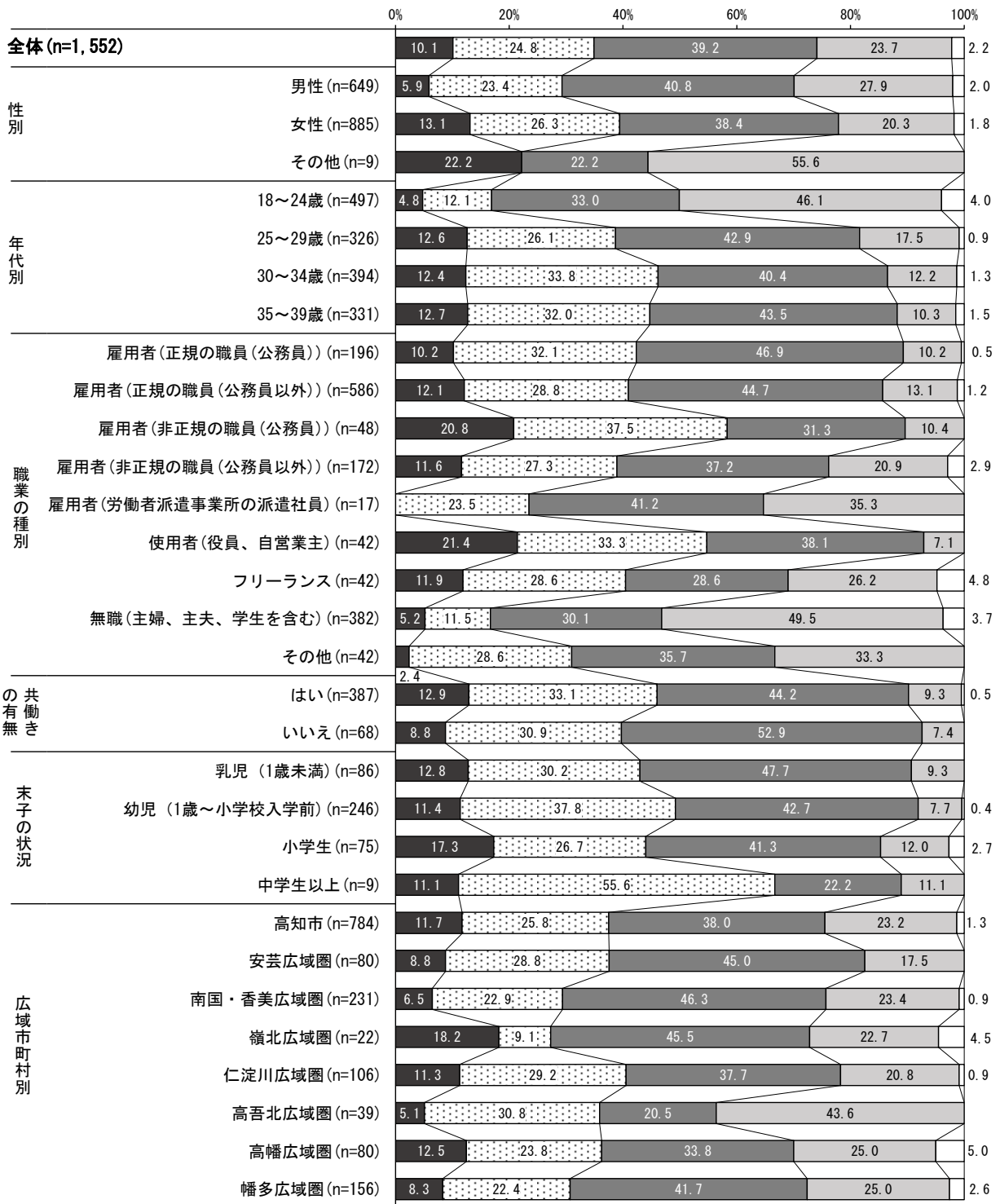
- 男性は、「なかった」(40.8%)が最も高くなっている。
- 女性も、「なかった」(38.4%)が最も高いが、“あった”は39.4%と、「なかった」を上回っている。

【年代別】

- 18歳～24歳は、「わからない又は該当しない」(46.1%)が最も高くなっている。
- そのほかの年代では、「なかった」が最も高いが、30歳～34歳及び35歳～39歳は“あった”が「なかった」を上回っている。

【地域別】

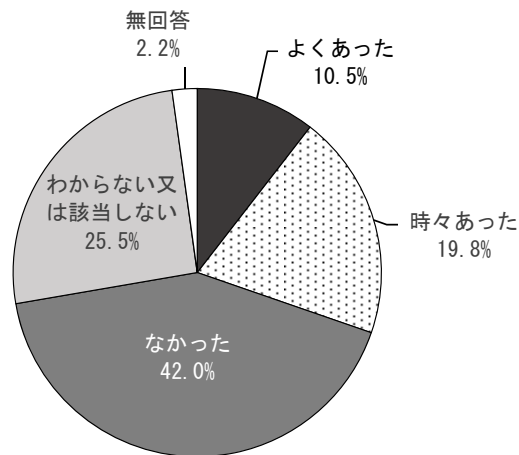
- 高吾北広域圏を除く地域で、「なかった」が最も高くなっているが、仁淀川広域圏、高吾北広域圏及び高幡広域圏では、“あった”が「なかった」を上回っている。



⑦ 職場で来客にお茶を出す

【全体】

- 「なかった」が 42.0%と最も高く、次いで「わからない又は該当しない」(25.5%)、「時々あった」(19.8%)と続いている。
- “あった”（「よくあった」または「時々あった」と回答した方）は、30.3%となっている。



【性別】

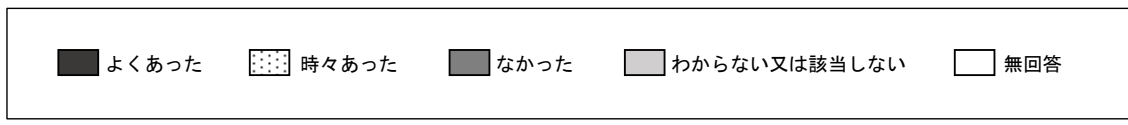
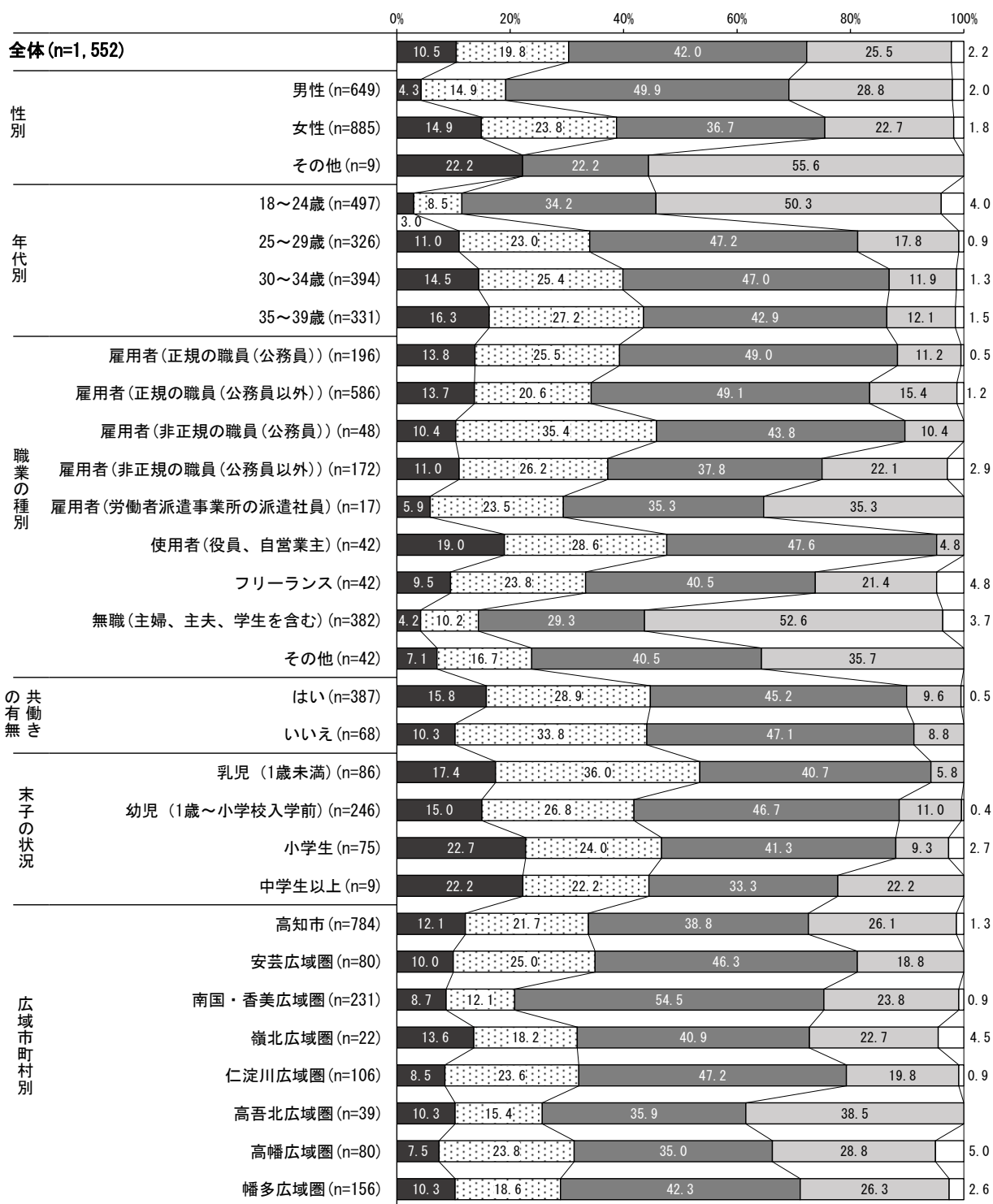
- 男性は、「なかった」(49.9%)が最も高くなっている。
- 女性も、「なかった」(36.7%)が最も高いが、“あった”は38.8%と、「なかった」を上回っている。

【年代別】

- 18歳～24歳は、「わからない又は該当しない」(50.3%)が最も高くなっている。
- そのほかの年代では、「なかった」が最も高いが、35歳～39歳は“あった”が「なかった」を上回っている。

【地域別】

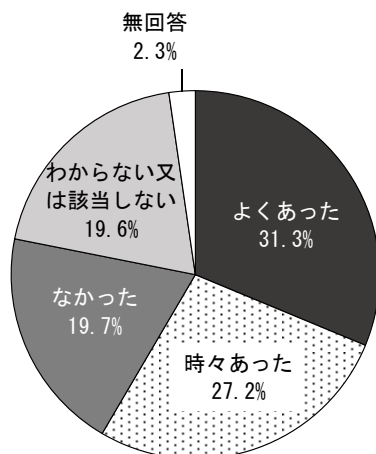
- 高吾北広域圏を除く地域で、「なかった」が最も高くなっている。



⑧ 職場の掃除をする

【全体】

- 「よくあった」が31.3%と最も高く、次いで「時々あった」(27.2%)、「なかった」(19.7%)と続いている。
- “あった”(「よくあった」または「時々あった」と回答した方)は、58.4%となっている。



【性別】

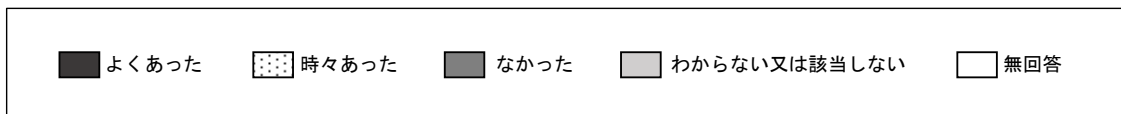
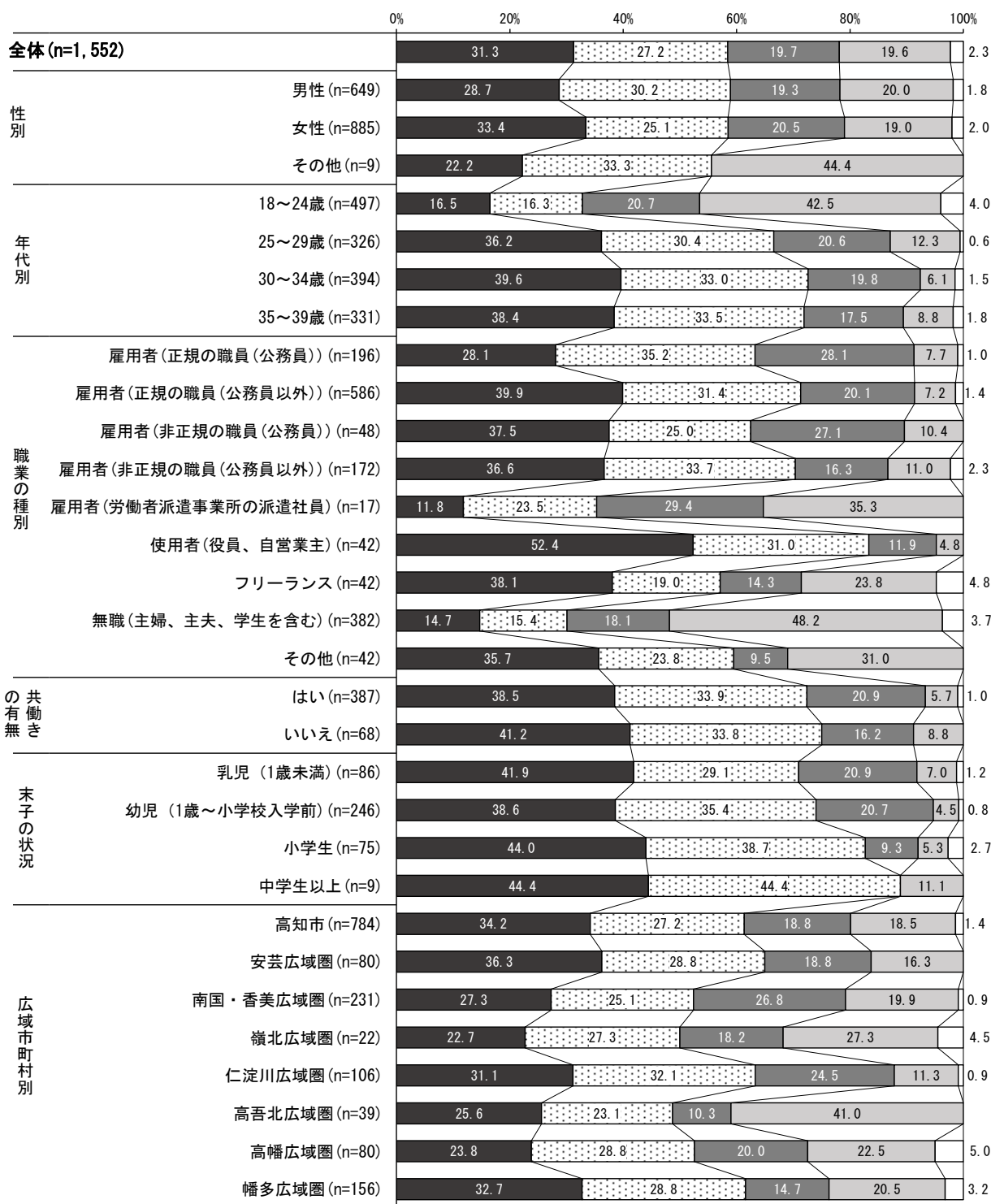
- 男性は、「時々あった」(30.2%)が最も高く、“あった”は58.9%となっている。
- 女性は、「よくあった」(33.4%)が最も高く、“あった”は58.5%となっている。

【年代別】

- 18歳～24歳は、「わからない又は該当しない」(42.5%)が最も高くなっている。
- そのほかの年代では、「よくあった」が最も高く、“あった”は30歳～34歳及び35歳～39歳では、7割を超えている。

【地域別】

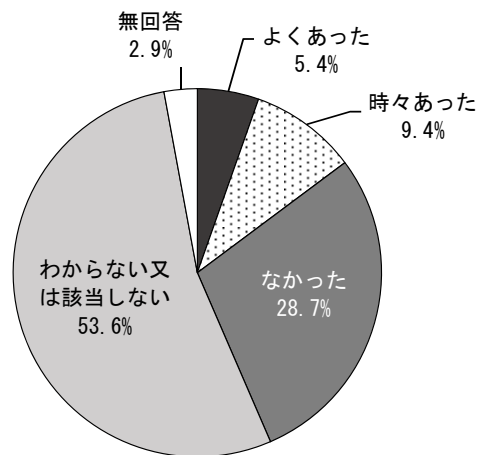
- 嶺北広域圏、仁淀川広域圏及び高幡広域圏では、「時々あった」(嶺北広域圏は「わからない又は該当しない」も同率)、高吾北広域圏では、「わからない又は該当しない」、そのほかの地域では「よくあった」が最も高くなっている。
- 高吾北広域圏を除く地域で、“あった”が50%以上となっている。



⑨ 職場で、育児中であることを理由に早く帰宅した方が良いと言われる

【全体】

- 「わからない又は該当しない」が 53.6%と最も高く、次いで「なかった」(28.7%)、「時々あった」(9.4%)と続いている。
- “あった”(「よくあった」または「時々あった」と回答した方)は、14.8%となっている。



【性別】

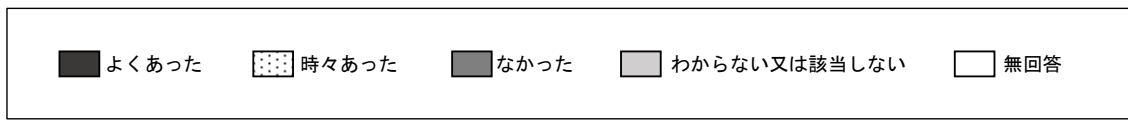
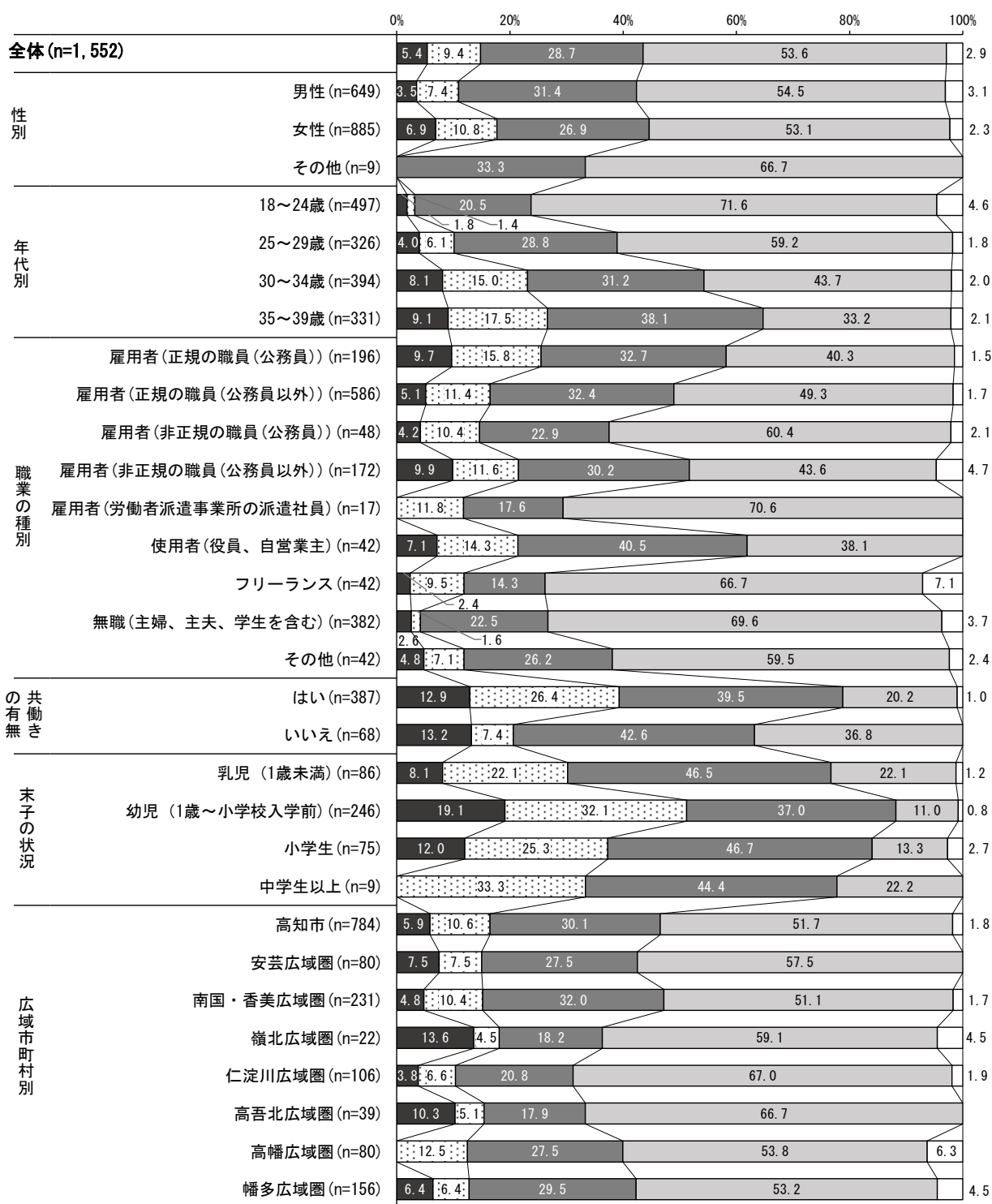
- 男性は、「わからない又は該当しない」(54.5%)が最も高くなっている。
- 女性も、「わからない又は該当しない」(53.1%)が最も高いが、“あった”は17.7%と、男性(10.9%)を6.8ポイント上回っている。

【年代別】

- 35歳～39歳のみ、「なかった」(38.1%)が最も高く、そのほかの年代は、「わからない又は該当しない」が最も高くなっている。

【地域別】

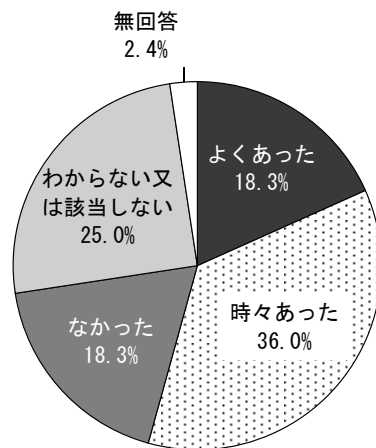
- すべての地域で、「わからない又は該当しない」が最も高くなっている。



⑩ 職場で成長できるような機会や助言をもらえる

【全体】

- 「時々あった」が 36.0%と最も高く、次いで「わからない又は該当しない」(25.0%)、「よくあった」及び「なかった」が同率(18.3%)で続いている。
- “あった”(「よくあった」または「時々あった」と回答した方)は、54.3%となっている。



【性別】

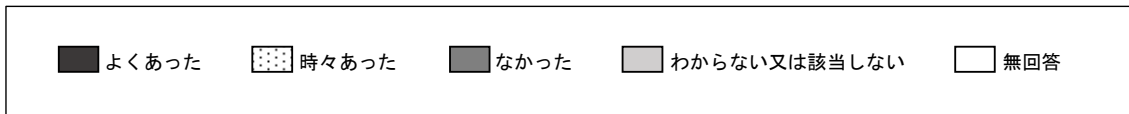
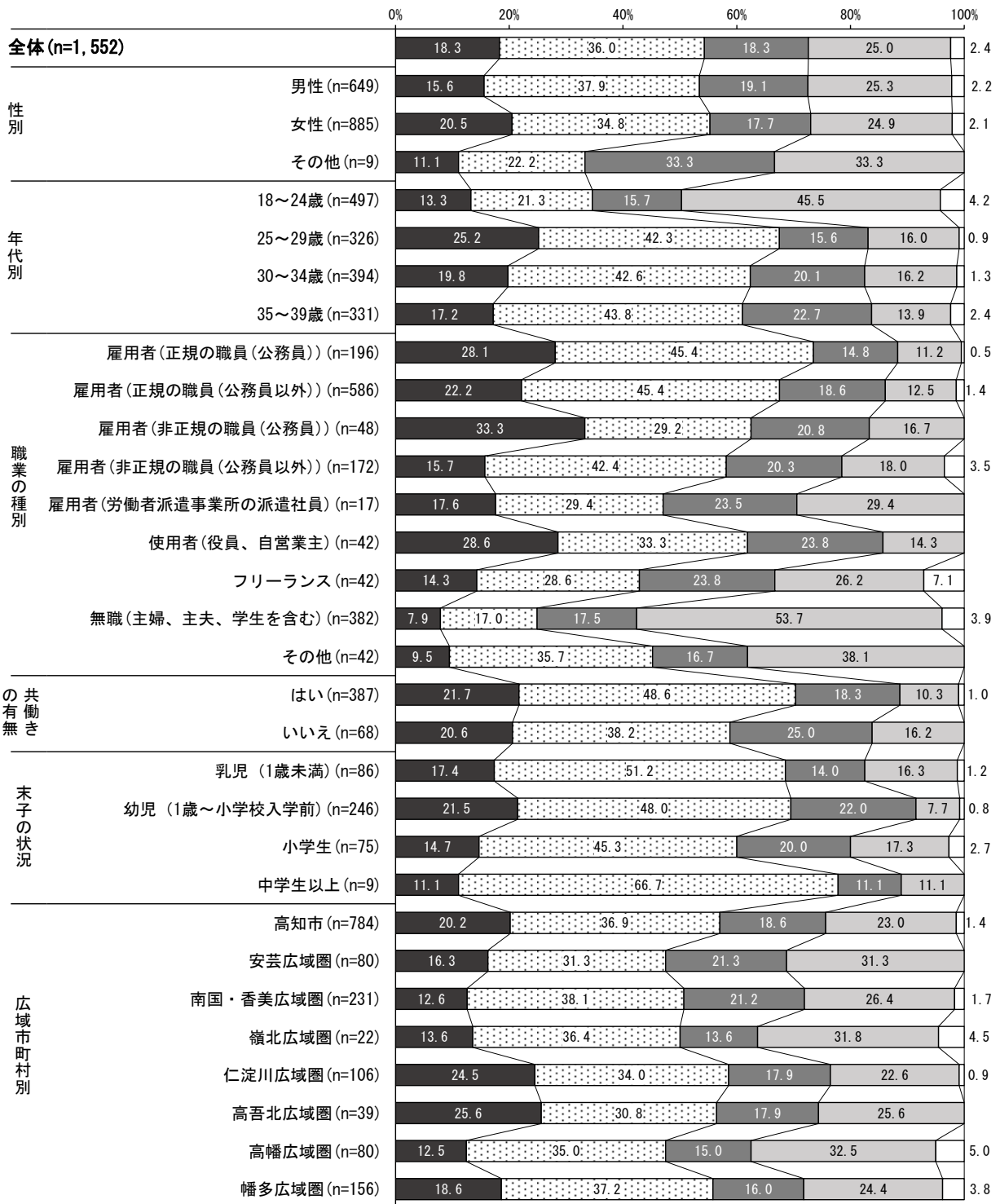
- 男女ともに、「時々あった」が最も高く、“あった”はともに50%を超えている。

【年代別】

- 18歳～24歳は、「わからない又は該当しない」(45.5%)が最も高くなっている。
- そのほかの年代では、「時々あった」が最も高く、“あった”は6割を超えている。

【地域別】

- すべての地域で、「時々あった」が最も高くなっている(安芸広域圏は「わからない又は該当しない」も同率)。
- 安芸広域圏及び高幡広域圏を除く地域で、“あった”が50%以上となっている。

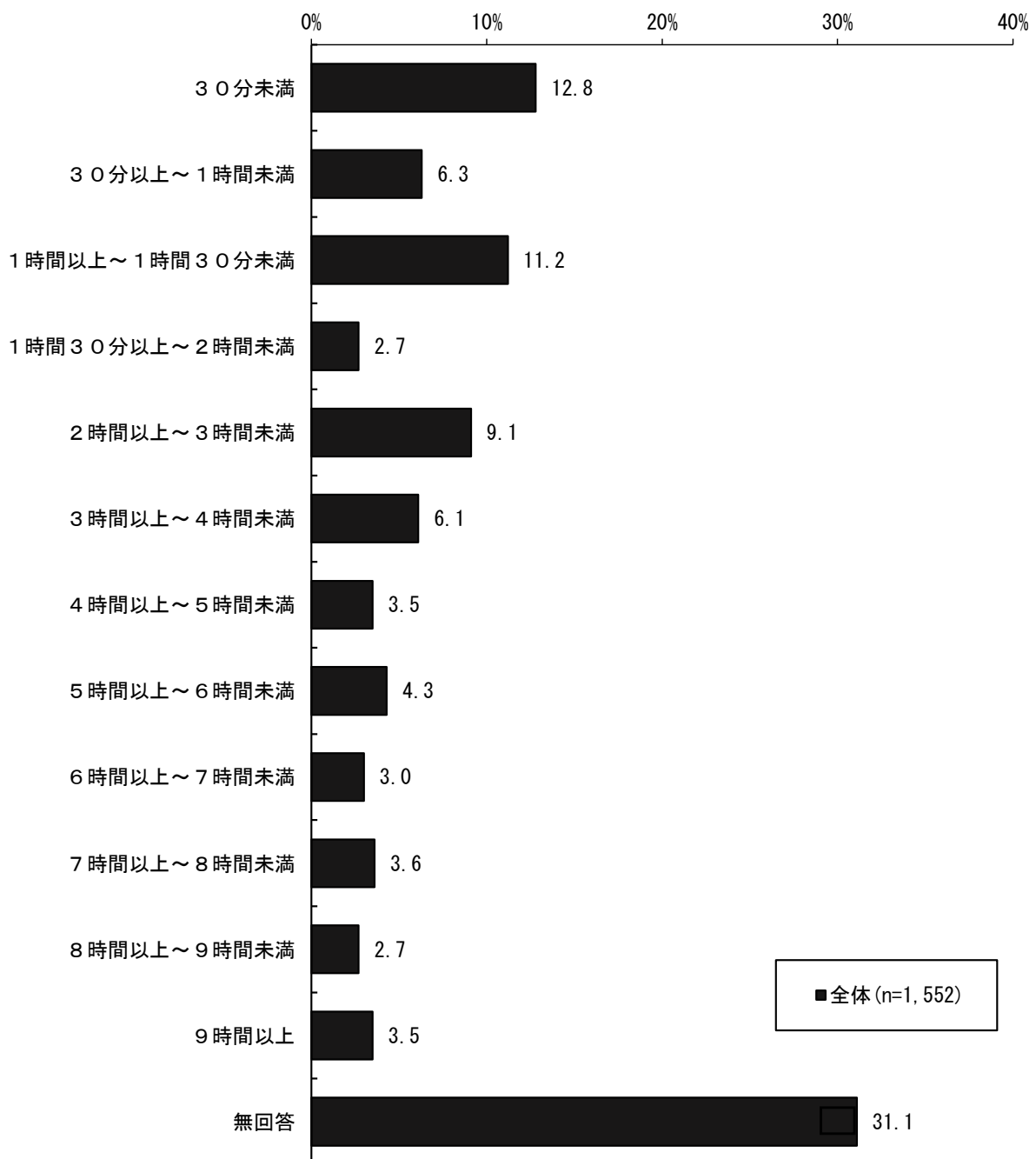


問 22 「令和 3 年社会生活基本調査」(総務省)によると、全国の 6 歳未満の子どもがいる夫婦の 1 日あたりの家事・育児時間の平均は、女性が 7 時間 28 分、男性が 1 時間 54 分となっています。あなたの 1 日あたりの家事・育児にかかるおおよその時間を記入してください。

① 平日

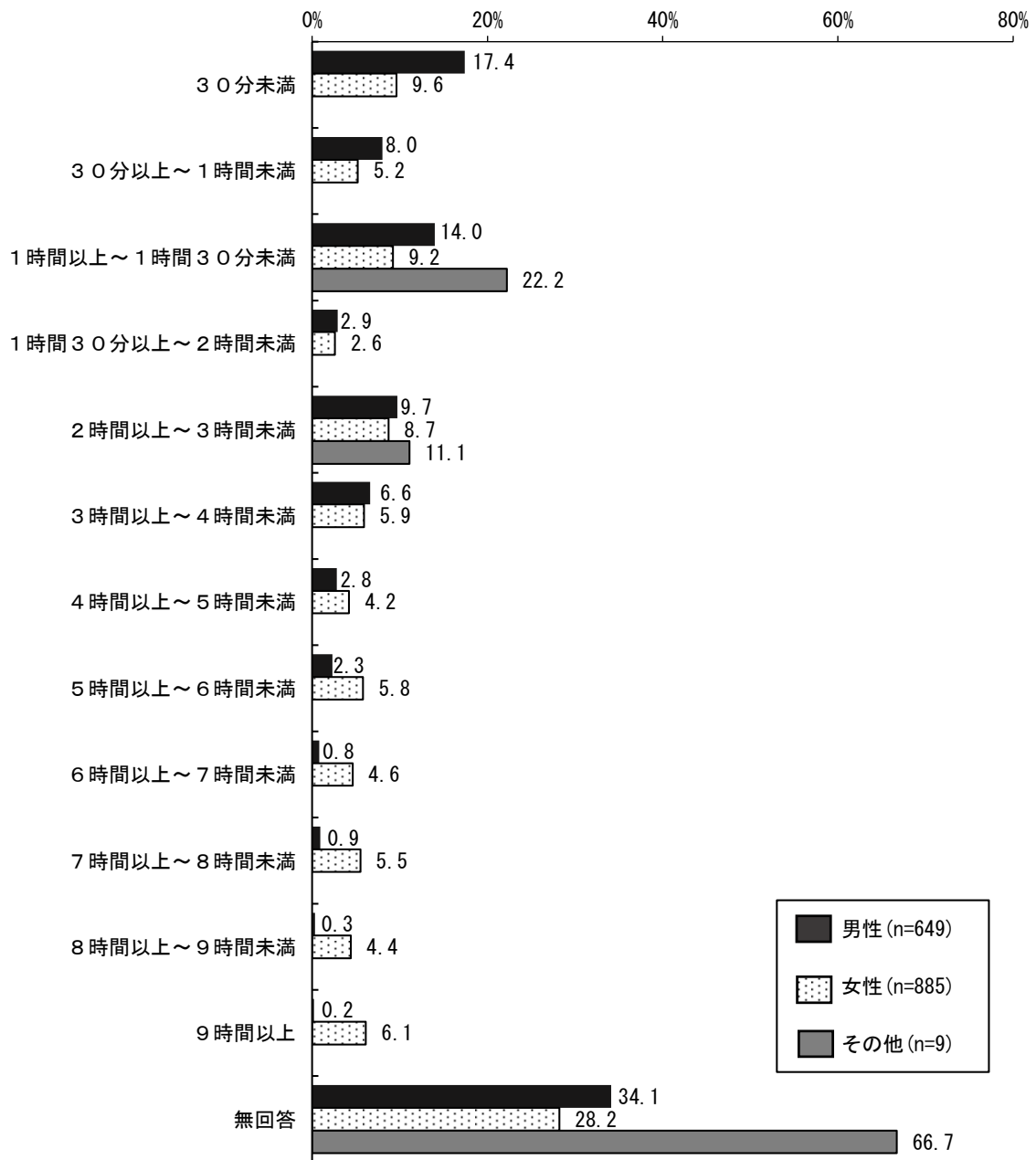
【全体】

○無回答を除き、「30 分未満」が 12.8%と最も高く、次いで「1 時間以上～1 時間半未満」(11.2%)、「2 時間以上～3 時間未満」(9.1%) と続いている。



【性別】

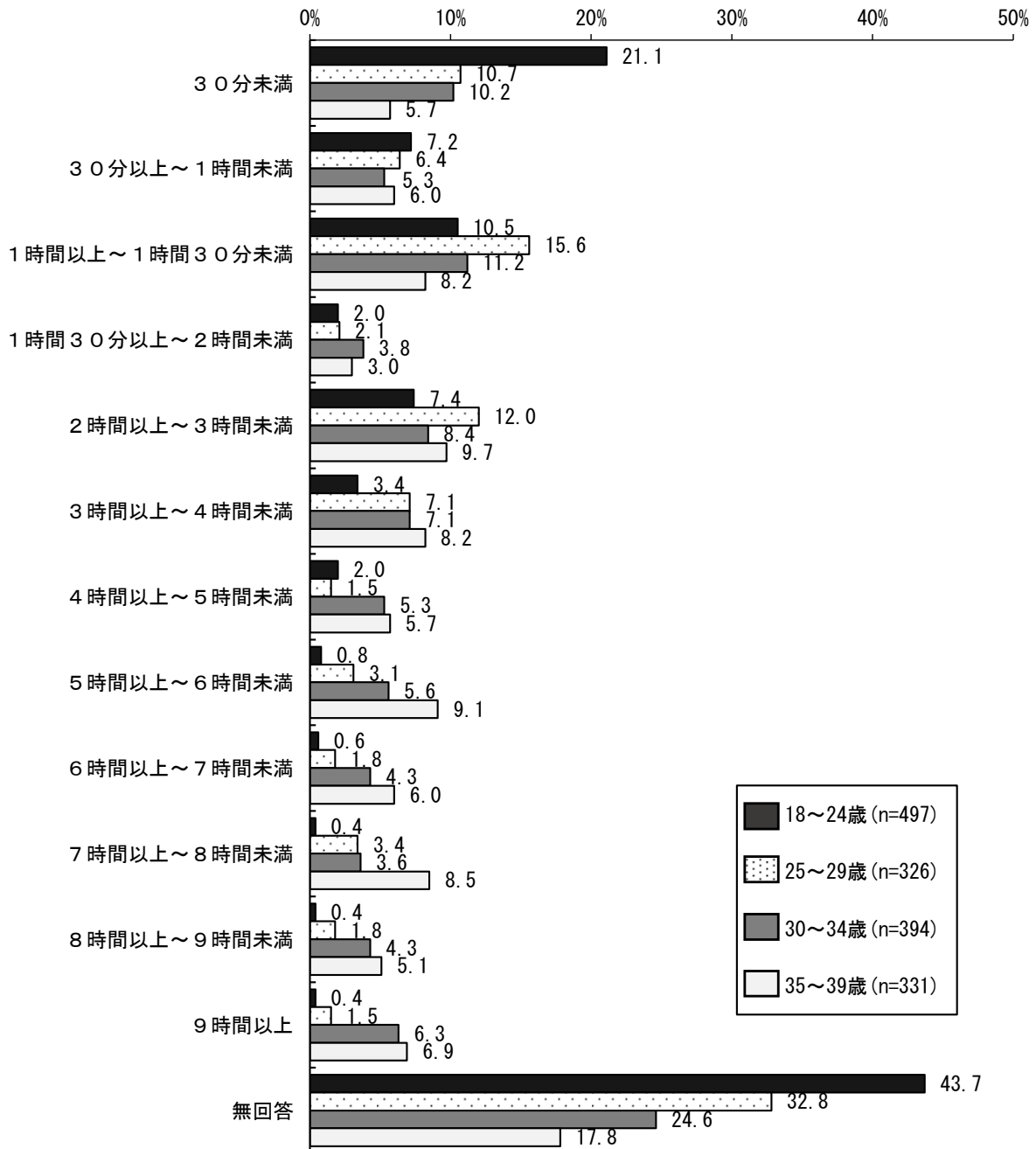
○無回答を除き、男女ともに「30分未満」が最も高く、2番目も男女とも「1時間以上～1時間30分未満」となっている。



【年代別】

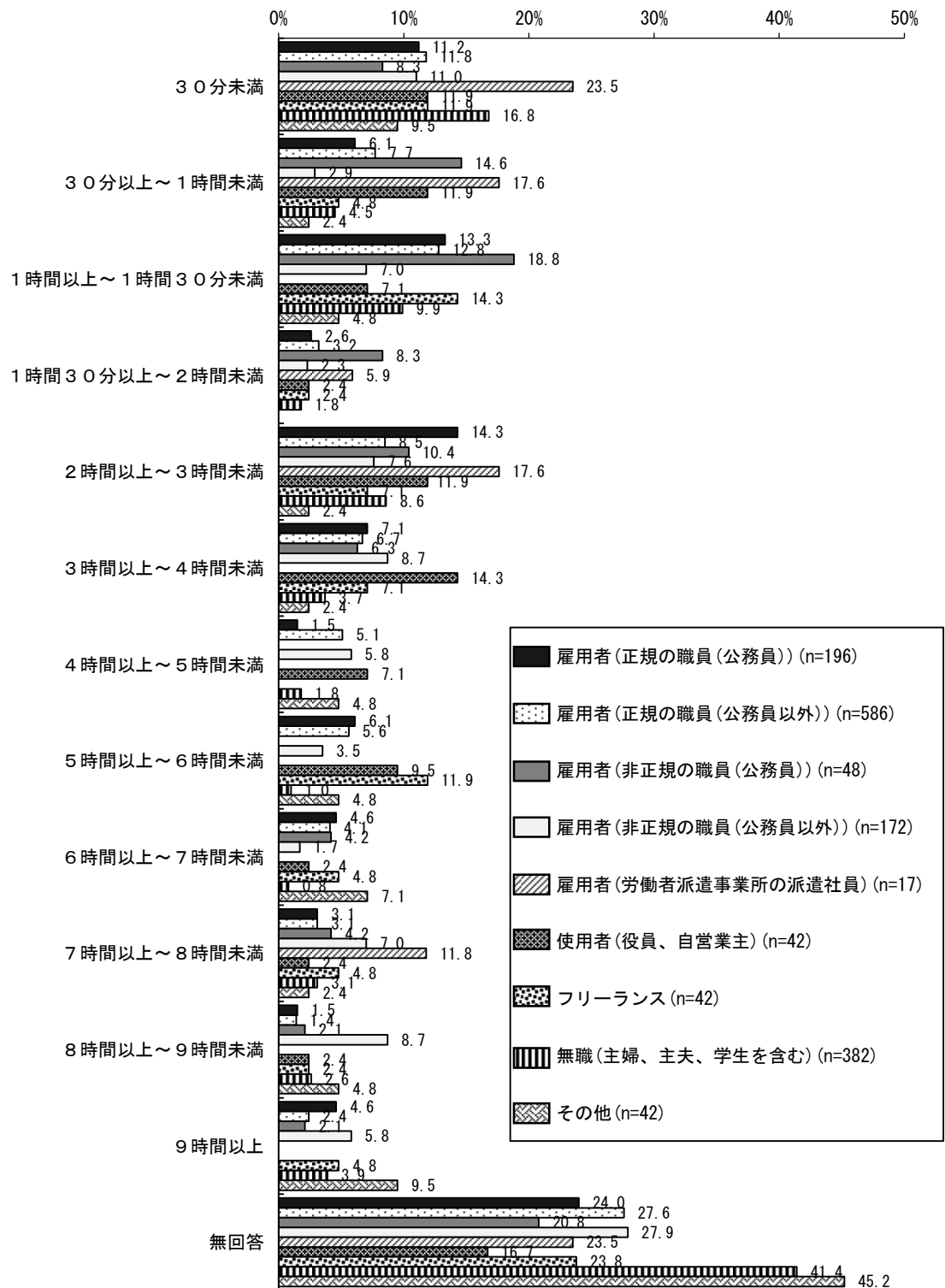
○無回答を除き、18歳～24歳は「30分未満」、25～29歳及び30歳～34歳は「1時間以上～1時間30分未満」が最も高くなっている。

○35歳～39歳は、「2時間以上～3時間未満」が最も高い。



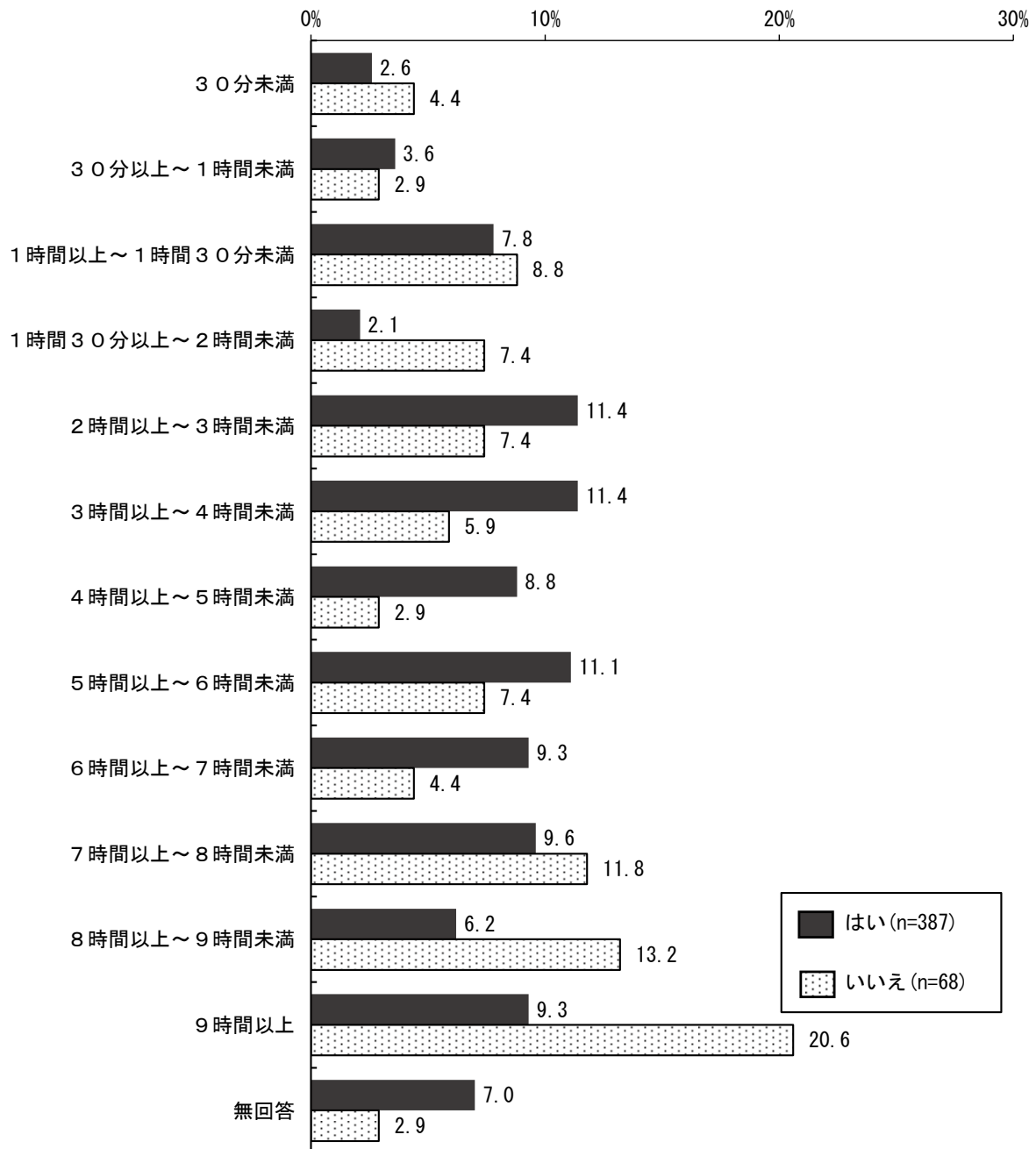
【職業の種別】

- 無回答を除き、雇用者（非正規の職員（公務員以外））、雇用者（労働者派遣事業所の派遣社員）、無職（主婦、主夫、学生を含む）及びその他は「30分未満」が最も高くなっている。
- 雇用者（正規の職員（公務員以外））、雇用者（非正規の職員（公務員））及びフリーランスは「1時間以上～1時間30分未満」が最も高くなっている。
- 雇用者（正規の職員（公務員））は「2時間以上～3時間未満」、使用者（役員、自営業主）は「3時間以上～4時間未満」が最も高い。



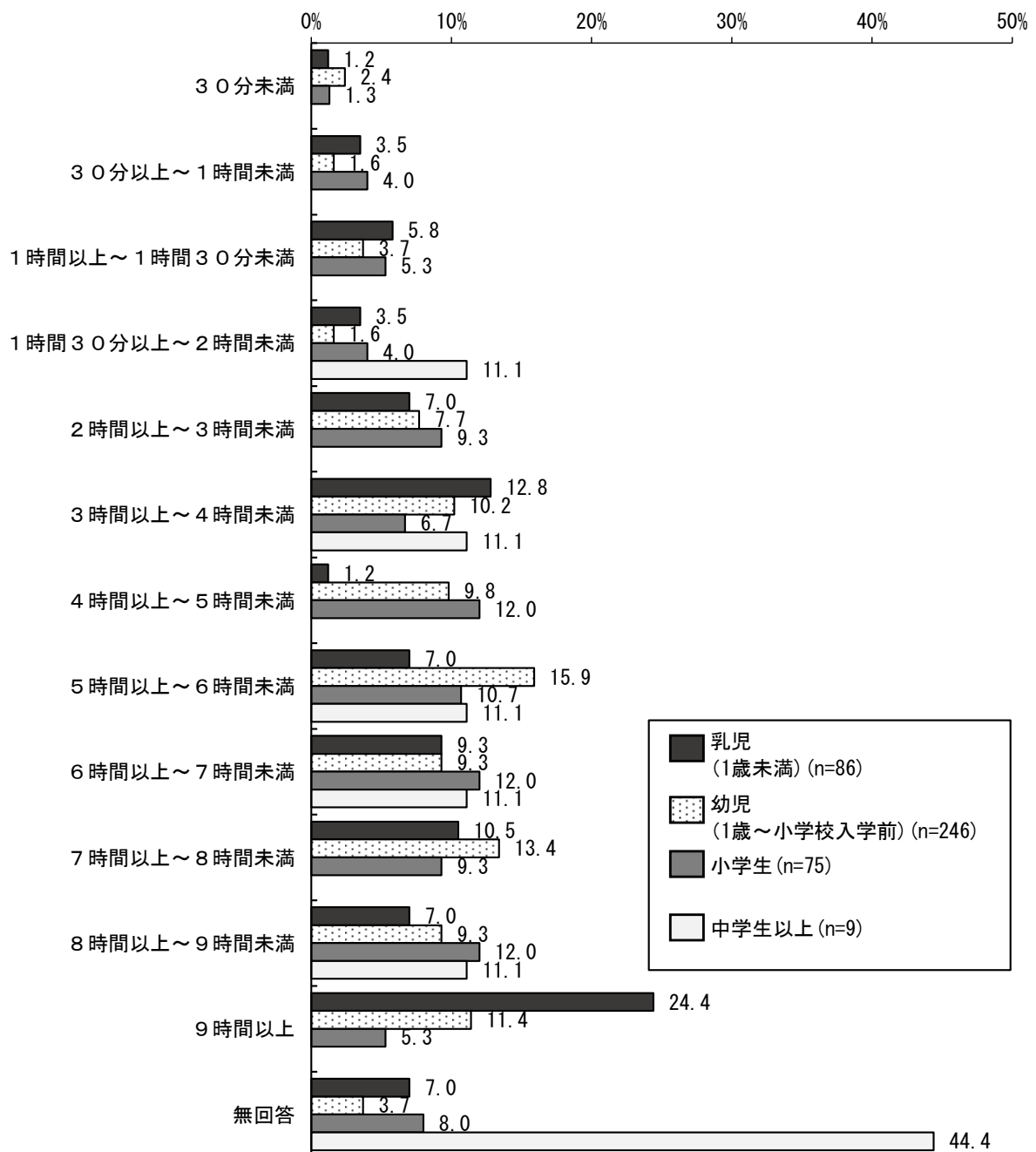
【共働きの有無別】

○共働き世帯は、「2 時間以上～3 時間未満」及び「3 時間以上～4 時間未満」が同率で最も高く、共働きではない世帯は、「9 時間以上」が最も高くなっている。



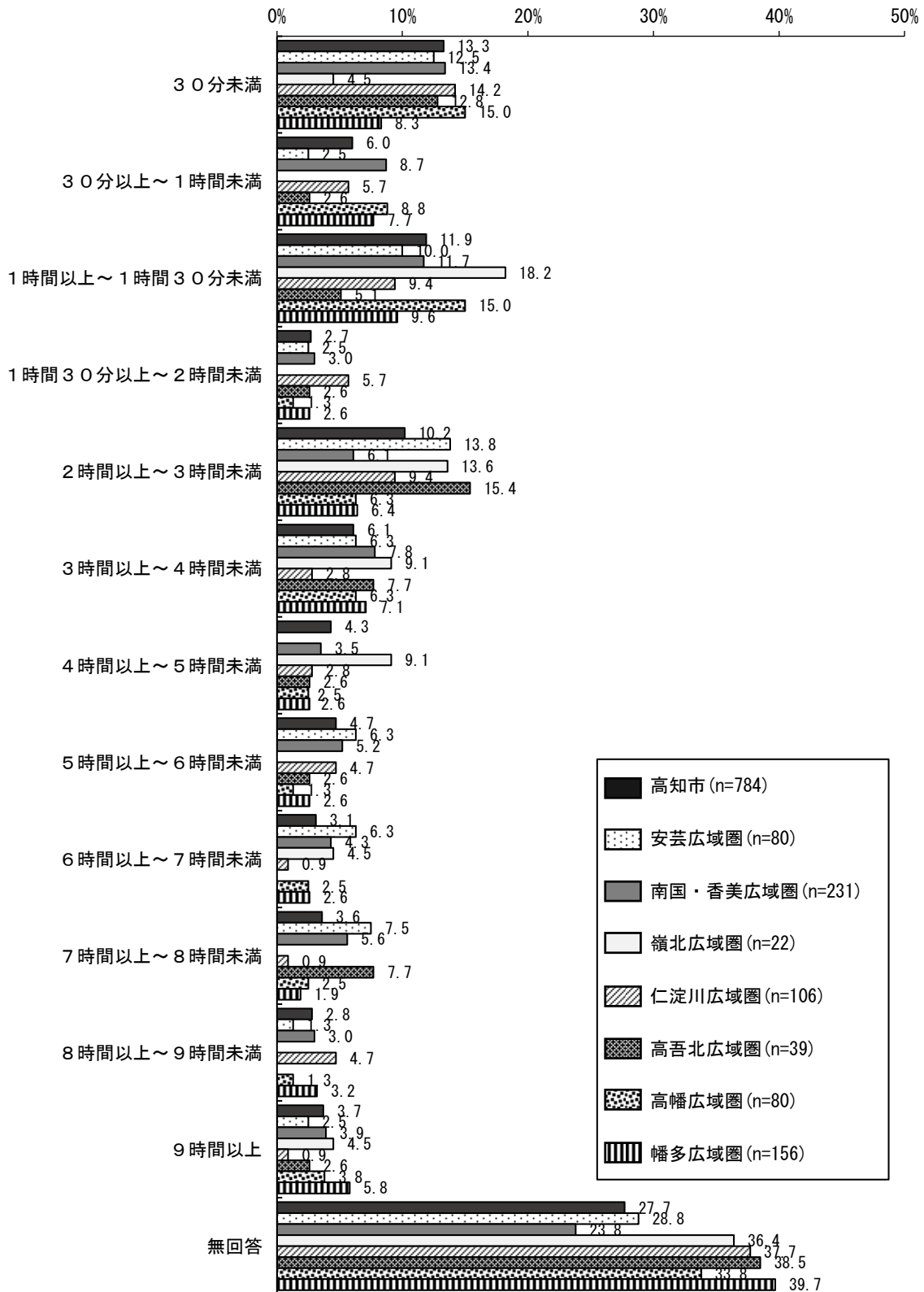
【末子の状況別】

- 乳児（1歳未満）は、「9時間以上」、幼児（1歳～小学校入学前）は、「5時間以上～6時間未満」、小学生は、「4時間以上～5時間未満」、「6時間以上～7時間未満」及び「8時間以上～9時間未満」が同率で最も高くなっている。
- 無回答を除き、サンプル数はわずかながら、中学生以上は「1時間30分以上～2時間未満」、「3時間以上～4時間未満」、「5時間以上～6時間未満」、「6時間以上～7時間未満」、「8時間以上～9時間未満」が同率で最も高くなっている。



【地域別】

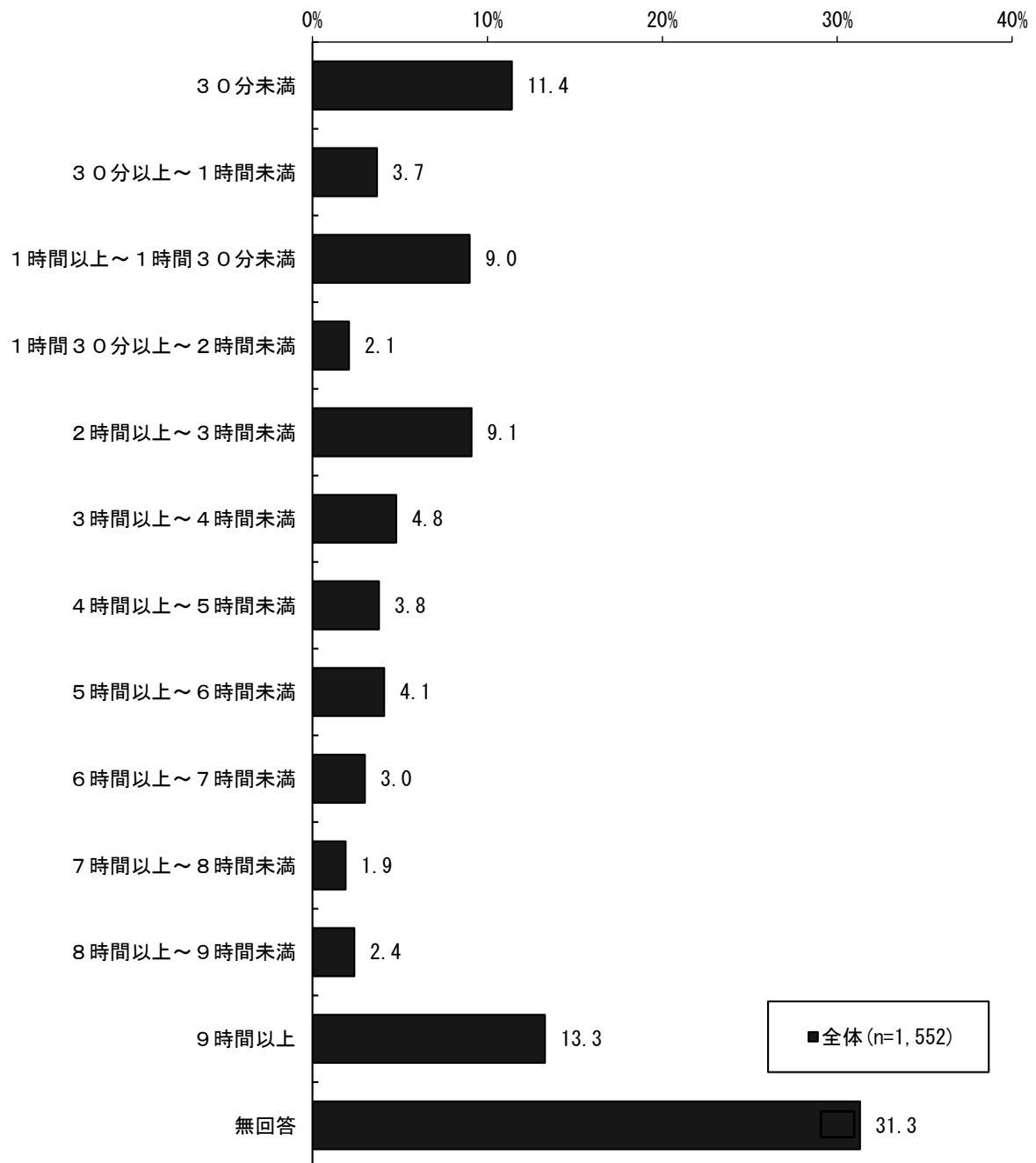
- 無回答を除き、高知市、南国・香美広域圏及び仁淀川広域圏では「30分未満」が最も高く、高幡広域圏は「30分未満」と「1時間以上～1時間30分未満」が同率で最も高い。
- 嶺北広域圏及び幡多広域圏では「1時間以上～1時間30分未満」が最も高く、安芸広域圏及び高吾北広域圏では「2時間以上～3時間未満」が最も高い。



② 休日

【全体】

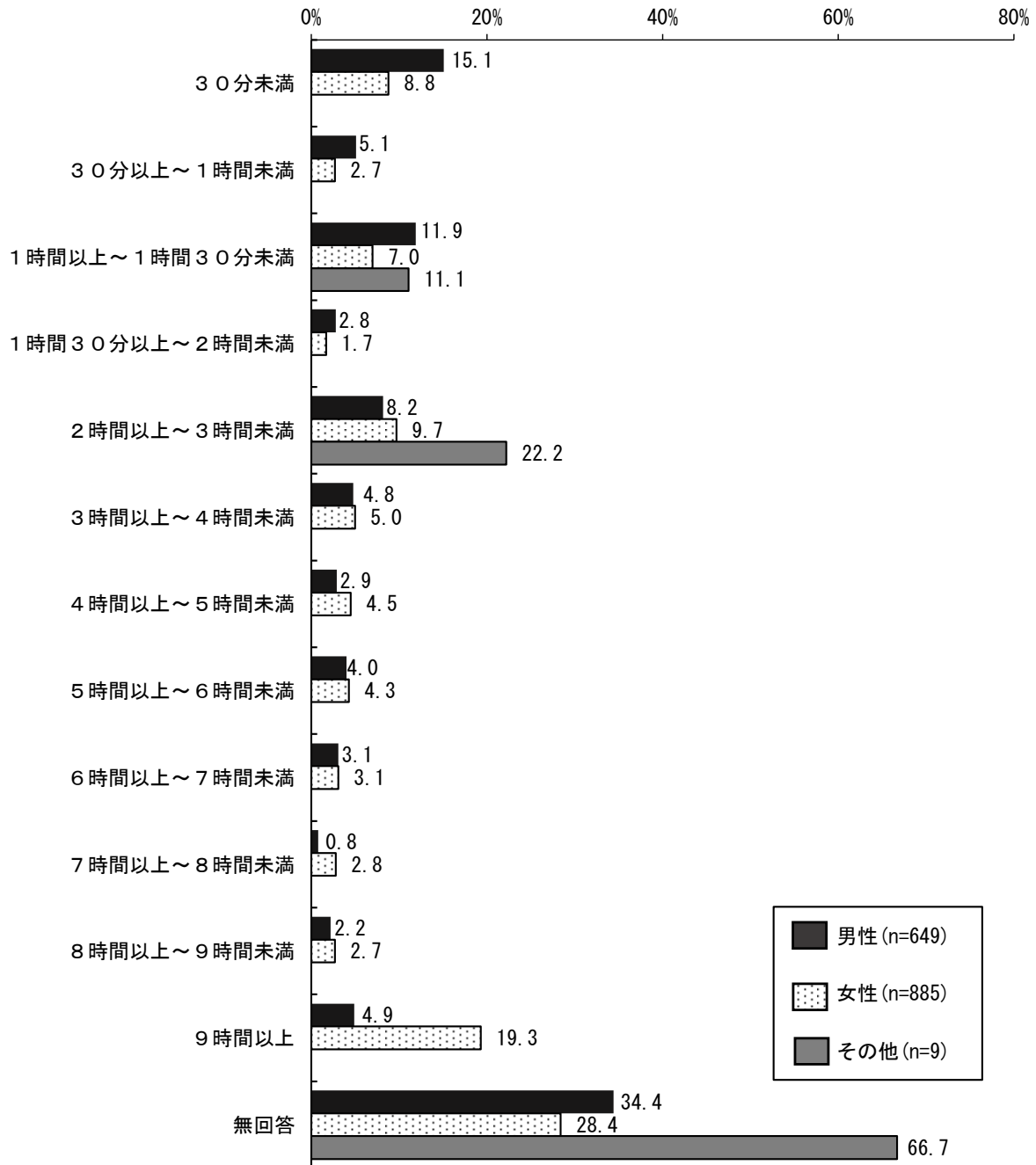
○無回答を除き、「9時間以上」が13.3%と最も高く、次いで「30分未満」(11.4%)、「2時間以上～3時間未満」(9.1%)と続いている。



【性別】

○無回答を除き、男性は「30分未満」、女性は「9時間以上」が最も高くなっている。

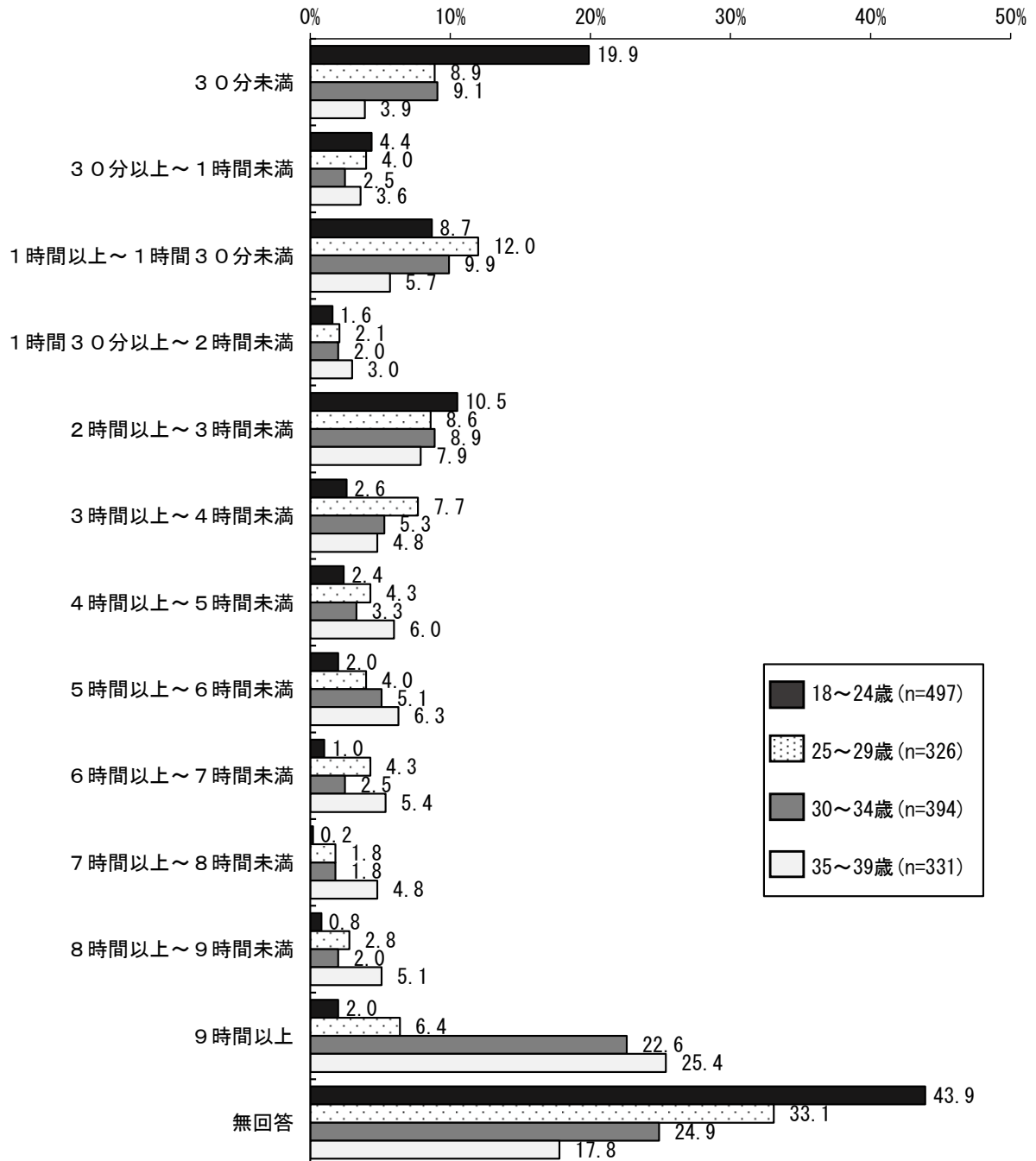
○2番目は、男性が「1時間以上～1時間30分未満」、女性は「2時間以上～3時間未満」となっている。



【年代別】

○無回答を除き、18歳～24歳は「30分未満」、25歳～29歳は「1時間以上～1時間30分未満」が最も高くなっている。

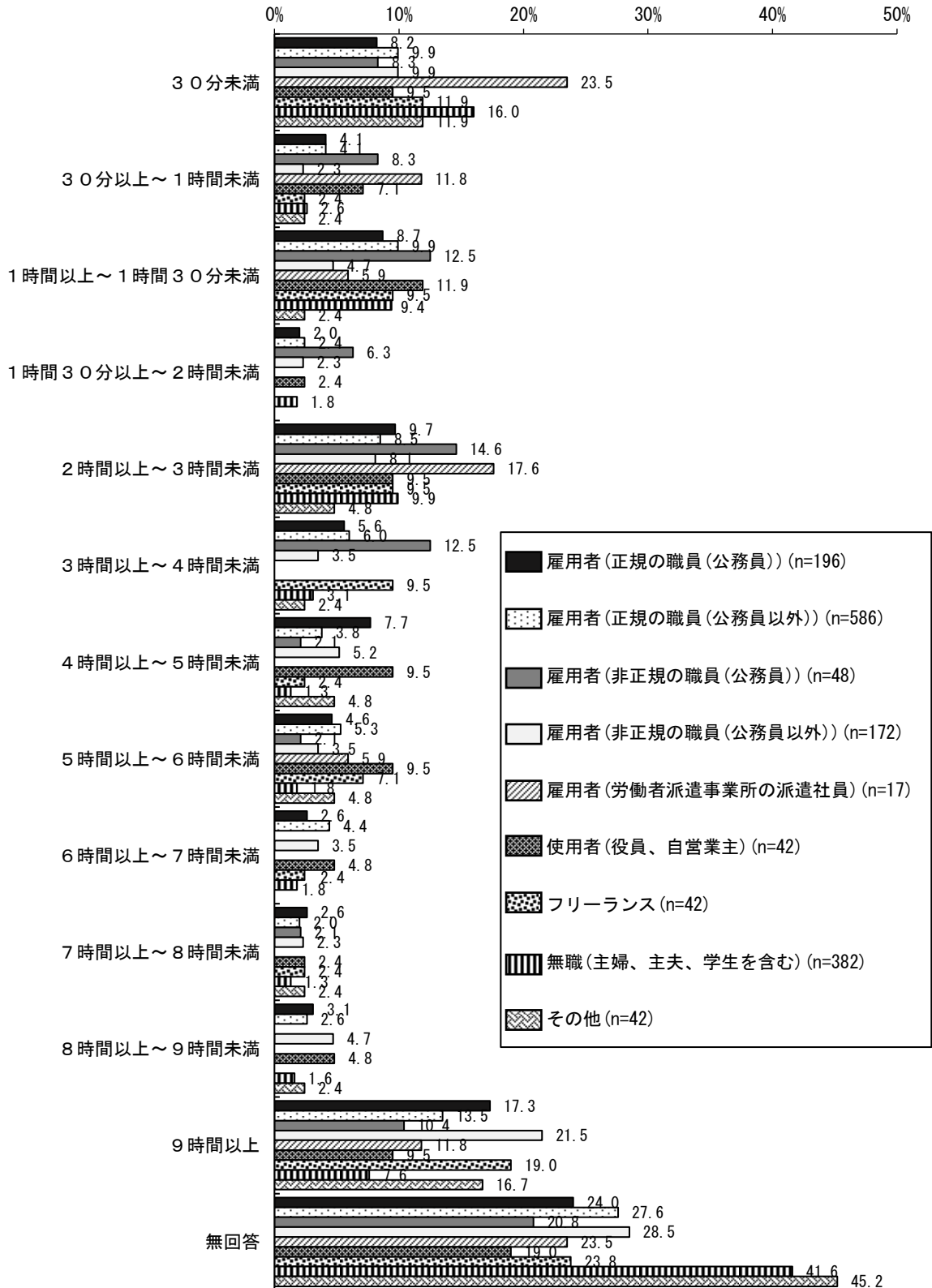
○30歳～34歳及び35歳～39歳は「9時間以上」が最も高い。



【職業の種別】

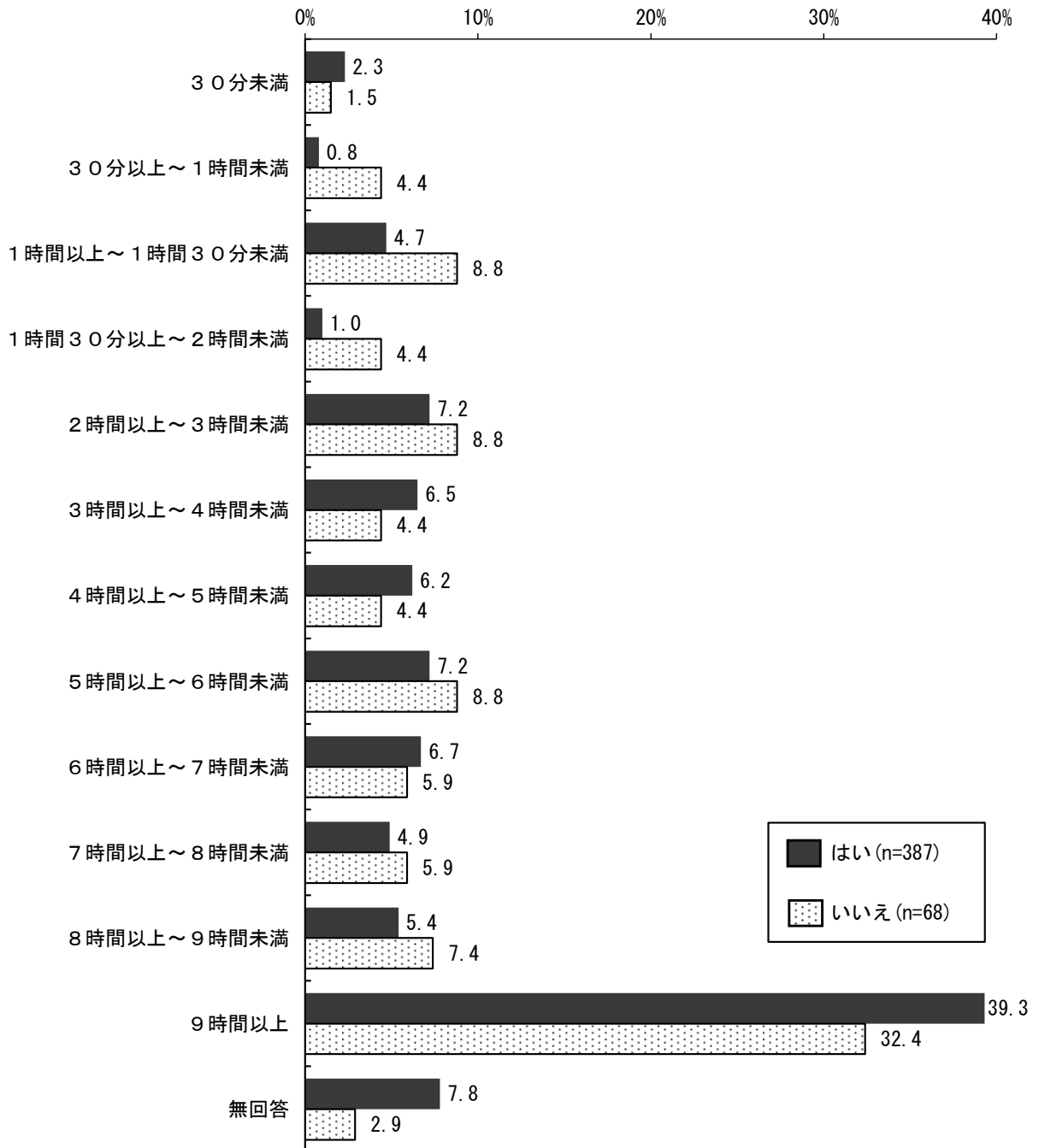
○無回答を除き、雇用者（労働者派遣事業所の派遣社員）及び無職（主婦、主夫、学生を含む）は「30分未満」、使用者（役員、自営業主）は「1時間以上～1時間30分未満」、雇用者（非正規の職員（公務員））は「2時間以上～3時間未満」が最も高くなっている。

○上記以外は全て「9時間以上」が最も高い。



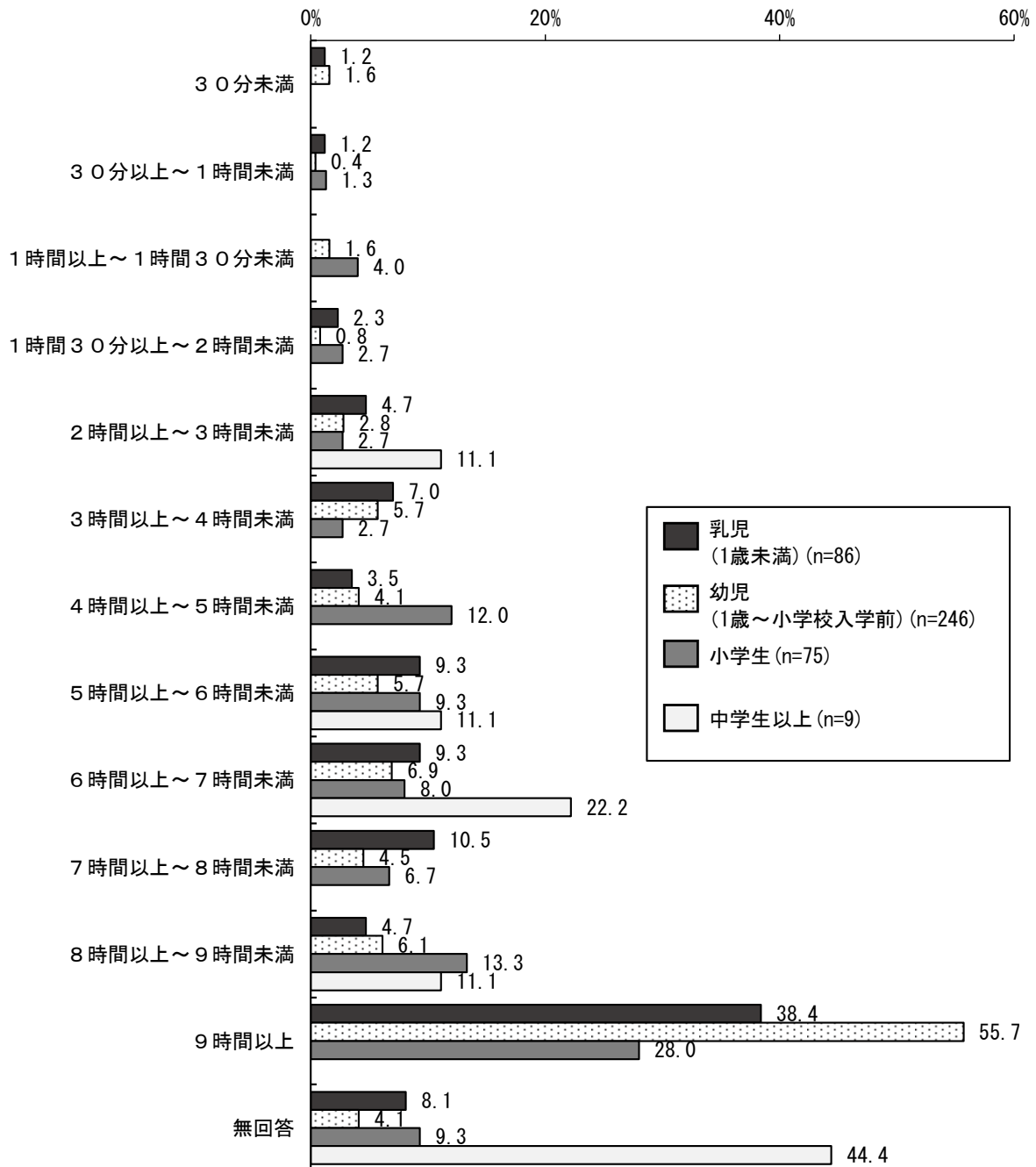
【共働きの有無別】

○共働き世帯、共働きではない世帯ともに「9時間以上」が最も高くなっている。



【末子の状況別】

- 乳児（1歳未満）、幼児（1歳～小学校入学前）及び小学生は「9時間以上」が最も高くなっている。
- 無回答を除き、サンプル数はわずかながら、中学生以上は「6時間以上～7時間未満」が最も高い。



【地域別】

○仁淀川広域圏及び高幡広域圏では「30分未満」が最も高く、高吾北広域圏は「30分未満」と「9時間以上」が同率、嶺北広域圏では「2時間以上～3時間未満」及び「9時間以上」が最も高い。
 ○そのほかの地域は「9時間以上」が最も高くなっている。

